

琵琶湖博物館 年報

第 30 号

2025 年度（令和 7 年度）

滋賀県立琵琶湖博物館

2026 年（令和 8 年）7 月

目次

ごあいさつ	1
I 博物館活動の概要	
1 研究・調査活動	2
1. 研究推進	2
2. 研究発信	7
3. 研究交流	13
4. 研究部活動	15
2 交流活動	17
1. 利用者主体の事業	17
2. 一般利用者へのサービス事業	48
3. 学校連携	53
4. 地域との交流事業	56
5. 琵琶湖博物館環境学習センター	66
3 情報発信・広報 PR 活動	70
1. インターネットを利用した館外への情報提供	70
2. 情報システムの整備・更新	72
3. 印刷物一覧	73
4. 広報 PR 活動	74
4 資料整備活動	105
1. 収蔵資料	105
2. 資料の活用	114
3. 資料の保管	122
5 展示	124
1. 展示活動	124
2. 展示交流	150
6 館外連携	152
1. 博物館連携	152
2. 企業連携	157
3. 研修・実習	158
4. 共催事業	160
5. 地域発見！参加型移動博物館	160
II 利用状況	
1. 令和7年度入館者数	162
2. 来館者アンケート調査	164
3. 利用者用施設の整備	168
III 組織および運営	
1. 組織	169
2. 職員	170
3. 決算	173
4. 寄付／びわ博サポーター	174
5. 滋賀県立琵琶湖博物館協議会	174
6. 企画・計画等	175

数字でみる琵琶湖博物館の活動 2025年度

○交流

	2025年度	2024年度
観覧会・講座	65件	49件
地域連携による講座	41件	42件
学校体験学習	93件	124件
教員研修	7件	7件
フィールドレポーター数	200人	177人
PR定例会	24回	22回
はしかけ登録者数	422人	387人
はしかけグループ数	22組	23組
はしかけ活動数	313回	332回
質問コーナー質問数	1025件	933
質問対応数	1329件	1256

○連携事業

	2025年度	2024年度
館内共催事業	4件	10件
移動博物館	3件	3件
国際視察対応	2件	6件
国内視察対応	23件	12件
国際連携締結数	3機関	3機関
国内機関連携締結数	2機関	2機関

○寄付・支援

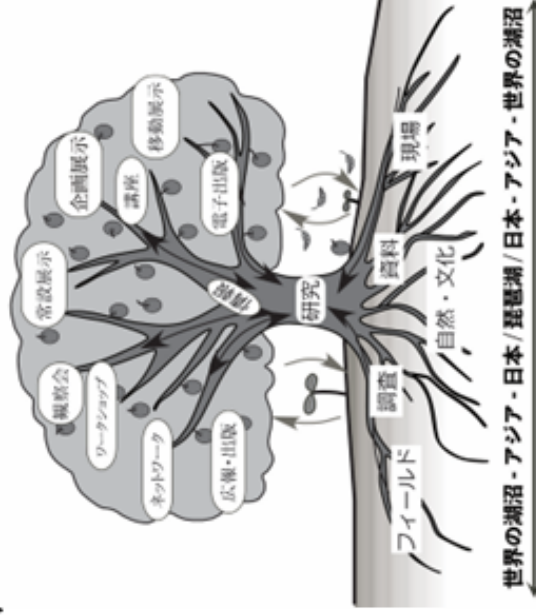
	2025年度	2024年度
応援寄付件数	13件	11件
展示サポーター件数	55件	49件
メンバーシップ件数	65件	61件
寄付金額	8047千円	4120千円
研究等支援件数	1件	1件

○展示

	2025年度	2024年度
来館者数	52.6万人	52.7万人
企画展示・ギャラリー展示数	3件	2件
地域のひととの協働展示数	11件	12件
展示更新数	120件	96件
フロアアートワーク	297件	310件
交流員と話そう	28件	28件

○広報

	2025年度	2024年度
テレビ等取材対応	51件	57件
新聞・雑誌等取材	326件	481件
資料提供	63件	77件



○資料

	2025年度	2024年度
登録資料件数	79.1万件	77.7万件
新規登録資料件数	3.8万件	2.7万件
収蔵概要件数	164.7万件	159.4万件
未整理概要数	85.6万件	81.7万件
水族繁殖数(希少種を含む)	3,793匹	3,985匹
寄贈件数	119件	95件
寄贈点数	約72,000点	約30,000点

○インターネットによる発信

	2025年度	2024年度
博物館ページ閲覧人数	60.3万人	58.6万人
博物館ページ閲覧数	231万回	224万回
YouTube動画作成数	18件	33件
YouTube動画再生数	152万回	50.5万回
YouTube登録者数	34,017件	9050件
Facebook発信数	260回	410回
Facebook登録者数	6,985件	6141件
Instagram発信数	254回	357回
Instagram登録者数	6895件	4570件
X発信数	268回	410回
X登録者数	9296件	7802件
博物館HPでの研究解説記事	2件	2件

○研究

	2025年度	2024年度
国際学術誌	24件	15件
国内学術誌	17件	8件
専門分野著作	52件	31件
学会発表数	67件	86件
研究セミナー	37件	34件
館内研究プロジェクト数	30件	30件
外部研究プロジェクト参加数	33件	21件
研究員受け入れ数	24人	25人
外部助成金取得件数	25件	30件
J-STAGEによる閲覧数	23137件	8715件
新聞雑誌連載件数	2件	4件

写真で振り返る琵琶湖博物館



写真提供：(株)木下カンセー



写真提供：(株)木下カンセー

株式会社木下カンセー様による
企画展示と水族企画展示のラッピングカー



(公財)平和堂財団様の助成を受け実施した
「ふれあい体験室」コーナーでのワークショップ



ギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史
～コケに魅入られた人々の系譜～」



第33回企画展示「川を描く、川をつくる
～古地図で昔の堤をさぐる～」



水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」



ビワマス新種記載記念展示

写真で振り返る琵琶湖博物館



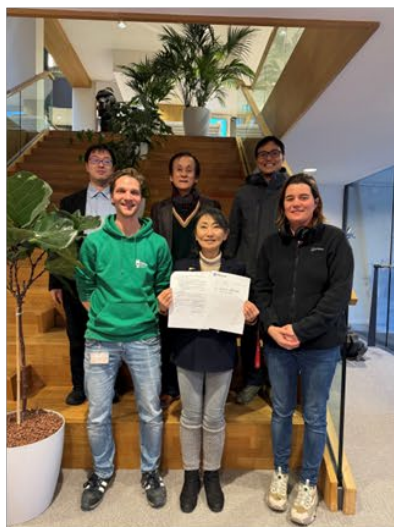
大阪・関西万博でのブース出展



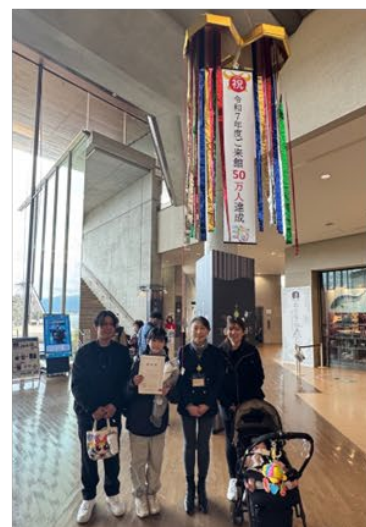
30周年記念ギャラリー展示
「民俗学者 橋本鉄男がみた近江
ー滋賀民俗研究のいしずえー」



30周年記念事業 ナイトミュージアム・プレミアムナイトツアー



ナチュラリス生物多様性センター(オランダ)と
30周年記念企画展示の資料借用覚書締結



前年度に続き、
2025年度の来館者50万人達成

ごあいさつ

2025 年度は、色々な意味で節目の年となりました。2021 年度（令和 3 年度）から開始した琵琶湖博物館第三次中長期基本計画の 5 年目を迎え、後半 5 年に向けた中間見直しを実施しました。持続可能な博物館づくりに向け、長期ビジョンの策定や施設・設備の大規模改修の検討、安定した活動基盤を確保するための仕組みづくりなどを新たに盛り込みました。100 年先の「湖と人間」のよりよい共存のために、これまでに培ってきた琵琶湖博物館らしい活動スタイルの深化と進化を進めるべく、チャレンジを続けていきたいと思っています。

第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」では、水害・土砂災害から地域をまもるための人々の取り組みを、古い地図や文書、道具などによって紹介しました。展示の中では、歴史地理学、自然地理学、生態学、河川工学の専門家による分野横断的な研究により、かつての水制施設「猿尾」を新たに発見したことも紹介しました。水族企画展示では、世界湖沼の日制定記念として「淡水魚から見る世界の湖沼」を開催しました。同時に、当館の学芸員や特別研究員らによるビワマス新種記載論文において、その基準となったビワマスの標本も展示しました。またギャラリー展示では、「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人々の系譜～」と「民俗学者 橋本鉄男がみた近江—滋賀民俗研究のいしずえ—」を開催しました。いずれも、地域の著名な研究者から寄贈いただいた資料を整理し、それをもとに滋賀の生物や民俗を紹介する展示となりました。

2025 年度も、多くの方々に支えられた一年でした。株式会社木下カンセー様には、企画展示と水族企画展示のラッピングを施したパッカー車を走らせていただき、公益財団法人平和堂財団様には、「ふれあい体験室」コーナーでのワークショップ開催をご支援いただきました。また、生物多様性びわ湖ネットワーク様には、琵琶湖博物館ブックレット「トンボと企業と生物多様性」の発刊記念セレモニーを当館で開催いただきました。地域の企業の方々には、近年本当に多くのご支援、ご協力をいただいております、大変感謝しております。

前年度と同様多くの方々にご利用いただいた 2025 年度は、引き続き 52 万人以上の方にご来館いただくことができました。SNS や YouTube などでご来館に関心を持っていた方々が実際にご来館いただいているようで、大変ありがたく思っています。

2026 年 1 月から、開館 30 周年記念事業をスタートしました。すでに述べたワークショップやギャラリー展示の他、3 月にはナイトミュージアムとプレミアムナイトミュージアムツアーを行い、多くの方々に夜の博物館を楽しんでいただきました。オランダのナチュラリス生物多様性センターとは、30 周年記念企画展示で展示する資料の借用について、現地で覚書の締結を行ってきました。30 周年記念事業の本番となる 2026 年度も、引き続き琵琶湖博物館をどうぞよろしくお願いいたします。

2026 年 4 月 30 日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 亀田佳代子

I 博物館活動の概要

1 研究・調査活動

1. 研究推進

琵琶湖博物館は研究活動を全ての博物館活動の基礎として位置づけ、その成果をもとに交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業を展開している。

研究部では 2021 年 3 月に策定された琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に従い、特に事業目標 1 に掲げる「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」することを目指して、以下の 3 つの重点事業を推進している。

重点事業 1－1 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

1－2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

1－3 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究が行われている。総合研究・共同研究。申請専門研究については、当館の研究評価実施要綱（2017 年更新）に従い、館長・副館長と外部有識者の審査委員から成る研究審査委員会による審査で採択の可否を決定している。また、専門研究については、研究部内に内部評価委員会を設置し、研究課題及び進め方についての検討と助言を行いながら推進している。2025 年度は、次の研究課題が実施された。

（1）総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究 1 件を行った。

- ・過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明

代表者：芳賀裕樹、研究期間：2019～2025 年度

（2）共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の 6 件であった。

- ・ドローンを活用した琵琶湖生態系のモニタリング-植生・河川・土地利用の時空間変動解析-

代表者：奥田岬、研究期間：2023～2025 年

- ・池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究

代表者：菅原巧太郎、研究期間：2023～2026 年

- ・滋賀県における民俗学の展開と有形・無形民俗文化財の現状に関する研究

代表者：加藤秀雄、研究期間：2024～2027 年

- ・既存研究における琵琶湖湖底物理的探査断面データの収集による水位変動記録の解析

代表者：里口保文、研究期間：2025～2026 年

- ・琵琶湖博物館の「交流の場」としての活動振り返りと評価手法の検討

代表者：芦谷美奈子、研究期間：2025 年

- ・琵琶湖地域における前期中新世後期の動植物相と古環境の解明

代表者：山川千代美、研究期間：2025～2026 年

（3）専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、

通常の経費で研究をしたものとに区別している。

＜申請専門研究＞

- ・湖岸に生息するスナゴミムシダマシ属におけるニッチ分化の検証（大槻達郎）
- ・琵琶湖でブルームを起こす珪藻の分類学的検討（大塚泰介）
- ・滋賀県立膳所高等学校由来の昆虫乾燥標本の価値付け（今田舜介）

＜専門研究＞

環境史研究領域

- ・古琵琶湖層群甲賀層最上部の堆積環境変化（里口保文）
- ・自動スライドスキャナと人工知能を用いた花粉自動計測システムの開発（林竜馬）
- ・滋賀県多賀町四手産アケボノゾウ骨格標本に伴う植物化石からみた古植生（山川千代美）
- ・水環境の利用と保全（楊平）
- ・琵琶湖周辺地域の産出粘土の砂粒分析と復元製作土器使用実験（妹尾裕介）
- ・琵琶湖地域の環境変化をめぐるライフストーリー（大久保実香）
- ・スジシマドジョウ類における繁殖条件の探索（田畑諒一）
- ・湖沼に関する民俗知の基礎的研究（加藤秀雄）
- ・近世・近代の土砂移動対応史に関する資料論（島本多敬）
- ・琵琶湖博物館所蔵の足跡化石の分類学（半田直人）

生態系研究領域

- ・沈水植物除去手法の効率に関する研究（芳賀裕樹）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（榊永一宏）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（スミス, R., J.）
- ・グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究（濱口貴仁）
- ・赤野井湾における在雷魚の生息状況について（寺井章人）
- ・琵琶湖集水域および人工池におけるイタチムシ類の調査（鈴木隆仁）
- ・長田芳和研究室魚類標本コレクションから見る琵琶湖魚類相の変遷（川瀬成吾）
- ・博物館の利用者参加制度に関する研究（西川真里奈）
- ・ドローンモニタリングによる簡易的な森林情報把握手法の検討（奥田 岬）
- ・滋賀県米原市のため池における希少な淡水二枚貝の保全に関する研究（菅原巧太郎）
- ・琵琶湖周辺に飛来する鳥類による種子散布機能に関する研究（佐藤華音）

博物館学研究領域

- ・滋賀県の中山間地域における水田利用魚類の分布と生態（金尾滋史）
- ・琵琶湖の水生植物の分布と生態－琵琶湖北岸と南湖－（芦谷美奈子）
- ・充実した博学連携に向けた新たな体験学習プログラムの開発－小学校高学年、中学校の理科や総合的な学習の時間の博物館利用を目指して－（桑原康一）
- ・からすま半島周辺のカヤネズミの保全的管理（中村久美子）
- ・飼育生物治療における治療効果の検証（松岡由子）
- ・博物館と学校教員を深くつなぐ取り組み（渡邊俊洋）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏 名	現 職
足立 重和	追手門学院大学社会学部 教授
浦部美佐子	滋賀県立大学環境科学部 教授
齊藤 純	天理大学文学部 教授
深町加津枝	京都大学大学院地球環境学堂地球親和技術学廊 准教授
長谷部徳子	金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授
野間 晴雄	関西大学文学部 名誉教授
森 誠一	岐阜協立大学 地域創生研究所 教授
河原 真	滋賀県総合教育センター 科学教育係長
亀田佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
松本 直樹	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その代表的なものは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は研究代表者として新規 1 件の採用と継続 9 件を合わせ計 10 件が実施された。また、研究分担者として 15 件の研究プロジェクトに参加した。さらに科研費以外で 5 件の助成を受けた。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「過去 50 万年の琵琶湖・海洋花粉分析からみる温暖期の森の脆弱性と日本海効果の評価」研究代表者（2023～2026 年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」研究代表者（2019～2025 年度）

島本多敬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」研究代表者（2021～2025 年度）

加藤秀雄

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「ダム上流域の放流アユと人の関係をめぐる環境民俗学的研究」研究代表者（2025～2028 年度）

寺井章人

- ・公益財団法人中辻創知社研究費助成「琵琶湖魚類生態系をささえる動物プランクトンの被食動態の調査」研究代表者（2025 年 8 月～2026 年 3 月 31 日）

川瀬成吾

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館における分類学の再考と再構一生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦一」研究代表者（2023～2025 年度）

菅原巧太郎

- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団「燃焼もみ殻の添加による淡水二枚貝イシガイ科の飼育餌環境改善の評価」研究代表者（2024 年 10 月～2025 年 9 月）
- ・公益財団法人河川基金助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の環境改変が仔魚加入に与える影響の解明」研究分担者（2025～2026 年度）

佐藤華音

- ・文部科学省科学研究費助成事業（特別研究員奨励費）「野生動物による付着種子散布メカニズムの解明：散布者の有効性の評価」研究代表者（2024～2026年度）

金尾滋史

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤C）「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」研究代表者（2023～2025年度）

中村久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」研究代表者（2019～2025年度）

上中央子（特別研究員）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤C）「植物遺体群からみた古代都城における草本植物相に関する基礎的研究」研究代表者（2022～2025年度）

辻川智代（特別研究員）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤C）「紅葉樹利用に関する広域民俗誌の研究」研究代表者（2024年～2027年）

米田一紀（特別研究員）

- ・公益財団法人河川基金助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の環境変化が仔魚加入に与える影響の解明」研究代表者（2025～2026年度）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 田畑諒一

（6）研究員の受け入れ

<特別研究員>

- ・池田 勝 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究

- ・辻川智代 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史的変遷を通じた地域文化研究

- ・柏尾珠紀 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村の暮らしとジェンダーの社会的考察、および、滋賀におけるなれずしに関する調査・研究

- ・天野一葉 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：外来鳥類の生態学

- ・藤岡康弘 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」

- ・寺本憲之 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：鱗翅目昆虫相とその食性および伝統的蚕糸業・環境保全型農業に関する研究

- ・山本充孝 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：琵琶湖の魚介類の飼育技術ならびに生態に関する研究

- ・根来 健 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築

- ・柏谷健二 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：湖沼堆積物を利用した長期環境変動の解析

・桑原雅之 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：ビワマスを中心とした琵琶湖水系に生息する固有種の生態学的、遺伝学的研究

・井内美郎 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：琵琶湖湖底堆積物を対象とした過去数万年間の湖水位変動に関する研究

・戸田 孝 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発

・増田啓祐 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：里山利用と自然と人間のレジリエンスの歴史に関する研究

・山本綾美 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：森林環境学習における児童の感想文を用いたプログラム効果測定方法の開発

・八尋克郎 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：琵琶湖岸砂浜の昆虫の分布と生態に関する研究

・小松原琢 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：近畿三角地帯周辺の堆積盆地と構造運動場の北移動の過程および機構

・上中央子 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：植物遺体群からみた古代都城における植物相と植生景観復元に関する基礎的研究

・大久保卓也 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：①琵琶湖における漁獲量の長期変動と環境条件との関連性に関する研究

②琵琶湖の水質の長期変化と環境条件との関連性に関する研究

③琵琶湖の漁網付着物増加の原因に関する研究

・鈴木規慈 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：絶滅危惧淡水魚類カワバタモロコ *Hemigrammocypripis neglectus* の進化保全生態学的研究

・新海拓郎 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：日本の一般家庭におけるアクアリウム趣味についての文化誌からの考察—愛好家の向けの専門雑誌の分析を中心に—

・小林亮平 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：標本整理とフロラ調査を通して明らかになったコケ植物分類学上の諸問題の解決

・米田一紀 2025年4月1日～2026年3月31日

テーマ：ホンモロコをモデルとした琵琶湖の環境改変がコイ科魚類の初期減耗に与える影響の解明

・植田弥生 2025年10月1日～2026年3月31日

テーマ：・琵琶湖地域における新生代の材化石群集による植物相や古植生の解明

・歴史時代における材遺体による植生復元と木材利用について

<名誉学芸員>

・布谷知夫 2024年4月1日～2029年3月31日

テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究

・前畑政善 2021年4月1日～2026年3月31日

テーマ：水田魚類の研究

・中島経夫 2025年4月1日～2030年3月31日

テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究

・用田正晴 2021年4月1日～2026年3月31日

テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究

・マーク J グライガー 2022年4月1日～2027年3月31日

テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼに住むエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

2. 研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<https://www.biwahaku.jp/publication/report/>) に掲載している。

<学術論文>

井内美郎・芦田貴史・里口保文・芳賀裕樹・大塚佳祐 (2025) モダンアナログ法を応用した琵琶湖愛知川河口沖の 過去数万年間の湖水位変動と沈降速度推定法の諸問題. 地球科学, 79 : 119-127.

Kojima, T., Saito-Kato, M., Hattori, K., Ohtsuka, T. and Satoguchi, Y. (2026) Non-marine diatom biostratigraphy based on evolutionary changes of the Genus *Praestephanos* in the Pliocene lacustrine deposits of the Kameyama Formation, Tokai Group, and its correlation with the Kobiwako Group, Central Japan. Island Arc, 35: e70042.

Hayashi, R., Sasaki, N., Takahara, H., Sugita, S. (2025) Testing the REVEALS-based vegetation reconstruction around Lake Biwa, western Japan, using absolute pollen productivity estimates derived from the flower counting method. The Holocene 35, 1272-1282.

高橋啓一・大塚泰介・林 竜馬・間島信男 (2025) ナウマンゾウ「浜町標本」の付着堆積物試料から得られた珪藻化石および花粉化石について. 化石研究会会誌 58, 11-19.

Hayashi, R., Irino, T. (2025) Terrestrial vegetation and climate patterns during the dark layer depositions in the Japan Sea based on a pollen record from the KR07-12 PC-07 in the last glacial-interglacial cycle. Progress in Earth and Planetary Science 12, 55.

富小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2025) 古琵琶湖層群蒲生層最上部産の珪藻化石を用いた古環境復元. Diatom 41, 1-10.

稲田 晃・西村祥子・金子陽子・上中央子・島村健二・志水里美・松江実千代・林 竜馬 (2025) 滋賀県彦根市芹川の段丘堆積物の花粉化石群 - 植生変遷および始良 Tn 火山灰の降灰季節とその植生への影響 -. 第四紀研究 64, 79 - 97.

Ryoma Hayashi and Tomohisa Irino(2025) Terrestrial vegetation and climate patterns during the dark layer depositions in the Japan Sea based on a pollen record from the KR07-12 PC-07 in the last glacial-interglacial cycle. Progress in Earth and Planetary Science Springer Nature, <https://doi.org/10.1186/s40645-025-00726-2>.

山川千代美 (2025) 大型植物化石群集からみた山門湿原における約 5,000 年前の古植生復元と環境の変化 . 特集：自然共生サイト『奥びわ湖・山門水源の森』の保全活動と課題, 地域自然史と保全, 47 (1) : 21- 31.

楊 平 (2025) 環境問題の社会学解析—生活環境主義の立場 . 『環境社会学』社会科学文献出版社、第 2 期:60 -74.

妹尾裕介 (2026) 古代の西日本における小鍋炊飯の役割. 物質文化 (物質文化研究会) 105 : pp. 87-102.

Takada, Y., Morosawa, T., Asano, M., Tabata, R., Kubota, H., & Watanabe, K. (2026). The genetic population structure and diversity of the endangered bitterling *Pseudorhodeus tanago* revealed by SNP markers: Y. Takada et al. *Ichthyological Research*, 73(1), 120-133.

Fujioka, Y., Kuwahara, M., Tabata, R., Fuke, Y., & Nakabo, T. (2025). The Biwa salmon, a new

- species of *Oncorhynchus* (Salmonidae) endemic to Lake Biwa, Japan: Y. Fujioka et al. *Ichthyological Research*, 1-13.
- Tai, J. H., Yu, T. H., Wang, F. Y., Terai, Y., Ryoichi, T., Huang, S. P., ... & Wang, H. Y. (2025). Chromosome-Level Genome Assembly of the Japanese Zacco platypus for Comparative Genomics. *Scientific Data*.
- Onuki, K., R. Tabata, T. Mishina, M. Nishida and K. Watanabe*. In press. Genome-wide analysis successfully resolves population structure shaped by recent divergence in the endangered bagrid catfish *Pseudobagrus ichikawai*. *Ecology and Evolution*, 16: e73263. <https://doi.org/10.1002/ece3.73263>
- Ogura, T., Shimamoto, K., Mizuno, T., Katayama, D., Yamauchi, H., Hattanji, T. (2025) Identification of traditional flood control facilities concealed in the riparian forest: a case study of the Echi River, central Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* (Japan Geoscience Union), 12(41), 1-13.
- 石川可奈子・井上栄壮・蔡吉・芳賀裕樹 (2005) 琵琶湖沿岸の自然再生・修復と生態系の現状評価. 用水と排水. 67: 722-729.
- Ham, S., Smith, R.J. & Nakata, K. 2025. First record of the invasive entocytherid ostracod *Ankylocythere sinuosa* on the North American red swamp crayfish *Procambarus clarkii* in western Japan. *Crustacean Research*, 54, 103-112.
https://doi.org/10.18353/crustacea.54.0_103
- 小沢広和・Smith, R.J.・中村 晴・中井静子 2025. 神奈川県藤沢市の日本大学生物資源科学部構内水田における 淡水生貝形虫 (甲殻亜門・貝形虫綱・ポドコピーダ目) の産出記録. 生物資源科学 34: 5-11.
- Kentaro Mochizuki, Hidetoshi Wada, Tatsuya Matsumoto, Seigo Kawase, Masahiro Aizawa, Kazuo Sakamoto, Rei Ueshima (2025) Specimens of the genus *Gnathopogon* (Cypriniformes: Cyprinidae) deposited in the Department of Zoology, The University Museum The University of Tokyo. 東京大学総合研究博物館標本資料奉告 第139号, 139号: 9-24.
- 伊藤 玄・川瀬成吾・和田英敏・藍澤正宏. 2025. 田中茂穂コレクションから発見された絶滅地域・長崎県産のオヤニラミ標本, *Ichthy*, 54, 22-26.
- Ito, G., J. Kitamura, S. Kawase, M. Asamil, Y. Goto, H. Yamanaka. 2026. Development of a lineage-specific environmental DNA assay to differentiate intraspecific lineages of the endangered freshwater fish, *Acheilognathus cyanostigma* (Cyprinidae: Acheilognathinae). *Conservation Genetics Resources*, 18: 6.
- Kanon Sato, Toshiaki Shiraishi, Shimpei Sakamoto, Kenta Sawada, Yusuke Goto, Christophe Baltzinger, Shinsuke Koike (2026) Community-wide epizoochorous interactions revealed from roadkilled mammals. *Oikos*, <https://doi.org/10.1002/oik.12094>.
- 渡邊俊介・米屋結衣・木口 倫・渡辺 剛・大塚泰介 (2025) 田沢湖流域における表層水中の栄養塩類と珪藻蘇生. *Diatom*, 41: 11-22.
- Akihiro Tuji, Satoshi Ichise, Taisuke Ohtsuka, Takeshi Negoro (2025) On the Sudden Appearance of *Coronia echeneis* (surierellaceae, acillariophyceae) in freshwater Lake Biwa. *Bulletin of the National. Museum of Nature and Science. Series B, Botany*, 51(3): 97-106.
- Akira Hatanaka, Madoka Inoue, Hiroki Izumino, Kohei Yoshiyama, Takeshi Negoro, Taisuke Ohtsuka (2025) *Diatom*. Flora in a Channel fed by Lake Biwa on the campus of the University of Shiga Prefecture, Japan. *Diatom*, 41: 23-46.

- Kamakura, S., Nakaji, C., Ohtsuka, T., Nagumo, T. & Sato S. (2026) *Epithemia fragarioides* sp. nov. (Bacillariophyta): Formal recognition of a diatom widespread across Japan. *Phycological Research*, 74(1): 57-70.
- Kojima, T., Saito-Kato, M. & Ohtsuka, T. (2026) Morphological evolution of four new fossil taxa of the genus *Praestephanos* from the Upper Pliocene Ayama and Koka Formations of the Kobiwako Group in Shiga and Mie prefectures, Japan. *Diatom Research*, 41(1): 1-26.
- Maiko Kagami, Tatsuro Hashizume, Duangmany Phongsa, Taisuke Ohtsuka, Kensuke Seto, Shuhei Ban(2045) Contrasting effects of chytrids on two large desmids in Lake Biwa. *Fungal Ecology*, 78: 101459.
- Milagrosa R. Martinez-Goss, Taisuke Ohtsuka, Eldrin DLR. Arguelles, Tohru Ikeya, Elfritzon M. Peralta, Rey Donne S. Papa, & Noboru Okuda(2025) Annotated checklist and illustrations of *Pinnularia*. species in the Marikina River, Rizal (Luzon), the Philippines. 154(2): 427-446.
- Imada, S. (2025) *Araeocerus ogasawarae*, a forgotten available name of the Japanese Anthribidae (Coleoptera). *Elytra, New Series*, 15: 135-138.
- Imada, S. & R. Nakamura (2025) New host plant record of *Mauia subnotata* (Boheman) (Coleoptera: Anthribidae). *Elytra, New Series*, 15: 139-142.
- Imada, S. (2025) The type specimens of the genera *Choragus* Kirby and *Melanopsacus* Jordan (Coleoptera: Anthribidae) described by the Japanese authors: towards a revision of the tribe Choragini from Japan, Part 1. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 31: 140-147. [オープンアクセス]
- Imada, S. (2025) New locality, new host plant record, and new synonym of *Cisanthribus* Zimmerman (Coleoptera: Anthribidae) from East Asia. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 31: 148-151. [オープンアクセス]
- 今田舜介・細川浩司 (2025) ミツギリゾウムシ属 2 種の食樹記録. さやばねニューシリーズ, (60): 61-62.
- 外村俊輔・今田舜介 (2026) 徳島県立博物館所蔵石田正明コレクションのヒゲナガゾウムシ科に関する報告. 徳島 県立博物館研究報告, (36): 83-87. [オープンアクセス]
- 用田政晴 (2025). 近江の山岳寺院類型からみた播磨太山寺の史的評価, *淡海文化財論叢* (淡海文化財論叢刊行会), 17: 117-122.

<専門分野の著作>

- 亀田佳代子 (2025) 各論 17. カワウ. In: 「野生生物と社会」学会 (編) *野生動物の保全と管理の事典*, 朝倉書店, 東京都, pp. 443-453.
- 里口保文 (2025) 鮮新-更新世における琵琶湖の止水域の変化と水棲生物相に与える影響. 琵琶湖博物館研究調査報告書, no. 38, 4-16.
- 林 竜馬 (2025) 古琵琶湖層群および琵琶湖堆積物の花粉化石からみる現生植物群の成立変遷過程と東アジアモンスーン・海流変動の影響. 琵琶湖博物館研究調査報告 (38) 17-32.
- 山川千代美・植田弥生・長澤一雄 (2026) 山形市谷柏の須川河床から産出した最終氷期最盛期の埋没林樹種. *山形県立博物館研究報告*, 43 (印刷中)
- 大久保実香 (2025) 関西・東海地区研究会開催報告. *日本村落研究学会研究通信* (日本村落研究学会), No. 273: 8- 9.
- 大久保実香 (2026) 僕たち、孫ターン. やまだらけ(NPO 法人日本上流文化圏研究所), 108:1-4.
- 米田実・加藤秀雄 編 (2026) 琵琶湖博物館資料目録 20 号 橋本鉄男旧蔵資料—滋賀民俗研究の先覚者とその足跡—. 滋賀県立琵琶湖博物館, 1-146.

- 加藤秀雄 (2026) 環境の民俗学—これまでとこれからの人と自然の関係を問う—。3STEP シリーズ 民俗学。昭和堂, 95-109.
- Kato, H (2025) Global Folklore Studies: The Rainbow Bridge and Hell' s Ginseng. *Fabula* 66(1-2):25-36.
- 加藤秀雄 (2025) 文献に記された民俗について—民俗研究におけるテキスト遺産活用のために—。近現代日本を生きるテキスト遺産: モノ×営為×世界 (アジア遊学)。勉誠社, 110-122.
- 亀田 佳代子・加藤 秀雄・大槻 達郎 (2025) 地理情報システム(GIS)を用いた生物分布マップ「びわはく GIS」による鳥類分布情報の蓄積と活用, 全国科学博物館協議会研究発表大会:資料, 113-119.
- 田畑諒一・渡辺勝敏. (2025). In: 高橋啓一, 田畑諒一 (編), *琵琶湖博物館研究調査報告 . 核ゲノム分析がもたらした琵琶湖産魚類の進化史に関する新たな考察*. 38, 76-88.
- 島本多敬 (2026) 名柄中村家所蔵土絵図 (金剛山土絵図) . 奈良県地域創造部文化財課編, 令和 7 年度奈良県内古文書所在確認調査報告書, 奈良県地域創造部文化財課, pp. 228-230.
- 桝永一宏 (2025) クラウドファンディングと SNS で広がる琵琶湖博物館の魅力, 博物館研究, 60(4): 20-23.
- 大槻達郎 (2025) 淡水環境に生育する海浜植物における葉の形態変異について. *滋賀県植物研究会会報*, 会報 第 18 号: 22-23.
- 大槻達郎 (2025) 湖岸に定着した海浜植物の来歴と湖岸環境への適応的な応答について. *琵琶湖博物館研究調査報告書*, 第 38 号: 56-67.
- 川瀬成吾・大植伸之 (2026) 琵琶湖における国内外来種シロウオの初確認. *淡海生物*, 7: 19-20.
- 川瀬成吾 (2025) 琵琶湖センス・オブ・ワンダー 湖と人が織りなす歴史と今 19 魚類標本. 湖国と文化. 49 巻 4 号: 60-61.
- 伊藤 玄・川瀬成吾・和田英敏・藍澤正宏 (2025) 田中茂穂コレクションから発見された絶滅地域・長崎県産オヤニラミ標本. *Ichthy*, 54: 22-26.
- 大塚泰介・根来 健 (2025) 琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究. (公財) 令和 6 年度水質保全研究助成報告書, 琵琶湖・淀川水質保全機構, 13 pp. (published online)
http://www.byq.or.jp/josei/r06/accomplishment_report/1-1_report_ohtsuka.pdf#view=fitv
- 大塚泰介 (2025) フィールドシンポジウム企画趣旨「自然矯正サイト『奥琵琶湖・山門水源の森』の保全活動と課題」. *地域自然史と保全*, 47(1): 3-5.
- 大塚泰介・根来 健・一瀬 諭・石川可奈子・辻 彰洋 (2025) 琵琶湖のプランクトンの長期変動—なぜ富栄養化が止まっても有害藻類ブルームが発生し続けるのか?— (特集 琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化: 瀬戸内海と比較して考える). *月刊海洋*, 57(6): 267-278.
- 酒井明久・大塚泰介・今井一郎・児玉真史 (2025) はじめに: 琵琶湖の環境と漁業生産の現状 (特集 琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化: 瀬戸内海と比較して考える). *月刊海洋*, 57(6): 253-259.
- 大塚泰介 (2025) 対話に基づく在来知と科学知の連携が拓く農業の持続可能性—遅れてきた田んぼ研究者のフィールドノートから—. 季刊 農業と経済, 92(1): 65-74.
- 松岡数充・石井健一郎・大塚泰介 (編) (2025) 2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム「珪藻研究の最前線」. 日本プランクトン学会報, 72(2): 43-60.
- 大塚泰介 (2025) 珪藻の固有種と外来種—外来種の増加は人新世の現象か? In: 松岡数充・石井健一郎・大塚泰介 (編), 2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム「珪藻研究の最前線」. 日本プランクトン学会報, 72(2): 54-55.
- 桑原康一 編 (2026) *琵琶湖と子どもの出会いを創る びわ博ガイドブック (教員向け)*, 琵琶湖博物館, 96p.
- 瑤寺 裕・今田舜介 (2025) 伊豆諸島八丈島におけるクロケシタマムシの新分布記録. さやばねニューシリーズ, (58):11-12.

- 今田舜介・完山雄大 (2025) 四国初記録となる徳島県産チビクチボソヒゲナガゾウムシの採集例. さやばねニューシリーズ, (58): 35.
- 今田舜介・嶋本習介 (2025) 式根島におけるキノコヒゲナガゾウムシ基亜種の採集例. さやばねニューシリーズ, (58): 49.
- 今田舜介 (2025) 滋賀県におけるクロホシタマクモゾウムシの採集例. 月刊むし, (654): 60-61.
- 今田舜介 (2025) ヤマトヒメメダカカッコウムシ. Came 虫, (221): 8.
- 今田舜介 (2025) 滋賀県ゾウムシ類の若干の記録. Came 虫, (221): 10-11.
- 今田舜介 (2025) ベニカミキリ. Came 虫, (221): 13.
- 今田舜介 (2025) 江本健一コレクションのハナモグリゾウムシ属の記録. さやばねニューシリーズ, (59): 50.
- 今田舜介 (2025) 滋賀県草津市におけるクロケシタマムシの記録. Came 虫, (222): 15.
- 善野秀樹・今田舜介 (2025) アカマダラハナムグリ. Came 虫, (222): 15.
- 今田舜介 (2025) 奄美大島におけるナラマメヒゲナガゾウムシの採集例. さやばねニューシリーズ, (60): 42.
- 今田舜介・上原友太郎 (2025) 津堅島におけるイトヒゲナガゾウムシの採集例. さやばねニューシリーズ, (60): 62.
- 今田舜介 (2026) かつての珍品ナガフトヒゲナガゾウムシの分布拡大の現状. KORASANA, (106): 17-27.
- 今田舜介 (2026) 伊吹山におけるゾウムシ上科の文献記録. KORASANA, (106): 28-32.
- 渡部晃平・福富宏和・今田舜介 (2026) 石川県のヒゲナガゾウムシ科. ホシザキグリーン財団研究報告, (29): 227- 243.
- 今田舜介・屋宜禎央 (2026) 対馬におけるシリジロヒゲナガゾウムシの記録. さやばねニューシリーズ, (61): 19.
- 今田舜介・金尾滋史 (2026) 南大東島におけるパークホソカタムシの記録. さやばねニューシリーズ, (61): 36-37.
- 今田舜介 (2026) 伊豆諸島八丈島におけるセスジクビボソハムシの採集例. さやばねニューシリーズ, (61): 47.
- 今田舜介 (2026) トカラ列島におけるヒゲナガゾウムシ科 2 種の新産地. さやばねニューシリーズ, (61): 48.
- 今田舜介 (2026) ビロードアシナガオトシブミ ; カギアシゾウムシ属 ; ヤマトクチブトサルゾウムシ ; ギンズジゾウムシ ; イチハシシギゾウムシ. 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編) 滋賀県で大切にすべき生き物ー滋賀県 レッドデータブック 2025 年版ー. 滋賀県自然環境保全課, 696 pp
- 用田政晴 (2025) 専任教員研究活動報告 用田政晴教授. 人間文化 (神戸学院大学人文学会), 58. 100-102
- 用田政晴 (2025) 考古・民俗資料からみた琵琶湖の船. 令和 7 年度米原市埋蔵文化財シンポジウム 東アジアから見た琵琶湖の船・米原の船 (米原市教育委員会), 米原市文化財シンポジウム・講演会記録集, 3. 39-54
- Grygier, M. J. & Olesen, J. (2025) 正体不明に節足動物-y 幼生-. 仲村康秀, 山崎博史, 田中隼人 (編), カラー図解 水の中の小さな美しい生き物たち ー小型ベントス・プランクトン百科ー, 朝倉書店, 東京, 300-301, 346, 350.
- 中島経夫・北林栄一 (2025) 大分県由布市の碩南層群判田層から産出した コイ科魚類咽頭歯化石. 天草市立御所浦恐竜の島博物館報 (1) : 17-25
- 佐藤巧庸・山田凜太郎・中島経夫 (2025) 日本動物考古学会第 12 回大会プログラム・抄録集, p. 15

(2) 研究調査報告の J-STAGE 掲載とアクセス数

琵琶湖博物館の研究成果をまとめて出版している「琵琶湖博物館研究調査報告」は、2021 年 11 月より、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE) への掲載を始め、これまでの発行号も含めて、対象のインターネットページでの閲覧が可能になった。これ以降の最新号は基本的に論文ごとの公開をし、過去の号についても順次公開作業を進めている。2026 年 3 月までに、37～38 号を公開した。アクセス数は以下の通り。

2025 年 3 月～2026 年 2 月のアクセス数 (いずれもクローラー除く)

- ・書誌情報閲覧 : 23,137 件
- ・PDF ファイルダウンロード : 25,635 件

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

学芸職員及び特別研究員の研究発表と研究交流の機会として、セミナー室にて毎月第 3 金曜日 13:15～15:15 に研究セミナーを開催している。2025 年は以下の通り実施した。

第 1 回 4 月 18 日 参加者数 : 25

林 竜馬「自動スライドスキャナと人工知能を用いた空中花粉自動計測システムの開発」

芳賀 裕樹「南郷洗堰設置に伴う水位低下と湖岸の灌漑様式の変化について」

加藤 秀雄・山本 充孝「湖産アユをめぐる科学知と民俗知—生活世界における「数えること」と「経験」の関係性—

第 2 回 5 月 16 日 参加者数 : 31

里口 保文「琵琶湖の泥質堆積物堆積速度の変化」

鈴木 規慈「絶滅危惧種の淡水魚類の保全のこれまでとこれから—カワバタモロコを例に—」

桑原 雅之「水中ドローンを使ったビワオオウズムシ定量調査の試み」

第 3 回 6 月 20 日 参加者数 : 28

半田 直人「滋賀県で見つかったウシ化石の再検討とその意義 —“堅田湖の時代”の動物相を考える—」

今田 舜介・中西 康介・牛島 稔広・八尋 克郎「滋賀県昆虫目録の改訂と滋賀県の昆虫相解明における展望」

菅原 巧太朗「脂肪酸分析を用いた同化餌資源の評価」

第 4 回 7 月 18 日 参加者数 : 22

大塚 泰介・根来 健・一瀬 諭・石川 可奈子・辻 彰洋「琵琶湖のプランクトンの長期変動—なぜ富栄養化が止まって有害藻類ブルームが発生し続けるのか?—」

妹尾 裕介「稲作農耕社会を探る 2—ジャワ島カセプハンの調査事例から」

新海 拓郎「魚を観る・飼う愉悦—観賞魚とアクアリウムからの考察—」

第 5 回 8 月 22 日 参加者数 : 36

寺本 憲之「鈴鹿山脈に生息する生きた化石、歯をもつ蛾の生態調査結果」

山川 千代美「鮮新—更新世のメタセコイア属を含む湿地林植生について」

辻川 智代「蛇籠の復元と模型製作—企画展示に関連して」

第 6 回 9 月 19 日 参加者数 : 28

濱口 貴仁「河川における DX の推進について」

鈴木 隆仁「生態観察池の池干しによるプランクトン相の変化」

小林 亮平「滋賀県のコケ植物目録改訂にむけて—一種の増減と分類学上の問題整理—」

第7回 10月17日 参加者数：30

大槻 達郎「琵琶湖の砂浜に生息する地表徘徊性昆虫の分散様式—水流分散を示す数々の証拠—」

川瀬 成吾「フランス国立自然史博物館に所蔵されている琵琶湖産魚類標本」

芦谷 美奈子「琵琶湖博物館の「展示交流」の評価の試み—展示交流の記録の活用と今後の展望—」

第8回 11月21日 参加者数：27

R. J. スミス 「Online Databases and Taxonomic Data. An update on the East Asian Non-marine Ostracoda Database and an example of its use オンラインデータベースと分類データ東アジア淡水産カイミジンコデータベースの最新情報とその活用例」

八尋 克郎・武田滋・大槻達郎「佐波江浜における地表徘徊性甲虫の種類組成と季節消長」

金尾 滋史「滋賀県内の水田地帯におけるカエル類の分布と近年の変化」

第9回 12月19日 参加者数：29

寺井 章人「赤野井湾における在来魚の分布状況について」

楊 平「関係性価値の視点からみた水環境管理と生活組織の再機能化」

佐藤 華音「ロードキルを集めてわかること：哺乳類の毛皮が運ぶ、植物のタネ」

第10回 1月16日 参加者数：33

榊永 一宏「日本産アシナガバエ科 Hypocharassus 属のユニークな産卵生態と幼生期の解明」

島本 多敬・小倉 拓郎・水野 敏明・山内 啓之・八反地 剛・濱口 貴仁・小林 亜美・角川 咲江・片山大輔・小林 勇介「愛知川につくられた猿尾について—明治初期の村絵図による名称・形態・分布の検討—」

田畑 諒一「ウグイの系統地理解析と滋賀県内におけるその遺伝的集団構造」

第11回 2月20日 参加者数：25

奥田 岬「UAVを活用した琵琶湖生態系モニタリングの可能性」

松岡 由子「カイツブリの人工育雛における成長解析」

大久保 実香「地域の民俗芸能をだれがどこで継承するか—朽木古屋の六斎念仏踊りに関する実践から—」

第12回 3月20日 参加者数：26

中村 久美子・松岡 由子「滋賀県南部の開発予定地におけるカヤネズミ保全の可能性」

渡邊 俊洋「博物館体験学習「外来魚解剖体験」から見えてきたこと」

桑原 康一・林 竜馬「ドローンを活用した西の湖周辺のヨシ原の視覚教材開発と評価」

(4) 共催シンポジウム

シンポジウム「花の百名山伊吹山草原の多様性回復を目指して—研究者・市民・行政との連携—」（主催：関西自然保護機構、共催：琵琶湖博物館）を2月14日に琵琶湖博物館ホールで開催し、当館からも2名が研究発表を行った。参加者数は約80名だった。

3. 研究交流

(1) 協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。協定の締結内容としては、次の5項目である。このほかに、研究および資料、展示についての具体的な協力が行われる場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

①研究者等博物館職員の交流

②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流

- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

現在、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、韓国の国立洛東江生物資源館、国内では、京都大学野生動物研究センターと（独）大阪府立環境農林水産総合研究所と相互協力協定を締結している。

1）京都大学野生動物研究センター（京都府京都市）

京都大学野生動物研究センター（センター）は、絶滅の危機に瀕している大型哺乳類を中心に、野生動物に関する教育研究を行っている施設である。2016年11月25日に、野生動物の生態・行動の理解と保全に関わる情報及び技術の相互交換、並びに共同学術研究を基に、野生動物の教育的展示をより一層発展・促進することを目的として、協力協定(MOU)を締結した。2025年度は、センターの主催する動物園水族館大学シンポジウム「域外保全と域内保全 野生復帰の取り組み」を2月22日・23日に当館で開催し、発表も行った。

2）韓国洛東江生物資源館

2023年度の協議で2年に一度交代で合同セミナーと機関長会議を開催し、間の年はオンラインで実務者会議を開くこととなっている。2025年度は実務者会議の年にあたり、研究協力、標本交換、展示協力に関する協議が行われた。

3）大阪府立環境農林水産総合研究所

2024年10月8日に相互協力協定を締結した。2025年度は淀川水系のアユモドキの保護増殖を協力して行った。

（2）伊藤忠商事株式会社（東京都港区）との連携

当館の保護増殖センターにて系統保存を行っている希少淡水魚のうち、琵琶湖淀川水系にも生息し、かつて琵琶湖にも生息していたアユモドキを対象に飼育技術の発展に関する研究を行っている。2025年度は前年に引き続き亀岡市産の雌を淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会および環境省との協議の下、捕獲、導入し、当館の八木町産雄個体と人工授精を行った。その結果、十分な数の稚魚を得ることができ、関係機関と協力して分散飼育を進めるとともに、展示室でも公開している。

（3）試験研究機関との連絡活動

1）県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。

各機関が行っている研究やその成果について広く一般に知ってもらうため、10月19日に「青少年のための科学の祭典 滋賀大会」（滋賀県立大学）に参加し、研究発表とワークショップを行った。琵琶湖博物館は琵琶湖環境科学研究センターとともにプランクトン観察のワークショップを開催した。

幹事会は6月18日、1月7日にオンラインで行われ、本会議と勉強会、施設見学会は2月25日に農業技術振興センターを会場に、対面とオンラインで開催された。本会議では、発表会の報告とともに次年度の行事予定が承認された。

(4) 海外交流活動

1) 研究に関する国際用務

亀田佳代子

- ・2026年1月25日～2月1日、オランダ、ナチュラリス生物多様性センター・オランダ国立民族学博物館・シーボルトハウス、企画展示・調査研究に関する訪問。

川瀬成吾

- ・2025年6月18日～6月22日、韓国、韓国分類学会招待講演、国立中央科学館、標本調査
- ・2025年9月11日、オンライン会議、韓国洛東江生物資源館との実務者会議。
- ・2025年9月14日～9月18日、韓国、国立中央内水面試験場・江南大学、標本調査・招待講演。
- ・2025年11月1日～11月17日、アメリカ、カリフォルニア科学アカデミー・アメリカ自然史博物館、標本調査、企画展示交渉
- ・2026年1月25日～2月1日、オランダ、ナチュラリス生物多様性センター・オランダ国立民族学博物館・シーボルトハウス、企画展示・調査研究に関する訪問。

芳賀裕樹

- ・2025年9月11日、オンライン会議、韓国洛東江生物資源館との実務者会議。

半田直人

- ・2025年12月9日～12月21日、アメリカ、ニューヨーク州、アメリカ自然史博物館、南アジアで見つかった哺乳類化石の調査（科研費）。

林竜馬：

- ・2025年7月14日～7月28日、トルコ、アナトリア地域火災史解明のための現地調査（科研費）。

里口保文

- ・2025年9月11日、オンライン会議、韓国洛東江生物資源館との実務者会議。

妹尾裕介

- ・2025年6月4日～6月14日、フィリピン、ルソン島カリंगा州タブク市ギナアン村、稲作農耕民の実態調査（科研費）
- ・2025年9月11日、オンライン会議、韓国洛東江生物資源館との実務者会議。
- ・2025年9月18日～9月23日、フィリピン・ルソン島カリंगा地域・インドネシア共和国ジャワ島、稲作農耕民の実態調査（科研費）。

島本多敬

- ・2026年3月13日～3月22日、台湾、高雄市、治水施設の土木技術と地図・図面資料の調査および実地踏査（科研費）

鈴木隆仁

- ・2026年1月25日～2月1日、オランダ、ナチュラリス生物多様性センター・オランダ国立民族学博物館・シーボルトハウス、企画展示・調査研究に関する訪問。

大槻達郎

- ・2025年9月11日、オンライン会議、韓国洛東江生物資源館との実務者会議。

4. 研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版（平成25年1月25日）および「博物館関係者の行動規範」（日本博物館協会平成23年3月）に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」（2016年7月）を定め、公正な博物館活動を推進している。また、研究活動の不正行為を防止する一環として、毎年研究倫理研修を行っている。2025年度は次の研修を行った。

1) 第1回研究部研修「研究倫理研修」

参加者：40名

日時：2025年11月27日（木） 13時30分～15時30分

場所：琵琶湖博物館セミナー室

テーマ：「研究インテグリティの確保と周辺領域について：外部競争資金の確保と求められるリスクマネジメント」

講師：加藤 久明氏（大阪大学 産業科学研究所 特任准教授）

趣旨：令和7年度の科学研究費助成事業（科研費）申請要件として、研究インテグリティ契約が必須となった。今後、人文・社会科学、自然科学問わず、さまざまな場面において研究インテグリティに関連する状況が生じると予想される。そこで研究インテグリティの理解促進を目的とする研修を行った。講師に加藤久明氏（大阪大学産業科学研究所特任准教授）を迎え、大学と産業分野との連携、国内外の諸機関との共同研究の事例とともに、博物館等の研究活動に対する研究インテグリティの課題について学んだ。

2) 日本学術振興会 研究倫理eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

実施期間：1月20日～3月30日まで

受講時間：約1時間半

受講人数：40名（学芸職員の他、特別研究員を含む）

（2）薬品類の管理

滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程（2017年4月1日より施行）の第4章に記述されている通り、化学薬品の保管状況および毒劇物等の使用状況について確認を行うことを目的に、薬品棚卸し作業を年度内に2回行った。全ての薬品の在庫の有無を調べるとともに、毒物、劇物、有害物質、指定物質、第一種指定化学物質について、すべての在庫あるいは使用終了を確認した。毒劇物の薬品瓶の重量（容器込み）を測定し、薬品管理使用簿に記入した。棚卸しの結果は、化学薬品管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。一方で、古くなったり使用見込みがなくなった薬品類をリストアップし、廃棄を進めた。また、酸を収納していたステンレス製の棚を、耐酸性の強い塩化ビニル製の棚に更新した。

（3）研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度は古い備品の更新を進めるとともに、使用状況の記録方法に関する見直しを行った。

（4）研究環境の整備

新たに着任した学芸職員への対応も含め、各研究室・実験室の再整備を順次進めている。

（5）研究・事業専念時間設定

事業と研究のバランスをとるための研究専念日の設定と運用は今年度も引き続き実施した。制度も4年目となり、運用ルールも定着してきたところであるが、水槽破裂やその後の復興事業などにより、職員によっては十分な研究専念が行えない事例があった。このため、業務の見直し等によるバランスの再構築が課題となった。

2 交流活動

1. 利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2025年度の登録者数は200名（2024年度登録更新者177名）であった。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、アンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施・参加である。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2025年度の活動は4月より毎月第1・3土曜日（原則）のフィールドレポータースタッフ定例会等の会合・行事を計24回開催した。

2025年度の調査として、前年度から継続して「タンポポ調査」を、5月31日までの間で実施した。また、期間は終了しているが、昨年度に実施した「えっ!?こんなところにもヌートリア」調査に関する追加の目撃情報も得ることができた。調査票の作成や報告書執筆に関しては、タンポポ調査は芦谷専門学芸員と同スタッフの前田雅子氏とが中心になって行った。

滋賀県民にとって身近な琵琶湖や、その集水域にある水辺が地域の方々にどのように利用されてきたかを調査した「水辺の魅力調査」を2025年8月8日～11月20日の期間で実施した。水辺の魅力調査は楊専門学芸員と同スタッフの杉田薫氏とが中心となって行った。

「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」1号（通巻106号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの柊島昭紘氏が務めた。106号ではタンポポ調査、飛び出し坊や調査の報告に加えて、この後実施した水辺の魅力調査のお知らせを行った。

このほか、6月15日に実施したフィールドレポーター交流会において、近江のなれずし県民大調査の「滋賀県以外のデータ」を元に見えてくる結果の報告や、石碑調査の結果報告が行われた。また11月に行われたびわ博フェスでは、ポスター発表に加えて紙で魚をつくるワークショップや、展示室で特定の漢字を探すワークショップを実施した。

フィールドレポーターの主な活動

月日	出席数	内容	
4月5日	6	定例会	交流会開催の検討
4月19日	6	定例会	交流会の詳細決定
5月3日	9	定例会	第1回FR調査テーマの検討
5月17日	9	定例会	FRだより「近江のナレズシ調査」と交流会案内の送付
6月15日	24	交流会	2025年度第1回FR交流会
6月28日	8	定例会	第1回調査「水辺の魅力調査」検討
7月5日	8	定例会	第1回調査「水辺の魅力調査」検討
7月19日	8	定例会	第1回調査「水辺の魅力調査」検討
8月2日	6	定例会	「水辺の魅力調査」調査票発送
8月24日	4	定例会	FRだより「生き物供養碑調査」検討。次回調査テーマ検討
9月6日	7	定例会	タンポポ調査中間報告、びわ博フェス検討

9月27日	8	定例会	びわ博フェス、掲示板106号、FRだより検討
10月4日	8	定例会	びわ博フェスワークショップ内容検討
10月18日	7	定例会	びわ博フェスワークショップ準備
11月1日	6	定例会	びわ博フェスワークショップ準備
11月15日	8	フェス	びわ博フェス
11月16日	8	フェス	びわ博フェス
12月20日	8	定例会	びわ博フェス反省会。次回調査内容検討
1月10日	6	定例会	次回調査内容検討
1月17日	6	定例会	次回調査内容検討。タンポポ調査中間報告。
2月7日	6	定例会	次回調査内容検討。タンポポ調査中間報告。
2月21日	6	定例会	次回調査調査票内容検討。
3月18日	6	定例会	次回調査調査票内容調整。
3月21日	6	定例会	次回調査調査票内容調整。

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていこうとする利用者のための登録制度として、2000年8月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。

2025年度は登録講座をオンラインで3回、対面式で1回実施した。オンラインの開講期間は4月27日（日）～5月11日（日）、9月7日（日）～9月21日（日）、2月22日（日）～3月8日（日）で、受講生にはこの期間のうち任意の時間に受講いただいた。対面式では10月12日（日）に実施した。5月開催後には20名、9月開催後には20名、10月開催後には17名の新規登録者があり、2025年度末の会員数は422人となった。なお、3月開催分の新規登録者41名は2026年度より会員となる。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の理念実現への推進力となっている。2026年の1月には「内湖を知ろう会」が新たに活動を開始したが、一方で「近江巡礼の歴史研究会」が2026年1月に、また「海浜植物守りたい」が同年2月に活動を終了することとなり、2025年度末時点で、22グループが活動を展開している。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行 担当学芸員：田畑諒一、川瀬成吾 会員数：108名

[設立の趣旨]

「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその生息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、魚採りが大好きな人々が集まって結成された。2000年の発足以来、琵琶湖博物館を活動拠点として、「魚つかみ」を楽しみながら、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の姿として記録に残すことを目指している。

[活動の概要]

4月から7月と9月から12月に月一回、定例調査を琵琶湖流域の各地で開催した。なお6月と12月の定

例調査は悪天候のため中止となった。定例調査は、基本的に3～6人程度の調査班を数班編成し、各班が数地点を調査する形で実施した。冬季については、1月は勉強会として魚の見分け方を学ぶ講座を開催し、2月は野洲市で行われた「ビワマスフォーラム」に参加して会員の知識向上に努めた。3月は総会とともに、昨年度学名が確定し話題となったビワマスについて、学名確定までの経緯を、論文の筆頭著者でありうおの会会員でもある藤岡康弘さんから講演頂いた。

その他に、国内外来種オヤニラミに関する臨時の調査活動や、湖魚料理を楽しむ会なども実施した。各会員は個人での調査活動も実施し、うおの会のデータとして記録を残すことに努めた。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、13名の運営委員が中心となって行った。

以上の活動により、2025年度は定例調査で47地点、個人調査で34地点の採集データを残すことができた。定例調査での魚類の総採集尾数は1537尾、出現種数は37種であった。定例調査、勉強会等を合わせた全活動の、のべ参加者数は277名であった。

その他、滋賀県や近隣府県の各種団体からの自然観察会および講演講師派遣の依頼に対応し、生物採集の補助、魚や水生生物の生態についての説明などを行った。

「うおの会」のおもな活動

・2025年度 定例調査などの活動一覧（のべ参加人数277名）

- 4/20 第188回定例調査 和邇川（大津市） 22名
 - 5/18 第189回定例調査 野洲川（守山市・野洲市） 26名
 - 6/15 （雨天中止）第190回定例調査
 - 6/21 湖魚料理を楽しむ会用の食材集め会 和邇川、守山市湖岸（大津市・守山市） 7名
 - 6/22 湖魚料理を楽しむ会 13名
 - 7/20 第191回定例調査 犬上川、芹川（多賀町、彦根市） 30名
 - 9/21 第192回定例調査 余呉湖、高時川、杉野川周辺水路（長浜市） 15名
 - 10/19 第193回定例調査 丁野木川、早崎川、田川、周辺水路（長浜市） 16名
 - 11/15 びわ博フェス2025に出展（琵琶湖博物館） 12名 ワークショップ参加者 約60名（付き添い保護者等含む）
 - 11/16 第194回定例調査 南湖周辺堤脚水路（草津市） 28名
 - 12/21 （雨天中止）第195回定例調査
 - 1/18 午前 臨時調査 大戸川オヤニラミ調査（大津市） 32名
 - 1/18 午後 勉強会 魚の見分け方講座（琵琶湖博物館） 31名
 - 2/15 午後 勉強会 野洲市のビワマスフォーラムに参加（野洲市） 19名
 - 3/29 午後 総会とビワマスについての講演会（琵琶湖博物館）26名
- ※上記以外に運営会議を3回開催

・各種行事等への参加・協力一覧（のべ参加人数20名）

- 5/25 第24回「琵琶湖外来魚駆除の日」 展示出展 2名（草津市・烏丸半島多目的広場）
- 6/1 高島市針江みずすまし水田自然観察会 講師 1名（高島市・みずすまし水田）
- 6/8 栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会 生き物観察会 講師 1名（東近江市・栗見出在家町の水田）
- 7/27 琵琶湖ネット草津「草津川水辺のふれあい楽校」自然観察会 講師 2名（草津市・草津川）
- 10/25 水資源機構「お魚里帰り大作戦」（午前）・「環境文化フォーラム」観察会（午後）への協力（草津市・新浜ビオトープ） 7名
- 11/1 真野大野地区いきもの観察会 講師 1名（大津市・真野川）

- 11/2 京都華頂大学祭 ワークショップへの協力 1名（京都市東山区・華頂大学）
 12/1 大津市河川愛護団体研修会 講師 1名（大津市・大津市役所別館）
 1/24・25 外来魚情報交換会 参加 3名（草津市・キラリエ草津）
 2/15 全国ブラックバス防除市民ネットワーク（ノーバスネット）総会 1名（オンライン）

○近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二、吉井 隆、関谷和久、長 昭男 担当学芸員：（橋本道範）島本多敬 会員数4名
 [設立の趣旨]

近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教、郷土史、教育文化、行政など各種専門分野の人々と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立した。“近江の祈り”をテーマに、甲賀市で発見された福野家文書「甲賀准四国設置由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動を行う。

(注)甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治45年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことである。現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの寺院には設立当時の掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録することに意義があると考えます。

[活動の概要]

- ・「甲賀准四国設置由来」に基づき8名の発起人の現在を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の拡がりを調べる。
- ・札所の寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
- ・朱印帳などを手掛かりに拡がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
- ・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。
- ・専門分野だけでなく広く一般に活動の展開を図る。

【2025年度活動結果報告】

- ・甲賀准四国対象寺院の住職との面談と調査は、対象98ヶ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も含めて92ヶ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は6ヶ寺である。その中で2026年3月までに住職との面談が実施できた寺院数は27ヶ寺（進捗率30.4%）である。
- ・甲賀准四国札所の石碑は、対象寺院92ヶ寺のうち56ヶ寺で存在を確認した。
- ・当初計画の下記3項目が実施できなかった。
 1. 甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を発表する。
 2. 甲賀准四国の関係者や巡礼の専門家との第二回目勉強会を開催する。
 3. 当グループとしての纏め作業を行う。

※「近江 巡礼の歴史勉強会」活動の参加人数について

年 度	活動日数	活動会員数	一般参加者数	合 計
発足前	25	51	0	51
2017 年	37	76	82	158
2018 年	21	42	*627	669
2019 年	19	44	*543	587
2020 年	3	12	95	107
2021 年	9	20	110	130

2022 年	22	38	*576	614
2023 年	16	26	176	202
2024 年	6	9	178	187
合 計	158	318	2387	2705

*甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示実施して調査結果を発表した。岩上自治振興会の歴史講座や研修を実施した。(2018 年・2019 年)

*「近江のなれずし製造技術」と「甲賀売薬の製造・販売用具」の民族文化財登録の記念講演会参加人数を含む。(2022 年)

はしかけグループ「近江 巡礼の歴史勉強会」の解散について

[解散理由]

- ・メンバーの高齢化と活動人員の減少により 2024 年 11 月から休止状態に陥り、今後、活動の継続が困難となった。
- ・明治 45 年に新設された「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動がほぼ終了した。
- ・今後は、農林水産省から「つなぐ棚田遺産」に認定された今郷棚田における自然環境の保護・保全活動に注力したい。(ただし、今後も琵琶湖博物館様との協働は続けていきたいと思います。)

○淡海スケッチの会

担当学芸員：榊永一宏

[活動趣旨]

「外へ誘う博物館」を实践し、絵画や俳句により風景やものを観察、写生することで記録を残すことを目的とする。

[活動概要]

- ・月 1 回（基本的に第 4 日曜日）、琵琶湖博物館内でスケッチや吟行句会を開催。
- ・また、1 2 月の第 2 日曜日に翌年の活動について話し合いを行うこととする。
- ・2015 年秋に設立。
- ・風景に限らず植物や、博物館内の剥製、水族展示室の魚などをスケッチし、専門家の話を伺う機会も設けている。また、2025 年からは俳句の吟行句会も行っている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日		内 容	場 所	参加者数
2025 年	4 月 28 日	写生会	堅田（大津市）	2 名
	5 月 25 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	6 名
	6 月 22 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	6 名
	7 月 20 日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	2 名
	8 月 24 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	7 名
	9 月 28 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	7 名
	10 月 26 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	6 名
	11 月 23 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	6 名
	12 月 21 日	ミーティング	琵琶湖博物館	3 名
2026 年	1 月 25 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	3 名
	2 月 22 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	5 名
	3 月 22 日	スケッチおよび吟行句会	琵琶湖博物館	4 名

※総活動人数 57 名

○近江はたおり探検隊

運営：辻川智代 担当学芸員：大久保実香

[設立の趣旨]

2004 年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要]

博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成 18 年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日		内 容	場 所	参加者
4	9	織姫の会	生活実験工房	6 名
4	2 6	織姫の会	生活実験工房	4 名
5	1 4	織姫の会	生活実験工房	4 名
5	3 1	織姫の会	生活実験工房	4 名
6	1 1	織姫の会	生活実験工房	8 名
6	2 8	織姫の会	生活実験工房	7 名
7	9	織姫の会	生活実験工房	6 名
7	2 6	織姫の会	生活実験工房	5 名
9	1 0	織姫の会	生活実験工房	6 名
9	2 8	織姫の会	生活実験工房	4 名
1 0	8	織姫の会	生活実験工房	5 名
1 0	2 5	織姫の会	生活実験工房	2 名
1 1	5	織姫の会	生活実験工房	2 名
1 1	1 6	びわ博フェス「樹皮でちっちゃなカゴを作ろう」	生活実験工房	3 名 参加者：10 名
1 1	2 2	羅織り工房見学	大津市	2 名
1 1	2 3	文化庁日本の技フェアの見学	福井県鯖江市	2 名
1 2	1 0	織姫の会	生活実験工房	8 名
1 2	2 0	織姫の会	生活実験工房	11 名
1	1 0	織姫の会 (わく探と共催「綿に触れてみよう」)	生活実験工房	6 名
1	3 1	織姫の会	生活実験工房	6 名
2	1 1	織姫の会	生活実験工房	2 名
2	2 8	織姫の会	生活実験工房	4 名
3	1 1	織姫の会	生活実験工房	7 名
3	2 8	織姫の会	生活実験工房	4 名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫 担当学芸員：里口保文 会員数：14名

〔設立の趣旨〕

市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

〔活動の概要〕

隊員各自が計画し、野外調査も勉強会も行うことが定着し、計画立案から調査後の報告まで行った。この継続により、調査研究能力が向上し、近江中央部の繖山周辺では花崗斑岩や流紋岩質岩等の存在が示唆される露頭を見つけた。近くの雪野山では溶結凝灰岩を中心とする山であるが円礫が多く含まれる礫岩の露頭が見つかった。本域は巨大なカルデラ火山の中に出てきた溶結凝灰岩が風化して作られた場所である。調査を行っている地域の周辺には溶結凝灰岩より新しい時代に形成されたと考えられている花崗岩、花崗斑岩露頭などもあり複雑な地質の場所である。さらに研究を続ける。大津市の相模川流域等の岩石と写真の精査により、環状に模様ができる岩石があること見つけた。多賀の猪ノ鼻火砕岩脈(琵琶湖博物館調査報告)26号 p86 の写真の中にもこれに近いものもあることが示唆されている。火砕岩脈の一つのパターンである可能性がある。調査を進める。

室内勉強会では、外部の方も呼び、薄片をプロジェクターで拡大し多くの人と同じ場所を観察できるようにした。内部構造の複雑さ、華麗さを多くの隊員が驚きながら納得し撮影していた。岩石の複雑な内部構造の理解が進むようになった。例年通り、採取岩石を持ち寄り、情報交換と岩石の同定を試みた。今年から事前に質問したい石の写真を皆さんに送り、理解を進める方法も開始した。

びわ博フェスのワークショップには参加しなかった。パネル展示では、大津の岩石調査隊が設立10年を経過したので、概要と掲載された論文のポイント、年度内の活動結果を掲示した。10年継続できた主因は岩石の底知れぬ不思議さ、「はしかけ」という素晴らしいシステムがあるからであると実感した。一方、近年、パネルの見学者は減少しているので、パネルの前で相互報告し、会場の盛り上げを図った。

はしかけグループ「びわたん」の活動で実施しているわくわく探検隊(わく探)の「岩石標本をつくろう！」実施に協力して、岩石に興味のある親子と石とのふれ合いの中で、楽しい時間を共有できた。来年度も実施する予定。

「はしかけ大津の岩石調査隊」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
3月15日(土)	総会	琵琶湖博物館	8名
6月1日(土)	野外調査	近江八幡市・繖山	8名
7月19日(土)	屋内勉強会・偏光顕微鏡による岩石観察	琵琶湖博物館	10名
8月2日(土)	屋内勉強会・岩石鑑別法の勉強会	琵琶湖博物館	9名
9月6日(土)	びわ博フェス準備打合わせ	琵琶湖博物館	3名
10月19日(日)	野外調査	東近江市・雪野山	5名
11月1日(土)	地学研究発表会特別講演会	琵琶湖博物館	2名
1月24日(土)	岩石持ち寄り情報交換会	琵琶湖博物館	7名
3月5日(木)	わく採用石の採取	多賀町佐目	5名
3月15日(土)	わく探実施	運営参加	5名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史・加藤秀雄 会員数：11名

〔設立の趣旨〕

写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様子を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

〔活動概要〕

2025年度は、「温故写新」が発足して、20年の節目の年であった。主な活動としては、発足当時に実施していた「烏丸半島の自然撮影会」を思い出し、「烏丸半島の四季」と題して季節ごとの烏丸半島の様子を撮影した。そして、「びわはくフェスティバル」では、20年の歩み年表とともに「烏丸半島の四季」の写真を展示した。

また、琵琶湖博物館事業「企画展」や「びわ博フェス」の記録写真係として琵琶湖博物館に貢献した。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月19日（土）	代表者選出・今年度の活動計画	琵琶湖博物館	9名
5月上旬	各自が地元等の祭りの様子を撮影する	県内各地	11名
6月21日（土）	撮影会「烏丸半島の四季（夏）」	烏丸半島	7名
7月19日（土）	第33回企画展オープニングセレモニーの記録係としてセレモニー等を撮影	琵琶湖博物館	6名
8月30日（土）	「びわ博フェス」の準備	琵琶湖博物館	7名
9月27日（土）	撮影会「烏丸半島の四季（秋）」	烏丸半島	6名
10月19日（日）	「びわ博フェス」の準備	琵琶湖博物館	6名
11月15日（土） 16日（日）	「びわ博フェス」への参加と記録係として各展示や活動の写真撮影	琵琶湖博物館	7名
1月24日（土）	撮影会「烏丸半島の四季（冬）」	烏丸半島	3名
2月28日（土）	写真教室 講師：金尾学芸員	琵琶湖博物館	7名
3月29日（日）	今年度の活動の振り返りと2026年度の活動計画	琵琶湖博物館	11名

○暮らしをつづる会

会長：中尾京子 担当学芸員：大久保実香

〔設立の趣旨〕

地域の生活のあり方を考えながら地域の生活誌を記録に残し、伝えていくことを目指している。

〔活動の概要〕

びわ博フェス 2025(11/15-11/16)において、これまでの聞き取りをもとにしたポスター展示を実施した。

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：安原 輝 担当学芸員：山川 千代美 会員数：22 名

〔設立の趣旨〕

多賀町四手で計画された 180～190 万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、地域の人たちに琵琶湖のおいたちや当時の環境を伝え、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

※多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトは現在休止中(令和 8 年 3 月時点)

〔活動の概要〕

今年度も、古琵琶湖層群に関する知識・発掘技術を様々な活動を通じて学んだ。

屋内活動では、今までの活動で採取した化石の標本や目録を作成したり、新しい会員が加入したことをきっかけに、会員用の粒度表を作成したりした。また、琵琶湖博物館名誉学芸員の中島経夫先生に、咽頭歯化石について指導を受けられる機会があり、咽頭歯化石の同定方法を学んだ。はしかけグループ「ほねほねくらぶ」さんから、骨の構造を教えていただく機会もあり、シカや魚類の骨の構造を深く知ることができた。

屋外活動では、野洲川と愛知川でフィールドワークを実施した。今年度から、化石を発掘した際に、座標を記録するようにした。座標記録を基に、発掘した位置を航空写真等の図面に表示させ、会員と情報を共有した。

活動を通じて、専門的な知識・経験を持つ方々と交流し、新たな知識・経験も得ることができ、今年度も充実した活動を行うことができた。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

〔屋内活動〕

- ・採取した化石の標本整理と目録作成

日 時：5 月 25 日（日）13：00～16：00

場 所：琵琶湖博物館実習室 1

参加者：5 名

過去の活動で採取した化石の標本整理と目録の作成を行った。

- ・骨の勉強会&化石のクリーニング

日 時：8 月 31 日（日）10：00～13：00

場 所：琵琶湖博物館実習室 1

参加者：7 名

活動前半は、はしかけグループ「ほねほねクラブ」さんに、シカや魚類の骨の構造や特徴を教えていただいた。後半は、活動で採取した化石のクリーニングを行った。

- ・びわ博フェス 2025 でのポスター展示

日 時：11 月 15・16 日（土・日）

場 所：琵琶湖博物館アトリウム

参加者：-

古琵琶湖発掘調査隊の活動紹介ポスターを展示し、ポスターに興味を持ってくださった来館者の方に、活動の紹介を行った。

- ・咽頭歯化石の勉強会

日 時：11月23日（日）10：00～12：00

場 所：琵琶湖博物館実習室1

参加者：8名

講師に中島経夫先生をお招きし、咽頭歯化石の構造および同定方法を学んだ。

- ・地層観察に向けた粒度表作り

日 時：12月21日（日）13:00～16：00

場 所：琵琶湖博物館実習室1

参加者：7名

屋外活動で地層を観察するため、電動ふるい機を用いて粒度表を作成した。

- ・咽頭歯化石の同定作業

日 時：1月31日（土）13:00～16：00

場 所：琵琶湖博物館実習室1

参加者：8名

2月の咽頭歯同定作業に向けて、会員のみで咽頭歯化石の同定作業を行った。

- ・咽頭歯化石の同定作業

日 時：2月22日（日）13：30～16：00

場 所：琵琶湖博物館実習室1

参加者：4名

講師に中島経夫先生をお招きし、中島先生の指導を受けながら、咽頭歯化石の同定作業を行った。

- ・古琵琶湖発掘調査隊 総会

日 時：3月22日（日）13：00～16：00

場 所：琵琶湖博物館 会議室

参加者：8名

〔屋外活動〕

- ・野洲川でのフィールドワーク

日 時：7月6日（日）9：00～12：00

場 所：野洲川(滋賀県湖南市)

参加者：6名

野洲川で発掘調査を行った。植物化石や貝化石などを発掘し、発掘の際に座標を記録し、航空写真等の図面に発掘した位置を表示できるようにした。

- ・愛知川でのフィールドワーク

日 時：9月28日（日）13：00～16：00

場 所：愛知川(滋賀県東近江市)

参加者：5名

愛知川で発掘調査を行った。植物化石や昆虫の羽の化石などを発掘し、発掘の際に座標を記録し、航空写真等の図面に発掘した位置を表示できるようにした。

○里山の会

担当学芸員：奥田岬 会員数：33 名

〔設立の趣旨〕

交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001 年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ方」を模索している。

〔活動の概要〕

里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006 年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり小径木や灌木を整備し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床にも新たな芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の野草観察、夏の昆虫・生物観察、秋の木の実探し、冬の焚き火や花炭づくりなど四季様々な里山の利用を通じて、その恵みや価値を感じている。このフィールドは「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動の地域での認知度も高まってきている。

「里山の会」のおもな活動

活動日	行事名	場所	参加者数
4 月 12 日	里山体験教室(春)下見	野洲市大篠原地先	8 名
4 月 20 日	里山体験教室(春)本番「里山の春をみつけよう」	野洲市大篠原地先	21 名
5 月 10 日	はしかけの森整備	野洲市大篠原地先	中止
5 月 29 日	潮干狩り	三重県御殿場浜	4 名
6 月 14 日	里山体験教室(夏)下見	野洲市大篠原地先	中止
6 月 22 日	里山体験教室(夏)本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原地先	13 名
9 月 27 日	道具整備・近江だるまづくり	琵琶湖博物館	7 名
10 月 11 日	里山体験教室(秋)下見	野洲市大篠原地先	9 名
10 月 19 日	里山体験教室(秋)本番「里山の秋を探そう」	野洲市大篠原地先	17 名
11 月 15 日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	52 名
12 月 6 日	しめ縄づくり	琵琶湖博物館	3 名
1 月 10 日	里山体験教室(冬)下見	野洲市大篠原地先	6 名
1 月 18 日	里山体験教室(冬)本番「里山の冬遊び」	野洲市大篠原地先	15 名
2 月 14 日	お楽しみ会	琵琶湖博物館	4 名
3 月 7 日	総会・あぶり餅づくり	琵琶湖博物館	9 名

○植物観察の会

代表者：辻いずみ 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：8 名

〔設立の趣旨〕

2004 年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017 年からメン

バー登録制とし、月に1度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

[活動の概要]

2017年4月から登録制とし、月に1回定例会を行っている。

定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、外部へのお出かけ観察、芦谷先生に水草について教えて頂くなど、季節や天候によって変えながら行った。はしかけ登録者全体へ呼びかけていた「お出かけ観察会」は、新型コロナ発生時の2020年度から行っていない。

[活動内容]

活動日	内 容	場 所	参加者
4月5日(日)	お出かけ観察	栗東自然観察の森(栗東市)	4名
5月4日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	3名
6月1日(日)	お出かけ観察	高取山(多賀市)	4名
7月6日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	3名
8月	猛暑のため 例年お休み		0名
9月21日(日)	お出かけ観察(水草観察⑥)	長浜市 豊公園	2名
10月5日(日)	お出かけ観察 雨天のため中止	河辺いきものの森(東近江市)	0名
11月2日(日)	お出かけ観察	みなくち子どもの森(甲賀市)	3名
11月29日(土)	JICAの方達との交流	琵琶湖博物館 会議室	4名
12月7日(日)	都合によりお休み		0名
1月4日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	3名
2月	例年お休み		0名
3月1日(日)	来年度の計画、持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	4名

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

- ・今年度も初めてのものをしたり教えてもらったりすることができた。1人でも観察はできるが、メンバー同士で植物の話をしながら観察することが、やはり楽しい。一人で調べていても分からないことでも、メンバー同士の知識や複数の図鑑を見比べることで、分かってくることが多い。
- ・他種類の図鑑を芦谷先生に準備して頂けること、それによってスマホで調べるより確かな情報が得られること、実習室やラボの実態顕微鏡、顕微鏡を使えることは、この「はしかけ」活動の大きな利点である。
- ・ほぼ毎年行っている「水草観察 ⑦」(芦谷先生に教えていただく)を、今年度も行うことができた。今年度は夏の降水量が少なかったため琵琶湖の水深が浅く、今まで見られなかったものも見ることが出来た。また、以前教えてもらったことも忘れてしまっていることが多く、年1回水草について覚え直せることが嬉しい。新しい発見と共に水の中に生息する水草たちの命を受け継ぐ戦略には、いつも驚かされる。これからも、芦谷先生に教えていただきながら行う「水草観察」をできる範囲で続けていきたい。
- ・他の「はしかけ」活動を兼ねているメンバーが多く、それぞれの活動日が重なることがあり、どちらを優先して選ぶかで参加人数が減ってしまう結果となっているが、それぞれが得た新しい情報を聞かせてもらえるのでこれはこれで有り難い。
- ・登録講座の際には、毎回、数人の方が興味を示してくださっているようだが、その後の活動に参加してもらえないことがほとんどである。この現状が、今の課題かもしれない。

○たんさいぼうの会

会長：津田久美子 担当学芸員（影の会長）：大塚泰介

会員数：正会員（活動実績有）10名・準会員（メーリングリスト会員）6人

〔設立の趣旨〕

珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

〔活動の概要〕

2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。

コロナ禍以降、総会や、サンプル採取・研修旅行である「たんさいぼうの小さな旅」などで会員が集まる機会が減ったため、メーリングリスト（以下、ML）での情報交換を積極的に行ってきた。しかしながら、MLのみで活動実績が無い会員も多くなってきたため、会則に従い、年度当初に正会員とMLのみ参加する準会員の整理を行った。また、会の活動を積極的にアピールするために、1月より会独自のホームページを立ち上げた。

<https://tansaibou-no-kai.jimdofree.com>

会員を主著者とする論文が、2年ぶりに出版された。

富小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子. 2025. 古琵琶湖層群蒲生層最上部産の珪藻化石を用いた古環境復元. *Diatom* 41: 1-10.. DOI: <https://doi.org/10.11464/diatom.41.1>

他にも会員を主著者および共著者とする論文が出版され、学会発表も行われたが、「たんさいぼうの会」所属名義としていないので割愛する。会としては、「たんさいぼうの小さな旅」として、安曇川上流で5月と12月にミズワタクチビルケイソウの調査を行った。特に5月の旅には京都新聞記者の会員が同行し、調査結果を踏まえ、9月12日の滋賀・京都新聞朝刊1・22面に『外来ケイソウ 安曇川で定着』記事が公表された。また、過去に小さな旅などで採集された、瀬田公園（滋賀県大津市）、愛知県の鈹質土壌湿原群、野田沼・曾根沼（滋賀県彦根市）、安曇川（滋賀県大津市・高島市）、黒沢湿原（徳島県三好市）などの現生珪藻植生の研究を進めており、順次、論文として発表していく予定である。ただし、論文としての仕上げは概して進んでいない。このほかに、会員の個人研究も進められている。

《「たんさいぼうの会」のおもな活動》

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月6日	たんさいぼうの会 第79回総会	研究交流室／オンライン	担当：大塚 参加者：6名
5月18日	たんさいぼうの小さな旅 安曇川調査（ミズワタクチビルケイソウ）	安曇川朽木地区（高島市）	担当：根来 参加者：6名
6月14日・15日	日本珪藻学会第46回大会に参加	国立科学博物館（茨城県つくば市）	担当：大塚 参加者：2名
6月19日	富小由紀会員を主著者とする論文をオンライン出版	－	担当：富・大塚
9月12日	滋賀・京都新聞朝刊『外来ケイソウ 安曇川で定着』（たんさいぼうの小さな旅を踏まえた記事）	－	執筆者：人見（準会員）
9月23日	たんさいぼうの会第80回総会	研究交流室／オンライン	担当：大塚 参加者：9名

11 月 15 日・16 日	「びわ博フェス」でポスター発表	エントランス	参加者：0 名（学会参加等のため）
12 月 7 日	たんさいぼうの小さな旅 安曇川調査（ミズワタクチビルケイソウ）	安曇川朽木地区（高島市）	担当：根来 参加者：6 名
1 月	「たんさいぼうの会」ホームページ公表		担当：富

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：鈴木隆仁 会員数：8 名

〔設立の趣旨〕

滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、そこに生息する大型鰻脚類などの生物の分布や生態を調査する。

〔2025 年度の活動報告〕

毎年 5 月、6 月に、滋賀県各地の水田においてハウネンエビ、カブトエビ類、カイエビ類の分布を調査して標本を同定するとともに、採集データを登録して分布図を作成する活動を行っている。2025 年度も、5 月中旬から 6 月中旬にかけて、湖東、東近江、甲賀、近江南部の各地域において、3 次メッシュコード単位で未調査になっていた 39 メッシュを含む 53 メッシュで大型鰻脚類の分布調査を行い、52 メッシュでエビ類の生息を確認した。

メンバー全員に呼び掛けて実施する分布調査は、例年通り 5 月下旬から 6 月上旬にかけて 3 回実施した。また、昨年度は 6 月中旬を中心に実施していたメンバー個人による調査を、本年度は 5 月中旬から下旬にかけて多く実施した。そのため、発生時期が比較的に早いアメリカカブトエビを、昨年度の倍以上の 16 メッシュで新たに確認できた。

これまでの調査で、トゲカイエビはおおむね愛知川および和邇川より南西側の地域に生息し、徐々に生息域を拡大していることがわかっているが、近江八幡市と野洲市にはトゲカイエビの記録がないメッシュが広がっている。そこで、本年度は近江八幡市の白鳥川下流域の 5 地点計 98 筆でトゲカイエビの生息状況を改めて確認する調査を行った。その結果、カイエビは 25 筆で見つかったが、トゲカイエビが採集されたのは 2 筆のみにとどまり、この地域におけるトゲカイエビの生息域の目立った広がりとは確認されなかった。

2022 年と 2023 年の調査で、大津市以外では初めて近江八幡市安土町内野の水田でアジアカブトエビが採集された。本年度は、これまで麦への転作で調査できなかった同地区の 5 筆の水田を調査し、2 筆でアジアカブトエビの生息を確認した。このことから、同地区でも安定してアジアカブトエビが生息していることが確認された。

琵琶湖博物館が公開している田んぼの生きもの全種データベース (<http://www.biwahaku.jp/study/tambo/>) に収録されている大型鰻脚類のうち、ヒメカイエビの一種、タマカイエビ、アジアカブトエビの項目には写真が掲載されていなかった。そこで、本年度の調査で採集したこれら 3 種を生きた状態で写真撮影し、同データベースに掲載した。また、滋賀県自然環境保全課が発行する「滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県レッドデータブック 2025 年版」にヒメカイエビ属の一種を希少種として掲載するにあたり、2022～2025 年の調査で判明した同種の分布に関する情報を含む原稿を、西野麻知子氏と共著で執筆した。

2025 年度における「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4 月 4, 8, 16 18, 21 日	本年度広域調査を予定している地域のうち、甲賀市水口町の貴生川駅周辺、日野町の日野駅周辺、近江八幡市の白鳥川下流域に広がる水田の下見を行った。	甲賀市、 日野町、 近江八幡市	1 名
5 月 5 日	琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田に注水し、代掻作業を行った。	琵琶湖博物館	1 名
5 月 11 日	大津市見世一丁目の水田でアメリカカブトエビ、ヒメカイエビの 1 種を採集し、前者を琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに放流した。さらに、後者が遊泳する様子を撮影するとともに卵の形状を観察した。	大津市 琵琶湖博物館	3 名
5 月 11 日	5 月 24 日および 6 月 1, 8 日実施予定の合同調査の打合せと、調査に用いる採集瓶の準備、マニュアル、GPS の配布を行った。琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田の田植えを行った。	琵琶湖博物館	5 名
5 月 18 日	近江八幡市安土町内野地区に広がる水田のうち、昨年度まで麦への転作で調査できなかった水田において、アジアカブトエビの分布調査を行った。	近江八幡市	1 名
5 月 16, 19, 21 22, 23, 26, 27, 30 日, 6 月 2, 4, 5, 8, 13 日	愛荘町軽野、東近江市能登川町から同市南須田町にかけての JR 東海道本線沿線、東近江市平柳町から同市百済寺本町にかけての名神高速道路沿い、東近江市上羽田町から同市鋳物師町にかけての滋賀県道 41 号沿い、甲賀市水口町虫生野から水口町高山にかけての杣川流域、栗東市蜂屋から高野、出庭にかけての東海道新幹線、JR 草津線、野洲川に囲まれた地域に広がる水田、野洲市永原と大篠原、守山市石田町と播磨田町の水田で、大型鰻脚類の分布調査を行った。	愛荘町、 東近江市、 甲賀市、 野洲市、 守山市、 栗東市	1 名
5 月 18 日 6 月 9 日	栗東市下鈎、草津市矢橋町の水田で、大型鰻脚類の分布調査を行った。	栗東市、 草津市	1 名
5 月 23 日	東近江市建部南町の水田でタマカイエビを採集し、遊泳する様子の撮影を行った。	東近江市	1 名
5 月 25 日	日野町松尾から日野町増田にかけての国道 477 号線沿いに広がる水田 5 地点で、大型鰻脚類の分布調査を行った。	日野町	2 名
6 月 1 日	甲賀市甲南町森尻から水口町宇川にかけての野洲川と杣川にはさまれた地域に広がる水田の 4 地点と、水口町山上から水口町三大寺にかけての信楽高原鐵道沿線に広がる水田 4 地点のそれぞれにおいて、大型鰻脚類の分布調査を行った。	甲賀市	5 名
6 月 6 日	大津市大江四丁目の水田でアジアカブトエビを採集し、遊泳する様子を撮影した後、琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田に放流した。	大津市、 琵琶湖博物館	1 名
6 月 8 日	近江八幡市小船木町から牧町にかけての白鳥川流域に広がる水田の計 5 地点において、大型鰻脚類の分布調査を行った。	近江八幡市	3 名
7 月 13 日	本年度の調査で採集した標本の同定作業を行った。	琵琶湖博物館	5 名
10 月 13 日	本年度の調査を分析した結果を報告し、検討した。	琵琶湖博物館	5 名

10月13日 11月16日	琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田で、稲穂の刈取、落水、耕起、屋根の設置による乾燥、土の粉碎を順次行った、	琵琶湖博物館	6名
11月 15, 16日	本年度までの調査で得られた滋賀県内のエビ類の分布図を掲載したポスターを展示した。	琵琶湖博物館	1名
3月15日	本グループの総会を開催し2025年度の活動報告を承認するとともに、2026年度の活動計画を立案した。	琵琶湖博物館	8名

○ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

担当：中村久美子 学芸員 会員数：5名（2026.3.31現在）

〔設立の趣旨〕

幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指しています。

〔活動の概要〕

2012年度環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」、そして2016年9月からはしかけ活動として立ち上がりました。毎月おおよそ第3水曜日に、約10組の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して食べたり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施しています。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいます。時にはお腹が大きくなったお母さんが来られ、しばらくして産まれてすぐの赤ちゃんを連れてきてくださることもあったり、幼保園を早退してちこあそに参加される5歳、6歳や、小学生の兄弟も一緒に虫取りしたいと来られたりと、0歳児から小学生高学年までが年齢幅広く、自然の中で遊んでいます。

〔今年度のまとめ〕

今年度も、多くの親子がちこあそで楽しんでくださりました。毎回やることは決めていないのですが、工房の周りの自然が遊びや体験を提供してくれます。主要なものを紹介すると、4月は工房裏の竹林でたけのこ掘り、5月はサツマイモの苗植え、6月はジャガイモの収穫、7月はトンボやチョウなどの生き物、9月は生き物探しに水遊び、10月はまだまだたくさんいる生き物観察、11月はびわ博フェスに通常のちこあそではサツマイモの芋掘り、12月は焼き芋と野点、1月はフキ、2月は竹遊び、3月はつくし摘みと、季節の自然と共に遊びました。毎回来てくださる親子は、季節の変化に驚き、自然の移り変わりを体験してくださっています。

普段の親子の暮らしを振り返ってみると、できないことがたくさんあります。好きなだけ水に触れてはしゃいだり、土や泥に触れたり、棒を振り回したりすることは禁止されていることもあります。また自然のものを食したり、はじめて見る植物や昆虫に触れたり、森の中へ探検してみることは、自然の中で過ごす経験が少ない親子では、戸惑うことも多いです。しかし、ちこあそに来ると、ガチャコンポンプで水遊び、畑でミミズを捕まえ、冬眠中の虫に驚き、ホワイトビーチで走り回り、タケノコを掘ってお家でお料理したり、焚き火の炎を見つめたりすることができます。少し前は当たり前前に体験できていた自然との関わりが少なくなっているからこそ、ちこあそで幼児期から自然、四季の暮らしに触れることが大切だと思います。

また、今年度は森のようちえん全国交流フォーラム（青森市）と自然保育学会（横浜市）、琵琶湖とともに

生きる未来を考えるフォーラム（栗東市）でちこあその活動報告やポスター出展などを行い、それぞれ好感触を得ています。今後もちこあその子どもの成長や親子の居場所などを社会へ伝えていく機会を設けていきたいと考えています。

写真で振り返る「ちこあそ」の1年



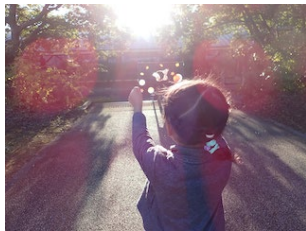
4月 タケノコ掘り



6月 ジャガイモの収穫



9月 ウチワヤンマがバッタを捕まえた



11月 びわ博フェス落ち葉のスタンドグラス



12月 野点で子どももお抹茶いただきました



2月 キクイモたくさん収穫できた



5月 サツマイモの苗植え



7月 オオヤマトンボを捕まえた



10月 田んぼに長靴はまっちゃった



11月 絵本第2段製作中



1月 火吹き竹でフーフー



3月 つくし摘み

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎 担当学芸員：大塚泰介 会員数：45名

〔設立の趣旨〕

私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

〔活動の概要〕

琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。月に1回集まって、琵琶湖などの小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察を行う。

2025年夏には、会員と担当学芸員による以下の書籍が出版された。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会 編（2025）琵琶湖博物館マイクロアクアリウムから ミクロの世界へようこそ。京都新聞出版センター，京都。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4月26日	採集・観察会	琵琶湖博物館	9名
5月24日	採集・観察会	琵琶湖博物館	11名
6月22日	採集・観察会	琵琶湖博物館	11名
7月 6日	採集・観察会	琵琶湖博物館	9名
8月11日	採集・観察会	琵琶湖博物館	10名
9月15日	採集・観察会	琵琶湖博物館	12名
10月13日	採集・観察会	琵琶湖博物館	13名
11月15日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	5名
11月16日	ワークショップ		
11月30日	採集・観察会	琵琶湖博物館	10名
12月15日	採集・観察会	琵琶湖博物館	14名
1月25日	採集・観察会	琵琶湖博物館	12名
2月21日	採集・観察会	琵琶湖博物館	9名
3月29日	採集・観察会	琵琶湖博物館	15名 (予定)

○びわたん

担当学芸員：渡邊俊洋、桑原康一

〔設立の趣旨〕

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

〔活動の概要〕

活動内容は、主にわくわく探検隊イベントの準備・実施・片付け・振り返りである。

2025 年度 「びわたん」のおもな活動「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内容		参加者
5 月	春の草花でしおりをつくろう！	森人さんとコラボ☆	21 名
6 月	プランクトンを見よう！	博士:鈴木学芸員	28 名
7 月	骨にふれてみよう！	ほねほねクラブさんと コラボ☆	24 名
9 月	日光で写真を撮ろう！	博士:芦谷学芸員	15 名
11 月	お魚クリアファイルをつくろう	びわ博フェス	27 名
12 月	葉っぱでランタンをつくろう！	博士:大槻学芸員	29 名
1 月	綿にふれてみよう！	はたおり探検隊さんと コラボ☆	25 名
2 月	水鳥を観察しよう	博士:佐藤学芸員	17 名
3 月	岩石標本箱をつくろう	大津岩石調査隊さんと コラボ☆	21 名

今年度も博物館職員の皆さんやはしかけグループの皆さんのご協力もいただいて、たくさんの参加者に琵琶湖博物館の楽しさ・学ぶ楽しさを伝えられたと思います。そして、びわたんに新しい仲間が増えて嬉しい 1 年でした。

○ほねほねくらぶ

会長：西村 有巧 担当学芸員：半田直人、松岡由子

会員数：大人 22 名 子ども 0 名 計 22 名（メール会員：38 名）

〔設立の趣旨〕

現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

〔活動の概要〕

2002 年 7 月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれる哺乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月 1～2 回の例会が活動の中心である。

2025 年度は、前年度から引き続いて標本制作を行いながら、7 月には、はしかけグループの『びわたん』さんと協力して、わくわく探検隊のプログラムとして「骨にふれてみよう！」を実施しました。

また、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、びわ博フェス 2025 に参加、来館者との交流活動を行いました。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日		内 容	場 所
4 月例会	13 日	カメの骨のクリーニング、カワウの解剖	琵琶湖博物館
	26 日	イタチの解剖、タヌキの解剖、イノシシの頭の除肉、	
		アライグマの解剖、カミツキガメの骨のクリーニング、	

		バイカルアザラシの骨のクリーニング	
5月例会	11日	タヌキの解剖、バイカルアザラシの骨のクリーニング、 キツネの骨の組み立て	琵琶湖博物館
	24日	イノシシの頭の徐肉、鳥の徐肉	
6月例会	7日	イタチの徐肉、鳥の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	22日	タヌキの解剖、アライグマの解剖、リスの骨のクリーニング、 豚足の徐肉、キツネ組み立て	
7月例会	5日	7月13日開催のわくわく探検隊の準備作業	琵琶湖博物館
	12日	わくわく探検隊のプログラム「骨にふれてみよう！」をはし かけグループの『びわたん』さんと共催	
	27日	タヌキの解剖、カラスの仮剥製の制作、タヌキの解剖	
8月例会	9日	カラスの仮剥製の制作、タヌキの解剖	琵琶湖博物館
	31日	タヌキの解剖、 古琵琶湖発掘隊の皆さんとの合同での活動	
9月例会	6日	カミツキガメの解剖、アライグマの解剖	琵琶湖博物館
	28日	タヌキの解剖、イタチの解剖、カミツキガメの解剖	
10月例会	11日	カミツキガメの解剖、鳥の仮剥製の制作	琵琶湖博物館
	26日	カミツキガメの解剖、カラスの仮剥製制作、タヌキの解剖、 豚足の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
11月例会	8日	カラスの仮剥製の制作、豚足の組み立て	琵琶湖博物館
	16日	びわ博フェス 2025 にて来館者の方との交流活動	
	23日	マンゲースの解剖、カミツキガメの解剖	
12月例会	6日	カミツキガメの解剖、タヌキの解剖	琵琶湖博物館
	14日	カラスの仮剥製、マンゲースの解剖	
1月例会	18日	イタチの解剖、タヌキの解剖	琵琶湖博物館
	31日	カミツキガメの解剖、タヌキの解剖、キツネの組み立て、 ツキノワグマの骨のクリーニング	
2月例会	14日	カミツキガメの解剖、キツネの組み立て	琵琶湖博物館
	28日	マンゲースの解剖、タヌキの解剖、タヌキの解剖、キツ ネの組み立て、	
3月例会	14日	鳥の仮剥製の制作、キツネの組み立て	琵琶湖博物館
	29日	鳥の仮剥製の制作、タヌキの解剖	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ 担当学芸員：大槻達郎 会員数：28名

[設立の趣旨]

薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト8名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の

回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要]

琵琶湖博物館と協力して実施している季節の植物でアロマウォーターを作ろうは、春と秋の2回、また生活実験工房の田んぼ体験の12月の活動、しめ縄作りにも参加させて頂きました。

また今年度は、生活実験工房の畑で初めて藍の苗を定植し、十分な藍の葉を育てることに成功、藍染めを行いました。その他、こんにゃく作りなども初めての試みで、メンバーが意欲的に活動に取り組むことができました。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月29日	藍の苗の定植と春の野草観察	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：10名
5月11日	お茶摘み体験	甲賀市鳥居野	参加者：7名
5月13日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう (春：ヨモギ)	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：12名
6月28日	玄米ピロー作り	琵琶湖博物館 実習室2	参加者：11名
6月28日	藍の畑の雑草取り	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：11名
7月24日	藍染め	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：8名
9月14日	アランビック蒸留器の勉強会	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：9名
9月23日	藍の畑の刈り取り	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：4名
10月18日	京都府立植物園で植物観察	京都市左京区下鴨 半木町	参加者：3名
11月11日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう (秋：フウ)	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：11名
11月23日	柚子胡椒作り	琵琶湖博物館 実習室2	参加者：9名
12月6日	しめ縄作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：14名
12月14日	田んぼ体験 「しめ縄作り」	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：3名
1月25日	こんにゃく作り	琵琶湖博物館 実習室2	参加者：8名
2月23日	MPソーブ作り	琵琶湖博物館 実習室2	参加者：8名
3月1日	年度末総会	琵琶湖博物館 研究交流室	参加者：8名

○虫架け

会長：梶田智嗣 担当学芸員：今田舜介 会員数：30 名

〔設立の趣旨〕

昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。2017 年設立。

〔活動の概要〕

今年度は9回の定例会を開催した。延べ参加人数は、76名であった。野外活動については、ライトトラップを含む滋賀県内の昆虫の分布調査を計4回行った。また、生活実験工房行事「田んぼ体験 昆虫採集」をサポートした。びわ博フェスのワークショップでは、「土の中から虫を探そう！」を行った。吸虫管を使って小さな土壌動物を採集するという比較的珍しいイベントであったこともあり、子供たちを中心に参加者の反応は良かった。土の中には多様な微小な虫が息することや、土壌動物の採集方法・生態系の中で果たす役割を学ぶいい機会になった。参加者は27名と盛況で、整理券配布後10分足らずで定員に達した。さらに、「虫架け通信」第79号から第89号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有した。

「虫架け」のおもな活動

定例会

活動日	内容	場所	参加者
4月26日	早春の灯火採集	大津市北比良	7名
5月10日	ブナ林での昆虫採集・観察	高島市朽木	6名
6月28日	永源寺町周辺での昼間調査および灯火採集	東近江市永源寺地区	8名
7月13日	生活実験工房行事「田んぼ体験 昆虫採集」サポート	琵琶湖博物館	10名 (一般参加22名)
8月31日	昼間の採集・観察会	長浜市	10名
9月20日	灯火採集	大津市北比良	雨天中止
10月18日	びわ博フェスの準備	琵琶湖博物館	8名
11月15日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	12名 (一般参加27名)
12月21日	越冬昆虫調査	甲賀市	雨天中止
1月24日	雪上の昆虫観察	長浜市余呉町	荒天中止
2月14日	収蔵庫見学、博物館資料の保存について学習	琵琶湖博物館	7名
3月14日	総会	琵琶湖博物館	8名

虫架け通信の発行

発行日	号数	おもな内容
4月30日	79号	4月例会報告、LBM 虫日記(42)チョウの変態、記録・報告、昆虫豆知識(75)ヒメスジコガネ
5月16日	80号	5月例会報告、昆虫豆知識(76) ルリクワガタ、LBM 虫日記(43)トンボ
6月30日	81号	LBM 虫日記(44)テングチョウ、昆虫豆知識(77)オトシブミ

7月21日	82号	6・7月例会報告、昆虫豆知識(78)コフキコガネ、LBM 虫日記(45)チビタマムシ
9月4日	83号	LBM 虫日記(46)ウスバキトンボ、昆虫豆知識(79)ノコギリカミキリ
9月20日	84号	8月例会報告、昆虫豆知識(80)ゴマフカミキリ類、LBM 虫日記(47)ゴマフカミキリ類
10月23日	85号	10月例会報告、LBM 虫日記(48)、昆虫豆知識(81)、生活実験工房に仕掛けた竹筒に巣をつくったハチ
11月24日	86号	11月活動報告、LBM 虫日記(49)イチジクキンウワバ、昆虫豆知識(82)ベイツ型擬態
12月25日	87号	LBM 虫日記(50)オオキンカメムシ、昆虫豆知識(83)マグソコガネ
1月25日	88号	昆虫豆知識(84)ウバタマコメツキ、LBM 虫日記(51)イタヤカエデに来る虫
2月19日	89号	2月例会報告、昆虫豆知識(85)オオチビマルハナノミ、LBM 虫日記(52)ホワイトビーチの虫

○森人（もりひと）

代表者：三輪ゆう子 担当学芸員：林竜馬 会員数：8名

〔設立の趣旨〕

2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

〔活動の概要〕

2025年度の活動は下記の通り22回（3月28日実施予定を含む）を実施した。例年どおり観察会や屋外展示の森の除草、びわ博フェスでの屋外展示などを回るクイズラリーを行った。昨年から「フォレストマスター」と名付けたクイズ形式のものを作成し、不定期で屋外展示側の出入りに設置していたが、今年からほぼ季節ごとに作成し設置するようにした。これからも、来館者の方々に屋外展示も楽しんで頂けるような仕掛けを考案するとともに自分たちの実力アップを図りたい。

「森人」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月12日（日）	雨天中止	京都府立植物園	0名
4月26日（土）	「フォレストマスター5、6月」づくり	琵琶湖博物館 交流室	6名
5月10日（土）	「びわたん」お手伝い 春の植物のしおりづくり	琵琶湖博物館 実習室2	5名
5月31日（土）	植物観察会	比良山麓を歩く	6名
6月14日（土）	「フォレストマスター9、10月」づくり	琵琶湖博物館 交流室	4名
6月28日（土）	びわフェスの相談 「フォレストマスター9、10月」づくり	琵琶湖博物館 交流室	5名
7月12日（土） 7月9日～22日	自然観察会 博物館見学 「自由研究応援展」に参加	みなくち子どもの森 環境学習センター	3名
7月26日（土）	びわフェスの相談 「フォレストマスター	琵琶湖博物館 交流室	4名

	9、10月」づくり		
8月23日(土)	びわフェスの相談 「フォレストマスター 9、10月」づくり	琵琶湖博物館 交流室	5名
9月13日(土)	樹名板設置作業 びわフェスの準備	琵琶湖博物館 交流室	6名
9月27日(土)	植物観察会	春日山公園	6名
10月11日(土)	植物観察会	京都府立植物園	7名
10月25日(土)	びわフェスの準備 クイズラリー検討	琵琶湖博物館 交流室	4名
11月8日(土)	びわ博フェス準備、クイズラリー検討	琵琶湖博物館 交流室他	5名
11月16日(日)	びわ博フェスにてワークショップ(屋外クイズラリー)	琵琶湖博物館 屋外他	6名
12月13日(土)	「フォレストマスター冬号」づくり	琵琶湖博物館 交流室	4名
1月10日(土)	「フォレストマスター春号」づくり	琵琶湖博物館 交流室	6名
1月24日(土)	昨年のリースの解体 「フォレストマスター春号」づくり	琵琶湖博物館 実験工房	5名
2月14日(土)	休み		0名
2月28日(土)	来年度の計画について	琵琶湖博物館 交流室	5名
3月14日(土)	クズ除去作業	樹冠トレイル周辺	5名
3月28日(日)	植物観察会	栗東自然観察の森	6名

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

- ・春から秋にかけての時期に、外部の博物館や観察会に出かけることができて良かった。外部観察会では悪天で決行に悩むシーンがあったが、よほどひどい時は事前に日程を変更するとか、琵琶博内での会議に切り替えるなどの方法で、せつかくの活動日を有意義に使えるよう工夫していきたい。
- ・昨年から設置しているフォレストマスターは、一年を通じて多くの来館者に手に取ってもらえているようで、とてもやりがいを感じている。びわフェスでフォレストマスターのキャラクター名を募集して、「ふうくん」「かえでちゃん」に決定したことも併せ、より多くの人に親しみを持って楽しんでもらえるものにしたい。
- ・今年度までの活動内容の方向性はそのままに、来年度はさらにそれをブラッシュアップする。特に開館30周年に合わせ、屋外展示の看板をリニューアルする活動を進めたい。

○琵琶湖梁山泊

代表者： 担当学芸員：大塚泰介（代理） 会員数：3名

[設立の趣旨]

地域の自然や文化を研究する中高生の若者を中心として、2018年に設立されたグループです。研究が進みすぎてご家族や学校のサポートが及ばなくなった若者が、博物館の学芸員や大人メンバーのサポートを受けてさらに研究を進めるとともに、興味・関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間を見つけて互いに切磋琢磨する場になることを目指しています。

[活動の概要]

若者の研究活動を進めるため、博物館の学芸員や大人メンバーが相談対応や助言などの支援を行い、研究のレベルアップをめざします。2020年3月以降はCOVID-19感染拡大のため、以前のような活動は十分にできない状況が続きました。2021年5月には新しい試みとしてZoomによる「オンライン総決起集会」を開催し、中高生会員および卒業生による4題の研究の成果が発表されました。その後も2022年度までは細々と

活動が続いていましたが、2023 年度には中高生の会員がいなくなり、ほぼ完全に活動休止状態となっていました。2024 年 9 月の登録講座で久しぶりに中学生の新入会員 1 名を迎え、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」の場を借りて研究相談をしています。2026 年 2 月の登録講座でさらに新入会員が 1 名加わり、さらに「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」で一緒に研究してきたはしかけ会員を加えて、総勢 3 名になりました。現在、活動の巻き返しを図っています。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
11 月 15・16 日	「びわ博フェス」でポスター 掲示（会員募集）	琵琶湖博物館マイクロア クリウム	担当：大塚
11 月 16 日	「びわ博子ども若者研究発 表交流会」で研究発表	琵琶湖博物館ホール	担当：大塚 参加者 1 名

○サロン de 湖流

会長：岩木真穂 担当学芸員：金尾滋史 会員数：9 名

〔設立の趣旨〕

琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象（湖流・河川流・地下水流などや気象現象など）について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

〔活動の概要〕

実際に湖上で観測を行う活動がコロナ禍で中断して以来、系統的な活動を再開するには至っておらず、新たな活動の方向を探ろうとしている。いずれにしても、博物館側の立場としても「湖の物理」に関する利用者の受け皿になる活動は必要だろうということで、当面は一般来館者を対象とする活動を展開しながら考えていこうということになり、その端緒としてびわ博フェスにおいてワークショップを実施した。

「サロン de 湖流」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
11 月 8 日	新メンバーを迎えての打合せ	琵琶湖博物館会議室	2 名
11 月 16 日	びわ博フェス参加	琵琶湖博物館うみっこ広場	1 名

○水と暮らし研究会

代表者：杉田 薫 担当学芸員：楊 平 会員数：7 名

〔設立の主旨〕

琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。

古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

[活動方針]

テーマ1：古人の想い。暮らしと川とのかかわりを探る。

：暮らしと川とのかかわりあいの歴史から未来を探る。

テーマ2：琵琶湖博物館行事に参加、協力。

[活動の概要]

水とかかわる暮らしに焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、地域でのヒアリングを通じ、先人たちから受け継いだ現代人の生活の実態を記録し発信していく。また活動テーマに関連する講座、シンポジウム等に積極的に参加する。活動計画は、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。また、博物館行事への積極的参加は、はしかけ活動の一環として重要事項との認識に基づくものであると考える。

「水と暮らし研究会」のおもな活動

テーマ1

活動日	調査地域	参加者
4月 11日	東近江市市ケ原町 現地調査	7名
5月 7日	東近江市中戸町 現地調査	7名
6月 11日	活動計画打ち合わせ 会議	7名
7月 11日	東近江市百済寺町 現地調査	6名
8月 20日	企画展見学(川を描く、川をつくる) びわ博	6名
9月 12日	東近江市梅林町 現地調査	6名
9月 12日	企画展見学 近江商人博物館	6名
10月 3日	栗東市走井集落会議 びわ博	6名
11月 7日	東近江市河辺生きものの森 現地調査	6名
12月 10日	東近江市小田苅町 現地調査	5名
1月 9日	東近江市長町 現地調査	6名
2月 12日	東近江市五個荘金堂町、日野町 現地調査	5名
3月 27日	日野町 現地調査予定	5名

テーマ2 琵琶湖博物館行事参加報告

活動日	調査地域	参加者
5月 17日	FR 会議	1名
6月 15日	FR 交流会にて発表	4名
6月 28日	FR 会議	1名
7月 5日	FR 会議	1名
7月 12日	FR 会議	1名

8月 2日	FR 会議	1名
9月 6日	FR 会議	1名
9月 19日	びわ博セミナー	1名
9月 27日	FR 会議	1名
10月 4日	FR 会議	1名
10月 18日	FR 会議	1名
11月 1日	FR 会議	1名
11月 8日	FR 会議	1名
11月 15日	びわ博フェス 展示と発表	5名
11月 16日	びわ博フェス 展示と発表	5名
11月 29日	JICA 研修会にて発表	5名
12月 14日	走井集落シンポジウム	2名
12月 19日	びわ博セミナー	1名
12月 20日	FR 会議	1名
12月 21日	びわ博 連続講座 1 回目	2名
1月 10日	FR 会議	1名
1月 17日	FR 会議	1名
1月 25日	びわ博 連続講座 2 回目	5名
2月 7日	FR 会議	1名
2月 20日	FR 会議	1名
3月 7日	エコ活動講座	2名
3月 15日	びわ博 連続講座 3 回目	5名
3月 21日	びわ博 琵琶湖学習関連事業	5名

(活動原案:杉田 作成:寺澤)

○海浜植物守りたい

担当学芸員：大槻達郎

[設立の趣旨]

本来海岸に生育する海浜植物が何故か、淡水の琵琶湖に生育している。
これらの植物は独自の進化をしており貴重であり、保護活動をすることにした。

[活動の概要]

主に新海浜(彦根市)における海浜植物の保護活動を行う。
活動する公園名：湖岸緑地 新海薩摩地区

「海浜植物守りたい」のおもな活動

活動日	活動時間	内 容	参加者
4 月 1 日	9:30～11:30	① 防草シートの設置 ② 保護柵（ロープ）拡張 ③ 保護区内除草（ハコベ、スズメノカタビラ、コバンソウ等） ④ ツルニチニチソウの駆除	6 名
4 月 18 日	9:30～11:30	① 保護区内除草（ハコベ、スズメノカタビラ、コマツヨイグサ） ② ツルニチニチソウの駆除 ③ オオキンケイギク 2 株駆除	7 名
4 月 29 日	9:30～11:00	① ハマエンドウ開花の連絡を受け、観察会 ② アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず ③ ハマダイコン 1 株開花	3 名
5 月 16 日	9:30～11:30	① 保護区内除草（ハコベ、スズメノカタビラ、コマツヨイグサ） ② ツルニチニチソウの駆除 ③ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず ④ ハマエンドウ最盛期でこれまで 25 年のうち最も花数最多	6 名
6 月 2 日	9:30～11:30	① ハマエンドウの種鞘数調査・・・花軸数 112 個 種鞘数＝112 花軸×平均 2.5 個／花軸として 280 個 ② ハマエンドウ保護柵内にタケノコ発生→地下茎除去 ③ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず	4 名
6 月 20 日	9:30～11:30	① ハマエンドウ保護柵内まで伸びたタケの地下茎除去 ② 保護区内除草（コマツヨイグサ、エノコログサ、カタバミ等） ③ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず	7 名
7 月 1 日	9:30～11:30	① 草刈り機で草（雑草、ツルニチニチソウ）の刈り取り ② 保護区内除草（カタバミ、コマツヨイグサ、ツユクサ等） ③ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず ④ メリケンムグラ、オオキンケイギクの駆除	7 名
7 月 18 日	9:30～11:30	① メドハギ、メマツヨイグサの駆除 ② ハマゴウ群生地内に投棄された枯草、ヨシ屑、プラ容器等の除去（約 30kg） ③ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず	3 名
8 月 5 日	9:30～11:30	① 保護区内除草（コマツヨイグサ、ツユクサ等） ② アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず ③ レンゲソウ畑の耕し	7 名
9 月 2 日	9:30～11:30	① 保護区内除草（オオフタマムグラ等） ② タケの地下茎除去 ③ 散乱ごみの片づけ ④ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず	9 名
9 月 19 日	9:30～11:30	① 保護区内除草（オオフタマムグラ等） ② ツルニチニチソウの駆除 ③ 駐車場側草刈り ④ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず	8 名
10 月 7 日	9:30～11:30	① 枯れた松葉採取、ハマエンドウ保護区へ散布 ② 保護区内除草 ③ ツルニチニチソウの駆除 ④ アメリカネナシカズラ調査・・・見つからず	7 名
10 月 24 日	9:30～11:30	① ハマエンドウ保護区内枯れた松の伐採 8 本 ② 枯れた松葉採取、ハマエンドウ保護区へ散布 ③ レンゲソウの種まき	4 名

11月5日	9:30～11:30	① ハマエンドウ保護区西側枯れた松の伐採 16本 ② 枯れた松葉採取、ハマエンドウ保護区へ散布	5名
11月21日	9:30～11:30	① ハマエンドウ保護区西側枯れた松の伐採 8本 ② 枯れた松葉採取、ハマエンドウ保護区へ散布	7名
12月2日	9:30～11:30	① ハマエンドウ保護区東側拡張に伴い新たに波板設置 ② ツルニチニチソウの草刈りと駆除	7名
12月19日	9:30～11:30	① 防風ネットの補修 ② ハマエンドウ保護区東側の旧波板撤去 ③ ツルニチニチソウの駆除	7名
3月2日	9:30～11:30	① ハマエンドウ保護区内除草（ハコベ、スズメノカタビラ、ニワゼキショウ等） ② レンゲソウ畑の除草	5名
3月20日	9:30～11:30	① ハマエンドウ保護区内除草（ハコベ、スズメノカタビラ等） ② ツルニチニチソウの駆除 ③ ハマエンドウ保護区内のハマエンドウ分布測定 278m ² (2024. 12. 20 比+8m ²)	8名

作業回数：19回 延べ人数：117人

○内湖を知ろう会

代表者：服部敏之 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：5名

〔設立の趣旨〕

琵琶湖周辺に「内湖（ないこ）」という湿地がいくつも残存していることを知り、内湖に興味を持ち、「内湖にはどんな価値があるのか」「現在もその価値は有効なのか」など広く深く学ぼうと、「はしかけ制度」を活用し、2026年1月に「内湖を知ろう会」を立ち上げた。この活動に多くの人を巻き込み、環境に関心を持つ人を増やせば、琵琶湖周辺の環境を良い方向に変えていくことができるのではないかと考えている。

〔活動の概要〕

グループの活動基本方針を「内湖の役割・魅力を多くの人に認識していただき、内湖を魅力ある場に変えていく」とし、2026年度の目標を「内湖の概要をまとめ、各内湖の個性などを調査し、分かりやすい冊子を作成する」とした。近江舞子内湖と北之庄沢を訪れ、今後の調査内容を検討している。

「内湖を知ろう会」のおもな活動内容

活動日	内容	場所	参加者
1月15日	本会設立後の初めての会合、基本方針等を確認	琵琶湖博物館	会員5名、オブザーバー2名
1月29日	今後の計画等検討	琵琶湖博物館	会員4名、オブザーバー2名
2月13日	2026年度事業計画検討	琵琶湖博物館	会員5名、オブザーバー2名
3月5日	現地調査	近江舞子内湖（大津市）	会員3名、オブザーバー2名
3月7日	冊子の内容について協議	琵琶湖博物館	会員5名、オブザーバー2名
3月23日	現地調査	北之庄沢（近江八幡市）	会員5名、オブザーバー2名

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター

（登録者数 200 名）

相川 美加子	青木 重樹	青木 環	青木 春乃	青山 喜博	浅野 泰輝	安達 誠
阿部 一広	栗田 久仁和	飯田 隆行	飯田 俊宏	飯田 貞美	猪飼 徹	市來 乙葉
市來 友美	一瀬 諭	市原 龍	井野 勝行	井上 修一	今井 洋	上田 修三
上田 豊喜	上田 頼祈	上中 葵衣	内田 祥乃	宇野 啓明	浦畑 美加	浦畑 里帆
浦畑 龍司	上森 敦代	江間 瑞恵	遠藤 吉三	大石 巖	大河原 秀康	大橋 義孝
岡田 宗一郎	小川 由佳	小野 いちか	小野 えりか	小野 翔	小野 岳人	尾原 直行
鍵本 奈々美	角井 俊明	梶田 聡子	梶田 智嗣	片岡 庄一	片山 慈敏	加藤 美由紀
梶島 昭紘	川北 健太郎	川北 浩史	河原 絵里	河原 豪	川村 郁人	川村 絵美
川村 梓月	川村 実愛	北川 眞造	北側 忠次	木下 恵理	木下 桂典	木下 大輔
木下 雄介	木本 裕也	楠居 里奈	楠岡 泰	熊谷 明生	熊谷 明美	倉田 忠彦
小篠 伸二	後藤 真吾	小林 隆夫	小山 勝	坂本 健太郎	坂本 颯太	坂本 大介
佐々木 亜弥子	佐々木 由巳子	佐々木 遼太郎	佐藤 良太郎	猿渡 碧海	猿渡 実加子	志村 宣子
杉江 ミサ子	杉田 薫	鈴木 正範	妹尾 和彦	立川 直樹	田中 宏樹	ダニエル フォルスター
谷口 雅之	谷村 啓子	辻 いずみ	辻本 和史	津田 久美子	土田 正文	坪田 美苗
寺澤 孝之	寺田 誠	手良村 昭子	手良村 知功	手良村 知央	所 明梨	所 晴生
戸田 貴之	十塚 正治	中井 賀津雄	中尾 博行	中西 満梨奈	中野 敬二	中場 弘二
中森 あゆみ	成子 邦夫	西岡 陸	西川 俊三	西川 義満	西木 正枝	西田 翔輝
西田 侑夏	橋本 侑那	筈井 美智子	畑中 清司	服部 敏之	濱道 秀	平井 政一
伏見 環多	伏見 圭司	伏見 瞳	布施 篤延	布施 千晶	保木 久美子	保木 覚
保木 智子	保科 明俊	保科 秀行	保科 雅子	保科 政秀	堀田 修身	堀田 博美
前田 博美	前田 雅子	真崎 健	梶元 智子	松里 香織	松里 凜	松田 道一
松田 光正	松本 隆	松本 勉	間所 忠昌	三浦 真紀	水戸 涼乃	水戸 基博
三村 武士	宮崎 哲	宮崎 猛	宮崎 晴香	宮崎 真	宮本 直興	向田 直人
村上 優生	村野 久美	村松 祥吾	村松 珠季	百木 義忠	森田 存	矢野 修
矢野 としこ	矢野 典子	山内 孝子	山岡 辰朗	山川 栄樹	山川 佳那子	山崎 真嗣
山田 美智子	山本 篤	山本 道子	吉川 秀司	吉田 咲陽	吉田 千咲	吉田 美樹
吉野 和夫	脇田 哲志	和田 のどか				

◇はしかけ

（登録者数 422 名）

相川 美加子	青木 環	青木 春乃	青山 恵津子	青山 哲郎	青山 友衣子	青山 喜博
青山 倫子	浅野 泰輝	芦田 弘美	安達 誠	阿部 一広	栗田 久仁和	飯住 達也
飯田 隆行	飯田 俊宏	飯田 貞美	猪飼 徹	池田 勝	石井 千津	石上 三雄
石崎 桂右	石崎 佑	石田 藍子	石田 幸輝	石田 晴子	石田 大典	石田 大輔
石田 勉	石田 つなぐ	石田 弘子	石田 美穂	石田 義之	一瀬 諭	市野 翔大
市野 慎次	市原 龍	伊東 彬良	伊東 文彦	井上 修一	井上 大誠	井上 貴文
井上 聖花	井ノ口 昭雄	井原 順司	井原 翠子	井原 理恵	井原 凜子	今井 洋
岩崎 あかり	岩崎 太郎	岩崎 裕見子	岩崎 諒	上田 修三	上田 豊喜	上田 頼祈
上中 葵衣	魚住 敏治	宇代 愛子	宇代 貴文	宇代 航	内田 実	宇野 翔
宇野 啓明	梅澤 正夫	浦畑 美加	浦畑 里帆	浦畑 龍司	上森 敦代	江島 凡子
江間 瑞恵	遠藤 吉三	大石 巖	大河原 秀康	大沢 果那	大嶋 信介	大嶋 千恵

大嶋 陽子	大嶋 了爾	大橋 洋	大橋 正敏	大堀 忠厚	岡田 宗一郎	岡谷 崇宏
小川 由佳	奥村 恵美	奥村 修也	奥村 則夫	奥村 亮太	小野寺 慶二	尾原 直行
鍵本 奈々美	梶田 聡子	梶田 智嗣	片岡 庄一	片山 慈敏	加藤 美由紀	金山 正之
金山 美佐子	綺田 万紀子	神谷 悦子	加山 基	川井 彩音	川井 久美	河上 新大
川北 健太朗	川北 浩史	川田 裕元	河原 絵里	河原 豪	河原 滯	川南 仁
川村 郁人	川村 絵美	川村 梓月	川村 実愛	北川 眞造	北田 稔	北野 大輔
北村 純平	木下 恵理	木下 一也	木下 桂典	木下 祥吾	木下 大輔	木下 珠貴
木下 千晶	木下 雄介	木下 ゆみか	木本 裕也	清田 輝夫	草加 伸吾	楠居 里奈
楠岡 泰	久野 香菜	久野 純平	熊谷 明生	熊谷 明美	熊谷 弥生	倉田 忠彦
桑垣 瑞	神戸 道典	河野 芳明	國分 政子	小篠 伸二	小谷 桃花	後藤 真吾
小西 慎一	小林 隆夫	小山 勝	近藤 暁悠	近藤 由隆	斉藤 文子	酒井 朔弥
酒井 志穂	酒井 陽一郎	坂本 健太郎	坂本 颯太	坂本 大介	櫻井 眞砂子	佐々木 信幸
佐々木 則子	佐々木 結衣	佐々木 亜弥子	佐々木 由巳子	佐々木 遼太郎	笹生 正則	佐本 光彦
猿渡 碧海	猿渡 実加子	澤田 知之	塩谷 えみ子	志村 宣子	杉田 薫	杉山 國雄
鈴木 幸子	鈴木 直子	鈴木 裕之	鈴木 正範	鈴木 悠季野	関戸 慧	関戸 悠人
関戸 ユキ	妹尾 和彦	大喜 のぞみ	高田 昌彦	宝本 颯	田口 裕	竹沢 啓
竹沢 佑真	武田 広志	竹谷 満弘	竹元 冴矢	立川 直樹	立石 文代	田中 治男
田中 宏樹	田中 雅也	田中 喜久	ダニエル フォルスター	谷口 雅之	谷本 正浩	谷本 由美
田村 彩華	樽本 直	樽本 祥子	千野 可菜美	辻 いづみ	辻 開心	辻 仁司
辻川 智代	辻本 和史	津田 久美子	津田 美佐子	坪井 一代	坪井 修生	坪田 美苗
寺尾 尚純	寺澤 孝之	手良村 昭子	手良村 知功	手良村 知央	徳永 成美	徳永 義利
戸田 孝	戸田 貴之	十塚 正治	富 小由紀	富田 久仁枝	中井 賀津雄	中尾 京子
中尾 博行	中川 歩	中川 信次	中川 優	中川 柚葉	中島 財	中田 聖月
中西 春陽	中西 寛子	中西 満梨奈	中西 元章	中西 優一	中野 敬二	中場 弘二
中村 聡一	中森 あゆみ	納屋内 高史	成子 邦夫	新岡 良平	西岡 陸	西川 俊三
西川 美喜	西木 正枝	西坂 一成	西田 翔輝	西田 侑夏	西村 有巧	西村 良二
根来 健	萩尾 正博	橋本 侑那	服部 敏之	濱道 秀	原田 啓路	原田 麻史
原田 由美子	肥田 嘉文	深田 治	深田 元子	深田 稟大	福永 和馬	藤岡 康弘
藤田 成子	伏見 環多	伏見 圭司	伏見 瞳	保木 久美子	保木 覚	保木 智子
堀田 恵子	堀田 修身	堀田 博美	前田 博美	卷藤 美重	正木 紫苑	真崎 健
松川 郁子	松木 愛	松木 智史	松里 香織	松里 凜	松田 征也	松田 道一
松田 光正	松本 隆	松本 勉	間所 忠昌	三浦 真紀	水口 隆史	水谷 智
水戸 涼乃	水戸 基博	南 和美	三原 秀幸	三村 武士	宮崎 哲	宮崎 猛
宮崎 晴香	宮崎 真	宮本 直興	三輪 祐子	向田 直人	村上 優生	村田 憲治
村田 栞理	村田 博之	村松 祥吾	村松 珠季	村山 和夫	百木 義忠	森 晶代
森 綾乃	森 陽菜	森田 存	森田 光治	安井 加奈恵	安原 輝	柳原 徳子
矢野 修	矢野 としこ	矢野 典子	八尋 克郎	山内 孝子	山川 栄樹	山川 佳那子
山崎 恵理子	山崎 和子	山崎 真嗣	山下 悟 ケイシ	山下 直子	山下 真行	山田 恵美
山田 和毅	山田 正樹	山田 美智子	山中 裕子	山仲 悠真	山野井 邦彦	山本 阿子
山本 綾美	山本 藤樹	山本 道子	山本 桃花	山本 由里子	矢守 永生	矢守 永和
吉井 隆	吉岡 伸子	吉川 秀司	吉崎 早苗	吉田 圭一	吉田 咲陽	吉田 達矢
吉田 千咲	吉田 範香	吉田 美樹	吉野 千栄子	吉野 まゆみ	若代 隆行	若代 智子
和田 のどか						

2. 一般利用者へのサービス事業

(1) 交流イベント（観察会・見学会等）

博物館周辺や県内各地で、交流イベント（観察会・見学会等 33 回）および講座（はしかけ登録講座 4 回、ギャラリー展示関連講演会 1 回、連続講座 3 回、公開講座 1 回）、琵琶湖地域の水田生物研究会 1 回、里山体験教室 3 回、田んぼ体験 8 回、びわ博フェス 1 回）を実施した。

開催日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4 月 5 日(土)	みんなでタンポポを調べよう (タンポポ調査説明会)	20	12	
4 月 6 日(日)	みんなでタンポポを調べよう (タンポポ調査説明会)	20	中止	
4 月 12 日(土)	みんなでタンポポを調べよう (タンポポ調査説明会)	20	9	
4 月 16 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・4 月	10 組	15	ちこあそ(はしかけ)
4 月 20 日(日)	里山体験教室 (春)	30	15	里山の会(はしかけ)
4 月 27 日(日)	コケ植物観察会	15	12	
5 月 11 日(日)	田んぼ体験 田植え	20	25	
5 月 13 日(火)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	4	緑のくすり箱(はしかけ)
5 月 21 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・5 月	10 組	21	ちこあそ(はしかけ)
6 月 1 日(日)	コケ植物観察会	15	11	
6 月 15 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・6 月	10 組	15	ちこあそ(はしかけ)
6 月 22 日(日)	里山体験教室 (夏)	30	11	里山の会(はしかけ)
7 月 5 日(土)	水辺の生き物観察会 2025	20	13	湖北野鳥センター
7 月 16 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・7 月	10 組	28	ちこあそ(はしかけ)
7 月 26 日(土)	びわ博 夜の生き物観察	20	25	
7 月 27 日(日)	田んぼ体験 昆虫採集	20	20	
8 月 2 日(土)	ヨシ灯りをつくろう	20 組	44	
8 月 30 日(土)	湖探検 湖に入って生き物をさがそう	20	29	カワセミ自然の会
9 月 7 日(日)	田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け①	20	21	
9 月 17 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・9 月	10 組	27	ちこあそ(はしかけ)
9 月 27 日(土)	プランクトンでビンゴ	20	18	
10 月 11 日(土)	田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け②	20	12	
10 月 15 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・10 月	10 組	25	ちこあそ(はしかけ)
10 月 19 日(日)	里山体験教室 (秋)	30	17	里山の会(はしかけ)
11 月 11 日(火)	ヨシの子ども松明をつくってみよう	10	6	文化遺産としての松明を次世代へ贈る会
11 月 11 日(火)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	4	緑のくすり箱(はしかけ)
11 月 19 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・11 月	10 組	28	ちこあそ(はしかけ)
12 月 17 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・12 月	10 組	17	ちこあそ(はしかけ)
12 月 14 日(日)	田んぼ体験 しめ縄づくり	20	10	
1 月 28 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・1 月	10 組	24	ちこあそ(はしかけ)

1月18日(日)	里山体験教室(冬)	30	8	里山の会(はしかけ)
2月8日(日)	田んぼ体験 わら細工	20	11	
2月18日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・2月	10組	20	ちこあそ(はしかけ)
3月18日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・3月	10組	32	ちこあそ(はしかけ)

(2) 講座・セミナー

2025年度は、以下のような講座・セミナーを開催した。

開催日	内容	人数制限	参加者数	その他
4月27日～5月11日 9月7日～9月21日 2月22日～3月8日	はしかけ登録講座 (オンライン)	なし	20 20 41	
5月18日(日)	ギャラリー展示関連 コケ講演会「水が育て る滋賀県のコケ」	50	58	オンライン開催
10月12日(土)	はしかけ登録講座 (博物館)	なし	17	
12月21日(日)	琵琶湖地域の水田生物 研究会	なし	223 (うちオンラ イン 144)	口頭発表 7件 ポスター発表 12件 ミニシンポジウム 4件
12月21日(日)	地域の魅力の再発見 連続講座 自然とかかわる活動と 地域コミュニティ	15	15	水と暮らし研究会(は しかけ)
1月25日(日)	地域の魅力の再発見 連続講座 環境用水を地域のなか で活かす	15	15	水と暮らし研究会(は しかけ)
2月16日(日)	令和6年度野生動物研 修会 一般市民講座 「伊吹山の野生動物～ ツキノワグマとイヌワ シ～」	60	50	
3月15日(日)	地域の魅力の再発見 連続講座 環境文化と私たちの生 活～持続可能な地域社 会に向けて～	15	15	水と暮らし研究会(は しかけ)

(3) 体験教室

1) 里山体験教室

里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どものころは野山で遊んだが久しく行ってない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室をはしかけ「里山の会」との共催により開催している。

里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している森林や周辺を散策して、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しみながら知ってもらうため、春・夏・秋・冬の年4回実施し

ている。

春は里山を歩き、野草中心に植物観察を行った。午後からは丸太切りを行い、オリジナルの木の名札を作成した。

夏は暑さに注意を払いながら、虫取りや昆虫の観察会、ハンモックづくりを行った。

秋は里山を散策して、木の実や紅葉などの秋探しを行った。午後からは竹や灌木の整備や葉っぱじゃんけん、ドングリこまづくりといった里山遊びを行った。

冬は、散策をして材料集めを行った後、火おこしと花炭づくりを行った。午後からは秋に整備した竹を使って竹笛づくりを行った。

開催日	内容	参加人数	担当者
4月20日	里山の春をみつけよう	15	奥田、加藤、青木、瀬山
6月22日	里山の夏を楽しもう	11	奥田、今田、青木、瀬山
10月19日	里山の秋を探そう	11	奥田、青木、瀬山
1月18日	里山の冬遊び	8	奥田、渡邊、青木、瀬山



散策



虫取り・昆虫観察



花炭材料集め

2) 田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般参加者と、はしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施している。5月から10月中旬までは主に水稻栽培に関する体験を行い、12月から翌年2月までは藁など収穫した材料や工房周辺にある材料を使って体験活動を実施している。

水稻栽培の体験活動では、田植え、稲刈りまでを手作業で行っている。農閑期となる冬季には工房内でしめ縄やわら細工など、主に藁を有効活用した体験活動を行っている。つまり、生活実験工房では農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んでいる。

2025年度は田植え直前に苗がカラスに荒らされたことや、糯米にいもち病が発生してしまうトラブルもあったが、当初の予定通りに、田んぼ体験の活動を実施することができた。本年度の活動も引き続き予約制とし、1回の活動を20名とすることで、大きなトラブルもなく運営できた。また、夏の活動日は、高温になりやすいことから熱中症対策を考慮した活動内容とした。

田んぼ体験の活動を通じて、家族の絆を深める良い機会となり、参加者の多くの方に満足して頂くことができた。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内 容	イベント	参加者数
4月12日	種まき、苗代づくり	-	職員対応
5月11日	田植え	実施	25名
7月27日	昆虫採集	実施	20名
9月7日	稲刈り（早稲品種：コシヒカリ）はさ掛け	実施	21名
10月11日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	実施	12名
12月14日	しめ縄づくり	実施	10名
1月19日	どんど焼き	-	職員対応
2月8日	わら細工	実施	11名



9月 稲刈り（早稲品種：コシヒカリ）はさ掛け



12月 しめ縄づくり

（４）体験学習

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営している。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届けるため、第2土曜日の午後に開催している。滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことを大切にしながら「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに関わっている。今年度は、年間8回、計180名の参加者に楽しんでもらうことができた。

月 日	館内の事業	参加者数
5月10日	春の草花でしおりをつくろう！	21名
6月14日	プランクトンを見よう！	28名
7月12日	骨にふれてみよう！	24名
9月13日	日光で写真を撮ろう～水草アート～	15名
12月13日	葉っぱのランタンをつくろう！	29名
1月10日	綿にふれてみよう！	25名
2月14日	水鳥を観察しよう！	17名
3月14日	岩石標本箱をつくろう！	21名

(5) 質問コーナー・フロアトーク

琵琶湖博物館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、おとなのディスカバリー内に設置された「質問コーナー」において博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーには学芸員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっており、学芸員からの一方通行の情報伝達だけではなく、利用者からもたらされた情報が科学的に重要な知見に繋がった事例もある。その日に担当する学芸員の予定は博物館ホームページやおとなのディスカバリー入口壁に掲示されており、専門分野の担当者がある日に質問ができる仕組みとなっている。それぞれの質問は、担当学芸員がその場で対応するようにしているが、分野が異なったり、専門的な内容で質問コーナー担当学芸員が回答できない場合は、それぞれ専門の学芸員に回答を依頼したり、調べて後日メールや電話で回答している。博物館への質問については、質問コーナーに来室されるほか、電話やメールによる質問や相談に応じている。

質問コーナーの当日担当学芸員が行う展示交流「フロアトーク」では、月1回学芸員の会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回約30分間、展示室やオープンラボを使用して実施している。フロアトークの場所や内容、時間は当日担当の学芸員が決定して実施した。

質問コーナーおよび電話における質問受付数

期間	2025年4月1日～2026年3月31日（うち質問コーナー実施297日）	
総質問数	1025件	
質問形態	来訪による質問	882件
	その他による質問	143件

(6) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館の情報交換サービスを充実させるため、開館以来、学芸員への質問、相談などを受け付けるための専用電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定している。これらのメールは受付担当者が受信し、メールの内容に応じて専門の学芸員や関連職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2025年度は総数1340件であった。届いたメールのうち、専門的な質問については各学芸員が対応している。これらの中には、このような質問をきっかけとして自由研究に取り組んだり、身近な自然に興味をもつようになったりするなど、リピーターとなる方もいた。本年度は、学校の自己学習に関連する質問や問い合わせが多数寄せられた。事前学習の資料提案を行いながら、学習テーマを絞っていくなどの対応をしているが、学習カリキュラムの改訂により今後もこのような問い合わせが増えると考えられる。年々営業メールや迷惑メールが増える傾向があり、実に73%が質問と関係のないメールになる事態が発生している。ただし、ウイルスメールはセキュリティによりしっかり対処されており、本サービスの継続にはセキュリティ対策が不可欠である。

「Query」による質問件数

項目	件数
専門的な内容を含む質問 生物（魚類 50・その他水生生物 11・プランクトン 9・昆虫 33・哺乳類 9・鳥類 11・両生類 7・爬虫類 8・植物 7）、琵琶湖・湖沼 9、地学 10、歴史 8、民俗 17、考古 7、博物館関係 3	197
講師依頼、研究依頼、写真利用など	25
施設利用や行事の問合せ・予約確認・案内資料請求	68
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	14
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	12
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）	15
営業関係のメール（セキュリティ隔離 514 件含む）	986
その他の問い合わせ等	27

3. 学校連携

（1）学校団体

入館した学校数・児童生徒数は下表のとおりであり、昨年度より減少した。特に、小学校の利用が県内県外ともに減少した。

1) 学校団体の受け入れ

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		R6 年度	今年度	増減	R6 年度	今年度	増減
県内	小学校	190	180	-10	12,475	11,604	-871
	中学校	16	12	-4	1,449	825	-624
	高等学校	11	15	4	302	335	33
	特別支援学校	22	20	-2	377	347	-30
	大学など	8	9	1	711	727	16
	合 計	247	236	-11	15,314	13,838	-1,476
県外	小学校	177	154	-23	14,963	12,523	-2,440
	中学校	55	58	3	5,558	6,661	1,103
	高等学校	23	27	4	3,820	2,514	-1,306
	特別支援学校	16	18	2	401	451	50
	大学など	27	31	4	1,008	1,124	116
	合 計	298	288	-10	25,750	23,273	-2,477
総合計		545	524	-21	41,064	37,111	-3,953

2) 学校団体向け体験学習

フィールドへの誘いや展示を深く学ぶための一助として実施しており、今年度は6,000人超が利用された。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖の概要、博物館の展示、昔の暮らしなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップづくり、昔暮らし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、プランクトンの採集と観察、プラスチック粘土を使った琵琶湖型づくり、質問対応
中学校	講義（琵琶湖の概要、博物館の展示など）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚解剖、昔暮らし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、プラスチック粘土を使った琵琶湖型づくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖の概要、博物館の展示など）、プランクトンの採集と観察、外来魚解剖、質問対応
特別支援学校	昔暮らし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、シジミストラップづくり

■体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	39	2,698	27	1,590	66	4,288
中学校	4	517	12	989	16	1,506
高等学校	7	124	2	162	9	286
特別支援学校	1	14	1	7	2	21
大学など	0	0	0	0	0	0
合 計	51	3,353	42	2,748	93	6,101

■体験学習のようす



3) 自然調査ゼミナール

滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催で実施した。事前に、学芸員と滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が打合せし、参加者の滋賀県内の中学生が自然調査の手法を学ぶ機会になることを目指した。学んだ後、参加者が自然環境とじっくり向き合い、身に付けた自然調査の手法を自らの得意分野やフィールドで活かすことにつながればと考えている。また、1977年より滋賀県中学校教育研究会理科部会で開催されていた自然観察研修会を1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた経緯がある。後援：滋賀県教育委員会 ※2020－2022年度は新型コロナ感染拡大防止のため中止

■内容 (2025年度)

午前の部		午後の部	
9:00 ～ 9:30	受 付	12:45 ～ 14:15	班別調査活動Ⅱ
9:30 ～ 10:00	開講式・オリエンテーション		(各活動場所)
10:00 ～ 12:00	班別調査活動Ⅰ	14:15 ～ 15:50	調査結果のまとめ
	(各活動場所)	16:00 ～ 16:45	調査報告会 (ホール)
12:00 ～ 12:45	昼食および休憩	16:45 ～ 17:00	講評・閉講式
	展示室見学		

■班別テーマ (2025年度)

調査班	テーマ	講師	生徒数	教員数
植物と昆虫班	植物と昆虫の「生物間相互作用」	大槻達郎 (学芸員)	5名	4名
森林班	木の高さを調べてみよう	奥田岬 (主任技師)	5名	4名
湖岸の環境班	湖岸のそれぞれの地点の違いから環境(水質、魚、ゴミ等)を調べよう	渡邊俊洋 (主任主事)	5名	4名
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて調べよう	鈴木隆仁 (学芸員)	10名	4名
魚類班	魚の解剖を通して、生態を調べ、外来魚問題を考えよう	宮崎亮平 (教員)	10名	4名
貝類班	貝の採集を通して生態を調べよう	菅原巧太朗 (学芸員)	4名	4名

■自然調査ゼミナールのようす



(2) 教育指導者等研修

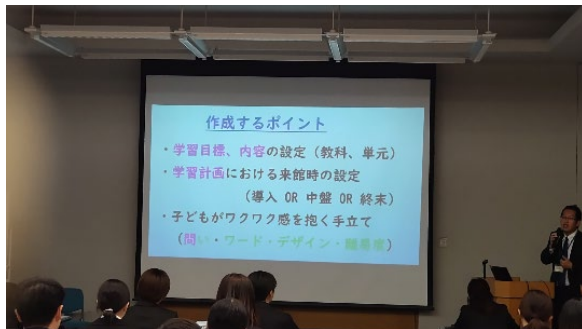
1) 教職員研修

本年度もフローティングスクール連携に関わる教員研修や県総合教育センターなどと連携した初任者教員研修を行った。フローティングスクール連携に関わる教員研修では講義(琵琶湖の概要)、プランクトンの採集・観察を行った。初任者教員研修は講義(琵琶湖の概要、博物館の使い方)、プランクトン採集・観察などの体験的な研修、琵琶湖博物館を校外学習の活用の仕方などを考える研修を行った。これらの研修で県内の学校の先生方に琵琶湖博物館の使い方を知って、児童・生徒たちと深く学べる工夫を知る機会となった。

教員研修の実施状況

実施日	講座名	参加人数	共催・後援・協力
8月 1日	フローティングスクール連携教員研修会	46名	滋賀県フローティングスクール
9月16日	初任者研修（特別支援学校）	21名	滋賀県総合教育センター
9月18日	初任者研修（特別支援学校）	15名	滋賀県総合教育センター
11月 4日	初任者研修（小学校）	39名	滋賀県総合教育センター
11月 6日	初任者研修（小学校）	47名	滋賀県総合教育センター
11月11日	初任者研修（小学校）	41名	滋賀県総合教育センター
11月13日	初任者研修（小学校）	41名	滋賀県総合教育センター

■教員研修の様子（初任者研修）



4. 地域との交流事業

(1) 地域連携（館内）

実施日	内容・テーマ	参加団体(依頼者)	対応者	参加者数
4月10日	新入社員研修	日立建機ティエラ	金尾滋史	17
5月18日	琵琶湖の環境問題に関する講義	株式会社たねや	鈴木隆仁	中止
5月20日	水・環境について	武庫川女子大学附属中学校	芳賀裕樹	134
5月20日	外来生物など環境について	武庫川女子大学附属中学校	金尾滋史	99
5月20日	琵琶湖・河川の環境保全学習	大津市立葛川中学校	松岡由子	12
5月25日	琵琶湖博物館の希少生物の種の保全活動	日東電工	川瀬成吾	86
6月10日	琵琶湖のプランクトンの状況について	村田製作所	鈴木隆仁	3
6月14日	資料保存論	京都文教大学	加藤秀雄	20
6月26日	日本列島における狩猟文化と農耕文化	吹田市人権政策室	妹尾裕介	20
7月8日	琵琶湖周辺地域社会の変化	河内長野市自然環境保護協議会	大久保実香	17
7月17日	琵琶湖博物館訪問研修	滋賀県立彦根東高等学校	鈴木隆仁 桑原康一 渡邊俊洋	40
7月17日	人の暮らしと琵琶湖環境の関りについて	商工観光労働雇用政策課	大久保実香	13

	て			
7月26日	すすめ！びわっこ探検隊 夏季プログラム	淡海環境保全財団	金尾滋史 鈴木隆仁	20
7月27日	微生物について	草津市まちづくり協働部	鈴木隆仁	26
7月30日	博物館実習 II	佛教大学	大久保実香	53
8月1日	セタシジミに関する講義とストラップづくり	児童育成クラブフレンズ	渡邊俊洋	39
8月2日	セタシジミストラップづくり	北大萱町子ども会	渡邊俊洋	24
8月5日	水産増殖学実習	近畿大学農学部水産学科	川瀬成吾 寺井章人	23
8月5日	ヨシの役割・ヨシ笛づくり	久御山町事業環境部	桑原康一 渡邊俊洋	22
8月8日	河川の成り立ちや草津川の歴史	滋賀県立湖南農業高等学校	島本多敬	17
8月21日	カワウの生態について	朽木てんぐクラブ	亀田佳代子	23
8月22日	里山での活動と水源のかん養のつながり	三重県立四日市農業高等学校	奥田岬	47
8月23日	琵琶湖地域の微小生物について	南京農業大学	ロビン・ ジ ェームス ・スミス	24
8月27日	農政水産部インターンシップ	大津南部農業農村振興事務局	金尾滋史	4
8月28日	田んぼと琵琶湖の関係性	近畿大学	大塚泰介	15
9月6日	博物館実習 II	東北学院大学	加藤秀雄 妹尾裕介	51
9月6日	シジミストラップづくりを通じて琵琶湖のシジミの現状を学ぶ	わくわく子どもクラブ	渡邊俊洋	25
9月10日	琵琶湖に生息する魚類の生態と漁業	近畿大学農学部水産学科	寺井章人	18
9月14日	プランクトン観察	特定非営利活動法人自然と緑	大塚泰介 鈴木隆仁	40
9月17日	企画展示「川を描く、川をつくる」に関する講義	愛知淑徳大学	島本多敬	52
10月1日	琵琶湖博物館の概要と展示の工夫や見どころ	大阪 ECO 動物海洋専門学校	川瀬成吾	50
10月8日	ナゾの生物プランクトン	網膜色素変性症協会	鈴木隆仁	30
7月21日	ぼてじゃこ（イチモンジタナゴ）の復元放流について	下豊浦環境保全協議会	川瀬成吾	35
10月18日	滋賀県の森林と琵琶湖	早稲田大学 AEONTOWA リサーチセンター	林竜馬	25
10月21日	プランクトン観察	貝塚市立自然遊学館	鈴木隆仁	8
10月29日	温暖化防止と生物多様性のトレードオフを越えて	ラムサールネットワーク 日本	大塚泰介	50

10月30日	古地図から見た猿尾-人々と河川のつきあい方	兵庫教育大学	島本多敬	5
11月8日	地理学・考古学ゼミ学外合同授業	佛教大学	島本多敬	20
11月9日	琵琶湖の在来魚と琵琶湖の環境	大津中央ロータリークラブ	寺井章人	120
11月13日	琵琶湖博物館の展示と工夫しているところ	大阪 ECO 動物海洋専門学校	寺井章人	20
11月19日	企画展示「川を描く、川をつくる」に関する講義	南比良老人クラブ高砂会	島本多敬	40
11月23日	河川景観を古地図でみる意義	日本地図学会	島本多敬	20
12月6日	「魚のゆりかご水田」現地視察ツアー	農村振興課	金尾滋史	10
12月14日	冬のプランクトン	ダイハツ工業	鈴木隆仁	34
12月16日	イチモンジタナゴの飼育と繁殖に関して	関西学院高等部理科部	川瀬成吾	6
12月25日	博物館に関する説明	滋賀県立大学	奥田岬	40
1月7日	ヨシ笛づくりで琵琶湖の水環境を考えよう	大津保育協議会	渡邊俊洋	30
1月17日	液浸収蔵庫見学	京都府立海洋高等学校	川瀬成吾	4
1月17日	琵琶湖と共生する暮らし	コクヨ	中村久美子	14
2月1日	琵琶湖湖底遺跡について	熊取町自治会連合	妹尾裕介	17
2月6日	カワウと人の環境史	吹田市人権政策室	亀田佳代子	35
2月6日	琵琶湖博物館における森林展示と滋賀県の森林	滋賀県立伊香高等学校	奥田岬	20
2月12日	水辺環境と暮らし	吹田市人権政策室	楊平	35
2月21日	ゾウムシの寄生植物の解明に向けて	滋賀県植物研究会	今田瞬介	20
2月26日	琵琶湖の民俗史	成安造形大学	大久保実香	90
3月14日	種子散布を中心とした生き物どうしの繋がりについて	かめおか自然アカデミー	佐藤華音	33
3月19日	琵琶湖固有種の進化について	山梨県立日川高校	田畑諒一	24
3月26日	琵琶湖の生き物、展示されている生き物、琵琶湖の歴史	京都市桂東学童保育所	桑原康一	67
3月26日	環境学習会	ダイハツ工業	林竜馬	24

(2) 地域連携（館外）

実施日	内容・テーマ	参加団体(依頼者)	地域	対応者	参加者数
4月～3月	「アユモドキは見つかるか～琵琶湖水系の生物相と生物多様性について～」への助言	滋賀県立八幡工業高等学校環境化学科、科学研究部生徒	滋賀県立八幡工業高等学校	田畑諒一	6
5月11日	葛籠尾崎湖底遺跡	長浜さざなみ会	長浜さざなみタウン	妹尾裕介	30

5月13日	琵琶湖湖底遺跡について	コミュニティーセンターみかみ	野洲市コミュニティーセンターみかみ研修室	妹尾裕介	40
5月15日	花粉の化石からみる、人間と植生の歴史	膳所歴史サークル	膳所市民センター	林竜馬	30
5月26日	里山学	龍谷大学	龍谷大学瀬田学舎	林竜馬	50
5月30日	田んぼはバイオサイエンスのフロンティア	摂南大学農学部応用生物科学科	摂南大学農学部	大塚泰介	100
6月16日	里山学	龍谷大学教養教育センター長	龍谷大学深草キャンパス	林竜馬	248
6月21日	田んぼの生きものの観察会	株式会社たねや	ラコリーナ近江八幡	今田瞬介 鈴木隆仁	20
6月22日	須原魚のゆりかご水田いきもの観察会	須原魚のゆりかご水田協議会	野洲市須原魚のゆりかご水田	金尾滋史	120
6月22日	いきもの観察会	高島農業農村振興事務所田園振興課	高島市マキノ町知内地先	鈴木隆仁	80
6月23日	田んぼの生きものの調査法について	株式会社たねや	ラコリーナ近江八幡	今田瞬介 鈴木隆仁	6
6～7月	第24回草津市こども環境会議	草津市環境政策課		楊平	24
7月13日	第2回町民大学 多賀の川の生き物を知る	多賀町教育委員会生涯学習課	多賀町大岡	金尾滋史	20
7月21日	第17回かつべ水フェスタ	勝部自治会	守山市勝部町	金尾滋史	50
7月25日	森を感じてみよう	滋賀県視覚障害者センター	滋賀県立視覚障害者センター	奥田岬	40
7月27日	メンカラスガイの移設のための捕獲イベント	湖北農業農村振興事務所	深谷下溜地区	菅原巧太朗、寺井章人	30
8月5日	川の生き物観察会	快適環境づくりをすすめる会	彦根市 犬上川	金尾滋史	30
8月23日	日本進化学会第27回大会における講師	日本進化学会	長浜バイオ大学	田畑諒一	81
8月30日	弥生土器の技術と歴史	守山市教育委員会	守山市下之郷史跡公園	妹尾裕介	20
8月31日	弥生土器の技術と歴史	守山市教育委員会	守山市下之郷史跡公園	妹尾裕介	20
9月27日	弥生土器の技術と歴史	守山市教育委員会	守山市下之郷	妹尾裕介	20

			史跡公園		
9月27日	ヨシ原の変遷と生物多様性	おおつ環境フォーラム	明日都浜大津	大塚泰介	35
10月2日	水生動物の獣医師の仕事	おうみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループ	東近江市立湖東中学校	松岡由子	81
10月11日	猿尾ってなに？	東近江文化スポーツ課	河辺いきものの森ネイチャーセンター	島本多敬	30
10月25日	カヤネズミになって、天神川をあるこう！	TANAKAMI こども環境クラブ	天神川（大津市田上市民公園付近）	中村久美子	10
11月1日	下物ビオトープ観察会	琵琶湖保全再生課	下物ビオトープ	金尾滋史	35
11月4日	BIWAKO TIME の成果報告会「琵琶湖に生息する在来型のコイを守るために私たちができることは何か」	滋賀大学教育学部附属中学校	滋賀大学教育学部附属中学校	田畑諒一	30
11月8日	湖岸に生息する生き物について	近江八幡市佐波江町自治会	佐波江浜湖岸動植物生息・生育地保護区	大槻達郎	30
11月9日	弥生土器の技術と歴史	守山市教育委員会	守山市下之郷史跡公園	妹尾裕介	20
11月14日	歩いて考えよう減災への道	知事公室防災危機管理局	滋賀県危機管理センター	島本多敬	33
12月10日	総合的な探求の時間（もりきた学）	滋賀県立守山北高等学校	もりやまエコパーク交流拠点施設	金尾滋史	9
12月14日	走井集落における水と地域の1300年の歩み	一般社団法人栗東市観光協会	栗東歴史民俗博物館	楊平	90
12月20日	市民講座「忍者の周縁」	三重大学研究基盤推進機構	ハイトピア伊賀	里口保文	40
1月31日	日本産淡水魚がもつ歴史およびタニガワナマズについて	アクアトーキングレビュー	大阪市中央公会堂	田畑諒一	84
1月21日	湖南地域における江戸、明治期の古地図の成り立ち	滋賀県土地家屋調査士会湖南支部	キラリエ草津	島本多敬	17
1月24日	カヤネズミの巣を探そう	守山市	琵琶湖ホール地球市民の森森づくりセンター	中村久美子	10

1月31日	古地図で読む治水の歴史	草津宿街道交流館	草津宿街道交流館 2F セミナー室	島本多敬	50
2月7日	弥生土器づくり	守山市教育委員会	守山市下之郷史跡公園	妹尾裕介	15
3月7日	地球温暖化とその防止策が脅かす琵琶湖盆の生態系	環境研究会	アーバネックス備後町ビル 3F ホール	大塚泰介	25
3月8日	「近江」を通る鳥たち	安土城考古博物館	安土城考古博物館 2F セミナー室	佐藤華音	10
3月11日	SHIGA2050 活性化プロジェクト校長ピッチ（審査員）	立命館守山中学校	立命館守山中学校	渡邊俊洋	167

（3）びわ博フェス 2025

1）趣旨

普段はそれぞれのフィールドで活動する方々が、それぞれの活動で得た知見を他者と分かち合う成果発表と相互交流の場として、びわ博フェス 2025 を開催した。博物館にかかわって主体的に活動している利用者や博物館の理念に合致して地域で様々な活動を行う方々と、県民・来館者が、一堂に会し出会い学び合う交流の場を創出すること、それにより、活動の更なる発展や展開を促すことを、本事業の目的とした。

2）概要

会場：滋賀県立琵琶湖博物館館内各所

日時：2025 年 11 月 15 日（土）および 16 日（日）

「関西文化の日」のため、両日とも常設展示の観覧料は無料。

来館者数：15 日（土）3245 人、16 日（日）4954 人

3）開催プログラム・出展団体

○ワークショップ

のべ件数（ワークショップ）：15 日（土）13 件、16 日（日）16 件（うち、中止 2 件）

出展者数（ワークショップ）：のべ 105 人

参加者数（ワークショップ）：のべ 1075 人

ワークショップ一覧

名称	出展者	日時・場所
お魚クリアファイルを作ろう	はしかけ「びわたん」	15 日（土）10:00-12:00 会議室
お魚キーホルダーを作ろう	はしかけ「うおの会」	15 日（土）10:00-12:00 セミナー室
土の中から虫を探そう	はしかけ「虫架け」	15 日（土）10:00-12:00 生活実験工房

ちこあそびわ博フェス拡大版	はしかけ「ちこあそ」	15日(土)10:00-12:00 15日(土)13:00-15:00 うみっこ広場
里山の木で楽しもう	はしかけ「里山の会」	15日(土)13:00-15:00 生活実験工房
小さいカゴを作ろう	はしかけ 「近江はたおり探検隊」	16日(日)13:00-15:00 生活実験工房
湖流に関わる科学実験	はしかけ 「サロン de 湖流」	16日(日)10:00-12:00 うみっこ広場
びわ博の森のクイズラリー	はしかけ「森人」	16日(日)13:00-15:00 樹冠トレイル
紙テープを魚の形に編み込もう	フィールドレポーターズ スタッフ	16日(日)10:00-12:00 おとなのディスカバリー
ナカニワ湖	Common sense, i	16日(日)10:00-12:00 16日(日)13:00-15:00 屋上広場
オリジナル「トンボフィギア」を作ろう	生物多様性びわ湖ネット ワーク	15日(土)13:00-15:00 会議室
間伐材によるコースター作り	トヨタ紡織滋賀(株)	15日(土)10:00-12:00 実習室2
びわ湖のいきものアート工房	日東電工(株)滋賀事業所	15日(土)13:00-15:00 実習室2
琵琶湖のプランクトン(微小生物)観察会	(株)SCREEN ホールディングス	15日(土)13:00-15:00 実習室1
めざせエコ名人！キッズ免許証ゲットイベント	(株)ジーエス・ユアサバッテリー	16日(日)10:00-12:00 16日(日)13:00-15:00 会議室
再生プラスチックのペレットで傘チャームを作ろう	(株)パンテック	16日(日)10:00-12:00 実習室2
ドライアイスであそぼう！ソーラーカーをつくってみよう！	(株)レゾナック	16日(日)13:00-15:00 実習室2
ヨシの魅力や大切さを楽しく学べるワークショップ	NPO 法人まるよし	15日(土)10:00-12:00 15日(土)13:00-15:00 セミナー室
自然と暮らす ヨシをつかったものづくり体験	NPO法人風と土の交響／山城萱葺(株)	中止(体調不良のため)
動物とのふれあい教室	(公社)滋賀県獣医師会	16日(日)10:00-12:00 16日(日)13:00-15:00 うみっこ広場
野鳥クイズに挑戦してバードウォッチ名人をめざそう	日本野鳥の会滋賀	16日(日)13:00-15:00 実習室1

琵琶湖周辺の身近な生き物の世界をのぞいてみよう	京都大学生態学研究センター	15 日(土)10:00-12:00 16 日(日)10:00-12:00 実習室 1
-------------------------	---------------	---

○展示室での交流

のべ件数(展示交流)：15 日(土)9 件、16 日(日)10 件

出展者数(展示交流)：のべ 131 人

参加者数(展示交流)：のべ 3420 人

展示交流一覧

名称	出展者	日時・場所
琵琶湖とその周辺の小さな生き物を観察しよう	はしかけ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」	15 日(土)10:30-12:00 15 日(土)14:00-15:30 16 日(日)10:30-12:00 16 日(日)14:00-15:30 水族展示室(マイクロアクアリウム)
骨格標本の制作過程の実演	はしかけ「ほねほねくらぶ」	16 日(日)14:00-15:30 おとなのディスカバリー
採集した化石などとのふれあい	湖国もぐらの会	15 日(土)10:30-12:00 15 日(土)14:00-15:30 16 日(日)10:30-12:00 16 日(日)14:00-15:30 A 展示室
もっと知りたい！滋賀の食事文化	滋賀の食事文化研究会	15 日(土)14:00-15:30 水族展示室(魚屋)
ヨシと暮らしの展示	NPO 法人風と土の交響	15 日(土)10:30-12:00 15 日(土)14:00-15:30 ホール前
守山のまちなかに飛ぶゲンジボタル	ルシオールキッズクラブ	16 日(日)10:30-12:00 16 日(日)14:00-15:30 水族展示室(中流域)
滋賀県の野鳥の生態と傷病鳥救護について	放鳥's	16 日(日)14:00-15:30 水族展示室(水鳥)
田んぼがつなぐ人と生き物	滋賀県農政水産部農村振興課	15 日(土)10:30-12:00 16 日(日)10:30-12:00 C 展示室(田んぼ)
湖と人が織りなす物語ー琵琶湖システム	琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会	15 日(土)10:30-12:00 16 日(日)10:30-12:00 C 展示室(田んぼ)

○学芸員と話そう 15日(土)17件、16日(日)10件

虫の形と色／榊永	15日(土)10:00-10:30	おとなのディスカバリー
植物の種類／大槻	15日(土)11:00-11:30	おとなのディスカバリー
琵琶湖学習／渡邊	15日(土)13:30-14:00	おとなのディスカバリー
生態工学／菅原	15日(土)14:30-15:00	おとなのディスカバリー
植物化石／山川	15日(土)11:00-11:30	A展示室
地層の火山灰／里口	15日(土)13:30-14:00	A展示室
花粉化石と森林の歴史／林	15日(土)14:30-15:00	A展示室
考古学／妹尾	15日(土)14:30-15:00	B展示室
自然利用と地域の生活／楊	15日(土)10:00-10:30	C展示室
ヨシの動画／桑原	15日(土)11:00-11:30	C展示室
ヨシの利用／芦谷	15日(土)13:30-14:00	C展示室
湖と海の水質／芳賀	15日(土)14:30-15:00	C展示室
水中の小さな生き物／大塚	15日(土)10:00-10:30	水族展示室
淡水魚や貝の生態／金尾	15日(土)11:00-11:30	水族展示室
滋賀の食／大久保	15日(土)13:30-14:00	水族展示室
水生動物学／松岡	15日(土)14:30-15:00	水族展示室
企画展示ギャラリートーク／島本	15日(土)14:10-15:00	企画展示室
鳥類／佐藤	16日(日) 14:30-15:00	おとなのディスカバリー
古脊椎動物学／半田	16日(日)13:30-14:00	A展示室
湖の道具／加藤	16日(日) 14:30-15:00	B展示室
森林の役割／奥田	16日(土)10:00-10:30	C展示室
小型哺乳類・博物館学／中村	16日(土)11:00-11:30	C展示室
昆虫の多様性／今田	16日(土)13:30-14:00	C展示室
鳥類／亀田	16日(土)14:30-15:00	C展示室
水中の微生物／鈴木	16日(土)11:00-11:30	水族展示室
魚の進化／田畑	16日(土)13:30-14:00	水族展示室
水産／寺井	16日(土)14:30-15:00	水族展示室

○ステージ発表 のべ19件

【15日(土)】 会場：アトリウム 司会：金尾滋史
15:15～ 琵琶湖で育まれた「よし笛」の更なる発展(演奏)／愛(マナ)ミュージック・アカデミー
15:25～ 環境学習センターの紹介／琵琶湖博物館環境学習センター
15:30～ 滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ／ぼてじゃこトラスト
15:40～ 生物多様性びわ湖ネットワークの取り組みについて／生物多様性びわ湖ネットワーク
15:50～ はしかけ、フィールドレポーターに参加しよう／環境学習・交流係
16:00～ 「非常災害用井戸」について／はしかけ「水と暮らし研究会」
16:10～ 四半世紀、滋賀で魚を採りつづけたら、いろいろ分かってきた！／はしかけ「うおの会」
16:20～ 博物館の森では、幼児期からの学びがいっぱい／はしかけ「ちこあそ」
16:30～ 「水辺の魅力調査」の紹介／フィールドレポーター

【16日(日)】 会場：アトリウム 司会：金尾滋史

15:10～ 環境学習センターの紹介／琵琶湖博物館環境学習センター

15:15～ しげるくんエコ大使の活動について／(株)ジーエス・ユアサ バッテリー

15:25～ び・わ・こまるとプロジェクト発表してきました／TANAKAMI こども環境クラブ

15:35～ 流域圏総合環境質研究センターでの取り組み／京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター

15:45～ 日本野鳥の会滋賀 活動紹介／日本野鳥の会滋賀

15:55～ はしかけ、フィールドレポーターに参加しよう／環境学習・交流係

16:00～ 「非常災害用井戸」について／はしかけ「水と暮らし研究会」

16:10～ 大津の岩石調査隊 活動紹介／はしかけ「大津の岩石調査隊」

16:20～ 近江はたおり探検隊 活動紹介／はしかけ「近江はたおり探検隊」

16:30～ 「水辺の魅力調査」の紹介／フィールドレポーター

○ポスター展示 34 件

【出展団体】

琵琶湖博物館フィールドレポーター、はしかけ「うおの会」「近江はたおり探検隊」「大津の岩石調査隊」「温故写真」「暮らしをつづる会」「古琵琶湖発掘調査隊」「植物観察の会」「たんさいぼうの会」「田んぼの生きもの調査グループ」「ちっちゃなこどもの自然あそび ちこあそ」「ほねほねくらぶ」「水と暮らし研究会」「虫架け」「森人」、認可地縁団体勝部自治会、京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター、草津市立水生植物公園みずの森、公益財団法人国際湖沼環境委員会、湖国もぐらの会、(株)ジーエス・ユアサ バッテリー、生物多様性びわ湖ネットワーク、高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）、TANAKAMI こども環境クラブ、日本野鳥の会滋賀、針江生水の郷委員会、放鳥's、ホテルの学校、ぼてじゃこトラスト、NPO法人まるよし、(株)村田製作所、野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）、ルシオールキッズクラブ、(株)レゾナック

○びわ博子ども若者研究発表交流会

【16日(日)】 会場：ホール 司会：桑原康一

10:00～ 伊吹山9合目から山頂におけるカタツムリの生息状況／中山絢心・中山実咲

10:15～ ビワヒガイが集まるナゾの丸い砂底を調べる／上田幸之助

10:30～ イチモンジタナゴと貝の実験／高野風彩

10:45～ 川魚の学習能力を探る ～視覚編～／吉山晃太郎

11:15～ ナナフシとアリ 両者の関係は？／石田藍子

11:30～ 都市に暮らす鳥の鳴き声／鳥飼陽仁

11:45～ 琵琶湖の水鳥の渡りと気象条件／田原瑠衣斗

12:00～ ミジンコの甲殻表面における模様の種によっての違い／石崎佑・鎌田直弘

12:15～ プラクトンの世界をのぞいてみよう PART4～アオコの浄化をめざして～／堀田悠介

○もじあつめ

館内計8か所（初級コース4か所、上級コース4か所）のチェックポイントをまわり、キーワードを完成させる「もじあつめ」を実施した。キーワードは、初級コースが「オオムラサキ」、上級コースが「ジャカゴ」であり、景品として3種類の「びわ博カード」を配布した。2日間で1,591名が正答し、うち1,271名が両コース正答だった。

○交流会

15日(土)17:15～18:30 会場：セミナー室

出展者同士や出展者と博物館職員との交流を深める機会として、交流会を実施した。

4) 「フェスとも」の取組

2024年度より開始した「フェスとも」の取組について、2025年度は、以下のとおり概念を拡大し募集を行った。フェスともとは、より良いフェスを目指すためフェスをともに作り上げてくださる皆様のことで、びわ博フェス2025に一般来館者を受け入れる立場でご参加いただいた。

○フェスともミーティング

フェス同士の募集に当たっては、以下の日程でフェスともミーティングを開催し、募集内容の説明や参加者の意向の確認と相談などを行った。

第1回 2025年6月15日(日)10:30～12:00、琵琶湖博物館会議室

第2回 2025年6月28日(土)15:00～16:30、琵琶湖博物館会議室

第3回 2025年7月1日(火)10:00～11:30、琵琶湖博物館会議室

○「フェスとも出展部」

滋賀県や琵琶湖流域をフィールドとした活動や、湖と人間のよりよい共存関係に繋がる活動を行っていて、普段取り組んでいる活動を多くの人に知ってもらい機会を求めている団体等の方々にご応募いただくものとした。「フェスとも出展部」として、(1)ワークショップ、(2)展示室での展示交流、(3)ステージ発表、(4)ポスター発表のいずれかまたは複数にお申込み・ご参加いただいた。具体的な出展プログラムは、3)に示すとおりである。

○「フェスとも運営部」

「びわ博にかかわる人をもっと知りたい」「スタッフ側でフェスにかかわりたい。フェスをよりよくしたい」と考える個人の方にご応募いただくものとした。「フェスとも運営部」として、やりたいこと・できることを事務局と相談のうえ、今年度のフェスの運営を協働で進めることとし、具体的な取り組み内容は、5)に示す通りである。

5) フェスとも運営部による取り組み

フェスとも運営部には4人が参加し、びわ博カードのデザイン・制作、「もじあつめ」チェックポイントと回答用紙・マップ・案内看板のデザイン、チラシの制作について、事務局と協働で取り組んだ。デザインの得意なメンバーに参画・ご協力いただいたことで、フェスのイメージ作り、会場の空間作りや、わかりやすい配布物、もじあつめや展示物と連動した景品(びわ博カード)といった面を充実させることができた。

5. 琵琶湖博物館環境学習センター

環境学習センターは、環境保全活動につながる環境学習を推進する拠点として、各地域で多様な環境学習が展開されることを目指している。

そのため、環境学習に取り組む県民や自治会等の地域団体、NPO、学校、事業者、行政等、多様な主体による自主的な取組の充実やネットワークづくりを支援するため、以下①～④に係る事業を展開した。

① 環境学習を支えるネットワークづくり、人材の育成

環境学習に携わる多様な立場の人々の交流を促進し、ネットワークづくりを進めるとともに、および指導者のスキルアップを図るため、各種イベントを主催した。

日時	場所	イベント名	内容	参加者数
10月7日	ダイハツ工業株式会社滋賀(竜王)工場 ビジターホールおよびビオトープ	2025年度環境保全活動者交流会	事業者による主体的な環境保全活動の充実を目的とし、「ヨシ」をテーマにダイハツ工業株式会社竜王工場の環境保全活動の事例紹介と専門家によるヨシに関する講演、工場内のビオトープでヨシ刈りの体験とヨシを利用したヒンメリづくりを実施。	21名 (15社)
10月18日	琵琶湖博物館 実習室2/企画展示室/生活実験工房	環境・ほっと・カフェ「蛇籠ってなに？知って、作って、考える。」	環境学習を実践する指導者育成を目的とし、企画展示を利用した蛇籠の歴史と文化に関する講義と、10分の1サイズの竹蛇籠編み体験を実施。	5名
3月21日	琵琶湖博物館 セミナー室	実践知と研究知をつなぐ「琵琶湖学習」	琵琶湖という共有のフィールドをめぐる実践知と研究知を通して、琵琶湖学習や環境活動などをより魅力的に展開するため、連携の仕方や地域活性化について講義とワークショップを実施。	15名

② 環境学習の企画サポート、コーディネート

自治会や子ども会などの地域団体、NPO、学校、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行った。

・環境学習に関する相談対応等：相談件数・267件。教材貸出件数・99件。

日時	場所	イベント名	内容	参加者数
8月22日	琵琶湖博物館 セミナー室	博物館実習	学芸員資格取得を目指す国内大学生のために実施される博物館実習として、企画展「川を描く、川をつくる」をテーマにした環境学習プログラムの企画サポートを実施	14名

③ 次世代育成型環境学習の推進、啓発

子どもをはじめ、親子世代等の環境への関心が薄い層を対象に、地域の自然や暮らしを通して環境への理解を深め、自ら行動する力を育むため、地域の企業や団体と連携した体験型学習や講座を実施するとともに、環境保全への関心を高める普及啓発を行った。

日時	場所	イベント名	内容	参加者数
6月7日・8日	平和堂今津店 セントラルコート	平和堂今津店で「びわこのちから」パネル展示	琵琶湖を含む滋賀県の魅力を紹介するパネルと移動博物館キットを展示した。また、顕微鏡を設置し、訪れた方が琵琶湖のプランクトンを観察できるコーナーを設置	約 100 名
7月9日～7月22日 【ワークショップ実施日】 7月13日（日）、20日（日） 11:00～12:00、14:00～15:00 各日2回（全4回）	近鉄百貨店 草津店 アカリスポット	「夏休み！自由研究応援展」	環境学習センターで貸し出しを行っている観察用キット等の展示。 観察用キットの双眼鏡を用いたワークショップを2日間開催。 双眼鏡の使い、館内での生き物写真探しを実施。	12 組 38 人
10月13日	矢橋帰帆島大はらっぱ広場	「自然とふれあう遊びと学びのたいけんフェア」への出展	琵琶湖の魚と外来種について学ぶことができる「琵琶湖の魚釣りゲーム」ワークショップを実施。	371 名
11月9日	ウォーターステーション琵琶	「第 18 回 水辺の匠」への出展	滋賀県で採集された岩石の説明パネルを展示したほか、岩石や鉱物、植物花粉を顕微鏡で観察することができるコーナーを設置。 観察用キットの「岩石ハンマーを使ってみよう」を用いて、ハンマーで石を割る体験と割った石の観察。	15 名

④ 環境学習に関する情報収集と発信

環境保全に関するイベントや助成制度等の情報収集を行うとともに、ホームページや SNS 等を活用して分かりやすく発信し、県民の環境保全への関心と理解の向上を図り、環境学習活動の推進につなげた。

- ・環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者	学習プログラム	学べる場所	イベント掲載数
140 人	179 本	34 か所	319 件

- ・環境学習センター公式 SNS フォロワー数

X	Instagram	Facebook
516 人	519 人	126 人

⑤ その他

子どもを中心とした環境学習活動の成果発表や交流機会の創出のほか、県内企業による生物多様性保全に関する取組に関する展示等を実施し、環境保全活動への参加意欲の向上と県民への普及啓発を図った。

日時	場所	イベント名	内容	参加者数
9 月 1 日～11 月 14 日	琵琶湖博物館 企画展示室	こどもエコクラブ事業	こどもエコクラブに登録しているクラブの活動成果をまとめた壁新聞・絵日記の展示および表彰を実施	壁新聞応募数： 9 作品 (8 クラブ) 絵日記応募数： 123 作品 (1 クラブ)
12 月 7 日	琵琶湖博物館 ホール・企画展示室	淡海こどもエコクラブ活動交流会	絵日記・壁新聞コンクールの壁新聞の発表および表彰（壁新聞：大賞 1 件、奨励賞 3 件 絵日記：優秀作品賞 3 件）	82 人 (大人：38 人、子ども：44 人) 5 団体
2 月 3 日～3 月 1 日	琵琶湖博物館 アトリウム	琵琶湖博物館 トピック展示 「トンボ 100 大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」	「生物多様性びわ湖ネットワーク (BBN) の生物保全活動成果発表展示	－

3 情報発信・広報 PR 活動

1. インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 15 回程度である。このほか、収蔵資料の情報の公開もしている。今年度は 30 周年記念事業のスタートもあり、より一層の情報提供や SNS 発信に注力することで、多角的な博物館情報の発信を推進した。2025 年度は、解析結果からウェブページの閲覧者数が増加しており、例年より多くの利用者がウェブページを介して琵琶湖博物館の情報を得ていることが読み取れた。インターネットを利用した館外への情報提供は、来館者 50 万人達成にも寄与したと考えている。

(1) ウェブページの閲覧状況

ウェブサイトとアプリの両方からイベントベースのデータを収集する Google アナリティクス 4 (GA4) による、上半期 (2025 年 4 月 1 日から 2025 年 9 月 30 日まで) の利用状況およびアクセスに関する解析結果はつぎの通りである。

計測期間 2025/04/01 - 2025/09/30

ユーザー概要



2024 年度上半期の利用状況と比較すると、総ユーザー数 5.8%減 (2025 年度 338,541 / 2024 年度 359,560)、セッション数 0.1%増 (2025 年度 521,879 / 2024 年度 521,749)、ページビュー数 3.9%減 (2025 年度 1,332,593 / 2024 年度 1,386,531) であった。2024 年度と比較すると、総ユーザー数とページビュー数がやや減少傾向をとるが、それに対し、セッション数 (ユーザーがウェブサイトアクセスし、何らかの操作を行ってから離脱するまでを一連の流れとして計測したもの) に変化がない。すなわち、同一ユーザーが複数回アクセスする機会が増えていて (2025 年度セッション / 総ユーザー数 : 1.54、2024 年度セッション / 総ユーザー数 : 1.45)、サイトの利用頻度は増えていることを意味する。

人気コンテンツ

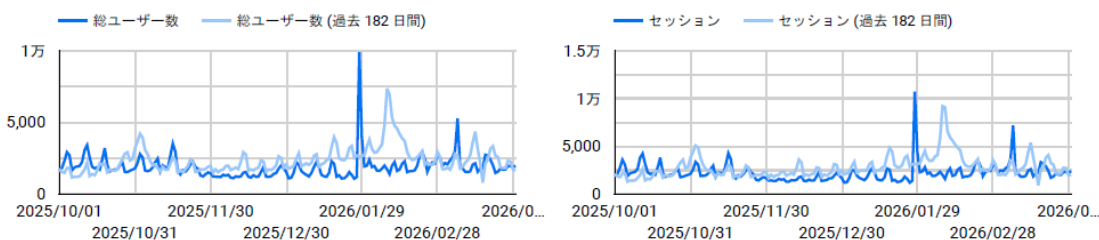
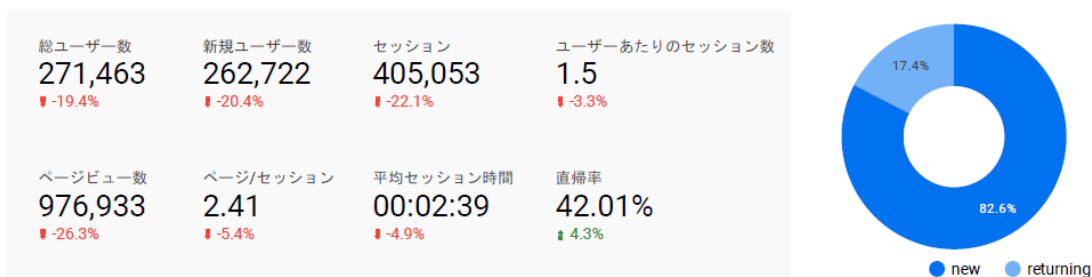
	ページタイトル	セッション
1.	滋賀県立琵琶湖博物館 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	318,864
2.	料金について 滋賀県立琵琶湖博物館	129,854
3.	アクセス 滋賀県立琵琶湖博物館	76,876
4.	展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館	73,843
5.	開館情報 滋賀県立琵琶湖博物館	49,752
6.	利用案内 滋賀県立琵琶湖博物館	43,920
7.	水族展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	40,429
8.	レストランにほのうみ 滋賀県立琵琶湖博物館	27,799
9.	観覧会・見学会 滋賀県立琵琶湖博物館	23,901
10.	A展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	22,250

閲覧されているウェブページの上位は、トップページをはじめ、料金、アクセス、展示紹介など、当館の基本的な情報を掲載したページが中心であり、ウェブページの閲覧の主目的は、来館者が情報を得ることであることが読み取れる。

下半期（2025 年 10 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）の利用状況およびアクセスに関する解析結果は下記の通りである。

計測期間 2025/10/01 - 2026/03/31

ユーザー概要



2024 年度下半期の利用状況と比較すると、2025 年 10 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日は総ユーザー数 20.1% 増(2025 年度 271,463/2024 年度 225,975)、セッション数 21.5%増(2025 年度 405,053/2024 年度 333,340)、ページビュー数 14.8%増(2025 年度 976,933/2024 年度 851,075)であった。2024 年度よりも明らかに増加しているが、その要因は 1 月末にみられたアクセス数の急増である。この間、ナイトミュージアムに関する SNS 情報発信をしていて、おそらくそれと連動したサイトアクセスの結果であると考えている。

また、当館のサイト利用の傾向は、上半期の方が多い。この点は上半期の来館者数が多いことと連動していると考えている。しかしながら 2025 年度と 2024 年度の上半期と下半期の差(2025 年度 67,078/2024 年度 133,585)を比較すると、2025 年度の上半期と下半期の差が縮まっていることが分かる。このことは今年度の閑散期対策に一定の成果が出ていることを物語っている。

人気コンテンツ

ページタイトル	セッション
1. 滋賀県立琵琶湖博物館 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	227,876
2. 料金について 滋賀県立琵琶湖博物館	77,212
3. アクセス 滋賀県立琵琶湖博物館	53,061
4. 展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館	48,242
5. 開館情報 滋賀県立琵琶湖博物館	39,656
6. 利用案内 滋賀県立琵琶湖博物館	28,508
7. 水族展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	26,245
8. 琵琶湖博物館30周年記念事業 ナイトミュージアム・プレミアムナイトツアーを実施します！ 滋賀県立琵琶湖博物館	25,772
9. レストランにほのうみ 滋賀県立琵琶湖博物館	18,287
10. 観察会・見学会 滋賀県立琵琶湖博物館	16,560

下半期で閲覧されているウェブページの上位の内容は上半期とほぼ同じであるが、特筆する点としてナイトミュージアムが入っている。

(2) ウェブページの更新

利用者に資する様々な情報発信のために掲載内容を高頻度で更新をしている。主なものは、びわ博ニュース（資料提供やお知らせなど）、企画展示・その他の展示（企画展やギャラリー展・トピック展示の情報）、イベント情報（観察会、研究セミナー情報など）、出版物掲載（フィールドレポーターだより、はしかけニューズレターなど）また、臨時休館や関西文化の日で常設展無料など、多くの利用者にとって広く発信すべき内容については、トップページ上部へ掲載するバナーを作成、掲載した。

主な情報発信件数は以下のとおり（日常的な修正を除く）。 合計 158 件

項目	件数
びわ博ニュース	78 件
企画展示・その他の展示	13 件
イベント情報	62 件
出版物掲載	5 件

このほか、より利用しやすいウェブページとするべくコンテンツ追加やレイアウト等の更新を実施した。以下に主な更新箇所を示す。

- トップページフッターのお問い合わせ先（学芸員、取材・広報、学校団体、ショップ、レストラン）の更新および各個別の説明ページの作成
- 「利用案内」の項目、料金、学校利用、団体利用の更新および料金表の改変
- 「イベント」の項目、びわ博フェスの更新
- 「学ぶ・調べる」の項目にエコロシーが案内タブの追加と案内ページの作成

2. 情報システムの整備・更新

(1) 端末機器の更新・廃棄

OS Windows10 のサポートの終了に伴い、利用不可となった端末機器の廃棄手続き、および処理作業を実施し、54 台の情報端末機器を廃棄した。

(2) セキュリティ等

2023 年度より運用している滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で常時監視をしている。さらに、研究利用等で頻繁にインターネット接続をする端末に対してのセキュリティ強化を目的に、Microsoft Defender と連携した、EDR (Endpoint Detection and Response : ユーザーが利用するパソコンやサーバーにおける不審な挙動を検知し、迅速な対応を支援するセキュリティソリューション) である FFRI yarai をインストールすることで、ウィルス等への頑強性を高めている。

(3) デジタル琵琶湖博物館への誘導

中長期計画の一環として本館で掲げている「ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」を推進するべく、ウェブページ上の「学ぶ・調べる」の項目に公開しているウェブ図鑑のページを更新し、デジタル琵琶湖博物館の利用を推進するべく、その概要と内容（生き物図鑑、昔の道具、文献、研究遺産、びわこクイズ、びわはく GIS）を説明するページを作成した。

3. 印刷物一覧

2025 年度の印刷物は下記のとおりである。

月	品名	サイズ	ページ数	印刷部数
4 月	クラウドファンディング特別感謝状 (ビワコオオナマズ実寸大ポスター)	1120mm×392mm	1	200
4 月	びわはく第 9 号	A4	12	6,000
4 月	令和 7 年度企画展示「川を描く、川をつくる —古地図で昔の堤を探る—」チラシ	A4	2	25,000
4 月	令和 7 年度企画展示「川を描く、川をつくる —古地図で昔の堤を探る—」ポスター	A1	1	1,000
4 月	学習ガイド	A4 (2 つ折り)	4	
5 月	琵琶湖博物館研究調査報告第 38 号 「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立 過程」	A4	170	50
5 月	「絵日記・壁新聞コンクール」作品募集チ ラシ	A4	2	4,000
5 月	琵琶湖博物館「リーフレット」	210mm×395mm	8	7,500
5 月	琵琶湖博物館「リーフレット」	210mm×395mm	8	100,000
6 月	令和 7 年度企画展示「川を描く、川をつくる —古地図で昔の堤を探る—」展示図録	A4	108	800
8 月	琵琶湖博物館 共通券 一般	78mm×170mm	1	18,000
8 月	琵琶湖博物館 共通券 大学生	78mm×170mm	1	3,000
9 月	クラウドファンディング特別感謝状 (日本画家村越由子さん作)	A1	1	100
9 月	びわ博フェス 2025 チラシ	A4	2	5,000
10 月	琵琶湖博物館「リーフレット」	210mm×395mm	8	100,000
11 月	環境学習センター紹介チラシ	A4	2	5,000
12 月	滋賀県立琵琶湖博物館 要覧 第 13 版	A4	36	350
12 月	琵琶湖博物館「リーフレット」	210mm×395mm	8	10,000

12 月	琵琶湖博物館「リーフレット」英語版	210mm×395mm	8	10,000
1 月	ギャラリー展示「民俗学者橋本鉄男がみた近江 ―滋賀民俗研究のいしずえ―」チラシ	A4	2	5,000
1 月	ギャラリー展示「民俗学者橋本鉄男がみた近江 ―滋賀民俗研究のいしずえ―」ポスター	A1	1	300
1 月	琵琶湖博物館資料目録第 20 号 「橋本鉄男旧蔵資料 滋賀民俗研究の先覚者と その足跡」	A4	162	250
2 月	教員用ガイドブック「琵琶湖と子どもの出 会いと創る びわ博ガイドブック（教員向け）」	A4	100	500
2 月	琵琶湖博物館「リーフレット」	210mm×395mm	8	100,000
2 月	クラウドファンディング特別感謝状 （コアユの群れポスター）	A1	1	100
3 月	びわ博ディスカバリーシート	A4	8	5000
3 月	おいでよ！ちこあそ はくぶつかんのたんぼ のいちねん（上製本）	A4 変形(210×210 mm)	28	90
3 月	おいでよ！ちこあそ はくぶつかんのたんぼ のいちねん（中綴じ）	A4 変形(210×210 mm)	28	300

4. 広報 PR 活動

広報活動は、琵琶湖博物館ウェブページでの発信以外に、当館からの情報を資料提供や記者発表として発信するほか、今年度は YouTube チャンネルや SNS プラットフォームを使い、博物館活動を伝えるほか、博物館の使い方、見どころと言った、琵琶湖博物館の活用方法を紹介し、博物館利用をスムーズに実施するための動画を作成した。

YouTube チャンネルは 18 件の動画を公開し、Facebook へ 260 件、Instagram へ 254 件、X へ 268 件の記事の投稿を行った。有料広告は 3 件、資料提供・記者発表を 77 件、テレビ等放送が 57 件、新聞、雑誌掲載 481 件、学校等団体への広報活動として、25 件の会合等への出席と学校 105 校へ訪問して博物館の紹介等を行った。

また、広報業務委託による広報活動を実施し、パブリシティ活動や認知度向上に向けた各種事業を展開した。その内容は下記の通りである。

- ・PR 事務局設置（メディア問い合わせ対応）＊
- ・メディアリストメンテナンス
- ・配信業務＊
- ・PR ツール作成
- ・メディアプロモート活動＊
- ・メディアコンタクトレポート作成
- ・月次露出報告書作成
- ・露出記事クリッピング
- ・露出獲得に向けた PR 活動（ビワマス新種記載、企画展示、ナイトミュージアムなど）
- ・YouTube 動画制作＊
- ・ミーティング実施
- ・認知度調査実施

（＊のついた項目の件数等は、表を参照。）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	掲載・放映に至った件数
PR 事務局問い合わせ対応	－	－	1	12	12	12	7	11	10	8	18	11	－
配信業務（回）	－	－	1	5	4	4	5	1	7	8	5	9	－
－メール	－	－	218	1090	872	872	1090	228	1526	1744	1090	1962	－
－FAX	－	－	85	418	331	332	419	84	586	678	397	731	－
－PRTIMES	－	－	25	125	100	100	125	25	175	200	125	225	－
メディア露出件数-TV・通信	4	1	1	0	4	1	1	5	1	0	2	1	21
－新聞・雑誌	36	17	13	49	42	26	14	20	30	29	17	33	326
－WEB	37	35	56	358	156	132	152	82	226	297	201	374	2106
メディア露出件数計	77	53	70	407	202	159	167	107	257	326	220	408	2453
YouTube 動画の公開 【委託業務による制作本数】	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	2	1	8

（１）YouTube による発信

１）公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」での発信

琵琶湖博物館の認知度向上活動内容について詳しくより知ってもらうために、2022 年 2 月から運用している。今年度も研究活動や博物館事業に関する動画を中心に公開した。今年度は、登録者数が 3 倍以上に増加し、3 万人を突破した。

	登録者数	閲覧回数	再生時間 (時間)	インプレッション 数
累計	34,017	1,519,748	76,090.6	3,170,744
2025 年度増加分 (前年度)	24,883 (1,776)	211,149 (505,656)	5,527.9 (28683.3)	983,679 (845,261)

2025 年度は以下の 18 件の動画を作成・公開した。35 年の空白を経て学名がついたビワマスの研究成果や 30 周年記念の一つとしてマイクロドローンの館内映像などを作成した。

公開日	タイトル (※印については広報委託事業による制作)	出演・担当
4 月 10 日	【淡水魚シリーズ 1】琵琶湖岸におけるホンモロコの産卵	川瀬
4 月 22 日	岩石ハンマーを使って鉱物や化石を採集しよう！	環境学習センター
4 月 22 日	双眼鏡を使ってバードウォッチングをしよう！	環境学習センター
4 月 25 日	船に乗ってびわ博へ！【琵琶湖博物館クルーズ編（おごと温泉港～草津烏丸半島港）】※	企画・広報営業課
4 月 25 日	船に乗ってびわ博へ！【LAGO クルーズ編（におの浜観光桟橋～草津烏丸半島港）】※	企画・広報営業課

4月25日	道案内その1（草津烏丸半島港～琵琶湖博物館）＊	企画・広報営業課
4月25日	道案内その2（駐車場～琵琶湖博物館）＊	企画・広報営業課
5月8日	【淡水魚シリーズ 2】 ウシモツゴのなわばりとケンカ	川瀬
5月21日	【淡水魚シリーズ 3】 ヒメハヤの産卵行動	川瀬
9月12日	35年も名前がなかったビワマスに学名がつくまでの裏側全部話します！【琵琶湖博物館】＊	田畑
11月10日	【地図から土地の歴史を知る！】江戸・明治期の古地図で、川と森の景観の変化を調査！＊	島本・中村
12月19日	布はどう作られる？植物から糸、布ができるまでを解説【はしかけ活動】＊	大久保・近江はたおり探検隊（はしかけ）
1月27日	昼には味わえない特別な体験！琵琶湖博物館のナイトミュージアムを覗いてみよう！＊	林
1月22日	少し視点を変えるだけで散歩が楽しくなる！学芸員が教える公園の歩き方！＊	館長・佐藤
2月27日	【写真好きな学芸員が伝授】琵琶湖博物館のフォトスポットを綺麗に撮影する方法とは？＊	金尾・鈴木
2月28日	展示から読み解く昭和39年の農村の暮らし【琵琶湖博物館】＊	大久保
3月25日	地図から埋もれた猿尾をさぐる	島本、中村
3月17日	マイクロドローン館内映像【30周年記念】	山川・中村

（2）SNSによる発信

琵琶湖博物館のさまざまな活動等をより知ってもらうために、展示をはじめとするさまざまな活動や学芸員紹介、研究活動などの紹介のほか、展示室や屋外展示でその時期に観察できるものなど、時期限定の即時性が求められる内容の記事を、写真や動画を含めて投稿した。ナイトミュージアム開催の投稿では、Xでの表示が120万件、いいねが2万件を数えた。

各SNSアカウントの基本情報(2026年3月31日現在)

	フォロワー数	リアクション数	2025年度投稿数
Facebook	6985	47,014	260
Instagram	6895	32,045	254
X（旧Twitter）	9296	—	268

(3) 有料広告の掲載

本年度は下記の 2 件の有料広告を掲載した。

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数	内容
6 月 13 日	「LMAGA MOOK 滋賀 本」	AB 判	カラー 1 頁	関 西 ほ か 全 国 主 要 書 店	約 1 万部	常設展示紹介
2 月 18 日	産経新聞	朝刊	半 2 段モノクロ (縦 66mm×横 189mm)	滋 賀 ・ 京 都 ・ 奈 良 ・ 和 歌 山	約 8 万部	ナイトミュージ アム

(4) 資料提供・記者発表

本年度は下記の 64 件について実施した。

提供日	件 名
4 月 3 日	開館から 3 番目の来館者数 52 万人を達成しました
4 月 9 日	琵琶湖博物館館長・名誉館長が執筆した「鵜飼の日本史」が刊行されました
4 月 18 日	水族展示室「ふれあい体験室」コーナーの展示を再開します
4 月 25 日	水族トピック展示「里山のヨウセイ ヤマトサンショウウオの幼体」を開催します
4 月 25 日	ギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史」を開催します
5 月 2 日	目録贈呈式の開催について(5 月 6 日開催：マーシー様)
5 月 27 日	琵琶湖博物館×びわ湖大津プリンスホテル 琵琶湖の生き物をテーマにした「コラボルーム」が登場
5 月 30 日	「サワガニがつくる地中の迷路」展示を水族展示室に新設します
6 月 3 日	平和堂 今津店にて「びわこのちから展」を開催します！
6 月 6 日	感謝状贈呈 式の開催について(6 月 10 日開催：東レエンジニアリング(株)他 2 社)
6 月 6 日	滋賀県東近江市で伝統的な治水施設「猿尾(さるお)」を再発見した研究成果が公開されました。
6 月 10 日	琵琶湖博物館研究調査報告第 37 号&第 38 号が J-STAGE 上でオンライン公開されました
6 月 10 日	「近江のナレズシ」と「生き物供養碑」の調査結果を琵琶湖博物館フィールドレポーター交流会で報告します

6月25日	近鉄百貨店 草津店にて「夏休み！自由研究応援展」を開催します！双眼鏡を使用したワークショップも実施します！
6月27日	琵琶湖固有の新種としてビワマスに学名が付けられました
7月11日	感謝状贈呈式の開催について(榊木下カンセー様)
7月11日	琵琶湖博物館企画展示「川を描く、川をつくる」を開催します
7月15日	「淡海こどもエコクラブ 絵日記・壁新聞コンクール」の作品を募集します！
7月15日	世界湖沼の日制定記念 2025 年水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」を開催します！
7月22日	琵琶湖博物館企画展示・水族企画展示に対する「応援ラッピングパッカー車」が運行しています — 株式会社木下カンセー × 琵琶湖博物館 による連携事業 —
8月6日	「ミクロの世界にようこそ」琵琶湖博物館の学芸員と「はしかけ」会員たちがプランクトンの生き様を紹介する本を出版しました
8月19日	過去 15 万年間の日本海堆積物の花粉化石に関する研究成果が国際学術誌に公開されました。
8月26日	「2025 年度 環境保全活動者交流会」を開催します！
8月29日	琵琶湖博物館企画展示「川を描く、川をつくる」第2期の古地図資料の展示がはじまります
9月5日	琵琶湖博物館学芸員が日本第四紀学会の学術賞・論文賞をダブル受賞しました
9月9日	「淡海こどもエコクラブ 絵日記・壁新聞コンクール応募作品展」および「淡海こどもエコクラブ活動交流会」を開催します！
9月22日	「環境・ほっと・カフェ 蛇籠ってなに？ 知って、作って、考える」琵琶湖博物館 企画展示連動講座に、ご参加ください！
9月29日	目録・感謝状の贈呈式を開催しました（株ダイフク）
10月1日	令和7年度第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
10月3日	福井県年縞博物館との連携展示「湖ラボ展」を開催します！
10月6日	感謝状の贈呈式を開催しました（株ブリヂストン彦根工場、株SCREEN ホールディングス）
10月17日	琵琶湖博物館企画展示「川を描く、川をつくる」第3期の古地図資料の展示がはじまります
10月29日	琵琶湖博物館でカイツブリの人工育雛に初めて成功

10月31日	琵琶湖博物館企画展示「川を描く、川をつくる」担当学芸員によるギャラリートークを実施します！
11月1日	魅力ある琵琶湖をテーマに、子ども若者が研究発表します！
11月7日	びわ博フェス 2025 を開催します
12月2日	淡海こどもエコクラブ「絵日記・壁新聞コンクール応募作品展」&「活動交流会」を開催！
12月2日	琵琶湖博物館の定期生物環境調査で外来種の害虫・ニューハクシミとみられる個体が見つかりました
12月5日	琵琶湖博物館で見つかった個体がニューハクシミと同定されました
12月11日	琵琶湖博物館で迎春準備 交流イベント「【田んぼ体験】しめ縄づくり」を開催します
12月12日	連続講座「地域の魅力の再発見」を開催します
12月18日	第 16 回琵琶湖地域の水田生物研究会を開催します
12月26日	ディスカバリールームで午（干支）にまつわるお正月イベント・ミニ展示を開催します！
1月6日	「ふれあい体験室」コーナーでワークショップを実施します
1月8日	水族トピック展示見たことありますか？ビワマスの赤ちゃん！
1月27日	琵琶湖博物館 開館 30 周年記念ロゴマークが決定！
1月27日	琵琶湖博物館 30 周年記念事業 ナイトミュージアム・プレミアムナイトツアーを実施します！
1月27日	トピック展示「琵琶湖博物館 30 周年記念 生物多様性びわ湖ネットワーク トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！～」を開催します
1月27日	ナイトミュージアム特別企画「ヨシ灯りをつくろう」を開催します！
1月30日	ナウマンゾウ化石に付着していた堆積物から生息当時の環境を復元することに成功しました！
1月30日	琵琶湖博物館の学芸員が執筆に参加した「民俗学」の教科書が刊行されました
2月5日	令和 7 年度第 2 回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
2月6日	イチゴに似た表面の凹凸を持つケイソウを発見

2月6日	開館 30 周年記念文集に掲載するあなたとびわ博のエピソードを募集しています
2月27日	ディスカバリールームでひなまつり特別イベント
3月3日	「民俗学者 橋本鉄男がみた近江」を開催します
3月4日	琵琶湖博物館 30 周年記念事業 ナイトミュージアムを今週末に実施します！
3月6日	「にょい体験」展示を6年ぶりに再開します！
3月6日	琵琶湖博物館で初めて希少種・ヤマトサンショウウオが産卵しました
3月12日	実践知と研究知をつなぐ「琵琶湖学習」を特別開催します
3月13日	令和7年度（2025年度）来館者数 50 万人達成目前となりました！
3月18日	令和7年度（2025年度）の来館者数 50 万人を達成しました！
3月24日	日本生態学会自然史研究振興賞を琵琶湖博物館学芸員が受賞しました。
3月31日	琵琶湖博物館公式 YouTube「びわこのちからチャンネル」チャンネル登録者数が急増して 3 万人を突破しました！

（5）テレビ放映記録 51 件

放送日	番組名	内容	局名
4月1日	かんさい情報ネット t e n .	感ドー！ハッピー！おつかれ飯	読売テレビ
4月6日	開運！なんでも鑑定団	滋賀県 草津市	テレビ東京
4月8日	よんチャンTV	5時ニュース びわ湖南部 人気和菓子店に新航路も	MBS 毎日放送
4月9日	よんチャンTV	今週のわかる！ケーザイニュース	MBS 毎日放送
4月23日	おうみ630	ふれあい水槽再開	NHK 大津
4月27日	しらしがテレビ	当館紹介	びわ湖放送
4月30日	おうみ！かわらばん	ふれあい水槽再開	ZTV
5月2日	かんさい情報ネット t e n .	カラフル あたら滋賀 新航路で人気店へ	読売テレビ
5月5日	ニュース	こどもの日無料開放とふれあい体験室の賑わいについて	びわ湖放送

5月7日	ザ・バックヤード	当館	NHK
5月16日	ギョギョッとサカナ★スター	ホンモロコ	NHK
6月8日	関西のニュース	ぼてじゃこトラストとイチモンジタナゴ	NHK 大阪
6月13日	ギョギョッとサカナ★スター	ワタカ	NHK
6月30日	よんちゃんTV	5時ニュース ビワマス 琵琶湖固有の新種として学名	MBS 毎日放送
7月1日	ニュース	びわ湖固有の新種として「ビワマス」に世界共通の学名	びわ湖放送
7月26日	滋賀経済 NOW	当館関連工事	びわ湖放送
8月1日	巨大魚&幻の魚を追え！	(ナニワの魚を大調査 第6弾)	NHK 大阪
8月4日	おうみ！かわらばん	企画展示	ZTV
8月7日	NHK WORLD-JAPAN	CORE KYOTO・琵琶湖疏水	NHK 国際放送
8月11日	ニュース・気象情報（関西）	（ニュース） びわ湖の微生物を観察する催し	NHK 大阪
8月12日	ニュース	8月27日は世界湖沼の日 企画展『淡水魚から見る世界の湖沼』	びわ湖放送
8月17日	NHKニュース おはよう日本	（ニュース） びわ湖で発見！謎のカワニナ	NHK
8月19日	NHKニュース おはよう日本	（ニュース） 「ビワマス」に新たに学名	NHK 大阪
8月21日	おうみ発 630	琵琶湖で発見！謎のカワニナ	NHK 天津
9月4日	秘密のケンミンショー極	武元唯衣さんからの紹介	読売テレビ
9月19日	金曜おもしろ滋賀	白いカラス	びわ湖放送
9月21日	おとな旅あるき旅	草津紹介	テレビ大阪
9月21日	おうみ発 630	「イナズマロック フェス」始まる 滋賀県の魅力も発信 草津	NHK 天津
9月28日	ニュース・気象情報（関西）	滋賀県草津市・气象台や専門家から防災について学ぶ	NHK 大阪
10月15日	ノンストップ！	虻ちゃんのこれからベタ旅 i n 高知県	フジテレビ

11月14日	櫻井信五の鬼スケ旅 Season2	世界で多分ここだけ！琵琶湖博物館で巨大ザリガニ体験！	日本テレビ
11月14日	おうみ発 630	しが生き物図鑑 ノロ	NHK 大津
11月14日	おうみ発 630	おうみ週末ナビ びわ博フェス	NHK 大津
11月19日	ほっと関西	(ニュース) 滋賀 人工ふ化のカイツブリ展示	NHK 大阪
11月24日	ニュース (関西)	(ニュース) アオコの発生日数が過去最多に	NHK 大阪
11月24日	ニュース・気象情報 (関西)	(ニュース) アオコの発生日数が過去最多に	NHK 大阪
11月25日	ぐるっと関西おひるまえ	ぐるっと関西 県の鳥「カイツブリ」人工的に育て展示中	NHK 大阪
12月4日	よ〜いドン！	<となりの人間国宝さん>滋賀・草津駅からぶらり歩き・1	関西テレビ
12月13日	おうみ！かわらばん	カイツブリ幼鳥	ZTV
12月24日	おうみ発 630	ニューハクシミ	NHK 大津
1月6日	ニュース	書き初め体験	びわ湖放送
1月17日	ブラタモリ	琵琶湖関連	NHK
1月30日	おうみ発 630	しが生き物図鑑 コアユ	NHK 大津
2月4日	ミラクル9	クイズで振り返る昭和・平成・令和 S P 1st タイムマシンQ	テレビ朝日
2月6日	しらがTV	ナイトミュージアム告知	びわ湖放送
2月14日	ジャーニーみなしが	滋賀県立琵琶湖博物館 びわ湖の固有種・ビワマスの赤ちゃん展示	ZTV
2月14日	関口宏の雑誌の記憶	当館紹介	BS 朝日
3月8日	おうみ！かわらばん	ヨシ灯りをつくろう	ZTV
3月9日	ニュース滋賀いろ	ナイトミュージアム	びわ湖放送
3月27日	おうみ発 630	シーボルト関連	NHK 大津
3月30日	やさしいニュース	謎解きリポート 竜の骨が見つかった！？	テレビ大阪

(6) 新聞雑誌掲載記録 326 件

掲載日	掲載テーマ	掲載社名
4 月 2 日	癖あり発酵グルメ、未来へ／琵琶湖ふなずし／海外意識、斬新アレンジ	中部経済新聞（名古屋）
4 月 2 日	オオナマズ水槽 公開遅れる 琵琶湖博物館 工事難航で	中日新聞（県版）滋賀版
4 月 2 日	「たねや」と大津港、船で15分 琵琶湖新航路、訪日客招く	日本経済新聞（大阪）
4 月 3 日	琵琶博、水槽再開遅れ 修理完了せず 今年度前半目指す	滋賀京都新聞（大津）
4 月 3 日	日本最小！ ハッチョウトンボ すみか守れ 県内企業や団体 竜王で環境整備	中日新聞（県版）滋賀版
4 月 4 日	琵琶博へ52万人、過去3番目多さ 2024年度来館者数	滋賀京都新聞（大津）
4 月 4 日	琵琶湖博物館 52万6918人来館 24年度、過去3番目の多さ	中日新聞（県版）滋賀版
4 月 6 日	ぐぐっと京都 種の保存へ 繁殖に挑戦 絶滅危惧種の淡水魚「タンゴスジシマドジョウ」	京都新聞（京都）
4 月 6 日	「万博ついでに滋賀周遊を」 県立ミュージアム5館 合同会見	中日新聞（県版）滋賀版
4 月 7 日	水質保全研究で5件成果報告、琵琶湖・淀川水質保全機構	水道産業新聞
4 月 7 日	国内外来魚、比謝川定着／専門家「生息域広げないで」	琉球新報（那覇）
4 月 8 日	スナヤツメ、新種の仲間も 県の絶滅危機増大種 琵琶湖博物館 ／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
4 月 9 日	発酵グルメ 未来へ ／「癖あり」食品 海外も意識／「琵琶湖ふなずし」が変身	沖縄タイムス
4 月 9 日	あの時私は 戦後80年20紙企画（5）／3月18日 川那部浩哉（かわなべ・ひろや）さん	長崎新聞（長崎）
4 月 9 日	新たな湖上観光へ定期船 LAGO大津や琵琶博など巡る3ルート	滋賀京都新聞（大津）
4 月 9 日	空兵衛造船所：湖上交通、渋滞緩和に期待 LAGO大津など結ぶ3ルート	毎日新聞（県版）滋賀版

4月10日	南湖の観光地をつなぐ3航路 定期船 12日に運航開始	中日新聞（県版）滋賀版
4月10日	カヤック、自転車 登山で40キロ巡る 来月17、18日 東近江＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
4月10日	観光地つなぐ 新3航路 渋滞対策 琵琶湖の魅力発信＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
4月11日	琵琶湖南部、新たに3航路 「LAGO大津」など結ぶ あすから、杣兵衛造船所／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
4月13日	湖上観光新ルートが運航 琵琶博・LAGO大津など結ぶ3航路	滋賀京都新聞（大津）
4月15日	自然環境を学びスポーツで体感 来月17、18日催し 東近江	中日新聞（県版）滋賀版
4月17日	長浜・米川に年越しアユ 湧き水温かく 「夏まで」期待	中日新聞（県版）滋賀版
4月17日	琵琶湖 魅力いろいろ 県の動画で「小事典」で インスタでは質問募る 30日まで	中日新聞（県版）滋賀版
4月17日	新種スナヤツメと仲間展示 琵琶湖博物館／京都府	朝日新聞（県版）京都版
4月23日	希少な魚 もっと身近に 琵琶湖博物館 ふれあい体験室再開	中日新聞（県版）滋賀版
4月25日	琵琶湖の小さな世界 本に 滋賀大名誉教授ら 大津の小中に寄贈＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
4月25日	こどもの日 無料で開放 県立美術館など5施設＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
4月26日	こどもの日 県立5施設無料開放 18歳未満と保護者対象	中日新聞（県版）滋賀版
4月26日	「こどもの日」、5施設を開放 県、美術館など／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
4月27日	希少種の稚魚、近くで見てね ふれあい体験室再開 琵琶湖博物館／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
4月28日	万博で創ろう観光レガシー 2府4県×旅館協会関西クロストーク	観光経済新聞（東京）
4月28日	琵琶湖新航路で初夏の風感じて 湖岸の観光地結ぶ定期船開始	西日本新聞（福岡）
4月29日	大阪・関西万博 EXPO2025 京都・滋賀 公式スタンプラリー	滋賀京都新聞（大津）

4月29日	列島各地の話題 滋賀、栃木	秋田魁新報（秋田）
4月30日	初夏の風、琵琶湖新航路 湖岸の観光地結ぶ定期船 混雑避け、非日常感堪能	神戸新聞（神戸）
5月1日	魚ふれあい もっと楽しんで 琵琶博 体験室再開 タッチプールなど改修＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
5月2日	コケの研究者 足跡たどる 琵琶湖博物館 パネルや標本展示	中日新聞（県版）滋賀版
5月3日	ヤマトサンショウウオ 成長見て 来月1日まで 琵琶湖博物館で幼生初展示	中日新聞（県版）滋賀版
5月6日	インサイド 琵琶湖外来魚 ブルーギル激減 ブラックバス駆除	滋賀京都新聞（大津）
5月6日	琵琶湖の“厄介者”激減 外来魚 ブルーギル 最盛期の10分の1以下に	滋賀京都新聞（大津）
5月7日	ユーチューバー マーシーさん 琵琶湖博物館に9万円寄付	中日新聞（県版）滋賀版
5月7日	動画収益 琵琶博に寄贈 ユーチューバー・マーシーさん＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
5月9日	まちかど 9日 滋賀	滋賀京都新聞（大津）
5月9日	おこめと私たち びわ博のまなざし（39） 田んぼと水利 琵琶湖から引けず水不足悩む	滋賀京都新聞（大津）
5月10日	長浜に大型円墳… 発見は地元の医師 松井さん 地形図の起伏から直感	中日新聞（県版）滋賀版
5月20日	《連載：あの時私は 戦後80年20紙企画》（5） 1945年3月18日 京都 川那部浩哉さん	茨城新聞（水戸）
5月20日	「希少種」赤ちゃん愛嬌 ヤマトサンショウウオ 琵琶湖博物館で展示	滋賀京都新聞（大津）
5月21日	湖国のコケ 神秘の世界 琵琶博 学会開催 合わせ、初の企画展 固有種などの生態	滋賀京都新聞（大津）
5月22日	GW人出 湖国観光地は減少 昨年比、滋賀県まとめ 休日飛び石・雨天影響か	滋賀京都新聞（大津）
5月22日	琵琶博「ふれあい体験室」再開 魚や貝の生態、間近に 川や水路、のぞき込む展示	滋賀京都新聞（大津）
5月23日	アメリカナマズ、琵琶湖に脅威 瀬田川下流で定着 「生態系に影響、漁業も打撃」	朝日新聞（県版）滋賀版

5月27日	カワウと人 関わりを考える 美浜 生物多 様性の日に合わせ催し	中日新聞（県版）知多版
6月2日	外来魚釣り環境考える 大津港周辺 ブルー ギルなど	滋賀京都新聞（大津）
6月4日	琵琶湖新航路、伸び悩み 運航会社「乗客、想 定の2～3割」 近隣ホテルと連携探る	日本経済新聞（大阪）
6月8日	安曇川に“珍客”現る！ ヤナに体長1メー トル超オオサンショウウオ	滋賀京都新聞（大津）
6月8日	まちかど 8日 滋賀	滋賀京都新聞（大津）
6月10日	迷える？神の使い 聾話学校敷地で保護 び わこベースで展示＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
6月12日	琵琶博コラボルームへダイブ 大津プリンス ホテル 夏限定 魚のぬいぐるみ VRで水 中探検	中日新聞（県版）滋賀版
6月16日	生き物供養碑「75件確認」 滋賀県民ら調査、 琵琶博で報告	滋賀京都新聞（大津）
6月17日	琵琶博、びわ湖大津プリンスが宿泊企画 ずっ と「琵琶湖三昧」プラン	滋賀京都新聞（大津）
6月20日	第01回 自然と生きる建築 ー滋賀県近江八幡 市ほかー	ひととき
6月23日	滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長 金子博美氏 滋賀県旅組のかじ取り	観光経済新聞
6月27日	情報ワイド マチカネワニ化石 世界へはば たけ 天然記念物指定お待ちかね	滋賀京都新聞（大津）
6月28日	田んぼに魚 見つけた！ 野洲・須原地区 親子ら130人観察会＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
6月30日	琵琶湖ビワマス 実は新種だった 近縁アマ ゴと違い解明 100年ぶり新たな学名	京都新聞（京都）
7月2日	ビワマスに初の学名 琵琶博や京大研究 新 種記載 19日から基準の標本展示	中日新聞（県版）滋賀版
7月7日	「琵琶湖の宝石」ビワマスに初学名 100年 越しの標本ミス修正 保全期待	産経新聞（大阪）夕刊

7月11日	明治以前の伝統的治水設備 「猿尾」痕跡 愛知川で発見 琵琶博など東近江で調査	滋賀京都新聞（大津）
7月13日	ビワマス、新種の学名 オンコリンカス・ビワエンシス /滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
7月13日	淀川からの使者 シマヒレヨシノボリ	産経新聞（県版）京都版
7月13日	淀川からの使者 シマヒレヨシノボリ	産経新聞（県版）滋賀版
7月15日	（多事奏論）輸入に頼るウナギ 食べ継いで文化を守るには 長沢美津子	朝日新聞（東京）
7月15日	（多事奏論）輸入に頼るウナギ 食べ継いで文化を守るには 長沢美津子	朝日新聞（札幌）
7月15日	（多事奏論）輸入に頼るウナギ 食べ継いで文化を守るには 長沢美津子	朝日新聞（名古屋）
7月15日	（多事奏論）輸入に頼るウナギ 食べ継いで文化を守るには 長沢美津子	朝日新聞（大阪）
7月15日	（多事奏論）輸入に頼るウナギ 食べ継いで文化を守るには 長沢美津子	朝日新聞（北九州）
7月16日	サーフィン施設でまちづくり 烏丸半島で開業予定 草津市と事業者協定	中日新聞（県版）滋賀版
7月16日	夏休みの自由研究で使って 琵琶博、近鉄草津店で展示 顕微鏡など貸し出しキット	滋賀京都新聞（大津）
7月17日	ビワマス：オンコリンカス・ビワエンシス ビワマス 固有新種認定	毎日新聞（県版）滋賀版
7月20日	グローブ331号＜湿地回復 ラムサール条約から50年＞水田という人間がつくった湿地 人の生活に不可欠な存在 日本	朝日新聞（東京）
7月20日	グローブ331号＜湿地回復 ラムサール条約から50年＞水田という人間がつくった湿地 人の生活に不可欠な存在 日本	朝日新聞（札幌）
7月20日	グローブ331号＜湿地回復 ラムサール条約から50年＞水田という人間がつくった湿地 人の生活に不可欠な存在 日本	朝日新聞（名古屋）

7月20日	グローブ331号<湿地回復 ラムサール条約から50年>水田という人間がつくった湿地 人の生活に不可欠な存在 日本	朝日新聞（大阪）
7月20日	グローブ331号<湿地回復 ラムサール条約から50年>水田という人間がつくった湿地 人の生活に不可欠な存在 日本	朝日新聞（北九州）
7月20日	グランド ハイアット 東京〈東京・港区〉	ホテル旅館
7月22日	びわ湖大津プリンスホテル：寝ても覚めても湖！ プリンスホテル、琵琶博とコラボ	毎日新聞（県版）滋賀版
7月23日	琵琶湖のビワマス 100年ぶり学名	東京新聞（東京）夕刊
7月23日	琵琶湖のビワマス、新種に 100年ぶり学名付与 研究員「保全に期待」一滋賀	桐生タイムス（桐生）
7月23日	オンコリンカス・ビワエンシス ビワマスに学名付与 滋賀・琵琶博など固有新種に認定	毎日新聞（県版）三重版
7月23日	琵琶湖のビワマス、新種に 100年ぶり学名付与、研究員「保全に期待」	宇部日報（宇部）
7月24日	琵琶湖のビワマス、新種に	十勝毎日新聞（帯広）
7月24日	まちかど 草津ヨシ松明（たいまつ）まつり	滋賀京都新聞（大津）
7月24日	ビワマス新種に 100年ぶり学名付与	公明新聞（東京）
7月24日	琵琶湖「ビワマス」新種に オンコリンカス・ビワエンシス学名付与「保全活動に期待」	日本経済新聞（東京）
7月24日	琵琶湖「ビワマス」新種に オンコリンカス・ビワエンシス学名付与「保全活動に期待」	日本経済新聞（札幌）
7月24日	琵琶湖「ビワマス」新種に オンコリンカス・ビワエンシス学名付与「保全活動に期待」	日本経済新聞（名古屋）
7月24日	琵琶湖「ビワマス」新種に オンコリンカス・ビワエンシス学名付与「保全活動に期待」	日本経済新聞（大阪）
7月24日	琵琶湖「ビワマス」新種に オンコリンカス・ビワエンシス学名付与「保全活動に期待」	日本経済新聞（九州）
7月24日	琵琶湖のビワマス、新種に 100年ぶり学名付与 滋賀 研究員「保全に期待」	津山朝日新聞（津山）
7月24日	琵琶湖のビワマス 新種に 100年ぶり学名付与	釧路新聞
7月24日	琵琶湖のビワマス、新種に 100年ぶり学名付与	わかやま新報（和歌山）

7月24日	琵琶湖の「ビワマス」新種に 滋賀100年ぶりに学名を付与	陸奥新報（弘前）
7月25日	おこめと私たちびわ博のまなざし 江戸時代の製法復活も進む	滋賀京都新聞（大津）
7月25日	琵琶湖のビワマス、新種に 滋賀100年ぶり学名を付与	聖教新聞（東京）
7月25日	100年ぶり学名付与 琵琶湖のビワマス、新種に 研究員「保全に期待」	南海日日新聞（奄美）
7月26日	100年ぶり学名がついた 琵琶湖のビワマス、新種に	八重山毎日新聞（石垣）
7月27日	風ぐるま	しんぶん赤旗
7月28日	ビワマス、学名付与 滋賀・琵琶湖 保全に期待	岩手日日
7月29日	「神の使い」！？白へび 栗東・県聾話学校で児童が発見 大津の水族館で展示	滋賀京都新聞（大津）
7月29日	ビワマス 待望の新学名 琵琶博など 研究17年「固有種」お墨付き＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
7月30日	治水の歴史 映す古地図 琵琶博 堤防整備など取り組み紹介＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
7月31日	社告 ミクロの世界にようこそ 琵琶湖博物館マイクロアクアリウムから 来月4日発売	滋賀京都新聞（大津）
7月31日	社告 ミクロの世界にようこそ 琵琶湖博物館マイクロアクアリウムから 来月4日発売	京都新聞（京都）
7月31日	古地図から防災考えて 水害や河川工事 資料展示 琵琶湖博物館	産経新聞（県版）滋賀版
8月1日	「びわこベース」3周年 大津 今月中は無休で開館＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
8月7日	ゾクゾクする正体探し 化け物×古生物	子供の科学
8月7日	私の大予言 能登半島や知多半島、奄美半島が沈む!?	ムー
8月7日	ラッピングで企画展示応援 琵琶博 ゴミ収集車が津・草津運行	産経新聞（県版）滋賀版
8月8日	おこめと私たち 朝だけ見られる可憐な姿	滋賀京都新聞（大津）
8月8日	明治以前の治水設備 愛知川沿いで再発見 「猿尾」の研究をパネルで知って	中日新聞（県版）滋賀版
8月10日	保護増殖センターでの取り組み	産経新聞（県版）滋賀版
8月10日	保護増殖センターでの取り組み	産経新聞（県版）京都版

8月11日	◆「琵琶湖の宝石」ビワマスに学名付与	山陽新聞（岡山）
8月11日	「琵琶湖の宝石」ビワマス 新種として学名	山梨日日新聞（甲府）
8月11日	「琵琶湖の宝石」学名付与 準絶滅危惧種ビワマス 100年ぶり新種	山形新聞（山形）
8月13日	「琵琶湖の宝石」100年ぶり学名 固有種ビワマス 改めて新種と確認	中国新聞 SELECT（広島）
8月14日	ファイル	四国新聞（高松）
8月14日	短信 淡水魚展示し環境を考える	陸奥新報（弘前）
8月15日	おとなナビ 55+ おでかけGOGO	京都新聞（京都）
8月15日	おとなナビ 55+ おでかけGOGO	滋賀京都新聞（大津）
8月15日	古地図から河川・治水探る 琵琶湖博物館で企画展示	滋賀京都新聞（大津）
8月16日	古地図から河川・治水探る 琵琶湖博物館で企画展示 あの町この町	京都新聞（京都）
8月16日	淡水魚から考える環境保全 「世界湖沼の日」にちなみ 滋賀県立琵琶湖博物館が企画展	東愛知新聞（豊橋）
8月18日	固有種ビワマス、新種として学名 オンコリンカス・ビワエンシス /京都府	朝日新聞（県版）京都版
8月19日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
8月19日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
8月19日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
8月19日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
8月19日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
8月20日	淡水魚と環境を考える展示環境を整える展示	釧路新聞（釧路）
8月21日	淡水魚と環境を考える展示	静岡新聞（静岡）
8月21日	淡水魚から環境問題を学ぼう 琵琶湖博物館 世界湖沼の日制定記念 企画展 国内外の固有種や標本展示	中日新聞（県版）滋賀版
8月22日	おこめと私たち はるか昔から縁深い	滋賀京都新聞（大津）
8月23日	「琵琶湖の宝石」に学名付与	中部経済新聞（名古屋）
8月26日	「淡水魚から見る世界の湖沼展」 来月28日まで琵琶湖博物館	岩手日日（一関）
8月27日	きょうの言葉／ビワマス サケ科の魚で琵琶湖の固有種。	河北新報（仙台）
8月27日	キーワード ビワマス	北國新聞（金沢）

8月27日	キーワード ビワマス	富山新聞（富山）
8月28日	淡水魚と環境を考える企画展示	長野日報（諏訪）
8月29日	ひと 琵琶湖の豊かな魅力を伝える「魚博士」の高校生 黒川琉伊さん（17）	朝日新聞（東京）
8月29日	ひと 琵琶湖の豊かな魅力を伝える「魚博士」の高校生 黒川琉伊さん（17）	朝日新聞（札幌）
8月29日	ひと 琵琶湖の豊かな魅力を伝える「魚博士」の高校生 黒川琉伊さん（17）	朝日新聞（名古屋）
8月29日	ひと 琵琶湖の豊かな魅力を伝える「魚博士」の高校生 黒川琉伊さん（17）	朝日新聞（大阪）
8月29日	ひと 琵琶湖の豊かな魅力を伝える「魚博士」の高校生 黒川琉伊さん（17）	朝日新聞（北九州）
8月29日	E X P O 2 0 2 5 大阪・関西：琵琶湖の恵み、魅力紹介 「体験ウィーク」後期 セタシジミや近江米 / 滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
8月30日	取材ノート 生活文化部 野村淳子	岐阜新聞（岐阜）
9月2日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
9月2日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
9月2日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
9月2日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
9月4日	「琵琶湖の宝石」に学名再び	秋田魁新報（秋田）
9月5日	淡水魚と環境考える企画展 琵琶湖博物館	山口新聞（下関）
9月9日	まちかど 講演会「ヨシ原の変遷と生物多様性」	滋賀京都新聞（大津）
9月12日	S H I G A 2 0 2 5 国スポ・障スポ：愛子さま、来月初来県 5、6日	毎日新聞（県版）滋賀版
9月12日	愛子さま、滋賀へ 国スポ競技観戦 来月 5・6日	京都新聞（京都）
9月12日	愛子さま 初の来県へ 来月 5、6日 国スポ競技観戦など	中日新聞（県版）滋賀版
9月12日	愛子さま 初の来県へ 来月 5、6日 国スポ観戦や視察	読売新聞（県版）滋賀版
9月12日	愛子さま滋賀来訪 来月 5・6日、国スポを観戦	滋賀京都新聞（大津）
9月12日	外来種ケイソウ 滋賀で定着	京都新聞（京都）
9月12日	外来種ケイソウ 安曇川で定着	滋賀京都新聞（大津）
9月12日	おこめと私たち 収穫量重視か作業効率か	滋賀京都新聞（大津）

9月14日	人間の影響を受けるイタセンパラ	産経新聞（県版）滋賀版
9月14日	人間の影響を受けるイタセンパラ	産経新聞（県版）京都版
9月15日	かけはし みつける楽しさ知って	京都新聞（京都）
9月17日	海はエライ廃校水族館通信 水槽何度割れるのか	朝日新聞（県版）高知版
9月19日	古地図で学ぶ 水との共生 琵琶博・特別展 県内各地の保管物展示	毎日新聞（県版）滋賀版
9月25日	<ことば>ビワマス	神戸新聞（神戸）
9月25日	「シロマダラ」現る 黒と白の模様のヘビ 東近江 夜行性で目撃例少なく	滋賀京都新聞（大津）
9月26日	おこめと私たち びわ博のまなざし（48・完） おこめがつなぐ過去と未来	滋賀京都新聞（大津）
9月27日	生き物大好き 少年と惜別 今夏13歳で他界 守山の河村優さん ヤゴの研究、学会で発表	京都新聞（京都）
9月27日	生き物大好き 少年と惜別 今夏13歳で他界 守山の河村優さん ヤゴの研究、学会で発表	滋賀京都新聞（大津）
9月29日	SHIGA国スポ2025 会場と周辺 にぎわう	滋賀京都新聞（大津）
10月7日	オオナマズ水槽「年度内に再開」	産経新聞（県版）滋賀版
10月7日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
10月7日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
10月7日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
10月7日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
10月7日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
10月10日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎①湖底に眠る歴史の声	滋賀京都新聞（大津）
10月11日	琵琶博 万博で知名度↑ スタンプラリー参加者が列	産経新聞（県版）滋賀版
10月12日	イタセンパラの飼育・繁殖	産経新聞（県版）京都版
10月12日	イタセンパラの飼育・繁殖	産経新聞（県版）滋賀版
10月24日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎②湖底遺跡の特徴	滋賀京都新聞（大津）
10月25日	外来ナマズ、揚げてウマイ 「生態系の問題、関心を」 学生ら販売 /滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
10月25日	ビワマス 命育む産卵床 高時川平井さんが撮影 長浜	中日新聞（県版）滋賀版

10月30日	秋の自然・文化感じて 来月各地でイベント開催	毎日新聞（県版）滋賀版
11月1日	カイツブリ人工育雛、初成功 県立琵琶湖博物館 / 滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
11月6日	県鳥カイツブリ 人の手ですくすく 琵琶湖博物館で幼鳥3羽 来年2月末まで展示	中日新聞（県版）滋賀版
11月6日	滋賀 あの町の本棚	ダ・ヴィンチ
11月7日	多角的に読み解く 治水の歴史 24日まで 琵琶湖博物館で企画展示	中日新聞（県版）滋賀版
11月7日	滋賀県立琵琶湖博物館ミュージアムショップ おいでや（滋賀県草津市）ビワコオオナマズに腕「ガブッ」（地域トレンドランキング）	日経MJ（東京）
11月8日	湖国から 人の手で初めてカイツブリ育成 琵琶湖博物館で公開	中日新聞（県版）福井版
11月9日	カイツブリ：かわいい姿、今だけ 琵琶湖博物館 カイツブリの幼鳥展示中 草津 / 滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
11月9日	アユモドキってどんな魚？	産経新聞（県版）京都版
11月9日	アユモドキってどんな魚？	産経新聞（県版）滋賀版
11月13日	持続的な水利用 多視点で考える 大津、あすまでシンポ	読売新聞（県版）滋賀版
11月13日	県鳥カイツブリ すくすく 琵琶湖博物館人工育雛初成功	読売新聞（県版）滋賀版
11月14日	まちかど 草津 びわ博フェス2025	滋賀京都新聞（大津）
11月14日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎③陸地化調査	滋賀京都新聞（大津）
11月16日	琵琶湖の魅力 間近に体感 びわ博フェス ミジンコ観察や生き物採取	滋賀京都新聞（大津）
11月18日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
11月18日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
11月18日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
11月18日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
11月18日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
11月28日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎 （4）ROV調査 深部でも高精度に記録	滋賀京都新聞（大津）
12月3日	紙の資料「食べる」外来種の害虫 ニュウハクシミカ、館内で発見 琵琶湖博物館	滋賀京都新聞（大津）

12月3日	外来種の害虫とみられる虫を初確認	中日新聞（県版）滋賀版
12月3日	古文書食べる虫？ 県内に 琵琶博で発見 駆除困難な外来種か＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
12月3日	ビワマス保全 味わい学ぶ 野洲 生態調査 報告や料理＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
12月4日	環境省 カワウ半減目標を確認 13年度比 専門家ら被害協議	滋賀京都新聞（大津）
12月4日	ヨシ！自然の涼しさ実感 草津・老上中、よし ず作って教室に 「最大15度の温度差」	朝日新聞（県版）滋賀版
12月5日	水を巡る 地域取り組みに学ぶ 水都大垣で 「フォーラム2025」 アクア・トリ館長ら が登壇	中日新聞（県版）岐阜版
12月6日	琵琶博発見の虫 外来害虫と確認 県内で初 ＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
12月6日	しが・キャンパー：NBC活動 フィールドワ ークで学ぶ 湖の奥深さに感動	毎日新聞（県版）滋賀版
12月7日	よみがえれ!!日本の淡水魚 アユモドキの繁殖 と保全	産経新聞（県版）京都版
12月7日	よみがえれ!!日本の淡水魚 アユモドキの繁殖 と保全	産経新聞（県版）滋賀版
12月9日	「手がつけられない」苦慮 琵琶湖で水草大量 繁茂 水位低下	滋賀京都新聞（大津）
12月9日	琵琶湖に水草繁茂 漁業支障 南湖、夏から秋 に 運航一苦労	滋賀京都新聞（大津）
12月9日	琵琶湖大量水草 漁業に深刻影響	京都新聞（京都）
12月10日	ニューハクシミ：紙食い虫2匹確認 外来種 「ニューハクシミ」 琵琶博で県初 / 滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
12月10日	わが町の湖南エリア 01 滋賀県立琵琶湖博物 館	灯台
12月11日	猿沢池：猿沢池、迫る水質大ピンチ いつもと 違う黄土色 やっかいな藍藻「これはまずい」	毎日新聞（県版）奈良版
12月12日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎（5）大規模 な淡水貝塚 水位変動の証拠も見つかる	滋賀京都新聞（大津）
12月12日	外来種急増 薬剤は使用中止 文化財害虫 駆除どうする 博物館や図書館	中日新聞（名古屋）
12月13日	滋賀のカイツブリ人工育雛3羽展示 琵琶湖博	日刊県民福井（福井）

	物館	
12月13日	◇伊賀市で「伊賀連携フィールド 2025 年度後 期忍者・忍術学講座 忍者の周縁」	伊勢新聞（津）
12月17日	大阪・関西万博：万博ロス、県内で癒やして 県 庁にパネル、各地にスタンプ / 滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
12月20日	お出かけ エコな手段で 県内11施設 鉄 道など利用で特典＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
12月21日	正月に向け 準備着々 わらよじって しめ 縄作り 琵琶湖博物館	中日新聞（県版）滋賀版
12月24日	湖国この1年 2025（1） 県、7年ぶり 転出超過／タワマン70代夫婦死傷	滋賀京都新聞（大津）
12月25日	湖国この一年 2025（2）LAGO大津開 店／冷凍庫に女性遺体遺棄	滋賀京都新聞（大津）
12月26日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎（6）縄文 のタイムカプセル 食糧摂取の実態明らかに	滋賀京都新聞（大津）
12月29日	凡語 12月29日 旧南郷洗堰120年	京都新聞（京都）
12月29日	凡語 12月29日 旧南郷洗堰120年	滋賀京都新聞（大津）
12月31日	湖国の一年 回顧2025（6） 大阪・関 西万博の県ブース人気 “本物” で発信 心 つかむ	中日新聞（県版）滋賀版
1月1日	琵琶博深化し30年	滋賀京都新聞（大津）
1月4日	無病息災祈り「観請縄」	中日新聞（県版）滋賀版
1月5日	書き初め ウマくできた！ 干支ちなむ展示、 催し	読売新聞（県版）滋賀版
1月5日	馬の毛で書き初め体験 草津 干支にちなみ イベント	中日新聞（県版）滋賀版
1月6日	ナウマンゾウ化石 DNA 解析	読売新聞（東京）
1月6日	ナウマンゾウ化石 DNA 解析	読売新聞（札幌）
1月6日	ナウマンゾウ化石 DNA 解析	読売新聞（高岡）
1月6日	ナウマンゾウ化石 DNA 解析	読売新聞（名古屋）
1月6日	ナウマンゾウ化石 DNA 解析成功	読売新聞（大阪）
1月7日	猿沢池 迫る水質大ピンチ	毎日新聞（県版）三重版
1月9日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎（7）弥生時 代の始まりと水辺の暮らし	滋賀京都新聞（大津）
1月11日	湖の生き物にタッチ 興味津々	中日新聞（県版）滋賀版
1月13日	「使う人が主役」琵琶博30年	滋賀京都新聞（大津）

1月13日	⑨琵琶湖博物館の30年 湖と共存へ「知」を育む	滋賀京都新聞（大津）
1月14日	ビワマス「仔魚」すくすく	読売新聞（県版）滋賀版
1月14日	ビワマス仔魚すくすく 少し成長黒っぽく	毎日新聞（県版）滋賀版
1月15日	遊・You・友 ◆草津下物探鳥会	朝日新聞（県版）滋賀版
1月16日	滋賀県 26年度当初予算見積要求 一般会計総額6882億円 美術館増築で設計者選定	日刊建設工業新聞（東京）
1月16日	しがガイド遊覧選 ◇草津下物探鳥会	中日新聞（県版）滋賀版
1月18日	よみがえれ!!日本の淡水魚 絶滅の危機に瀕するハリヨ	産経新聞（県版）滋賀版
1月18日	よみがえれ!!日本の淡水魚 絶滅の危機に瀕するハリヨ	産経新聞（県版）京都版
1月19日	首都圏で湖国アピール 池袋駅構内に物産ブース	滋賀京都新聞（大津）
1月20日	貴重な赤ちゃんビワマス見て 琵琶湖博物館で展示 泳ぐ練習や飼育日誌のパネルも	中日新聞（県版）滋賀版
1月20日	ビワマス赤ちゃん展示 草津・琵琶湖博物館100匹ふ化、腹に卵黄	京都新聞（京都）
1月20日	ビワマス赤ちゃん見て 琵琶博100匹ふ化、成長過程紹介	滋賀京都新聞（大津）
1月23日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎（8）弥生時代の墓制と階層社会	滋賀京都新聞（大津）
1月25日	触れたニゴロブナ「ぬるぬるしてた」 琵琶博「ふれあい体験室」催し	滋賀京都新聞（大津）
1月29日	琵琶博30年記念ロゴ 成安造形大2年 清永さん制作	読売新聞（県版）滋賀版
1月31日	京滋ニュース 淡水生物触れるワークショップ 滋賀・琵琶湖博物館	福井新聞（福井）
2月2日	ドキドキ生き物タッチ 琵琶博 ワークショップ	読売新聞（県版）滋賀版
2月2日	まちかど 【城陽】介護者リフレッシュ事業	京都新聞（京都）
2月6日	豪華ナイトツアー4日で完売 琵琶博30周年記念クルーズ&宿泊付き	産経新聞（県版）滋賀版
2月8日	「ヨシ灯り」心癒して 琵琶博 ランプシェード制作体験	読売新聞（県版）滋賀版
2月10日	美術館増築の設計者選定 滋賀県予算案 普通建設費3.3%増	日刊建設工業新聞（東京）

2月13日	歳出膨張、厳しい財政運営 国スポ終了も、人件費かさむ	滋賀京都新聞（大津）
2月13日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑨木器の宝箱 人々の営み重なる松原内湖	滋賀京都新聞（大津）
2月13日	琵琶博開館30周年 ロゴマーク決まる	産経新聞（県版）滋賀版
2月15日	琵琶博 思いつづって 30周年文集、原稿募る	読売新聞（県版）滋賀版
2月15日	ハリヨの生息域外保全と連携	産経新聞（県版）京都版
2月15日	ハリヨの生息域外保全と連携	産経新聞（県版）滋賀版
2月16日	湖魚消費 缶詰で促進	読売新聞（県版）滋賀版
2月19日	資金調達 新たな手法も 琵琶博協議会で議論	産経新聞（県版）滋賀版
2月20日	世界へ届け 琵琶湖グラス	毎日新聞（県版）滋賀版
2月20日	ケイソウ 新種と判明 琵琶湖周辺にも生育	産経新聞（県版）滋賀版
2月26日	「道の国」近江 今昔をたどる	滋賀京都新聞（大津）
2月27日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑩丸木舟 活発な水運文化の証拠	滋賀京都新聞（大津）
3月1日	作り愉しむひなの扇	中日新聞（県版）滋賀版
3月4日	夜のオオナマズどんな様子かな 8日琵琶湖博物館	朝日新聞（県版）滋賀版
3月6日	夜の琵琶湖博物館 幻想的に 8日ナイトミュージアム	中日新聞（県版）滋賀版
3月6日	サンTVガイド NEWS×情報キャッチ+	神戸新聞（神戸）
3月7日	夜の琵琶博 行かナイト	読売新聞（県版）滋賀版
3月7日	希少種 ヤマトサンショウウオ 琵琶湖博物館で初産卵	朝日新聞（県版）滋賀版
3月7日	琵琶博 夜の風情楽しんで 30周年であす 照明演出、地酒試飲も	滋賀京都新聞（大津）
3月9日	琵琶湖をそのまま切り取った淡水魚水族館で 大ナマズが待つ 滋賀県立琵琶湖博物館	週刊プレイボーイ
3月10日	琵琶湖博物館 30周年企画 大好評非日常味わう夜	中日新聞（県版）滋賀版
3月13日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑪日本の水中考古学の原点 漁で偶然見つかった遺跡	滋賀京都新聞（大津）
3月13日	自然科学 研究しよう 小5～高2対象	読売新聞（県版）滋賀版
3月13日	琵琶湖博物館 水槽改修 ビワコオオナマズ4月から一般公開	中日新聞（県版）滋賀版
3月13日	希少種 ヤマトサンショウウオ 琵琶湖博物館	朝日新聞（県版）滋賀版

	館で初の産卵	
3月15日	真珠をつくる淡水の二枚貝	産経新聞（県版）京都版
3月15日	真珠をつくる淡水の二枚貝	産経新聞（県版）滋賀版
3月17日	希少種ヤマトサンショウウオ 琵琶博 産卵に初成功	産経新聞（県版）滋賀版
3月18日	琵琶湖の環境 大学教員に学ぼう 来月ジュニアドクター育成塾開講	滋賀京都新聞（大津）
3月18日	イベント◆講演会「形態と DNA から探るナウマンゾウの進化史」	毎日新聞（県版）滋賀版
3月18日	あの町この町 琵琶湖学ぶ塾 受講の子募る	京都新聞（京都）
3月19日	琵琶博 来館 50 万人 7 年度 2 年連続で達成	産経新聞（県版）滋賀版
3月21日	今日の BBC 海と日本プロジェクト	滋賀京都新聞（大津）
3月22日	50 万人目は田中さん（栗東）	中日新聞（県版）福井版
3月22日	標本から「絶滅」考える	毎日新聞（県版）岐阜版
3月22日	琵琶湖の環境活動 考える	中日新聞（県版）滋賀版
3月22日	50 万人目は田中さん（栗東）	中日新聞（県版）滋賀版
3月23日	まちかど 犬上	滋賀京都新聞（大津）
3月24日	長浜・米川 子どもたちが稚魚 100 匹放流 ビワマスさんまた会おうね	中日新聞（県版）滋賀版
3月26日	来年開館の新県立琵琶湖文化館 CF、目標 2 倍の 2099 万円	滋賀京都新聞（大津）
3月27日	ナウマンゾウの進化を知ろう 多賀で 29 日講演会 町産の化石群など紹介	中日新聞（県版）滋賀版
3月27日	滋賀 ギャラリー展示「民俗学者・橋本鉄男がみた近江ー滋賀民俗研究のいしずえ」	京都新聞（京都）
3月27日	滋賀 ギャラリー展示「民俗学者・橋本鉄男がみた近江ー滋賀民俗研究のいしずえ」	滋賀京都新聞（大津）
3月27日	湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑫遺跡成因の諸説	滋賀京都新聞（大津）
3月30日	湖研究、地域連携 今後も	中日新聞（県版）滋賀版

（7）学校等団体への広報活動

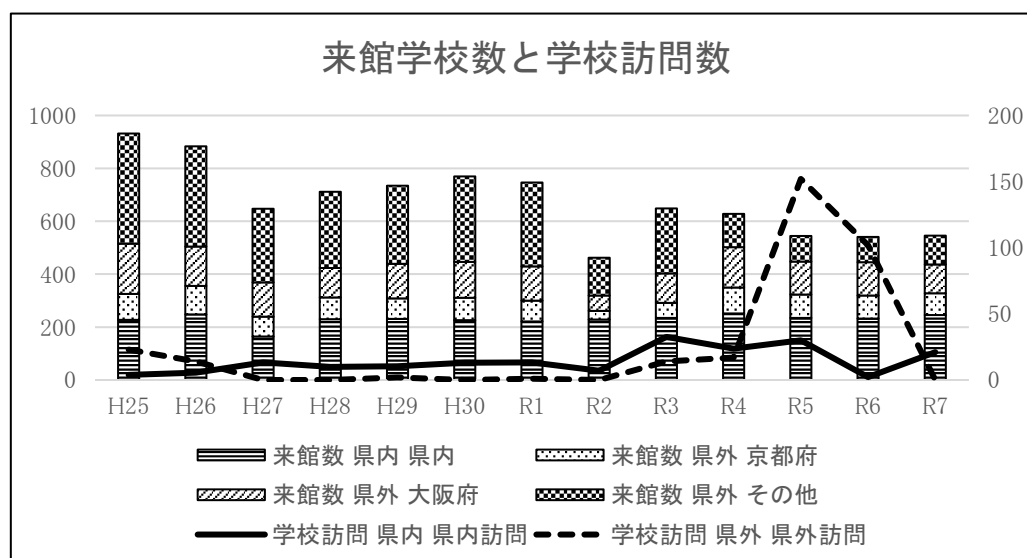
学校等団体へ琵琶湖博物館について知っていただくことで来館者の利用を促すため、以下の会議に出席したりパンフレットを配布したりした。また、以下の県内の学校を訪問し琵琶湖博物館の紹介等のPR活動を行った。

○学校等団体への広報活動

学校団体等		対 象 者
県 内	各市町 小中学校長会	米原市 近江八幡市 草津市 大津市小学校
		彦根市 大津市中学校 湖南市 守山市
		野洲市 高島市小学校 栗東市
		高島市中学校 蒲生郡 愛知・犬上郡
		長浜市 甲賀市 東近江市
	一般教員	大津市小中初任者研修会
		県新任校長研修会
		県新任教頭研修会
	教育関係団体	県保育協議会総会
		県高等学校長協会総会
	一般団体	県地域女性団体連合会リーダー研修
		県老人クラブ連合会担当者会
県外	近 畿	近畿公立学校教頭会研究大会 滋賀大会

○学校への広報活動

	校種	市 町	学校数
県 内	小学校	大津市	37
		高島市、彦根市、長浜市	21
		米原市、多賀町、愛荘町、豊郷町、甲良町、	8
		甲賀市、湖南市、日野町、竜王町	20
		近江八幡市 草津市	15
	中学校	高島市、大津市、米原市	4



(8) 県庁向け広報

下記の 101 件（共回事務端末掲示板：98 件、共回事務端末ログオン時広告：3 件）を掲載した。

・共回事務端末掲示板

掲載開始日	掲載終了日	内容
4 月 3 日	5 月 1 日	【琵琶湖博物館】2024 年度の来館者は、52 万人を突破しました！開館から 3 番目に多い記録です！
4 月 9 日	5 月 4 日	【琵琶湖博物館】全科協 News に琵琶湖博物館の記事が掲載されています。
4 月 10 日	5 月 10 日	【琵琶湖博物館】書籍紹介 琵琶湖博物館館長・名誉館長が執筆した書籍が刊行されました。
4 月 11 日	5 月 11 日	【琵琶湖博物館】「新たな湖上交通」スタート！琵琶湖博物館に船でもお越し下さい！
4 月 16 日	5 月 16 日	【琵琶湖博物館】雑誌「博物館研究」に琵琶湖博物館の広報に関する著述が掲載されました。
4 月 22 日	5 月 22 日	【琵琶湖博物館】水族展示室「ふれあい体験室」コーナーの展示を再開します。
4 月 25 日	6 月 8 日	【琵琶湖博物館 ギャラリー展】「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人々の系譜～」を開催します。
4 月 25 日	5 月 9 日	【琵琶湖博物館】草津市立山田小学校の「湖魚のメニューを考えよう」を展示中です。
4 月 28 日	6 月 1 日	【琵琶湖博物館 水族トピック展示】「里山のヨウセイ ヤマトサンショウウオの幼体」を開催します。
4 月 30 日	10 月 4 日	【琵琶湖博物館 地域の人々による展示】「自然がつくったガチャガチャー球状コンクリーション」開催中です。
5 月 2 日	5 月 14 日	【琵琶湖博物館】NHK の「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪」に登場します！
5 月 16 日	5 月 18 日	【琵琶湖博物館】ギャラリー展示に関連した講演会を開催します。
5 月 16 日	5 月 23 日	【琵琶湖博物館】本日放送予定の NHK E テレの「ギョギョッとサカナ★スター」で琵琶湖博物館が登場します！
5 月 20 日	6 月 20 日	【琵琶湖博物館 YouTube】遅くなりました。新作動画の紹介です！
5 月 22 日	6 月 22 日	【琵琶湖博物館 YouTube】環境学習センターで貸し出しを行っている観察用キットの使い方動画を公開しました。
5 月 23 日	6 月 23 日	【琵琶湖博物館 YouTube】新しい湖上交通の様子を動画で紹介しています！
5 月 30 日	6 月 30 日	【琵琶湖博物館】「サワガニがつくる地中の迷路」展示を水族展示室に新設します。
5 月 28 日	6 月 15 日	【琵琶湖博物館】びわ湖大津プリンスホテルとコラボレーションした部屋が登場！
5 月 29 日	6 月 15 日	【琵琶湖博物館】フィールドレポーター調査の成果を発表する交流会を開催します。

6 月 10 日	11 月 24 日	【琵琶湖博物館 論文紹介】滋賀県東近江市で伝統的な治水施設「猿尾（さるお）」を 再発見した研究成果が公開されました。
6 月 6 日	6 月 9 日	【琵琶湖博物館】6 月 7・8 日に平和堂今津店にて「びわこのちから展」を開催します！
6 月 6 日	7 月 6 日	【琵琶湖博物館】YouTube「マーシーの獲ったり狩ったり」の動画に当館の学芸員が出演しています【第 5 回 春のタナゴ大感謝キャンペーン】
6 月 11 日	7 月 10 日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館研究調査報告第 37 号&第 38 号がオンライン公開されました
6 月 12 日	2026 年 6 月 1 日	【琵琶湖博物館】情報誌「びわはく vol. 9」を発刊しました！
6 月 20 日	7 月 27 日	【琵琶湖博物館 学芸員のこだわり展示】「近江国絵図のナゾ」を開催中です！
6 月 25 日	7 月 22 日	【琵琶湖博物館】7/9-7/22 近鉄百貨店草津店にて「夏休み！自由研究応援展 自然と親しむ貸し出しキットを紹介します」を開催します
7 月 1 日	8 月 1 日	【琵琶湖博物館 論文紹介】英文誌 「Philippine Journal of Science」に論文が掲載されました。
6 月 27 日	9 月 28 日	【琵琶湖博物館】琵琶湖固有の新種としてビワマスに学名がつけられました。
7 月 17 日	11 月 24 日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館企画展示「川を描く、川をつくる」を開催します！
7 月 17 日	9 月 28 日	【琵琶湖博物館】世界湖沼の日制定記念 2025 年水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」を開催します！
7 月 18 日	11 月 14 日	【琵琶湖博物館】「淡海こどもエコクラブ 絵日記・壁新聞コンクール」の作品を募集します！
7 月 23 日	11 月 24 日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館企画展示・水族企画展示に対する「応援ラッピングパッカー車」が運行しています
7 月 24 日	8 月 24 日	【琵琶湖博物館 論文紹介】珪藻化石を用いた 180～190 万年前の古環境復元に関する研究成果が公開されました。
7 月 31 日	9 月 27 日	【琵琶湖博物館 学芸員のこだわり展示】「やよいのつぼ」を開催中です！
8 月 7 日	9 月 7 日	【琵琶湖博物館】展示水槽の細かな変化について紹介します！
8 月 8 日	11 月 20 日	【琵琶湖博物館】フィールドレポーター調査 「第 1 回 水辺の魅力調査」を実施します。
8 月 8 日	9 月 8 日	【琵琶湖博物館 書籍紹介】琵琶湖博物館の学芸員と「はしかけ」会員たちが プランクトンの生き様を紹介する本を出版しました
8 月 19 日	10 月 19 日	【琵琶湖博物館 論文紹介】ゾウムシに関する研究成果が 2 本公開されました。
8 月 21 日	9 月 21 日	【琵琶湖博物館 書籍紹介】鈴木学芸員が著者のひとり「水の中の小さな美しい生き物たち 小型ベントス・プランクトン百科」が出版されました。
8 月 18 日	10 月 3 日	【琵琶湖博物館 トピック展示】琵琶湖博物館アトリウムにて「特定外来生物 クビアカツヤカミキリ 滋賀県で初確認」を開催中です。
8 月 22 日	10 月 22 日	【琵琶湖博物館 論文紹介】過去 15 万年間の日本海堆積物の花粉化石に関する 研究成果が国際学術誌に公開されました。

8月25日	10月25日	【琵琶湖博物館 書籍紹介】琵琶湖博物館の川瀬学芸員が解説の一人「山溪ハンディ図鑑 日本の淡水魚 第4版」が出版されました。
8月28日	10月7日	【琵琶湖博物館】事業者向けイベント「2025年度 環境保全活動者交流会」を実施します。
8月27日	9月6日	【琵琶湖博物館】定期メンテナンスのための長期休館のお知らせ
9月3日	9月28日	【琵琶湖博物館】「淡海こどもエコクラブ 絵日記・壁新聞コンクール」および「淡海こどもエコクラブ活動交流会」を開催します。
9月2日	11月24日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館企画展示「川を描く、川をつくる」第2期の古地図資料の展示がはじまります
9月5日	10月31日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館学芸員が日本第四紀学会の学術賞・論文賞をダブル受賞しました。
9月8日	9月28日	【琵琶湖博物館】水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」に新たな魚が仲間入りしました！
9月17日	10月17日	【琵琶湖博物館公式YouTube】新作投稿しました！ 35年も名前がなかったビワマスに学名がつくまでの裏側全部話します！
9月30日	10月6日	【琵琶湖博物館】10月5日（日）は施設管理の都合により休館となります。
9月29日	10月18日	【琵琶湖博物館】「環境・ほっと・カフェ 蛇籠ってなに？ 知って、作って、考える」 琵琶湖博物館 企画展示連動講座にご参加ください！
10月3日	2026年 1月11日	【琵琶湖博物館】福井県立年縞博物館との連携展示「湖ラボ展」を開催します。
10月3日	2026年 4月4日	【琵琶湖博物館 地域の人びとによる展示】「現代の石の長者 ～新川コレクションより～」を開催中です。
10月6日	11月18日	【琵琶湖博物館】今年も開催します！「びわ博フェス」！スケジュールとチラシを公開しました！
10月21日	11月24日	琵琶湖博物館企画展示「川を描く、川をつくる」第3期の古地図資料の展示がはじまります！
10月31日	11月24日	【琵琶湖博物館】企画展示「川を描く、川をつくる」担当学芸員によるギャラリートークを実施します！
10月31日	2026年 2月1日	【琵琶湖博物館】カイツブリの人工育雛（育雛）に初めて成功 生後2か月の幼鳥3羽を展示しています
11月7日	12月31日	【琵琶湖博物館】産卵期を迎えたビワマスの展示が始まりました！
11月7日	11月16日	【琵琶湖博物館】びわ博フェス2025を開催します！
11月21日	2026年 1月18日	【琵琶湖博物館 学芸員のこだわり展示】「琵琶湖真景図でさがそう 一栗太郡編一」を開催中です！
11月25日	12月25日	【琵琶湖博物館 書籍紹介】琵琶湖博物館館長が分担執筆した「野生動物の保全と管理の辞典」が刊行されました。
11月21日	12月21日	【琵琶湖博物館 YouTube】新作投稿しました！【地図から土地の歴史を知る！】江戸・明治期の古地図で、川と森の景観の変化を調査！
11月25日	2026年 1月23日	【琵琶湖博物館】エレベーター（水族展示室前）とエスカレーターの利用休止について
12月5日	12月21日	【琵琶湖博物館】「地域の魅力の再発見」講座を開催します。
12月9日	2026年	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館で見つかった個体がニュウハクシミと同定

	1月6日	されました
12月15日	12月21日	【琵琶湖博物館】第16回琵琶湖地域の水田生物研究会を開催します
12月18日	2026年 1月5日	【琵琶湖博物館】大阪・関西万博の関西パビリオンの滋賀県ブースの映像を上映しています。
12月22日	2026年 1月4日	【琵琶湖博物館】年末年始の長期休館のお知らせ
1月6日	1月18日	【琵琶湖博物館】令和8年（2026年）の干支「午」にちなんだ書き初め体験イベント・お正月ミニ展示を開催します！
1月9日	3月1日	【琵琶湖博物館 水族トピック展示】見たことありますか？ビワマスの赤ちゃん！
1月7日	3月20日	【琵琶湖博物館】生き物とふれあい、身近な環境について学ぼう「ふれあい体験室」コーナーでワークショップを実施します！
1月16日	1月23日	【琵琶湖博物館】定期メンテナンスのための長期休館のお知らせ
1月20日	1月25日	【琵琶湖博物館】「地域の魅力の再発見」講座を開催します。
1月28日	12月31日	開館30周年記念ロゴマークが決定！【琵琶湖博物館】
1月28日	3月20日	琵琶湖博物館 30周年記念事業 ナイトミュージアム・プレミアムナイトツアーを実施します！【琵琶湖博物館】
1月28日	2月21日	ナイトミュージアム特別企画 「ヨシ灯りをつくろう」を開催します！【琵琶湖博物館】
1月28日	3月1日	トピック展示「琵琶湖博物館 30周年記念 生物多様性びわ湖ネットワーク トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」を開催します【琵琶湖博物館】
1月30日	2月27日	琵琶湖博物館の学芸員が執筆に参加した「民俗学」の教科書が刊行されました【琵琶湖博物館】
1月30日	2月28日	【琵琶湖博物館 論文紹介】ナウマンゾウ化石に付着していた堆積物から生息当時の環境を復元することに成功しました！
2月3日	3月15日	【学芸員のこだわり展示】柳田國男から滋賀への便り【琵琶湖博物館】
2月5日	3月5日	【琵琶湖博物館 YouTube】新作投稿しました！ 少し視点を変えるだけで散歩が楽しくなる！学芸員が教える公園の歩き方！
2月4日	3月8日	ナイトミュージアムツアー完売御礼！3/8のナイトミュージアムは予約なしでご来館いただけます！【琵琶湖博物館】
2月5日	3月5日	【琵琶湖博物館 YouTube】新作投稿しました！ 昼には味わえない特別な体験！琵琶湖博物館のナイトミュージアムをのぞいてみよう！
2月12日	3月31日	【琵琶湖博物館 論文紹介】イチゴに似た表面の凹凸を持つケイソウを発見！琵琶湖周辺でも見つかった種、実は新種だった！
2月12日	3月31日	【琵琶湖博物館】開館30周年記念文集に掲載するあなたとびわ博のエピソードを募集しています
3月10日	5月24日	琵琶湖博物館 30周年記念ギャラリー展示 「民俗学者 橋本鉄男がみた近江」を開催します
2月27日	3月1日	【琵琶湖博物館】ディスカバリールームでひなまつり特別イベント「おひなさまの扇をつくろう」を開催します！
2月27日	3月21日	「実践知と研究知をつなぐ「琵琶湖学習」—多様な担い手とともに創る、これ

		からの環境活動」の開催のお知らせ
3月3日	3月15日	「地域の魅力の再発見（第3回講座）「環境文化と私たちの生活」～持続可能な地域社会に向けて～」の開催
3月4日	3月8日	【琵琶湖博物館】3月8日（日）臨時休館とナイトミュージアムのお知らせ
3月4日	3月20日	【琵琶湖博物館】3月8日（日）に開催するナイトミュージアムの臨時バスの運行について
3月6日	3月31日	【琵琶湖博物館】「にょい体験」展示を6年ぶりに再開します！
3月10日	6月28日	【琵琶湖博物館 水族トピック展示】初めて 希少種・ヤマトサンショウウオが産卵しました！
3月9日	4月8日	【琵琶湖博物館】新作2本投稿しました！ 学芸員が教える写真の撮影方法と昭和39年の暮らしについて紹介しています！
3月19日	4月30日	【琵琶湖博物館】令和7年度（2025年度）の来館者数50万人を達成しました！
3月25日	4月30日	【琵琶湖博物館】日本生態学会自然史研究振興賞を琵琶湖博物館学芸員が受賞しました。
3月25日	4月12日	【琵琶湖博物館】「第50回 ごはん・お米と私 ～作文・図画コンクール～」の作品を展示中です！
3月30日	4月30日	【琵琶湖博物館】水族展示室に婚姻色のウグイが入りました！

・共通事務端末ログオン時広告

掲載開始日	掲載終了日	内容
4月28日	5月4日	令和7年度ギャラリー展示 （滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人々の系譜～）
7月21日	7月27日	令和7年度企画展示 （川を描く、川をつくる ―古地図で昔の堤をさぐる―）
3月16日	3月22日	令和7年度ギャラリー展示 （民俗学者橋本鉄男がみた近江 ―滋賀民俗研究のいしずえ―）

4 資料整備活動

琵琶湖博物館では、博物館のテーマである「湖と人間」に関係する自然・人文・社会科学など多分野の資料を収集し、整理・保管・活用している。資料を収集する地域は、琵琶湖とその集水域および淀川流域を中心として、日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域まで広範囲にわたる。実物資料のほか、魚などの生体資料、映像資料、図書資料などの多種多様な資料を、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れている。

資料を必要な時に利用できるよう、各資料分野の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。各資料に関する専門の学芸職員が、会計年度任用職員や委託による資料整理員とともに対応に当たっている。図書資料については、司書資格をもった会計年度任用職員が対応にあたっている。

以下に、2025年度の資料整備および利活用の状況を示す。

1. 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの収蔵品データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2025年度末現在で、博物館登録資料は791,093で、収蔵概数は1,647,741となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

(1) 収蔵資料数

2026年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2025年度登録数	2025年度受入総数
地学	124,187	153,560	8,148	1,309
動物	224,547	492,864	6,521	69,802
植物	93,702	214,251	191	193
微生物	20,727	84,870	0	429
水族（生体）	15,454	15,454	15,454	19,006
考古	3,185	1,473箱と872	1,595	0
歴史	1,219	240件	0	0
民俗	12,136	2件、2箱 12,253点	229点	1件と25点
環境	0	1,522	0	0
図書	155,620冊と 7,500タイトル	167,000	1,678	5,221
映像	132,816	514,900	4,660	4
合計	783,593と 7,500タイトル	1,646,024と 242件、1,475箱	38,476	95,989と 1件

【各分野別の詳細】

地学標本	2025 年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総	整理状況・作業内容・公	登録資料	収蔵概数
化石	3	0	699	0	0	699	データベースの各アイテムへの入力作業中	43,705	57,300
岩石・鉱物	11	0	610	0	0	610		14,802	25,600
堆積物	8,134	0	0	0	0	0		64,370	68,000
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,310	2,660
小 計	8,148	0	1,309	0	0	1,309		124,187	153,560

動物標本		2025 年度							累 積	
		登録	採	寄贈数	購入数	提供	受入総	整理状況・作業内容・公開	登録資料	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）		19	8	2	0	6	14		3,872	4,224
内 訳	哺乳類骨格標本	4	0	0	0	0	0	新規登録 4 件	944	944
	哺乳類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		110	115
	哺乳類（その他）	1	0	0	0	0	0	新規登録 1 件	899	899
	鳥類骨格標本	5	4	0	0	1	5	骨格標本 5 点	261	261
	鳥類乾燥標本（巣、卵、レプリカ等含む）	9	4	2	0	5	9	仮剥製標本 7 点 本剥製標本 2 点	1,130	1,146
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		10	10
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		50	50
	爬虫類（その他）	0	0	0	0	0	0		44	91
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		356	356
	両生類（その他）	0	0	0	0	0	0		17	302
魚類（淡水魚類）		1,426	106	0	0	568	674		62,759	89,769
内 訳	乾燥骨格およびアクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0		2,723	2,723
	DNA 分析用標本	18	16	0	0	0	16		3,744	3,726
	その他液浸標本	1,408	90	0	0	568	658	新規採集、提供標本および未登録標本の整理など。新規登録 1408 件	56,292	82,632
昆虫		3,844	293	67,077	0	1,731	69,101		128,993	365,059
内 訳	昆虫液浸標本	0	2	46	0	3	51	新規受入標本の整理、収蔵標本の薬液補充とパッキン交換	12,657	31,272
	昆虫乾燥標本	3,844	291	67,031	0	1,728	69,050	新規採集、寄贈・提供標本の整理など。水谷正章、奈良コレクション等のデータ入力・登録	127,134	333,787
貝類		1,219	0	0	0	0	0	未登録標本の整理、新規登録 1219 件	16,491	18,684
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）		13	0	0	0	0	13		12,432	15,128
小 計		6,521	407	67,079	0	2,305	69,802		224,547	492,864

植物標本	2025 年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公	登録資料	収蔵概数
さく葉標本	153	0	146	0	0	146	同定・登録・ラベル貼付・ 収蔵・管理・低温処理・燻 蒸庫燻蒸	91,544	190,860
コケ植物標本	38	0	47	0	0	47		2,157	22,050
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		1	1
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,162
小 計	191	0	193	0	0	193		93,702	214,251

微生物標本	2025 年度							累 積	
	登録	作成・撮影	寄贈	購入	提供	受入総	整理状況・作業内容・公	登録資料	収蔵概数
微生物液浸標本	429	0	429	0	0	429	大高明史コレクションを 登録	15,244	17,904
微生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		4,019	4,049
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,424	1,424
珪藻顕微鏡写真ファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微生物顕微鏡写真	0	0	0	0	0	0		0	10,052
微生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	429	0	429	0	0	429		20,727	84,870

水族資料 (生体)		2025 年度							
		登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総		
脊椎動物		14,380	1,714	345	2,826	3,783	8,668		
内 訳	哺乳類	62	0		0	34	34		
	魚類	14,248	1,714	323	2,826	3,749	8,612		
	両生類	43	0	21	0	0	21		
	爬虫類	18	0	1	0	0	1		
	鳥類	9	0	0	0	0	0		
無脊椎動物		1,074	15	10,031	292	0	10,338		
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0	0		
	貝類	423	0	0	292	0	292		
	甲殻類	649	0	10,000	0	0	10,000		
	扁形動物	2	15	31	0	0	46		
小 計		15,454	1,729	10,407	3,118	3,783	19,006		

考古資料	2025 年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0	資料写真のデジタル化(一部3D 化)・考古データベース公開	2, 181	1, 394(箱)
松原内湖遺跡木器等 (コンテナ数及び点数)	0	0		1, 004	44(箱)と 847
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	19
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と 3
小 計	0	0		3, 185	1, 473(箱)と 872

歴史資料	2025 年度						累 積	
	登録	購入数	寄贈数	提供数	受入総	整理状況・作業内容・公開な	登録資料	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	1, 219	0	0	0	0	「学芸員のこだわり展示」で計2 回、延べ実物 2 点を展示公開。企画展示「川を描く、川をつくる」で収蔵している 13 点を展示	1, 219 点	175 件
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	46 件
その他	0	0	0	0	0		0	19 件
小 計	1, 219	0	0	0	0		1, 219 点	240 件

民俗資料	2025 年度				累 積	
	登録数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開な	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	213 点	1 件と 25 点	1 件と 25 点		8, 877 点	2 件, 2 箱 8, 866 点
漁撈用具	16 点	0 点	0 点		3, 259 点	3, 279 点
二次資料	0 点	0 点	0 点		0 点	108 点
小 計	229 点	1 件と 25 点	1 件と 25 点		12, 136 点	2 件, 2 箱 12, 253 点

環境資料	2025 年度					累 積	
	登録	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開な	登録資料数	収蔵概数
民具・生活用具類	0	0	0	0		0	1, 078
二次資料 (食品等レプリカ)	0	0	0	0		0	436
その他	0	0	0	0		0	8
小 計	0	0	0	0		0	1, 522

図書資料	2025 年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	960	46	1,168	1,214	書籍レファレンス、コピーサービス(有料)、 ファシ・ポスター管理。資料整理として蔵書点検 13,501 点、図書装 備約 960 冊。その他、文献複写 依頼 37 件、相互貸借借受 2 件、 デジタル化資料送信サービスの 利用は 1 件。	97,661	100,000
文献	107		107	107		57,959	67,000
雑誌	611	180	3,720	3,900		*7,500 タイトル	---
小 計	1,678	226	4,995	5,221		155,620 と 7,500 タイトル	167,000

※雑誌は総タイトル数を表示（雑誌の総冊数は算出不可）。ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む。

Nacsis-Cat 目録所在情報サービス	2024 年度 登録数	累積 登録資料数
図書	410	22,116
雑誌	17	2,004
小 計	427	24,120

映像資料	2025 年度							累 積	
	登録数	撮影数	移管数	寄 贈 ・ 寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録 資料数	収蔵概数
静止画 資料	4,657	0	0	0	0	4,657	1. デジタルミュージアム推進 事業参照 2. 橋本鉄男コレクション 1067 点をデータベース登録 3. データベース「人と暮らしア ルバム」および「画像」重複 データ解消（登録資料数およ び収蔵概数が昨年よりも減 っているのはそのため） データベース「人と暮らしアルバ ム」および「画像」精査後、新規登 録番号付与（旧登録番号欄作成後 情報コピー）	132,812	505,000
動画資料	3	0	0	8	3	11	1. 長田芳和氏魚類生態動画 3 点 の受贈 2. 中島省三氏映像作品 8 点の受 贈（うち 5 点は既収蔵作品の 別媒体） 3. 中島省三氏映像作品全 91 点 のデジタル化	4	9,900
小 計	4,660	0	0	8	3	4,668		132,816	514,900

(2) 寄贈者および提供者 敬称略 (点数)

【地学資料】

化石標本：アルピナ BI 株式会社 (179) 田中武範 (125) 杉山國雄 (782) 田村幹夫 (600) 新川節子 (135)
浅野照夫 (381) 谷本正浩 (1) 尾形芳則 (123)
足跡化石標本：岡村喜明 (195)
岩石標本：アルピナ BI 株式会社 (52) 田中武範 (63) 岸原正恭 (16)
鉱物標本：アルピナ BI 株式会社 (227) 小谷富士夫 (10) 田中武範 (377) 岸原正恭 (16) 中野聰志
岩石・鉱物標本：田中武夫 (584)
堆積物標本：アルピナ BI 株式会社 (5)

【節足動物標本】

カイミジンコプレパラート：Smith, Robin James (2)
カイミジンコ液浸標本：Smith, Robin James (3)
タンカイザリガニ液浸標本：泉賢人 (1)

【動物標本】

哺乳類骨格標本：なし
哺乳類乾燥標本：なし
哺乳類はく製標本：宗信子 (1)
鳥類骨格標本：宇野啓明/森田尚 (1)
鳥類乾燥標本：奥村敏雄 (4) 深田三千代 (1) 近藤はくせい (1)
魚類液浸標本：(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター (12) あおむしくらぶ (1) ぼてじゃこトラスト (1) 伊藤玄 (472) 古川慈眼 (1) 霜鳥孝一 (2) 三好悠太 (1) 山田正樹 (1) 滋賀県水産試験場 (2) 出田康洋 (5) 谷口倫太郎 (4) 町田善康 (1) 東京大学総合研究博物館 (1) 藤岡康弘 (2) 藤田宗也 (12) 尾山大知 (1) 北舟木漁協 (1) 北村淳一 (1) 北澤佑子 (1) 野口亮太 (46) 河村功一 (200)
昆虫液浸標本：河瀬直幹 (26) 花田聡子 (7) 丸山博紀 (13) 北野大輔 (3)
貝類液浸標本：なし
寄生虫プレパラート：浦部美佐子 (6)
オオミスジコウガイビル液浸標本：大村真弘 (1)
昆虫乾燥標本：宮下雄一 (49395) 妹尾俊男 (9977) 八田明 (7658) 初宿成彦 (1011) 中川優 (201) 久末遊 (95) 名嘉猛留 (65) 奥田好秀 (41) 細川浩司 (38) 川瀬英夫 (36) 井藤竜大 (33) 上原友太郎 (19) 藤田宏 (18) 金尾滋史 (12) 大生唯統 (10) 高橋敬一 (11) 辻尚道 (5) 長谷川道明 (4) 中峰空 (4) 善野秀樹 (3) 井上修吾 (1) 河瀬直幹 (1) 川瀬成吾 (1) 中川響 (1) 中井克樹 (1) 小野えりか (1) 斎藤昌弘 (1) 菅原巧太郎 (1) 鶴田健一 (1) 山本雅則 (1) アルピナ BI 株式会社 (94)

【微小生物標本】

ベントス液浸標本：大高明史 (429)

【植物標本】

さく葉標本：迫田昌宏 (12) 西田謙二 (130) 野田浩 (4)
コケ植物標本：林正典 (7) 太田正文 (3) 天本匡宥 (2) 横山正弘 (1) 秋山弘之 (1) Dale H. Vitt (1) 小林亮平 (32)

【民俗資料】

生活生業用具：岡崎義孝 (7) 前川千佳子 (6) 熊谷壽治 (12) 中瀬清美 (1式)

【映像資料】

中島省三 (9)

【研究遺産】

根来健 (845) 長田芳和 (262) 林ふみ子 (135)

【図書資料】

川那部浩哉(33) 用田政晴(100) 小林亮平(19) 中島経夫(67) 松田征也(8) 初宿成彦(25) 弥和山眞(1) 森智美(2) 八尋幸史(1) 戸田孝(1) 本甲虫学会(18) 林一正(10) 小松原琢(1) ぼるかめぐみ(1) 杉田昭子(3) 河野通明(2) 森幸一(1) 藤野勇馬(1) 村内一夫(1) 関広尚世(1) 上田一好・林美津子(246) マツシマススム(2) 前田雅子(1) 仲野篤司(1) 水辺と緑(1)

【映像資料】

中島省三(8)：琵琶湖環境に関わる映像作品 長田芳和(3)：魚類の生態に関する動画

(3) 移管資料

- ・カイツブリ卵 (3 卵、井の頭自然文化園)
- ・ヨドゼゼラ (7 個体、大阪府立環境農林水産総合研究所)

(4) 借用 計 10 件

自	至	借用先	資料内容	利用目的
4/15	6/17	伊吹文化資料館	堀與曾市採集標本	展示
7/19	9/28	名古屋市東山動物園	ニグリマスメダカ 10 匹、マーモラタスメダカ 10 匹、ネブローサスメダカ 10 匹、トウティメダカ 5 匹、ポソ湖の写真 1 点、トウティ湖の写真 1 点	展示
7/1	10/20	京都大学総合博物館	アナンデール寄贈標本コレクション インレー湖魚類標本	展示
8/7	8/15	東京動物園協会 野生生物 保全センター	携帯用ふ卵器	生体資料移動
11/1	26/6/30	高島市北船木区	慶長 7 年北船木村絵図、寛政元年築絵図	展示
1/19	6/30	東近江市君ヶ畑町自治会	木地屋氏子狩帳(複製品)、惟喬親王御縁起(複製品)	展示
1/19	6/30	東近江市蛭谷町自治会	氏子駈帳(複製品)、丹羽長秀書下(複製品)、正親町天皇綸旨(複製品)	展示
1/21	6/30	中江藤樹・たかしまミュージアム	滋賀県指定有形民俗文化財「朽木の木地屋用具と製品」12 点、斧、ナカギリチョウナ	展示
2/23	6/30	中江藤樹・たかしまミュージアム	二子塚古墳出土 須恵器坏身、坏蓋	展示
26/4/1	27/3/31	滋賀県埋蔵文化財センター	栗津湖底遺跡出土資料 2218 点、葛籠尾崎湖底遺跡出土資料 11 点、長命寺湖底遺跡出土資料 1 点、中畑遺跡出土資料 3 点、穴太遺跡出土資料 35 点、烏丸崎遺跡出土資料 28 点	展示

(5) 購入資料

なし

(6) 水族繁殖生物 計 3,793 匹

種 名	学 名	個体数
日本産魚類 コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	581
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	4
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	35
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	192
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	323
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	86
アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	233
キクチヒナモロコ	<i>Aphyocypris kikuchii</i>	300
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	260
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i>	40
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i>	397
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	150
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	249
ヨドゼゼラ	<i>Biwia yodoensis</i>	37
ドジョウ科		
タンゴスジシマドジョウ	<i>Cobitis takenoi</i>	22
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	221
ギギ科		
ネコギギ	<i>Pseudobagrus ichikawai</i>	19
メダカ科		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	61
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	379
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	70
外国産魚類 カワスズメ科		
レピドランプロログス・アテヌアータス	<i>Lepidiolamprologus attenuatus</i>	10
コパディクロミス・アズレウス	<i>Copadichromis azureus</i>	40
アウロノカラ・ヤコブフライベルギー	<i>Aulonokara jacobfreibergi</i>	50
哺乳類		
ネズミ科		
カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	34

(7) 微生物(継代飼育) 計 23 グループ

名称	数	単位	数	単位
緑水 植物プランクトン群	2	水槽		
ミジンコ群	9	ボトル		
ハダカイタチムシ	10	シャーレ		
カギウロコイタチムシ	5	シャーレ		
ウサギワムシ	9	シャーレ		
カイミジンコ 三角	5	シャーレ		
カイミジンコ 丸	4	シャーレ		
カイミジンコ 細	1	シャーレ		
タンボヒメウズムシ	2	ボトル		
ヒメウズムシ	7	シャーレ		
ナベカムリ	9	シャーレ		
ツリガネムシ	8	シャーレ		
ヒドラ チクビヒドラ?	2	ボトル	4	シャーレ
アメリカツノウズムシ	1	シャーレ		
太陽虫	13	シャーレ		
アメーバ	13	シャーレ		
テトラヒメナ	10	シャーレ	4	フラスコ
ミドリゾウリムシ	6	シャーレ		
ゾウリムシ パラメシウム?	4	シャーレ		
ゾウリムシ スピロストーマム	3	シャーレ		
アスタシア	6	シャーレ	4	フラスコ
クロロモナス	4	フラスコ		
ミカヅキモ	3	シャーレ		

(8) 収蔵資料データベース

2025 年 8 月に、琵琶湖博物館が収蔵資料データベースとして用いている I. B. MUSEUM SaaS のインターフェースがリニューアルされた。その結果、データや画像等メディアの一括登録が容易になり、データ登録の効率化が実現された。一方で入力画面のボタン配置の問題や、パソコン画面上に一度に表示できる項目が少なくなる問題なども報告されており、また若干のバグが残っているため、一部で混乱が生じた。また 2024 年度には、新規にマニュアルを作成することで操作上の問題が起こる頻度を減らす対策を講じたが、このマニュアルも使用できなくなった。

歴史・民俗系 DB に新規カテゴリ「研究遺産」を追加し、琵琶湖博物館に収蔵された、琵琶湖とその周辺の研究に偉大な足跡を残した研究者の研究資料（原図、フィールドノート等）の写真（デジタルデータ）の登録を開始した。

2. 資料の活用

(1) 資料の貸出（研究依頼を含む）（※月日は許可日） 計12件 134点

自	至	貸出先	資料内容	利用目的
4/16	6/13	伊吹山文化資料館	鮎ずし（レプリカ）	展示
4/24	26/3/31	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 特別研究員 瑤寺裕	昆虫乾燥標本 タマムシ科甲虫 7点	学術研究
6/15	10/31	国立科学博物館	花粉模型 2点 チョウセンゴヨウ球果 2点	展示
7/12	9/15	びわ湖大津プリンスホテル	丸子船模型 1点	展示
5/23	26/3/31	三重大学生物資源学部 河村功一	アブラヒガイ、ビワヒガイ、カワヒガイ DNA用鱗サンプル 9点	学術研究
7/1	26/3/31	神戸大学人間発達環境学研究科 源研究室	ビワコオオナマズ DNA用鱗サンプル 2点	学術研究
8/27	11/30	西宮市貝類館	クチベニマイマイの巨大模型	展示
8/29	9/1	CO2 ネットゼロ推進課	ホンモロコ 5個体、ビワコガタスジシマドジョウ 2個体、オオガタスジシマドジョウ 2個体、ワタカ 2個体、セタシジミ 3個体	展示
11/5	26/3/31	国立科学博物館	ヨウスコウワニ化石 11点、マチカネワニ化石 1点	展示
11/1	26/3/31	中野 光	京都市産カワバタモロコ 3個体	学術研究
11/14	26/1/23	島根県立宍道湖自然館	ニゴロブナ 5個体、アブラヒガイ 10個体	展示
12/9	12/19	日野町役場農林課	県内伝統野菜のレプリカ 11点	展示
1/7	4/30	滋賀県立安土城考古博物館	地学資料 2点、考古資料 9点	展示
26/4/1	26/6/30	サケのふるさと千歳水族館	タナゴ類 8種 40個体	展示
26/4/1	26/5/20	おきなわワールド	ヌマエラビル標本 3個体	展示

(2) 資料の譲与 計5件 235点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
5	9	平安神宮	イチモンジタナゴ 200個体	保全的導入
6	28	西海国立公園九十九島動植物園	カヤネズミ 4個体	展示
9	9	大津市科学館	ホンモロコ 10個体	展示
1	11	北海道大学大学院	アメリカナマズ飼育水 5L	学術研究
2	9	名古屋市東山動植物園	スイゲンゼニタナゴ 20個体	保護増殖

(3) 特別観覧

＜映像資料：静止画、動画＞ 計 29 件 153 点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
5		琵琶湖保全再生課	動画「ホンモロコ」「カヤネズミ」(2点)	万博ブース出展にかかる説明動画
5	27	びわこ成蹊スポーツ大学	動画「層のある湖 湖水温の夏と冬」「牛乳瓶と紙パック」(2点)	一般教養科目「琵琶湖と環境の科学」で使用
6	6	琵琶湖保全再生課	動画「ホンモロコ」「カヤネズミ」、写真「ホンモロコ」「ニゴロブナ」(4点)	万博ブース出展にかかる説明動画に使用、YouTubeでの公開
7	1	(公財)びわ湖芸術文化財団	画像「姉川のコブネとドンベ」(1点)	『湖国と文化』に掲載
7	1	環境政策課	画像「ビワコオオナマズ」「びわ湖大水害(1896年9月)」「琵琶湖博物館(トンネル水槽)」(3点)	琵琶湖ハンドブック概要版「びわ湖を学ぼう」英語版への掲載
7	19	斎藤慶一	画像「野洲郡北里村大字江頭浸水ノ惨状」「野洲郡中洲村大字吉川野洲川堤塘ノ避難者」(2点)	「あいがもけんぶん塾」講演会で使用
8	8	わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会	画像「カイツブリ親子」(1点)	大会の式典弁当箱に掲載
8	25	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	画像「シライシカワニナ」(1点)	学習パネル「白石ってどんな島？」に掲載
9	10	京都市立葵小学校 PTA 風土記制作実行委員会	画像「カマツカ」「オイカワ」「カワヨシノボリ」「ドンコ」「スジエビ」「カワムツ」「ブルーギル」(7点)	京都市立葵小学校で製作する風土記で使用
10	5	TANAKAMI こども環境クラブ	動画「カヤネズミ(C展示室)」(1点)	環境学習活動の事前学習に使用
11	1	NHK エンタープライズ コンテンツ展開センター	撮影「トンネル水槽のニホンウナギ」(1点)	『講談社の動く図鑑 MOVE お金と経済』で使用
11	12	草津市立草津中学校	画像「琵琶湖博物館ウェブページ掲載画像」(10点)	近鉄百貨店草津店に展示するポスターに使用
11	26	龍谷大学	撮影「水族展示室」(1点)	大学案内動画に使用
12	1	近畿大学大学運営本部アカデミックシアター学生センター	画像「ハス」「ギギ」「ヒウオ」「オオガタスジシマドジョウ」「ホンモロコ」「ワタカ」「カブトミジンコ」(7点)	琵琶湖の生態系に着目した子供向け環境学習カードゲームの制作
12	15	「みんなでつくる東大阪」市民の会	画像「A展示室 縄文のくらし」(1点)	「みんなでつくる東大阪」市民の会ニュースに掲載
1	16	大阪電気通信大学 森田浩司	撮影「展示資料」(21点)	卒業制作の動画作品で使用
1	30	大津市市民部文化財保護課	画像「瀬田橋第一橋脚台材検出状況」「古代の瀬田橋復元模型」(2点)	地域学習のための小学生向け副読本に掲載し、ウェブ公開も行う
1	31	姫路市立水族館	画像「魷漁」(2点)	企画展示解説パネルで使用
2	13	株式会社かみゆ	画像「B展示室 琵琶湖底遺跡 貝塚アップ」(1点)	書籍「だからわかるシリーズ『古代史』(仮)」に掲載
2	14	滋賀県立安土城考古博物館	画像「アカザ(生鮮写真)」(1点)	企画展「近江一帯が織りなす物語」のパネルで使用
3	15	琵琶湖保全再生課	動画「ウログレナ顕微鏡動画」(6点)	びわ湖放送のドキュメンタリーで使用

3	16	サケのふるさと千歳水族館	画像「タナゴ類」生体写真 (13 点)	特別展における写真の展示およびチラシ・ポスターへの掲載
3	19	しがとせかい(株)	画像「ビワコドブシジミ」 (1 点)	観光船内で流す琵琶湖の生き物を紹介する動画で使用
3	20	近江八幡市地域おこし協力隊	画像「前野隆資コレクションの沖島の写真」 (20 点)	地域情報発信雑誌に使用
4	1	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	画像「水草 10 点」「魚類 23 点」「貝類 8 点」 (41 点)	『学習のしおり』に掲載
4	1	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	画像「カネヒラ生鮮写真」 (1 点)	『学習のしおり』に掲載
4	1	水辺と緑	撮影「水族展示室のウツセミカジカ複数個体」 (1 点)	同人誌 ZINE に掲載する作品の材料として使用
4	1	株式会社桜映画社	画像「前野隆資コレクションのヨシ帯にゴミが漂う写真」 (1 点)	日本スポーツ協会が企画する動画「スポーツと環境」で使用
4	20	近江八幡市総合政策部観光政策課	画像「アオサギ」「カヤネズミ」「ツチガエル」 (3 点)	近江八幡市の観光 PR 看板に使用

<映像資料以外・館内熟覧・撮影> 計 36 件 572 点 6 式

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	9	ふじのくに地球環境史ミュージアム 教授 岸本 年郎	昆虫乾燥標本 ハネカクシ科を中心とした甲虫 100 点	学術研究
4	17	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 特別研究員 瑤寺 裕	昆虫乾燥標本 タマムシ科甲虫 200 点	学術研究
4	23	(株)PHP 研究所児童出版部	歴史資料 伏龍骨之図並序 画像 1 点	出版物等への掲載
5	4	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授 久保 麦野	化石標本 日本産シカ科化石、ステゴドン化石、食肉類化石 1 式	学術研究
5	9	国立科学博物館動物研究部 吉川夏彦	化石標本 大分県安心院地域ワニ化石 11 点	展示資料の下見
5	15	(公財)びわ湖芸術文化財団 三宅 貴江	民俗資料 滋賀県指定有形民俗文化財「八日市の柄屋用具」撮影写真 1 件 国登録有形民俗文化財「琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具」撮影写真 1 件	出版物等への掲載
5	18	滋賀県立琵琶湖博物館 名誉館長 高橋 啓一	化石標本 アジアゾウ 2 点、アフリカゾウ 1 点	学術研究
5	22	(公財)びわ湖芸術文化財団 三宅 貴江	民俗資料 B 展示室「北比良の石屋ジオラマ」撮影写真 1 件	出版物等への掲載
5	27	京都大学大学院 大学院生 野田 昌裕	化石標本 オオサンショウウオ属 (化石) 3 点	学術研究
6	17	同志社大学大学院 大学院生 槇 和泉	民俗資料 槍鉋 2 点	学術研究
8	1	滋賀県立八幡工業高等学校 校長 岸 智昭	魚類液浸標本 西の湖の魚 100 点	学術研究

7	25	(株)誠文堂新光社	歴史資料 伏龍骨之図並序 画像 1 点	出版物等への掲
8	8	(公財)びわ湖芸術文化財団 三宅 貴江	民俗資料 橋本鉄男旧蔵資料 写真 8 点	出版物等への掲 載
8	27	吉野 和義	昆虫乾燥標本 村山修一コレクション チョウ類感 想標本 1 式	学術研究
9	5	ミュージアムショップおいでや 森 薫	歴史資料 近江国野洲郡三上村・同国栗太郡出庭村大 絵図	グッズ製作
9	5	京都芸術大学通信学部 教授 下村 泰史	歴史資料 琵琶湖真景図 画像 1 点	学術研究
9	5	関西大学大学院 大学院生 土屋 諒太郎	歴史資料 滋賀県姉川支流 草野川実測平面図 三 枚之内第一 画像 1 点	学術研究
9	15	高橋 大樹	歴史資料 近江国大津代官石原同心佐久間家旧蔵写 図 5 点 大津下片原町絵図 1 点	学術研究
9	19	岡村 喜明	歴史資料 伏龍骨之図並序 1 点、伏龍骨之図(龍家 所蔵) 複製 1 点	学術研究
9	23	有田川町地域交流センターALEC 萩 野 慎諧	化石標本 ナウマンゾウ骨格 浜町標本 レプリカ 1 式	学術研究
9	26	松本 真美	歴史資料 [覚] 勢多橋御掛替の渡船	学術研究
10	3	Hao HUANG	昆虫乾燥標本 <i>Satyrium inouei xinglongshanum</i> Murayama, 1995	学術研究
10	7	京都大学大学院 大学院生 野田 昌裕	化石標本 オオサンショウウオ化石 3 点	出版物等への掲 載
10	14	滋賀県立安土城考古博物館 瓜生 翠	考古資料 唐橋遺跡出土資料 6 点	展示資料の下見
10	20	谷口 倫太郎	魚類液浸標本 ヤリタナゴ、アブラボテ標本 7 点	学術研究
10	28	流域史研究会 石川 寛	歴史資料 近江国野洲郡三上村・同国栗太郡出庭村大 絵図 1 点、瀬田川筋絵図 1 点、吾妻川土砂留普請 所絵図 1 点	学術研究
10	28	森本 隆寛	考古資料 松原内湖遺跡出土縄文土器 96 点	学術研究
11	21	米食文化研究所 所長 八谷 中大	考古資料 復元弥生土器による米調理実験 画像 1 式	出版物等への掲 載
11	21	岡村 喜明	歴史資料 歴史資料 伏龍骨之図並序 原板 3 枚、伏 龍骨之図(龍家所蔵) 原板 1 枚	出版物等への掲 載
12	16	滋賀県立大学 大学院生 岸田 和也	民俗資料 「免許漁場図(複製)」簿冊	学術研究
1	31	斎藤 慶一	瀬田川自普請組合村絵図 画像 1 点 野洲郡北里村大字江頭浸水ノ惨状 画像 1 点 野洲郡中洲村大字吉川野洲川堤塘ノ遭難者 画像 1	講演会における 画像紹介とレジ ュメへの掲載
2	5	関西大学大学院 大学院生 土屋 諒太郎	歴史資料 滋賀県姉川支流 草野川実測平面図 三 枚之内第一 画像 1 点	学術研究
2	17	滋賀県土木交通部流域政策局流域治 水政策室 室長 西川 佳宏	歴史資料 吾妻川土砂留普請所絵図 画像 1 点 栗太郡出庭村・中村・辻村大絵図 画像 1 点	Web サイトへの 掲載

2	19	静岡県茶手もみ保存会保存会永井 唐九郎	民俗資料 炮炉 2 点	学術研究
3	10	野洲市歴史民俗博物館博物館 館長 大岡 哲也	歴史資料 琵琶湖真景図 画像 1 点	出版物等への掲載
3	17	新潟大学教育学部 志賀 隆	植物さく葉標本 浜端悦治氏モンゴル水草標本 1 式 日本産水草標本 (ホッスモ標本含む) 1 式	学術研究

(4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用され、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2024 年度には以下の論文・書籍等が公表された。

公表された論文・書籍数 計 20 件

活用標本	種 別	<著者名／年／タイトル／雑誌名／巻号／ページ>
液浸標本 (魚類)	論文	Yasuhiro Fujioka, Masayuki Kuwahara, Ryoichi Tabata, Yusuke Fuke, Tetsuji Nakabo (2025) The Biwa salmon, a new species of <i>Oncorhynchus</i> (Salmonidae) endemic to Lake Biwa, Japan. Ichthyological Research, https://doi.org/10.1007/s10228-024-00997-7
微小生物標本 (顕微鏡写真)	論文	大塚泰介・根来 健・一瀬 諭・石川可奈子・辻 彰洋 (2025) 琵琶湖のプランクトンの長期変動 ―なぜ富栄養化が止まっても有害藻類ブルームが発生し続けるのか?―. 月刊海洋, 57(6): 267-278
微小生物標本 (珪藻プレパラート)	論文	富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子(2025) 古琵琶湖層群蒲生層最上部産の珪藻化石を用いた古環境復元. Diatom, 41: 1-10
微小生物標本 (顕微鏡写真)	書籍	渡辺圭一郎・根来 健・鈴木隆仁・大塚泰介 (2025) 琵琶湖博物館マイクロアクアリウムからミクロの世界へようこそ (琵琶湖の小さな生き物を観察する会 編). 京都新聞出版センター, 140 pp.
映像資料 (研究遺産)	論文	Akihiro Tuji, Satoshi Ichise, Taisuke Ohtsuka, Takeshi Negoro (2025) On the sudden appearance of <i>Coronia echeneis</i> (Surirellaceae, Bacillariophyceae) in freshwater Lake Biwa. Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B, Botany, 51(3): 97-106
地学標本 (堆積物)	論文	高橋啓一・大塚泰介・林 竜馬・間島信男 (2025) ナウマンゾウ「浜町標本」の付着堆積物試料から得られた珪藻化石および花粉化石について. 化石研究会会誌, 58(1/2): 11-19
微小生物標本 (珪藻プレパラート)	論文	Shiho Kamakura, Chisato Nakaji, Taisuke Ohtsuka, Tamotsu Nagumo, Shinya Sato (2026) <i>Epithemia fragarioides</i> sp. nov. (Bacillariophyta): Formal recognition of a diatom widespread across Japan. Phycological Research, 74(1): 57-70
液浸標本 (魚類)	論文	藤田朝彦 (2025) 石川県で生息が確認された未判定外来生物 <i>Lepomis gibbosus</i> パンプキンシードサンフィッシュ (新称). Ichthy, 57: 44-47
液浸標本 (魚類)	報文	川瀬成吾・大植伸之 (2026) 琵琶湖における国内外来種シロウオの初確認. 淡海生物, 7: 19-20

液浸標本 (魚類)	論文	中野 光・出口翔大・伊藤 玄(2025) 福井県北川水系より 45 年ぶりに確認されたヤリタナゴ.
液浸標本 (魚類)	論文	太下 蓮・永安由弥・伊藤 玄 (2025) 東京都荒川水系における国内外来種オヤニラミの初記録.
液浸標本 (魚類)	論文	谷口倫太郎・古旗峻一・内田大貴・久保田潤一・高野季樹・村橋卓也 (2025) 群馬県太田市で採集されたヤリタナゴ <i>Tanakia lanceolata</i> の記録および遺伝的特徴. 日本生物地理学会会報, 80 : 97-103
液浸標本 (魚類)	論文	谷口倫太郎・高橋鉄美・川瀬成吾・佐藤萌柚・野口亮太・柴 杉杉・小山直人・浅野雅人・中田和義 (2025) 外来種 <i>Rhodeus albomarginatus</i> タイリクシロフチタナゴ (新称) の日本初記録および再生産. 日本生物地理学会会報, 80 : 1-13
液浸標本・ 解剖スライド	論文	Seongnam Ham, Robin James Smith, Kazuyoshi Nakata (2025) First record of the invasive entocytherid ostracod <i>Ankylocythere sinuosa</i> on the North American red swamp crayfish <i>Procambarus clarkii</i> in western Japan. Crustacean Research, 54: 103-112
昆虫乾燥標本	論文	Lewis JH, Kojima H, Campbell EO (2025) A Japan-focused review of East Asian <i>Acicnemis</i> Fairmaire, 1849 (Coleoptera, Curculionidae) reveals cryptic diversity in a well-studied region. Zookeys, 1259: 103-167
昆虫乾燥標本	報文	八尋克郎 (2025) 滋賀県におけるエグリゴミムシの記録. Came 虫, (221): 9
昆虫乾燥標本	報文	今田 舜介 (2025) 滋賀県産ゾウムシ類の若干の記録. Came 虫, (221): 10-11
昆虫乾燥標本	報文	今田舜介 (2025) 江本健一コレクションのハナモグリゾウムシ属の記録. さやばねニューシリーズ, (59): 50
昆虫乾燥標本	書籍	今田舜介 (2026) ビロードアシナガオトシブミ. 滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック 2025 年版—. 滋賀県自然環境保全課, 696 pp.
歴史資料	書籍	滋賀県立琵琶湖博物館 [島本多敬編著] (2025) 『琵琶湖博物館第 33 回企画展示 川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—』滋賀県立琵琶湖博物館. pp. 104.

(5) 学芸員および水族飼育員による生体資料の利用による成果

当館では、水族資料および陸域資料として、生物の生体を飼育しており、その飼育管理技術の向上に水族飼育員および学芸員が取り組んでいる。今年度は、その成果を下記の通り発表した。また、他にも、飼育生物を用いた遺伝分析や標本の作成、経時的な血液検査、魚病の治療方法の探索や飼育困難な種の長期維持方法の開発などにも取り組んでいる。

- 近藤玲央・長田智生・大塚泰介 (2025 年 6 月 26 日) 琵琶湖博物館におけるハッタミミズ飼育の到達点と課題 第 91 回近畿ブロック水族館飼育係研修会
- 田畑諒一 (2025 年 11 月 26 日) 滋賀県立琵琶湖博物館・ふれあい体験室のリニューアル 第 35 回日本動物園水族館設備会議
- 今北大介・田畑諒一 (2025 年 11 月 26 日) 博物館開館以来初の長時間停電事例報告と対処法の提案 第 35 回日本動物園水族館設備会議
- 今北大介・菅原巧太郎 (2025 年 12 月 16 日) 水族館の口コミ評価から自・他園館の比較—いい水族館とは? 東京大学大気海洋研究所 共同利用研究集会

また、当館が加盟している公益社法人 日本動物園水族館協会（以下：JAZA）は、令和 5 年度希少野生動物の生息域外保全検討実施委託業務の契約を環境省と締結した。この業務の中で、当館は、2019 年に国内希少野生動植物種に指定されたタンゴスジシマドジョウの生息域外保全を推進する目的で、繁殖作業や飼育業務を行い、JAZA 加盟園館の中で生息域外保全を担当する水族館に対して、繁殖技術の移転、参加園館拡大などの業務を実施してきた。今年度、飼育下第一世代を用いた繁殖に、水族館等として初めて成功し、50 匹以上の幼魚を現在まで飼育している。

さらに、昨年度から環境省のアユモドキ保護増殖事業に参画し、環境省及び淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会等の協力の下、2 年連続でアユモドキの繁殖に成功し、300 匹を超える稚魚を得ることに成功した。なお、当事業は伊藤忠商事との協同プロジェクトの支援を受けている。

2017 年度よりいなべ市教育委員会から受託している天然記念物ネコギギ保護増殖事業でも、2 ペアから合計 20 個体程度の稚魚を得ることに成功した。

2025 年度末を以て、神奈川県内水面試験場が国指定の天然記念物の希少種・ミヤコタナゴの飼育、繁殖を終了するという、最新の研究結果から当館のミヤコタナゴは飼育個体群を入れ替えた方が良いと考えられたため、2026 年 2 月に神奈川県に当該個体群 300 尾を引き取りに行った。今後の繁殖は新たに入った個体群のみで行う。

（6）資料の利用（その他）

図書資料については、資料所蔵情報を館外に広く発信するため、2018 年度よりデータベースを Web 公開し、目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）への所蔵登録を推進している。2025 年度には、閲覧冊数が 844 冊、文献複写サービスの受託が 18 件、また図書資料データベースのトップページへのアクセスは 293,291 件、検索画面へのアクセスは、5,625 件であった。さらに 2025 年度からは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する調べ物のための検索サービス（レファレンス協同データベース）へ加入し、当館図書室に寄せられた図書に関する質問事例の公開を今後目指していく。また、収蔵庫の見学については動物収蔵庫 9 件、地学収蔵庫 1 件、植物収蔵庫 2 件、民俗収蔵庫 9 件、液浸収蔵庫 10 件であった。

（7）デジタルミュージアム推進事業

一昨年度から進めている二つのデジタルミュージアム推進事業をさらに進めた。一つ目は、専門家が分類・同定し管理してきた良質かつ多様な収蔵資料を、標本の特性に応じて高精細画像化/3D 化し、電子図鑑として公開する「多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備」、もう一つは、生物各種が発見された地点・年代の情報を地図に落とし、環境データと重ねることで、生物の分布と環境の関係やその変遷、潜在分布等を可視化し、学校教育や行政・環境保全関係者の支援等に活用する「地理情報システム（GIS）を用いた生物分布デジタルマップ作製」である。これらは、琵琶湖博物館第 3 次中長期計画（令和 3 年度から令和 12 年度）の掲げる「ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」を推進するものである。博物館法の改正や他府県での先進的な取組等を踏まえ、本事業では、デジタル技術を用いて琵琶湖博物館の標本・資料の活用法を変革し、【ミュージアム DX による滋賀の自然・文化の新たな発見と感動】を目指す。以下に今年度の事業内容を示す。

1) 多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備

・デジタル琵琶湖博物館ページの公開

2024 年度に公開した電子図鑑および 3D モデルのページを大幅に増補してリニューアルした (<https://archives.biawahaku.jp/>)。内容は以下のとおり。

生きもの図鑑：滋賀県に生息する生物の情報を整理し、利用しやすい情報として発信するために、琵琶湖博物館の収蔵資料管理システムと共通のデータベース I.B. MUSEUM SaaS 上で滋賀の生きもの電子図鑑の整

備を進めている。2025 年度は、2024 年に公開した魚類（114 種）、両生類（25 種）、哺乳類（53 種）の図鑑に加え、琵琶湖のプランクトン図鑑を一部公開した（現在 88 種）。また、2020 年 10 月に公開済みの「田んぼの生きもの全種データベース」を増補し、掲載種数を 6,661 種、写真掲載種数を 1,181 種まで増やした。さらにフォトグラメトリ（写真実測）を利用して作成した哺乳類骨格（主に頭骨）の 3D モデル 14 体を公開した。他に魚類標本の 3D モデル 9 体および花粉の 3D モデルも公開準備ができています。

昔の道具：2024 年度に、フォトグラメトリを利用して作成した縄文土器の 3D モデル 10 点を公開している。2025 年度は新たに弥生土器の 3D モデル 13 点を作成して公開準備を終えた。また、民具の 3D モデル 9 点も公開準備を完了している。

文献：琵琶湖博物館収蔵図書のうち、滋賀県の著作物で 1967 年以前に出版されて著作権切れになっているものや、もともと著作権フリーで出版されているものを選んで電子化し公開している。2025 年度は「日本生物学会誌」および、「琵琶湖水産調査報告」など滋賀県水産試験場の著作物、計 59 点約 2,900 ページを公開した。琵琶湖条例施行前後の滋賀県や関係研究機関の出版物についても電子化を進めている。

研究遺産：琵琶湖博物館に収蔵された、琵琶湖とその周辺の研究に偉大な足跡を残した研究者の研究資料の写真を公開している。2025 年度は、河川形態型やすみわけ理論の提唱で知られる可児藤吉のフィールドノート等 1,577 点、琵琶湖のプランクトン研究に大きく貢献した根来健一郎の原図等 845 点、そして伊吹山の植物の研究で知られる堀與曾市の植物標本写真（伊吹山文化資料館収蔵）745 点を公開した。他に日本の陸水学の先駆けである田中阿歌麿のスケッチブック等 944 点の公開準備も完了している。

びわこクイズ：2024 年に公開した「びわこクイズ」ページを、博物館職員が追加作成できるように改良した。

1. 多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備

指標		指標数（累計）		備考
		令和 7 年度		
3 D 標本 公開点数		27	（ 37 ）	
内 訳	土器	13	（ 23 ）	
	動物骨格	14	（ 14 ）	
	民具	（ 0 ） 公開準備中		
図鑑 公開種数		326	（ 1, 374 ）	
内 訳	哺乳類	53	（ 53 ） 滋賀県に生息する全種類	
	両生類	25	（ 25 ） 滋賀県に生息する全種類	
	魚類	114	（ 114 ） 滋賀県に生息する全種類	
	プランクトン	88	（ 88 ） 88 種分を公開	
	トンボ		（ 0 ） 滋賀県に生息する全種類	
	鳴く虫		（ 0 ）	
	ケイソウ	0	（ 0 ） 既存の電子図鑑(250 種) から移設	
	ゴミムシ	0	（ 0 ） 既存の電子図鑑(296 種) から移設	
	田んぼの生き物	15	（ 1, 181 ） 既存の電子図鑑から移行	
資料 公開点数		2, 434	（ 3, 226 ）	
内 訳	希少文献	59	（ 59 ） 約 2, 900 ページを公開	
	研究遺産	2, 375	（ 3, 167 ） 他 944 点の公開準備完了	

2) 地理情報システム (GIS) を用いた生物分布デジタルマップ作製

今年度はこれまで博物館で進めてきた共同研究の観察データを現在利用している収蔵品管理システム (I. B. MUSEUM SaaS) 内のデータベース (生物分布デジタルマップ用データベース) に格納した。これらのデータには、それぞれ緯度・経度情報が入力されており、昨年度に構築した生物・歴史資料分布デジタルマップ (びわはく GIS) (<https://biwahaku-digital.jp/>) 上に、その位置情報が表示されている。今年度は「びわはく GIS」の背景地図上に土地の凹凸、植生図等の土地の成り立ちが分かる地図を追加した。それらを階層上に表示することで、生物の分布と環境の関係について一目でわかるようにした。また、資料の表示に表示/非表示だけでなく、「不透明度」を追加することで、見たい資料を強調できるようにした。さらに、資料分類 (大・中・小分類) によって、絞り込み検索ができるようにしただけでなく、期間検索については、スライダーUI 表示を追加し、ユーザーフレンドリーの仕様に改良した。

2. 地理情報システム (GIS) を用いた生物分布デジタルマップ作製

指標		指標数 (累計)	備考
		令和 7 年度	
地理情報 表示点数		64, 411 (64, 411)	
内 訳	鳥類	57, 237 (57, 237)	
	民具	6, 158 (6, 158)	
	昆虫	816 (816)	細かいデータから代表データを抽出して表示した
	植物	(0)	

3. 資料の保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸 (アルブ燻蒸、二酸化炭素燻蒸) および冷凍処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行っている。さらに収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物環境調査 (昆虫トラップ調査)、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。本年度は、新たに各収蔵庫におけるルミノメーターによる清浄度調査を導入した。これにより、各収蔵庫の清浄度が数値化され、清掃目標の設定が可能となった。さらに、次年度には収蔵庫の二重壁内の清掃ができるように予算を確保した。

収蔵空間の保管・作業環境の改善として、民族収蔵庫の加湿装置と映像収蔵庫の扉を修繕し、収蔵空間の煙・熱感知器と非常灯のほぼすべての交換することで、環境を改善した。

収蔵庫内の温湿度については、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するシステムを導入しており、常時 Web 上でその推移を確認、記録している。温度と湿度をモニタリングするためのセンサは、耐用年数が 5 年であるため、5 年を過ぎたセンサについては順次更新をしている。本年度は、動物収蔵庫と液浸収蔵庫 1 のセンサを更新した。

IPM および温湿度管理に力を入れていたが、2025 年 11 月の生物環境調査において外来文化財害虫のニューハクシミが当館および滋賀県で初めて発見された。直ちに、プレスリリースをして、東京文化財研究所に対策方法を相談して、ベイト剤トラップの設置などにより個体数増加の抑制を試みている。また、荷解室の不要物を大量に廃棄し、清潔な環境作りを推進した。なお、収蔵資料への被害は確認されていない。

また、収蔵庫内の空気の酸性、アルカリ性の測定に使用していた環境モニターが終売となった。同じ目的に使われているパッシブインジケーターは高価で測定に時間がかかるため、代替品の自作を検討している。

自作の溶液で湿らせた pH 試験紙を使用して、これまでと矛盾しない結果が得られた。今後は妥当な結果が得られるか、収蔵庫の環境が変化していないかを確認していく予定である。

(1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	・各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。ほとんどの収蔵庫で、データロガーを使用し、クラウドサーバー上でリアルタイム監視を実施。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月 1 回原則として第 1 金曜日に実施。 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を 2 か月程度に 1 回実施。
特別清掃等	・各収蔵庫におけるルミノメーターによる清浄度調査の結果を各収蔵庫担当者に共有し、特に清掃が必要な収蔵庫に対して注意喚起を行った。 ・環境モニターの代替品の自作を検討した。

生物環境調査	年 3 回の生物環境調査 ・2025 年 6 月 13 日～6 月 27 日 昆虫トラップ調査 252 カ所(設置・回収・分析) ・2025 年 10 月 31 日～11 月 14 日 昆虫トラップ調査 252 カ所(設置・回収・分析) ・2026 年 1 月 30 日～2 月 13 日 昆虫トラップ調査 252 ヶ所(設置・回収・分析) ※当館の IPM 基準値 ・虫：非誘因性トラップで 1 日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1
--------	--

(2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査といった総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせて、殺虫・殺菌のための資料燻蒸を行っている。特に新規収集資料や収蔵庫外で活用した資料は、収蔵庫への搬入を行う前に燻蒸処理を行う必要があり、2025 年度は二酸化炭素ガスによる燻蒸を 4 回、エキヒューム S（主成分：酸化エチレンガス）による燻蒸を 1 回実施した。今年度はエキヒューム S が販売終了となった初年度であり、今後は殺菌効果のあるガスとしてアルプ（主成分：酸化プロピレン）を用いた燻蒸処理を行うことになる。これにともない今年は密閉テント方式のアルプ燻蒸を 1 回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

エキヒューム S による大型燻蒸庫での資料燻蒸が出来なくなったことで、これまで以上に菌の繁殖をめぐるリスク管理が重要になったが、その対策としてルミノメーターによる検査を導入した。今後はさらに「予防」に力を注ぐ IPM 体制を構築する予定である。

5 展示

1. 展示活動

2025年度は、水族展示室の再生と再開に向けて歩みを進めた1年であった。まず、「ふれあい体験室」が4月22日に再開し、冬季（1月～3月）の週末に平和堂財団によるワークショップが開催され、開館当初の賑わいを取り戻した。2024年度より改修が継続していたビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽は、ようやく工事が終了し、次年度当初の展示再開が視野に入る状況になった。また、琵琶湖博物館の展示リニューアルの売りの一つであった「匂い展示」は、コロナ禍以降に展示手法の検討および香料の入手困難等で休止していたが、3月8日の「ナイトミュージアム」から再開した。水槽工事中で、観覧動線が制限された期間が長かったが、より多くの来館者に博物館を楽しんでいただく工夫を続けた。

2020年にリニューアルオープンしたA展示室では「地域の人びとによる展示」コーナー、同じくB展示室では「学芸員のこだわり展示」コーナーをそれぞれ設けることにより、定期的に新しい情報を発信した。C展示室や水族展示室では、標本入れ替え等の小規模な展示更新やトテーマを決めたトピック展示を行い、最新の研究成果や他機関との共同での取り組みなどを紹介した。ディスカバリールーム、おとなのディスカバリーでは、主として季節に合わせた展示更新を行い、繰り返し来館される方々にも好評であった。

展示室での利便性向上のために、すでに導入されていた「ポケット学芸員」の音声ガイドとしての活用を推進し、今後は日本語、英語に追加して言語の追加を検討している。また、YouTubeの「びわこのちからチャンネル」（琵琶湖博物館公式）を関連する常設展示から参照できるよう、展示室内にQRコードを設置し、より深く広く展示を楽しみ学べる展示作りを進めた。

第33回企画展示「川を描く、川をつくる―古地図で昔の堤をさぐる―」では、滋賀県で昔から水害や土砂災害から地域を守るためにつくられてきた「堤」に着目し、人びとによる防災の取り組みがどのように景観をつくりあげたのかを、数多くの歴史資料から読み解き、その成果を提示した。単なる歴史の紹介ではなく、地域の資料の保存の重要性を理解し、今後の防災のあり方についても再考する場となった。県内外の博物館や資料館、研究機関の協力を得て開催され、26,803人もの入場者を得た。

春のギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人々の系譜～」では、当館初のコケ植物の展示として、橋本忠太郎氏（日野町出身の植物研究家）の寄贈コレクションを基に整備したコケ植物データベースの公開に合わせて、滋賀のコケ植物研究史や代表的なコケ植物を紹介した。冬ギャラリー展示「民俗学者 橋本鉄男がみた近江―滋賀民俗研究のいしずえ―」では、滋賀の民俗学者である橋本鉄男氏の研究資料の整理とデジタル化が進んだ成果を公開し、氏の業績と滋賀県の多様な民俗文化について取り上げた。これら以外に、アトリウムやA展示室などで10件のトピック展示およびパネル展示を行い、そのうち8件は博物館外の団体との共催であり、地域連携の推進事例となった。

（1）常設展示の主な更新

1) A展示室

・地域の人びとによる展示

展示室の出口付近にあるこのコーナーでは、地域で調査をされている方が自らの標本を使った展示を、当館の職員と相談をしながら行っている。おおよそ半年ごとに展示する人や内容を替えている。

1. 自然がつくったガチャガチャ ー球状コンクリーションー

展示した人：村宮悠介さん

期間：2025年4月8日～2025年9月30日

2. 現代の石の長者 ～新川コレクションより～

展示した人：新川 教さん

期間：2025年10月1日～2026年3月31日

・展示者による展示室での交流

「地域の人びとによる展示」コーナー付近で、展示をしている人やその関係者が、来館者に対して、展示物に関する解説や採集した標本に触ってもらったりすることで、展示室での交流を行っている。

2025 年 4 月 8 日：村宮悠介

2025 年 11 月 15 日：飯村強、馬越仁志、高田雅彦（びわ博フェスに併せて）

2025 年 11 月 16 日：飯村強、馬越仁志、高田雅彦（びわ博フェスに併せて）

・地域を調べてきた人びとの資料

2025 年 4 月 19 日～現在：採集者が現在研究中の化石（古琵琶湖層群の魚類化石）

・トピック展示等

2025 年 4 月 1 日～4 月 27 日：「新種発見！！レイホクナガレホトケドジョウ」

場所：「うつり変わる生き物」の研究者の机周辺

2025 年 7 月 19 日～11 月 24 日：企画展示関連トピック展示：地震災害（地震防災）に関するパネル展示

場所：「変わる大地と湖」エリア 饗庭野断層剥ぎ取り標本の展示付近

協力（共催）：防災危機管理局 防災対策室 防災企画係

2025 年 10 月 8 日～2026 年 1 月 11 日：湖ラボ展「水月年縞 2025」(連携事業による展示)

場所：「琵琶湖の生い立ちと私たち」

協力（共催）：福井県年縞博物館

2) B 展示室

・収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示」

B 展示室では、2020 年 10 月のリニューアルオープンを機に、展示室内の館蔵品紹介コーナーにおいて「学芸員のこだわり展示」と題した展示を実施している（年複数回実施、毎回の会期 1～2 か月程度）。当館の歴史系分野（考古、歴史、民俗）における資料の収集・保存・整理・公開活動または研究成果に関わる資料を、トピック展示として順次紹介する。なお、展示リニューアル前の B 展示室「蔵ケース」で開催していた展示を継承している。

期 間	タイトル・展示資料名
3 月 18 日～6 月 15 日	第 28 回学芸員のこだわり展示「民具を作る民具―初公開！八日市の柄屋用具―」 ・ 八日市の柄屋用具及び製品（滋賀県指定有形民俗文化財）
6 月 17 日～7 月 27 日	第 29 回学芸員のこだわり展示 企画展示「川を描く、川をつくる」キックオフ企画「近江国絵図のナゾ」 ・ 「近江国絵図」（江戸時代、17 世紀？）
7 月 29 日～11 月 16 日	第 30 回学芸員のこだわり展示 企画展示「やよいのつぼ」 ・ 彦根市松原内湖遺跡出土弥生壺（弥生時代）
11 月 18 日～1 月 18 日	第 31 回学芸員のこだわり展示「琵琶湖真景図でさがそう―栗太郡編―」 ・ 「琵琶湖真景図」1866 年（慶応 2 年）
1 月 24 日～3 月 15 日	第 32 回学芸員のこだわり展示「柳田國男から滋賀への便り」 ・ 柳田國男直筆書簡（浅見安之宛、大正時代 2 点） ・ 柳田國男直筆書簡（橋本鉄男宛、昭和時代 6 点）

3) C展示室

C展示室では、以下の展示更新を行なった。

①「田んぼへ」ゾーン

2025年4月16日：「ゆりかご水田模型」配管改修終了により水循環再開

2025年6月3日：カメ水槽「めくってみよう」：スッポンから水生昆虫に入れ替え

2025年6月20日：世界農業遺産展示：パネル更新

2025年6月17日：カメ水槽：ミナミイシガメ（右後肢先端欠損個体）展示開始

2025年7月19日：カメ水槽「めくってみよう」：水生昆虫からスッポンに入れ替え

②「川から森へ」ゾーン

2025年3月7日～2026年1月15日：第16回 淡海の川づくりフォーラム 作品展示

＜グランプリ＞ 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト

＜準グランプリ＞ 米川よろず会議

2026年1月16日～：第17回淡海の川づくりフォーラム 作品展示

＜グランプリ＞ 北川を遊べる川にする有志の会

＜準グランプリ＞ あおむしくらぶ・田村川わくわく探検隊

2026年3月8日～：匂い展示「カワウの糞」「スギ」「ヒノキ」再開

③「生き物コレクション」ゾーン

2025年11月15日：昆虫コーナー：1箱分を地域の人々の活動に割り当て、はしかけ「虫架け」の箱を展示。

④「これからの琵琶湖」ゾーン：「研究スタジアム」コーナー

2025年12月27日：展示内容を第10期に更新

各ブースの展示担当は、菅原・松岡（第1巡目）、田畑・鈴木・中村（第2巡目）である。

⑤「これからの琵琶湖」ゾーン：「みんなで作るフィールド情報」コーナー

2025年12月26日：展示改修を実施

フィールドレポーターやはしかけの活動成果を随時公開できるよう、展示システムの改修を行った。初回は進行中のフィールドレポーター調査への参加呼びかけを実施した。今後は調査成果の発表、フロアトーク、イベント等での多角的な活用を図るため、液晶モニターをHDMI接続対応とし、PCを接続して発表等に活用できるよう配慮した。

⑥「これからの琵琶湖」ゾーン：「オピニオンボード」コーナー

来館者の意見を記した「オピニオンカード」を四半期ごと（6月末、9月末、12月末、3月末）に回収し、期間・内容別に分類・ファイリングを行った。これらは館内共有資料として、副館長室前にて以下の通り順次公開した。

・2025年7月9日：2025年4月～6月分を設置

・2025年12月2日：2025年7月～9月分を設置

・2026年2月26日：2025年10月～12月分を設置

4) 水族展示室

2023年2月に破損した琵琶湖の主（ビワコオオナマズ）水槽とコアユ水槽の新設工事が2024年度から引

き続き行われており、水族展示室はビワコオオナマズ水槽からコアユ水槽の区間が閉鎖を余儀なくされた。このため、水族展示室は入口が2か所となり、通行止め区間までの折り返し通行となったが、繁忙期は一部巡回型のルートに変更したり、掲示物を分かりやすくしたりすることにより、大きな混乱なく50万人以上の来館者に対応することができた。また、魚の配置や収容場所を調整することで展示種数を減らすことなく、展示を実施した。

7月19日～9月28日は、株式会社木下カンセーからの支援も受け、世界湖沼の日制定記念として水族企画展示室にて水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」を開催した。

ふれあい体験室は、破損したアクリル水槽（ふれあい水槽）を2024年度にシステム水槽に交換し、4月22日（火）にリニューアルした。旧タッチングプールは小川を模した水槽にレイアウト変更し、そこで生き物のタッチングも行ったが、案内者不在での運営は生物への負担が大きかったことから、6月15日（日）をもってタッチングを中止した。2026年1月10日～3月20日の土日祝日（第3日曜除く）には、公益財団法人・平和堂財団からの支援を受け、展示交流員を配置し、アニマルウェルフェアにも配慮した生き物ふれあいワークショップを実施した。多い日には、300件近くの来館者が生き物との正しいふれあい方を体験した。

3月8日のナイトミュージアムおよび20日のプレミアムナイトツアーでは、水槽や通路の照明を落とすことで、夜の魚たちの生態を見ることができる展示を実施した。

2025年度末をもって、ビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の工事は完了した。2026年4月に予定されている水族展示室の完全再開に向けて、スタッフ一丸となって業務に取り組んでいる。

- 4月1日～ 水族トピック展示「新種発見されたスナヤツメの仲間」
場所：保護増殖センター前（昨年度からの継続展示。4月27日終了）
- 4月22日～ ふれあい体験室リニューアルオープン
- 4月28日～ 水族トピック展示「里山のヨウセイ ヤマトサンショウウオの幼生」
場所：保護増殖センター前（6月1日終了）
- 6月3日～ 「サワガニがつくる地中の迷路水槽」（サワガニ水槽）新設
場所：上流域ゾーン
ニホンイモリの展示を再開 場所：上流域小水槽
- 6月6日～ ニゴイとハスを展示追加 場所：下流域水槽
- 6月17日～ 水族ふれあい体験室にて、タッチングを休止する運用に変更
- 6月19日～ タニガワナマズからナガレモンイワナへ展示変更
場所：よみがえれ！日本の淡水魚コーナー
- 6月28日～ マミズクラゲの展示開始 場所：マイクロアクアリウム
- 7月19日～ 水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」
水族トピック展示「ビワマス新種記載記念展示」開催
場所：水族企画展示室（9月28日終了。ホロタイプ標本の展示は8月3日終了）
- 8月6日～ ミヤコタナゴ水槽閉鎖（清掃作業のため数日間）
場所：よみがえれ！日本の淡水魚コーナー
- 8月13日～ コアユをメインに展示変更 場所：下流域水槽
- 8月14日～ ダントウボウを展示追加 場所：水族企画展示室 太湖水槽
- 8月26日～ 動画「琵琶湖ビデオ図鑑」展示追加 場所：水族企画展示室
- 9月6日～ 展示変更（背景を春夏から秋へ・ヤナ撤収） 場所：下流域水槽
イサザとアナンデルヨコエビを常設展示水槽から置き水槽へ移動
場所：暮らしの中の魚たちコーナーワタカ水槽横
- 10月21日～ カイツブリ幼鳥3羽に展示変更 場所：水鳥水槽

- 10月29日～ カイツブリに、ヒドリガモ1羽、ユリカモメ2羽、カルガモ1羽を加え
4種7羽に展示追加 場所：水鳥水槽
- 11月3日～ 産卵遡上するビワマスへ展示変更 場所：下流域水槽
- 12月3日～ ワカサギ、小ウグイ、ビワヒガイを主に展示変更 場所：下流域水槽
- 12月16日～ カイツブリ幼鳥を3羽から2羽へ展示変更 場所：水鳥水槽
モクズガニの展示追加 場所：ふれあい体験室
- 12月22日～ 展示更新（壁紙） 場所：ふれあい体験室
- 12月28日～ 展示変更（背景を秋から冬へ） 場所：下流域水槽
- 1月4日～ ヒウオを展示に追加 場所：ビワヨシノボリ水槽
- 1月10日～ 「ふれあい体験室平和堂財団ワークショップ」土日祝（第三日曜を除く）開催（3月20日終了）
水族トピック展示「とある飼育員の飼育日誌～ビワマスの仔魚（赤ちゃんが泳ぎ出すまで～）」開催 場所：保護増殖センター前（3月8日終了）
- 3月2日～ ビワマス成体を展示追加 場所：トンネル水槽
- 3月7日～ 展示変更（背景を冬から春夏へ） 場所：下流域水槽
- 3月10日～ 水族トピック展示「びわ博生まれ ヤマトサンショウウオの幼体」開催
場所：保護増殖センター前（6月28日まで予定）
- 3月17日～ 展示変更（ヤナ設置） 場所：下流域水槽
- 3月20日～ 産卵遡上するウグイへ展示変更 場所：下流域水槽
- 3月24日～ ナガレモンイワナからビワマスの幼魚へ展示変更
場所：よみがえれ！日本の淡水魚コーナー

5) D展示室 ディスカバリールーム

「子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、2018年7月6日リニューアルし、新しい展示構成となった（展示構成は以下の表のとおり）。「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針のもと、五感や実物標本を使った体験型展示により学び発見する喜びを知ってもらえる場となっている。具体的には、五感を使う展示、だれもが楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸に構成し、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指している。

コーナータイトル	内 容	概 要
さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
におってみよう	オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る（休止していたが今年度3月より再開）
大きくしてみよう	昆虫類	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミ・ムクドリ・コサギ・キジバト	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る

見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼 きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭 の中のイメージとの違いに気づく
のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見 え方の違いに気づく
にんぎょうげきじょう	季節ごとのパペット	人形劇を通じて、琵琶湖や滋賀の昔話を知る (2021 年度コロナ対策のため休止)
おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲り、外来種 の問題を知る
ディスカバリーコーナ ー	季節ごとのディスカバリーボッ クス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボック ス
イノシシの歯、コウモ リの歯	2 種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
糸描きコーナー	毛糸で絵を描くボード	

各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替えを次の表の通り実施した。

【季節展示】

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	こどもの日	4 月 18 日～5 月 6 日
	茶摘み(八十八夜)	5 月 8 日～6 月 1 日
	入梅	6 月 3 日～6 月 29 日
	七夕	7 月 1 日～7 月 6 日
	土用の丑	7 月 8 日～7 月 31 日
	夏(蚊取線香)	8 月 2 日～9 月 7 日
	お月見	9 月 6 日～10 月 4 日
	秋(運動会)	10 月 7 日～10 月 28 日
	七五三	10 月 29 日～11 月 19 日
	冬至	12 月 9 日～12 月 21 日
	お正月	12 月 23 日～1 月 25 日
	七草	1 月 7 日
	節分	1 月 16 日～2 月 3 日
	ひな祭り	2 月 7 日～3 月 3 日
	春 お彼岸 ぼたもち	3 月 10 日～3 月 22 日
	春 お花見	3 月 24 日～3 月 31 日
ブックコーナー	かがくのとも	月 1 回更新
	たくさんのふしぎ	月 1 回更新
	学芸員の本紹介(半田学芸員)	2 月 28 日～3 月 31 日
生きものの展示	タンボコオロギ	4 月 1 日～5 月 15 日
	クビキリギス	4 月 1 日～5 月 15 日

	オトシブミ	5月27日～5月31日
	テントウムシ	5月27日～6月12日
	アリジゴク	5月29日～8月19日
	ルリボシカミキリ	7月15日～8月29日
みつけてみよう	昆虫(レプリカ)	月1回更新
ディスカバリーコーナー	ボックス おせち	1月4日～1月13日
	ボックス 福笑い	1月4日～1月13日
大きくしてみよう ・マイクロアイ	コいの歯	5月5日～5月7日
	カイコ	7月18日～8月31日
	ひつつきむし オナモミ	9月7日～9月25日
	鳴く虫	9月26日～3月31日

【ギャラリー展「滋賀のコケ植物とその研究史」関連展示】コケ3種 5月8日～6月8日

【企画展「川を描く、川をつくる」関連展示】地図パズル 10月21日～11月24日

【正月関連展示】

- ・ディスカバリーボックス 「おせちをつめよう」1月4日～1月13日
- ・『日本の楽器をひいてみよう』コーナー設置 12月26日～1月31日
- ・干支(馬)展示 1月4日～25日

・修繕

「みつけてみよう」どんぐり受け 修繕4月4日

「にんぎょうげきじょう」 改装工事 3月3日～31日

・新任研修 日時：4月17日

対象：新任職員、新規展示交流員、委託業者

内容：ディスカバリールームの概要説明、各コーナーとディスカバイメントの紹介をした。

・モーニングレクチャー 5月27日～30日

【イベント実施一覧】

イベント開催日	イベント名	参加人数
5月5日	かぶとをつくろう！	43人
7月1日～7月6日	七夕★短冊に願い事を書こう！	261人
7月19日～8月31日	みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！	20人
11月8日	森の宝物をさがそう！	7人
1月3日～4日	ウマの毛で馬を書こう！	98人
1月31日・2月1日	大津絵の鬼になってみよう！	74人
2月28日・3月1日	おひなさまの扇をつくろう	55人

6) E 展示室 おとなのディスカバリー

おとなの好奇心を刺激し、おとなが心から楽しめる展示室として、第2期リニューアルにより2018年7月6日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問

コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの5つのゾーンから構成されている。

「しらべるゾーン」の展示更新と交流活動は以下の通りである。

【植物】

・植物標本

4月 イブキノエンドウ マメ科

・植物細密画

6月 はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」杉野由佳さん 植物細密画の世界
スイレン、ノアザミ他 16 作品

11月 はしかけ「森人」矢原 功さん 植物細密画の世界
晩秋の植物ノブドウ、サネカズラ、ジュズダマ他 20 作品

1月 出口武洋さん 樹冠トレイル虹景、山桜

・植物写真（大型）

7月 湖岸の夏風景

9月 初期の紅葉

11月 紅葉終盤

12月 冬の太古の森

2月 琵琶湖の雪景色（ケヤキ）

3月 桜とヒヨドリ

・植物（映像）

6月 夏の植物 36点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

9月 秋の植物 24点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

12月 冬の植物 39点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

3月 春の植物 37点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

・ハンズオン

7月 キカラスウリ、ハス、ヘクソカズラ、ドクダミ、オニグルミ

10月 キンミズヒキ、ハウチワカエデ、カツラ、イチイガシ、ツユクサ

1月 ヤツデ、サザンカ、ロウバイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、クズ、ヌルデ

3月 セイオユタンポポ、カラスノエンドウ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、クスノキ、ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、ヤツデ、カツラ、ハウチワカエデ、フウ、メタセコイア

・正面展示

6月 ホタルに関する草花、ホテイアオイ

10月 コイブキアザミ

2月 セイヨウタンポポとカンサイタンポポ（レプリカ）

・正面展示周辺

【岩石・鉱物・化石】

岩石ボックスを修繕した。

【昆虫】

2025年4月14日 アブラゼミを交換した。

「オープンラボ」での実演や交流活動等の使用実績は 262 件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
4月1日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
4月3日	フィールドレポーター	中野
4月4日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
4月4日	ディスカバリールーム会議	川瀬
4月4日	Zoom 会議	川瀬
4月5日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
4月8日	新聞取材	寺井
4月11日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
4月18日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
4月19日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
4月25日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
4月26日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
4月29日	標本調査	川瀬
5月2日	ディスカバリールーム会議	川瀬
5月2日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
5月3日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
5月4日	プランクトン観察	鈴木
5月6日	標本調査	川瀬
5月8日	打ち合わせ、編集会議	大塚
5月9日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
5月9日	打ち合わせ	鈴木
5月9日	オンライン研修	大久保
5月9日	オンライン会議	田畑
5月11日	フィールドレポーター	中野
5月15日	Web 会議	安井
5月16日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
5月20日	JAZA web ミーティング	田畑
5月22日	観察池調査	鈴木
5月23日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
5月23日	Web 会議	山田
5月25日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
5月26日	水槽工事 web ミーティング	田畑
5月27日	標本調査	川瀬
5月28日	プランクトン観察	鈴木
5月29日	企画・広報営業課	山崎
5月30日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
6月3日	湖国と文化 打ち合わせ	鈴木
6月4日	Web 会議	関
6月4日	Web 会議	佐藤

6月5日	標本観察	半田
6月6日	ディスカバリールーム会議	川瀬
6月6日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
6月6日	水族会議	金尾
6月8日	フィールドレポーター	中野
6月10日	モロコの卵撮影	寺井
6月10日	種子サンプル計数・入力	佐藤
6月11日	Web 会議	山田
6月11日	Web 会議	川瀬
6月12日	生物調査トラップ組立	資料活用係
6月13日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
6月17日	Web 会議	環境学習センター
6月18日	プランクトン観察	鈴木
6月18日	Web 会議	佐藤
6月18日	Web 会議	鈴木
6月20日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
6月20日	Web 研修会	大久保
6月21日	桃山学院大学	芦谷
6月22日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
6月22日	フェスともオンラインミーティング	大久保
6月24日	フェスともオンラインミーティング	大久保
6月24日	生態観察池プランクトン観察	鈴木
6月25日	打ち合わせ	川瀬
6月25日	Web 会議	川瀬
6月27日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
6月28日	標本作成	今田
7月1日	試験研究機関会議	鈴木
7月2日	Web 会議	総務課
7月3日	Web 会議	総務課
7月4日	ディスカバリールーム会議	川瀬
7月4日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
7月6日	持ち寄った植物の観察	はしかけ植物の会
7月7日	タンゴスジシマドジョウ web 会議	田畑
7月8日	モーニングレクチャー	芦谷
7月9日	モーニングレクチャー	芦谷
7月10日	モーニングレクチャー	芦谷
7月10日	web ミーティング	田畑
7月11日	モーニングレクチャー	芦谷
7月11日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
7月11日		はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
7月15日	エビチェック	鈴木

7月16日	水国ミーティング	今田
7月18日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
7月18日	サンプル計測	佐藤
7月20日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
7月22日	観察池調査	鈴木
7月24日	プランクトン観察	鈴木
7月24日	脂肪酸・同位体比分析前処理	菅原
7月25日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
7月26日	標本調査	川瀬
8月1日	ディスカバリールーム会議	川瀬
8月1日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
8月1日	MLG ミーティング	川瀬
8月2日	クラウドファンディング・リターン	鈴木
8月6日	オンライン会議	川瀬
8月7日	企画展 2026 ミーティング	
8月8日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
8月9日	脂肪酸・同位体比分析前処理	菅原
8月11日	標本調査	川瀬
8月12日	標本調査	川瀬
8月13日	標本調査	川瀬
8月14日	標本調査	川瀬
8月15日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
8月20日	企画展ミーティング	
8月20日	交流ミーティング	
8月22日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
8月24日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
8月26日	標本調査	川瀬
8月27日	ベクトル定例ミーティング	上坂
8月29日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
9月3日	オンライン会議	金尾
9月4日	生物顕微鏡観察	高橋
9月4日	オンライン会議	田畑
9月5日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
9月6日	打ち合わせ	はしかけ 大津の岩石調査隊
9月11日	NEXCO 打ち合わせ	
9月12日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
9月12日	地域連携打ち合わせ	鈴木
9月13日		はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
9月16日	脂肪酸・同位体比分析前処理	菅原
9月17日	観察池調査	鈴木
9月18日	ベクトル定例ミーティング	上坂

9月18日	京都府大	大塚
9月19日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
9月23日	水草サンプル同定	芦谷
9月23日	オンライン会議	大久保
9月25日	プランクトン観察	鈴木
9月26日	プランクトン観察	鈴木
9月26日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
9月26日	国際シンポ会議	川瀬
9月27日	視察ヒアリング	中村
9月27日	標本観察	川瀬
9月28日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
9月30日	広報ミーティング（京都 MICE）	
10月1日	ベクトル定例ミーティング	上坂
10月2日	Web ミーティング（ダイハツ）	鈴木・山崎
10月3日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
10月7日	淡海の生き物	鈴木
10月9日	広報ち合わせ	
10月10日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
10月10日	ディスカバリールーム会議	川瀬
10月10日	オンライン会議	大久保
10月13日	標本観察	川瀬
10月14日	観察池調査	鈴木
10月14日	質問対応	田畑
10月15日	広報ち合わせ	
10月15日	クラゲ撮影	鈴木
10月17日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
10月22日	写真撮影	吉田
10月23日	プランクトン観察	鈴木
10月24日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
10月24日	マミズクラゲ	鈴木
10月24日	打ち合わせ	奥田
10月26日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
10月30日	生物調査トラップ組立	資料活用係
10月31日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
10月31日	ディスカバリールーム会議	川瀬
10月31日	サンプル処理・顕微鏡デモ	菅原・寺井・米田
11月1日	サンプル処理	菅原・寺井・米田
11月3日	標本作成	今田
11月6日	JAZA web ミーティング	田畑
11月7日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
11月11日	ベクトル定例ミーティング	上坂

11月12日	取材対応	寺井
11月14日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
11月14日		はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
11月18日	プランクトン観察	鈴木
11月19日	打ち合わせ	芦谷
11月20日	プランクトン観察	鈴木
11月21日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
11月22日	パキコダイリ観察	鈴木
11月23日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
11月25日	ミーティング	はしかけ 海浜植物守りたい
11月26日	ベクトル報告会	
11月27日	標本観察	川瀬
11月27日	YouTube 打ち合わせ	
11月28日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
11月28日	オンラインミーティング	川瀬
11月29日	寄生虫ワークショップ	大塚
12月2日	マミズクラゲの取材	鈴木
12月2日	広報ナイトミーティング	
12月5日	ディスカバリールーム会議	川瀬
12月5日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
12月5日	脂肪酸・同位体比分析前処理	菅原
12月9日	研究打ち合わせ	島本
12月10日	標本観察	川瀬
12月10日	企画展打ち合わせ	鈴木
12月12日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
12月12日	GIS ミーティング	佐藤
12月12日	ミーティング	今田
12月13日	パキコダイリ観察	鈴木
12月16日	プランクトン観察	鈴木
12月16日	サンプル処理	寺井
12月17日	打ち合わせ	中村
12月17日	Web 会議	上坂
12月19日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
12月20日	標本整理	今田
12月21日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
12月24日	ナイトミュージアム打ち合わせ	
12月25日	乃村打ち合わせ	中村
12月25日	デジタルミュージアム打ち合わせ	大槻
12月26日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
12月26日	プランクトン観察	鈴木
12月27日	プランクトン観察	鈴木

12月28日	標本観察	川瀬
1月7日	試験研究機関会議	鈴木
1月8日	打ち合わせ	佐藤
1月8日	サンプル処理	佐藤
1月9日	サンプル処理	佐藤
1月9日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
1月9日	ディスカバリールーム会議	川瀬
1月10日	標本観察	川瀬
1月11日	標本観察	川瀬
1月13日	観察池調査	鈴木
1月15日	標本観察	川瀬
1月15日	企画展示ミーティング	川瀬
1月16日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
1月16日	ベクトル定例ミーティング	上坂
1月17日	標本調査	川瀬
1月22日	プランクトン観察	鈴木
1月23日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
1月23日	オンライン打ち合わせ	松岡
1月25日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
1月28日	打ち合わせ	寺井
1月29日	生物調査トラップ組立	資料活用係
1月29日		加藤
1月30日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
2月1日	試験研究機関会議	鈴木
2月2日	Web 会議	総務課
2月3日	Web 会議	総務課
2月4日	琵琶湖博物館協議会レク	上坂
2月4日	ベクトル定例ミーティング	上坂
2月6日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
2月6日	ディスカバリールーム会議	川瀬
2月7日	サンプル処理	寺井
2月8日	サンプル処理	菅原
2月9日	JAZA タンゴスジシマドジョウ web 会議	田畑
2月11日	打ち合わせ	鈴木
2月13日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
2月13日	水産試験場との打ち合わせ	菅原
2月13日	自然環境保全課との打ち合わせ	菅原
2月17日	ダイハツ打ち合わせ	鈴木
2月20日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
2月22日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
2月23日	標本調査	川瀬

2月27日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
3月1日	持ち寄った植物の観察	はしかけ 植物観察の会
3月3日	取材対応	寺井
3月6日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
3月6日	ディスカバリールーム会議	川瀬
3月13日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
3月17日	Web 打合せ	総務課
3月18日	GIS ミーティング	佐藤
3月20日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
3月22日	スケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
3月25日	サンプル処理	寺井
3月26日	プランクトン観察	鈴木
3月27日	企画・広報営業課ミーティング	河崎
3月27日	取材対応	田畑
3月27日	水族飼育打ち合わせ	田畑
3月27日	昆虫標本作成	今田
3月29日	クラウドファンディング・リターン	鈴木
3月30日	高校生研究相談	鈴木

「交流コーナー」での交流活動等の使用実績は2件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
11月13日	岡山県立岡山操山中学校生徒の研究相談	田畑
2月25日	龍谷フラッグシッププロジェクト・研究者対談	川瀬

7) 屋外展示

・樹冠トレイルと屋外展示の森を活用した展示交流活動

樹冠トレイルと屋外展示の森を活用していくことを目的に、はしかけグループ「森人（もりひと）」と協力して交流活動や整備活動を実施した。

展示交流活動では、びわ博フェス2025の中で森のガイドツアーをクイズラリー形式で実施した。また、季節毎の屋外展示の魅力を発信するためのクイズシート「フォレストマスター」を作成し、アトリウムとC展示室に設置した（5-6月版）。屋外展示の整備活動としては、つる植物の管理をはじめとした屋外展示の整備活動を随時行った。

・屋外展示の植栽管理

屋外展示の維持管理のため、植物の刈り込みや草刈り、枯損木の伐採等の植栽管理作業を実施した。

(2) 企画展示

第33回企画展示「川を描く、川をつくる―古地図で昔の堤をさぐる―」

[主旨]

近年の水害・土砂災害の発生動向をうけて、自ら住む地域の防災・減災のあり方を考える機運が社会的に高まっている。関連する学術諸分野や行政機関では「Eco-DRR（生態系を活かした防災・減災）」「グリーンイ

ンフラ」といった考え方にに基づき、現代土木工学の技術を補完し得る地域の共同体が実践してきた様々な災害対応、土地利用の慣習、災害伝承などの文化的側面が注目されている。

滋賀県（近江国）は日本国内でも有数の「天井川」が多い地域で、「はげ山」などと呼ばれる草木の少ない山々が広がっていた歴史がある。そして、人々は水害・土砂災害から地域をまもるため、「堤」（川の堤防や山の土砂流出をとめる堰堤など）をつくってきた。その当時の堤や村・町の景観は、古地図（近代測量導入以前の地図、村絵図や河川絵図など）をはじめとする歴史資料に記録され、県内外で保管されている。

以上の社会的動向と歴史研究の成果を踏まえ、次の2つの目的を掲げて本展示を開催する。

1) 17～19世紀（近世から明治前期）において琵琶湖集水域および淀川流域でつくられてきた「堤」（こんちの河川堤防、砂防堰堤にあたる土木施設）の歴史を紹介する。これによって、地域を守るために住民らが歴史のなかでおこなってきた防災のためのハード・ソフトな取り組みが、現在の地域の景観の成り立ちに関わっていたことを伝える。

2) 景観の歴史を調べるための地図や文書といった資料について、利用可能性、読み解き方、分析することで明らかになることを、歴史学および地図史・歴史地理学研究の成果をもとに紹介する。これを通じて、地域の歴史を事実に基づいて考えるために必要な資料の保存・記録の重要性を伝える。

① 概要

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

期間：2025年7月19日（土）～11月24日（月）＊開館日数 114日

開館時間：9:30～17:00（16:00 最終入館）

観覧料金：小・中学生 170円（130円）、高・大学生 270円（210円）、大人 340円（270円） ※（ ）は団体料金 ※企画展示を観覧するには、常設展示の観覧券が必要

観覧者数：26,803人

展示企画・製作：島本多敬（主担当）、里口保文（副担当）、加藤秀雄（副担当）、濱口貴仁（副担当）、岸仁美（デザイン）、出口武洋（デザイン）

展示施工：株式会社本庄

展示協力（個人・団体、五十音順・敬称略）

芦谷美奈子、五十嵐正也、石田 始、稲田琴美、今田舜介、伊藤大生、遠藤礼子、大久保実香、大槻達郎、大月英雄、大西稔子、大林賢太郎、奥 伊佐雄、奥 政則、奥 善夫、奥田 岬、小倉拓郎、落合知帆、片山大輔、兼清順子、川瀬成吾、川端陽太郎、河村栄一、北村正樹、北村美香、北村儀男、木戸幹夫、熊木 香、國分政子、古関大樹、小林亜美、小林高之、小村廣光、斎藤秀樹、斎藤正彦、嶋田直人、ジンイン ワン、鈴木隆仁、鈴木康久、角川咲江、妹尾裕介、高田 清、高橋大樹、竹内祥一朗、武部 強、辻川智代、出口武洋、東郷正文、中川敦之、中川 優、中村喜蔵、中村重夫、中村 正、中村利男、中村友美、中村征紀、中村 稔、中藤一雄、鳴海邦匡、野村 衛、芳賀裕樹、長谷康子、八田敏弘、八反地 剛、林 竜馬、原田庄市、比良岡七郎、深町加津枝、福井智英、藤江良昭、細川修平、細川真理子、堀 弘嗣、前田 直、増尾吉嗣、松井 毅、松本勘一郎、水野敏明、美濃部諭子、村中亮夫、山内啓之、山岡真澄、山川千代美、山中大輔、吉田丈人、吉田保裕、渡部圭一、momo

荒川共有地管理組合、宇治市教育委員会、一般財団法人近江商人郷土館、大津市歴史博物館、河辺いきものの森（NPO 法人遊林会）、北小松自治会、北比良財産管理会、木戸共有者会、京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター、京都産業大学図書館、京都府立京都学・歴彩館、草津市教育委員会、宮内庁、京津測量株式会社、国土地理院、国立公文書館、国立国会図書館、滋賀県大津土木事務所、滋賀県土木交通部流域政策局、滋賀県琵琶湖環境部森林保全課、滋賀県防災危機管理局、滋賀県立公文書館（滋賀県史編さん事務局）、滋賀県立大学瀧健太郎研究室、滋賀県立図書館、大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研

研究所、大物共有財産管理組合、丹波篠山市教育委員会、株式会社チョーギン、名古屋大学附属図書館、西堀榮三郎記念探検の殿堂、東近江市環境部森と水政策課、東近江市文化・スポーツ部博物館構想推進課、東近江市文化・スポーツ部歴史文化振興課、彦根地方気象台、北海道地図株式会社、南アルプス市教育委員会、南小松自治会、南比良共有財産管理会、守山市、NPO 法人やましろ里山の会、米川よるず会議、栗東歴史民俗博物館、立命館大学歴史都市防災研究所

② 展示内容

【概要】

17～19 世紀の琵琶湖集水域・淀川流域を主たる対象地域とし、災害の状況や土木工事の計画を描いた地図、治水の歴史に関わる道具や文書などを展示した。また、研究型博物館としての特性を踏まえ、地図資料から歴史を研究する方法を紹介した。なお、古地図・古文書など実物資料の展示環境下での劣化を防ぐため、1 か月半程度の期間で区切り、適宜展示替えを実施した（第 1 期：7 月 19 日～8 月 31 日、第 2 期：9 月 5 日～10 月 19 日、第 3 期：10 月 20 日～11 月 24 日）。

【構成】

第 I 章 プロローグ：川がつくった土地

川を描いた古地図を読み解く前提として、川の自然の特性について紹介するゾーンである。侵食・運搬・堆積の作用、平野の形成、流路の変動と堤防がつくられる背景についてパネルと模型で解説した。

第 II 章 地図に描かれた川

17 世紀（江戸時代）以降、堤防などの土木工事や川の流れの管理のために、幕府・藩や村々によって地図がつくられたことを紹介するゾーンである。対象範囲を淀川水系に広げて、各種の地図の例をパネルで解説し、実物または壁面グラフィックによって地図資料を展示した。

第 III 章 水と土砂を防ぐ

洪水や流出土砂を防ぐための堤防・水制・河畔林などの施設や、治水の実践に関わる道具について、古地図、古文書、民具の実物展示を中心に掘り下げて紹介するゾーンである。歴史的につくられてきた堤防のさまざまな形や、堤防だけでなく蛇籠、菱牛、河畔林などを組み合わせて村々が洪水を防いでいたことをパネルや模型を交えて紹介した。水制の代表例である蛇籠については、特別研究員らと共同で竹蛇籠を復元制作し、制作過程の記録映像とともに展示した。

I	プロローグ：川がつくった土地
I-1	川は水とともに土砂を運ぶ
I-2	川が平野をつくる
I-3	川の流れる場所は変わる
I-4	川の近くに堤防をつくる
II	地図に描かれた川
II-1	地図をつくって川を管理する
II-1コラム	「絵図」「地図」を読む
II-2	水害の様子を描いた地図
II-3	河川の現状や普請の計画を描いた地図
III	水と土砂を防ぐ
III-1	堤防のかたち
III-2	川に沿って連続する堤防
III-2コラム	滋賀県の歴史公文書「普請所調査絵図」
III-3	普請の仕組みと記録
III-3コラム	普請に関わる昔の数の単位
III-4	石や木や竹をつかって防ぐ
III-4コラム	蛇籠をつくってみた
III-5	川べりの林を利用する
III-6	現代の堤防
III-6コラム	見直される過去の災害対応
IV	土砂とつきあう地域
IV-1	瀬田川と田上・瀬田の山々
IV-2	比良山麓地域
IV-3	20 世紀の砂防と治水
V	古い時代の地図を研究する
V-1	地図の歴史を知る
V-1コラム	地図の大きさと形
V-2	モノとしての地図を調べる
V-2コラム	地図の修理
V-3	地図に描かれているものを調べる
V-3コラム1	愛知川の古い堤防を現在に伝える
V-3コラム2	古地図研究者のデスクワークとフィールドワーク
VI	エピソード：川をつくってきた地域の歴史を伝えるために
VI-1	史資料を残す
VI-2	景観とその記録を残す
VI-3	過去を知る人の話を残す
VI-4	歴史を踏まえて防災に取り組む

第IV章 土砂とつきあう地域

山地の土砂流出をめぐる対応の歴史について、古地図、古文書や現地の景観をもとに紹介するゾーンである。滋賀県の代表例として田上山地と比良山地を取り上げ、古地図に描かれた山の植生、江戸幕府や藩による土砂留め（砂防）、堆積した土砂への村々による対処法について、実物資料、壁面グラフィック、デジタル画像、映像展示を用いて解説した。

第V章 古い時代の地図を研究する

過去の景観や治水の歴史を復原するための古地図の研究手法について、地図史、文化財科学、歴史地理学的な地域調査の3つの視角から紹介するゾーンである。地図の文化財科学的アプローチに関連して、令和4年度から3か年かけて修理が完了した当館収蔵の近代河川地図3点（「滋賀県姉川支流草野川実測平面図 三枚之内第一」「滋賀県天野川実測平面図 二枚之内第一」「滋賀県天野川実測平面図 二枚之内第二」）のお披露目展示をおこなった。また、共同研究者と実践した博物館における地理教育の一環で、愛知川の歴史的な治水施設・猿尾の3Dプリント地形模型やPC操作で体験できる常設のVRコンテンツなどを展示した。

第VI章 エピローグ：川をつくってきた地域の歴史をつたえるために企画展示の総括として、川の景観をつくりあげてきた自然と人々の相互作用の歴史を残し伝えることの重要性、そして歴史を踏まえた防災と歴史資料の記録・保存との連環について来場者に問うたゾーンである。歴史を踏まえた防災に関わる実践例として、滋賀県流域政策局による水害履歴調査とその成果を公表するwebサイト「滋賀県水害情報発信」や、滋賀県防災危機管理局が公開しているwebGIS「滋賀県防災情報マップ」を紹介した。展示をきっかけに歴史を調べることに親しみをもってもらうため、地図や文書に記された「くずし字」のカード遊びコーナーを設け、子どもを含む一般向けの体験型歴史展示も展開した。

【展示の様子】

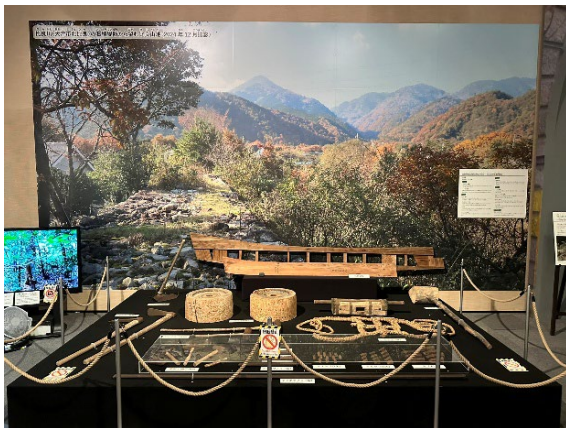


（左）企画展示室入口 多くの古地図で耕地を表す黄色をメインカラーとし、目玉資料の「愛知川上ノ手御普請所并川形見取絵図」（当館蔵）をあしらったキービジュアルとした。

（右）入口のワークシート案内 第2期（9月5日）から、来場者が展示から学ぶ手引きとして、展示パネルなどからキーワードを探し穴埋めするワークシートを配布した。



Ⅱ章・Ⅲ章 展示ケースに実物資料、壁面に原寸大で印刷した古地図のグラフィックを掲げた。古文書に登場する2間（約3.6m）サイズの竹蛇籠を復元制作し、当館収蔵の竹蛇籠（約9m）とともに展示した。



（左）Ⅳ章 県指定有形民俗文化財「北比良の石屋用具」は大型の資料を含む様々な用途の道具を一堂に紹介した。比良山麓地域に残る石積堤防の映像は、県民有志が撮影・制作した動画をお借りして展示した。

（右）Ⅳ章 大沙川隧道（湖南省市）の入口をほぼ原寸大で再現し、川が運んだ土砂と人が積んだ堤防の高さを表現した。トンネル内部は照度を落とし、古写真の展示や天井川の解説動画の上映空間とした。



（左）Ⅴ章 修理が完了した地図資料のお披露目展示。修理過程で得られた知見については、修理担当者に寄稿していただいたパネル解説を付した。

（右）Ⅴ章 愛知川の歴史的な治水施設「猿尾」の測量で得られた点群データや関連する古地図を使い、地図動画、床マット、3Dプリント模型、VRコンテンツ、シミュレーション映像のかたちで成果を展示した。

③ 印刷物

- ・展示解説書

編集責任者：島本多敬

著者：[Ⅲ-4 コラム] 辻川智代（琵琶湖博物館特別研究員）、[V-2 コラム] 大林賢太郎（京都芸術大学）、[V-3 コラム 1] 小倉拓郎（兵庫教育大学）・島本多敬・水野敏明（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・山内啓之（立命館大学衣笠総合研究機構）・八反地 剛（筑波大学）・濱口貴仁（琵琶湖博物館）・片山大輔（元・琵琶湖博物館）

〔上記以外〕 島本多敬

美術・デザイン：岸 仁美、出口武洋

仕様：A4 サイズ 104 ページ 総カラーページ 900 部 7 月 19 日発行 販売価格 650 円

印刷：有限会社柳印刷店

- ・企画展示ポスター

A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 5 月 23 日発行

デザイン：岸 仁美

印刷：有限会社柳印刷店

- ・企画展示チラシ A4 サイズ 両面カラー 25,000 枚 5 月 23 日発行

デザイン：岸 仁美

印刷：有限会社柳印刷店

④ 関連事業

○オープニングセレモニー 7 月 19 日（土）9 時 45 分から企画展示室前にて開催。

出席者（敬称略）：滋賀県副知事 東 勝、滋賀県立公文書館長 高木 静、兵庫教育大学准教授 小倉拓郎

式典内容：東滋賀県副知事、高木公文書館長、小倉准教授、亀田琵琶湖博物館館長によるテープカット、企画展示案内

○猿尾 VR コンテンツ体験イベント

- ・愛知川に眠る猿尾を VR で探ろう！ In 琵琶湖博物館

日時：7 月 26 日（土）、27 日（日）13 時 00 分～16 時 00 分

会場：琵琶湖博物館

講師：小倉拓郎氏、山内啓之氏、水野敏明氏、島本多敬

参加者：26 日—2 名、27 日—4 名

概要：企画展示室で展示物を使って愛知川に現存する猿尾についてレクチャーし、猿尾の残る愛知川河畔林を再現した VR コンテンツをゴーグルを使用して体験してもらった。

- ・愛知川に眠る猿尾を VR で探ろう！ In 河辺いきものの森

日時：10 月 12 日（日）13 時 00 分～16 時 30 分

会場：河辺いきものの森（東近江市建部北町 531）

講師：小倉拓郎氏、山内啓之氏、水野敏明氏、島本多敬、濱口貴仁

参加者：1 名＋河辺いきものの森スタッフ

概要：愛知川に現存する猿尾について講義形式でレクチャーし、猿尾の残る愛知川河畔林を再現した VR コンテンツをゴーグルを使用して体験してもらった。その後、河辺いきものの森の敷地内に残る猿尾を現地で見学した。

・愛知川に眠る猿尾をVRで探ろう！ In 近江商人郷土館（一般財団法人近江商人郷土館との共催）

日時：10月25日（土）13時～16時30分

会場：近江商人郷土館（東近江市小田苅町473）

講師：小倉拓郎氏、山内啓之氏、島本多敬

参加者：5名＋近江商人郷土館スタッフ

概要：愛知川に現存する猿尾について講義形式でレクチャーし、猿尾の残る愛知川河畔林を再現したVRコンテンツをゴーグルを使用して体験してもらった。その後、東近江市小田苅地区に残る猿尾を現地で見学した。

○講演会

・第101回防災カフェ「古地図で昔の堤をさぐる～琵琶湖博物館の企画展示から考える防災～」(滋賀県防災危機管理局主催)

日時：8月2日（土）10時30分～12時00分

会場：琵琶湖博物館

講師：島本多敬、ファシリテーター：山本雅貴氏（滋賀県防災危機管理局防災対策室）

参加者：25名

概要：滋賀県防災危機管理局が開催している「防災カフェ」との連携事業。企画展示の内容を紹介するとともに、古地図や文書などからわかる災害対応、水害や土砂災害と関わる地形条件や土地利用について講演し、参加者に現在の防災を考えるヒントとなる歴史的な事象について情報を提供した。

○令和7年度滋賀県防災気象講演会～過去を学び、現在を知る、そして未来につなぐ滋賀の地域づくり～(滋賀県 [防災危機管理局・琵琶湖博物館]・彦根地方気象台主催)

日時：9月27日（土）13時30分～15時30分

会場：琵琶湖博物館

講師・演題：

島本多敬「古地図に描かれた堤―災害対応の歴史と地域の景観―」

坂井めぐみ氏(大阪管区気象台 気候変動・海洋情報調整官)「気候変動の現状と将来―滋賀県への影響―」

瀧 健太郎氏（滋賀県立大学教授）「気象災害に強い持続可能なまちづくり―暴れる気候への適応―」

参加者：約50名

概要：滋賀県を中心とした過去の災害とその対応、近年おきた極端な気象と気候変動の影響との関連についての分析、気象災害に適応できる川づくり・地域づくりの考え方と事例について、3人の演者による講演会の形式で紹介した。

○琵琶湖博物館環境学習センターイベント「環境・ほっと・カフェ 『蛇籠って何？ 知って、作って、考える。』」

日時：10月18日（土）13時00分～16時00分

会場：琵琶湖博物館

講師：島本多敬、辻川智代氏（当館特別研究員）、遠藤礼子氏（小原籠研究会きつつき世話人、のらねこ竹クラブ主宰）

参加者：5名

概要：企画展示で取り上げた治水構造物・竹蛇籠に焦点を当て、その歴史・文化に関する講義、展示している復元制作品と当館収蔵資料の竹蛇籠の見学、竹を素材としたミニチュア蛇籠編み体験をおこなった。

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時 11月1・8・22日（土）15時40分～16時30分、11月15日（土）14時10分～15時00分

会場 琵琶湖博物館（企画展示室内）

担当者：島本多敬

参加者：1日—11人、8日—11人、15日—13人、22日—16人（通算51人）。

概要：展示されている実物資料について、歴史的背景や読み解き方を解説した。

⑤ 目標達成度

今年度の企画展示の実施にあたって、次の2点を目標に掲げた。

（1）現在の地域の景観が水害・土砂災害を防ぐ人々の取り組みの積み重ねによって成り立っており、特に17～19世紀という時代が、現在の川のすがた、治水・災害対応のあり方へとつながる画期であったことを理解してもらう。

（2）古地図や古文書、道具、記憶や経験の語りが地域における治水の歴史の証拠として有効であり、その保存・記録や調査研究が、歴史研究だけでなく、環境教育や防災への取り組みに資する点で重要であることを理解してもらう。

目標（1）は、一般来場者を対象として研究領域・知識・概念の理解について裾野を広げる方向性をもつものであり、目標（2）は、すでに歴史・文化や防災に関するトピックに一定の興味関心や知識を持っている来場者を対象として、近年の学術的知見を深掘りする方向性をもつ。

展示で伝える内容は大きく分けて、a. 川の自然の特性、b. 治水というトピックを中心とした日本の歴史の展開（特に江戸時代から明治初期頃の社会状況）、c. 土木施設の用語や機能に関する基礎的知識、d. 古地図の資料的特性、e. こんにちの防災や川づくりと地域の歴史との関わり、という各領域からなる。これらの領域で扱う事象は、高校までの学校教育においては理科（地学）や社会科（地理歴史）、総合的な学習の時間での探究活動と個別の教科・時間のなかで学習する内容であり、見る人には、それぞれの時間で学んだ内容を総合して考えることが求められる。また、一部には歴史学、文化財科学、土木工学など、学術的にはやや専門的な事象におよぶ。

そのため、目標（1）の達成に向けて、パネル・キャプションでは主に専門家を受け取り手に想定した各領域における新規の成果の説明はある程度捨象し、学術的に概ね共通理解となっている情報を中心に、「浅く広い」教養として領域横断的に学べるよう配慮した。

また、目標（2）に関しては、環境教育・防災に関心を持つ技術職や研究職、防災士等の関連する資格の保持者、そのほかaからeの各領域に関心をもって自ら学び一定の知識をもつ人々に、歴史・文化に関する専門的な知識や調査研究の成果を提供することが課題となった。そのため、「浅く広い」展示を補って「深掘り」していく関連イベントを別途設けた。講演会形式のイベントはその中心的な例であるが、そのほかにも環境学習センターと連携した竹蛇籠のワークショップや、外部研究者との共同研究の成果公表を兼ねたVR体験イベント・見学会を開催した。参加人数は必ずしも多いとはいえなかったが、熱心に質問された方、企画展示と関連する別のイベントにも足を運び、再度参加された方（リピーター）に出会うこともできた。

来場者からのフィードバックを得るため、企画展示室には回収箱に投函してもらう設置型アンケートを実施した。回収箱に入れられた用紙から白紙等を除いた369件の有効回答のうち、滞在時間15分以上が236件（約64.0%）、20分以上が165件（約44.7%）であった。企画展示室に配置された展示交流員からは、1時間以上滞在し、じっくりパネルを読み資料を観察する来場者がいたとの報告もしばしばあった。本企画展示は、歴史的前提を説明するため文章量の比較的多いパネルが多数であり、また実物資料はじっくり観察しなければその意味を理解することが難しかったと考えられる。こうした特性をもつ展示は、「説明の内容が理解できない」「モノのどこが面白いかわからない」「身近に感じられない」といった感情を抱けば足早に離脱することもあり得たと考えられる。それにもかかわらず、展示を観覧し自由意志でアンケートを記入した人のうち

半数近くが、20 分を超える時間にわたって展示を観覧し、パネルをじっくり読んだり展示物を観察しながら、経験しえない過去の水害や土木工事について考えを巡らせていたことを表している。同じ程度じっくりと展示を観覧したがアンケートには回答しなかった人の存在も考慮すれば、その数はさらに多かったと推測される。

アンケート以外の来場者からのフィードバックに関しては、企画展示で取り上げた竹蛇籠、河畔林、猿尾や古地図の所在について、例えば愛知川や芹川沿いの地域にお住まいの方などから、地元で見聞きした経験、関連しそうな地名に関する質問など、展示交流員への伝言や電話などを通じて担当学芸員に情報共有いただいたことも複数回あった。そのなかには、後日、改めてその方に聞き取り調査にうかがう例もあった。担当学芸員が話者本人と直接コミュニケーションをとれなかった場合もあったが、展示という場をきっかけに、地域の情報が博物館の研究活動に循環する機会になった点は特筆される。

今回取り上げた江戸・明治期の治水の歴史は、テーマとしてはマニアックであり、とっつきやすい歴史上の英雄や事件は登場せず、内容も領域横断的で、ハイアマチュアが多数存在するトピックとはいいいがたい。そのようなトピックを扱った企画展示を、時間をかけて観覧し、思索をめぐらせた来場者が一定数いたこと、そして、古い資料や昔の川についてもっと知りたいと講演やイベントに参加し、専門家の話に耳を傾け、質問する人々のニーズに応えることができたことは、本企画展示の目標が一定程度達成できたことを示しているよう。

(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

1)-1 「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人々の系譜～」

① 開催概要

期間：2025 年 4 月 26 日（土）～6 月 8 日（日）（開催期間：40 日）

担当：芦谷美奈子、大槻達郎、小林亮平（特別研究員）、出口武洋（デザイン）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

主催：琵琶湖博物館

開催協力：滋賀県生きもの総合調査委員会蘚苔類部会、日本蘚苔類学会

展示協力（五十音順、敬称略）：

井上侑哉、伊吹山文化資料館、笠井純子、（故）笠井譲、金澤晴樹、木村全邦、国立科学博物館、左木山祝一、（故）鈴木直、鈴木晴江、蘚苔家（矢藤光雄・吉岡義広）、埴田宏、出口博則、橋本正、原田英美子、広島大学、Eftychios Frangedakis、古木達郎、道盛正樹、山口富美夫、山下悟、山本勝、Karen Rezanglia

② 主旨

これまで紹介される機会が少なかった滋賀県のコケ植物について、琵琶湖博物館のコケ植物標本の整理がある程度進んだことから、小規模ながら初めてまとまった展示を行うこととなった。琵琶湖博物館の植物コレクションの一部を公開すると共に、滋賀県のコケ植物について知ってもらうことを目的とする。

コケ植物（蘚類、苔類、ツノゴケ類）の生物としての特徴（形や生態）、調査研究の仕方、その研究史や生育種の特徴、滋賀県のコケ植物研究史、滋賀県の特徴的なコケ植物などを、過去 10 年に渡り整理をしてきた当館のコケ植物コレクションの標本やパネル等を用いて紹介する。また 2025 年夏に米原で開催される日本蘚苔類学会の大会、現在進められている滋賀県のコケ植物目録についても最新の話題として紹介する。

③ 展示内容

〔コーナー 1〕 コケ植物とはどんな植物？

コケ植物とはどんな植物か、形や生活の仕方などを入門として紹介。また、コケ植物の調査方法についても紹介する。

- 1) コケ植物とは：系統と分類／体制と各器官／生活環
- 2) コケ植物を調べる：フィールド調査・パケット標本／同定・分類／文献類

[コーナー 2] 滋賀県のコケ研究史

滋賀のコケ研究は、熱心な在野の研究者によって行われてきた。ここでは、コケに魅入られコケに向かい合った研究者たちの足跡を辿る。

- 1) 滋賀県のコケ研究小史（年表）

紹介する研究者：橋本忠太郎、山本寛二郎、上村登、児玉務、北川尚文、外山禮三、出口博則、小坂育子、埴田宏、前田雅子、笠井譲、山下悟

- 2) 橋本忠太郎とコケ研究：滋賀県植物誌の志、近江博物同好会誌。上村登との手紙
- 3) 上村登の足跡：近江産苔類小報
- 4) 山本寛二郎の足跡：近江産蘚類分布資料、イブキタチヒダゴケの発見
- 5) 笠井譲の足跡：特に高島市・湖北エリアの重要資料、閉鎖果セン類、イブキタチヒダゴケの再発見。村長昭義との交流

[コーナー 3] 滋賀県の特徴的なコケ植物

研究者により見出された滋賀の特徴的なコケ植物を紹介する。

- 1) 滋賀県のコケと言えば「イブキタチヒダゴケ」

混乱の経緯と分布（日本では滋賀県内にのみ分布）／イブキキンモウゴケ（本州の亜高山帯）

- 2) 滋賀県の特に小さなコケ

ホソコゴケ（滋賀県の標本を基に日本新産報告、石灰岩性）／サンカクキヌシッポゴケ（石灰岩性）

オオミカンムリゴケ（干上がった水田や溜め池）／田んぼのコケ図鑑にも掲載されている閉鎖果セン類

- 3) 滋賀県の大きなコケ：コウヤノマンネングサ／オオカサゴケ／ササオカゴケ
- 4) 滋賀県のコケの分布と注目種

[コーナー 4] 滋賀県のコケ植物をめぐる話題

標本データベースの公開／滋賀県コケ植物目録編纂中／2025 年夏、蘚苔類学会滋賀大会の開催

④ 関連イベント

- ・コケ植物観察会

日時：2025 年 4 月 27 日（日） 10:30-12:00

場所：琵琶湖博物館実習室 1 烏丸半島 参加者：12 名

講師：小林亮平さん、 山下悟さん（滋賀県生き物総合調査委員会蘚苔類部会）

- ・コケ植物講演会「水が育てる滋賀県のコケ」

日時：2025 年 4 月 18 日（日） 13:30-15:00（予定）

場所：オンライン・対面併用（対面会場：琵琶湖博物館セミナー室） 参加者：58 名

講師：埴田宏さん（滋賀県生きもの総合調査委員会蘚苔類部会 部会長）

- ・コケ植物観察会

日時：2025 年 6 月 1 日（日） 10:30-12:00

場所：琵琶湖博物館実習室 1 烏丸半島 参加者：11 名

講師：小林亮平さん、 山下悟さん（滋賀県生き物総合調査委員会蘚苔類部会）

④ 関連展示

- ・ディスカバリールーム：「プリザーブドのコケ」を実態顕微鏡コーナーで展示

- ・おとなのディスカバリー：「特に小さなコケ（セン類）の標本箱」をカウンターで貸出

⑤ 取材対応

京都新聞（取材 4 月 30 日）「コケ植物から何が分かる？滋賀県の琵琶湖博物館で初の企画展“近江の牧野富太郎” 研究ノートも」（掲載 5 月 20 日）

中日新聞（取材 5 月 1 日）

読売新聞（取材 5 月 6 日）



展示の様子

1)-2 「民俗学者 橋本鉄男がみた近江ー滋賀民俗研究のいしずえー」

① 開催概要

期間： 2026 年 3 月 17 日（火）～5 月 24 日（日）

担当：加藤秀雄、大久保実香、妹尾裕介

場所；琵琶湖博物館 企画展示室

主催：琵琶湖博物館

② 展示内容

民俗学者の橋本鉄男氏は琵琶湖博物館の展示コンセプトにも大きな影響を与えた研究者であるが、博物館が開館する直前の 1996 年 10 月 11 日に亡くなった。その膨大な滋賀県の民俗文化に関する研究資料は琵琶湖博物館に寄贈され、その整理とデジタル化が現在進んでいる。本展示はその成果を公開し、橋本氏の業績と滋賀県の多様な民俗文化を知って頂くために企画されたものである。特に滋賀県内で収集された木地屋用具や民具、木造船の模型など橋本氏の研究と関わる当館の収蔵資料や民俗写真を展示し、橋本氏の生涯と足跡、滋賀県の民俗文化について幅広く取り上げた。

③ 取材対応

サンライズ出版「滋賀の文化情報誌 DUET」（2026 年 3 月 3 日）

ZTV/有限会社クリーズ「おうみ！かわら版（滋賀）」（2026 年 3 月 22 日）

びわ湖大津経済新聞「びわ湖大津経済新聞」（2026 年 3 月 24 日）



展示の様子

2) トピック展示等

①第49回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画作品展

期間：2025年3月27日（木）～4月13日（日）

主催：JA滋賀中央会 共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

②「湖魚を活用した料理」

期間：2025年4月15日（火）～5月9日（金）

主催：草津市立山田小学校 共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

③「特定外来生物クビアカツヤカミギリ滋賀県で初確認」

期間：2025年8月8日（金）～10月3日（金）

主催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

④「淡海こどもエコクラブ 絵日記・壁新聞コンクール応募作品展」

期間：2025年12月6日（土）～2026年1月12日（月・祝）

主催：環境学習センター

場所：企画展示室

⑤「いきものと人のくらしが響きあう「しが」へ～しがネイチャーポジティブネットワークと自然共生サイ
トの取組について～」

期間：2026年1月14日（水）～2月1日（日）

主催：滋賀県琵琶湖環境部 自然環境保全課 共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

⑥「生物多様性びわ湖ネットワーク トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！～」

期間：2026年2月3日（火）～3月1日（日）

* 2月7日（土）および2月28日（土）は特別イベントを実施

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク 共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

⑦ 第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画 コンクール作品展」

期間：2026年3月19日（木）～4月12日（日）

主催：JA滋賀中央会 共催：琵琶湖博物館 場所：アトリウム

2. 展示交流

(1) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1) 安全確保、2) 快適な環境の提供、3) 展示室での発見のサポート(展示交流)といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。その一層の充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施している。本年度は従来通り12～3月にかけて実施した。

展示交流員が普段の展示交流にある「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備をした。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫をした。

実施期間：2025年12月1日～2026年3月20日

実施人数：展示交流員 28名

実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

【実施内容】

展示室	名 前	実施テーマ	実施場所
A 展示室	佐野 絢	花粉症の正体	うつり変わる気候と森
	西村典子	琵琶湖が動くって本当??	地形はかわる
	川崎明美	花粉化石から見た現代の花粉汚染と未来の花粉症対策	うつり変わる気候と森
	板垣真由美	足跡化石	うつりかわる生き物
B 展示室	迎 裕美	漁具	水辺、空びわ
	林 克子	沖島のくらし	水辺、空びわ
C 展示室	吉田史子	カタツムリってどーなってるの?	生きものコレクション
	木村寿枝	カヤネズミ	生きものコレクション
	福本嘉子	アサギマダラ	生きものコレクション
	奥村恵子	㊦開館 30 周年	富江家
	藤村美佐子	琵琶湖に浮かぶ島	空びわ
	大原幸子	メガネサナエ	生きものコレクション
	満田千秋	琵琶湖の石けん運動って何?	空びわ
	今泉美保	“赤トンボ”を見てみよう	生きものコレクション
水族	山本裕子	オオサンショウウオ	中流域水槽
	坂上麻理	琵琶湖の魚を食べてみよう	暮らしの中の魚
	橋本友美	ハリヨ	よみがえれ!!日本の淡水魚
	紀伊久美子	カイツブリ	琵琶湖の水鳥
	安村志織	オオサンショウウオ	中流域水槽
	北中真由美	カイツブリ	琵琶湖の水鳥
	安藤慶子	琵琶湖のプランクトン	マイクロバー

	西村尚代	今日のプランクトン	マイクロバー
	中西多可子	琵琶湖と鮎	ヤナ水槽
	山内秋美	ヤマトサンショウウオ	河川上流（溪流）の生き物
大人の ディスカバリー	安部恵子	ツキノワグマ	生きものコレクション
	石塚幸子	おもしろい土偶の顔、かお、カオ	考古コーナー
	斉藤文子	大人のディスカバリーを楽しもう	大人のディスカバリー
	片岡典子	蝶の幼虫はグルメ～食べる葉に卵を産む♀の能力！～	昆虫コーナー

6 館外連携

1. 博物館連携

博物館間の連携を深め、当館の活動の充実に資する目的で、下記の団体に加盟している。加盟館間でのメーリングリスト等を用いた情報交換や、研修の実施、連携した事業の実施等が行われている。2025年度の当館による主な活動状況を下記に示す。

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の69館（2025年6月現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。当館は研修委員会、広報委員会に各1名が参画し、活動の一翼を担っている。

日時	活動内容等	会場	当館からの出席者
(通年)	理事：亀田佳代子 研修委員：半田直人 広報委員：加藤秀雄	—	—
4月17日	第1回研修委員会	みなくち子どもの森	半田
5月21日	第1回幹事会	滋賀県立美術館	加藤
6月4日	第1回理事会	滋賀県立美術館	亀田
6月26日	令和7年度滋賀県博物館協議会総会	滋賀県立美術館	亀田 加藤 佐藤
7月15日	第2回広報委員会	高島市役所	加藤
11月7日	令和7年度滋賀県博物館協議会講演会「博物館・美術館における地震対策—これまでの実例と今後の取り組み—」	長浜市曳山博物館	半田 大槻 山田
12月24日	第5回研修委員会	大津市歴史博物館	半田
1月23日	令和7年度滋賀県博物館協議会情報交換会「どうする！？博物館の防虫・防黴・殺菌」	大津市歴史博物館	大槻 島本 加藤 半田
1月23日	第6回研修委員会	大津市歴史博物館	半田
1月27日	第3回広報委員会	琵琶湖博物館	加藤
2月26日	第2回理事会	滋賀県立美術館	亀田

(2) 日本博物館協会

日時	内容等	会場	当館からの出席者
(通年)	参与：亀田佳代子	—	—
6月～3月	大規模災害にかかる被災博物館等の復興支援募金における募金箱の設置。41,478円を募金。	—	—
7月1日	令和7年度日本博物館協会参学会	黒田記念館	亀田

7月2日	令和7年度全国博物館長会議（第32回）	文部科学省	亀田
7月	「全国博物館職員録」令和7年度版への情報提供	—	—
7月	「令和6年度博物館園活動調査」への情報提供	—	—
11月19日～ 21日	第73回全国博物館大会 テーマ：「持続可能な世界と博物館の発展～未来・社会・ウェルビーイングに貢献する博物館～」 令和7年度日本博物館協会顕彰者：スミス専門学芸員	大阪市中心公会堂	亀田、山川、河崎、楊、大槻、芦谷、佐藤
2月	「日本博物館協会ウェブサイト寄附ポータルアンケート」への情報提供	—	—

（３）全国科学博物館協議会

日時	内容等	会場	当館からの出席者
7月3日	令和7年度第1回全国科学博物館協議会理事会・総会	国立科学博物館	亀田
6月	「全国科学博物館振興財団の活動等助成事業」アンケートへの情報提供	—	—
2月17日	令和7年度第1回全国科学博物館協議会理事会・総会	国立科学博物館筑波研究施設・オンライン	亀田 佐藤
2月18日	第33回研究発表大会 テーマ：「倫理的かつ専門性をもったコミュニケーション～調査研究等の博物館の基盤的活動を人々に伝える手法について」	国立科学博物館筑波研究施設・オンライン	亀田 佐藤 楊

（４）日本動物園水族館協会（JAZA）

日時	内容等	場所	参加・担当者
(通年)	環境省と日本動物園水族館協会の「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく絶滅危惧種の保全に係る取組の実施に関する協力として、タンゴスジシマドジョウの飼育・繁殖・他館への技術指導。	—	田畑
(通年)	野生動物保護募金における募金箱の設置。	—	—
(通年)	生物多様性委員会魚類作業部会副類別調整者	—	田畑
(通年)	生物多様性委員会魚類作業部会種別管理者（管理種：アユモドキ・ネコギギ・イタセンパラ・イチモンジタナゴ、維持種：ハリヨ、調査種：タンゴスジシマドジョウ）	—	田畑・川瀬・金尾
(通年)	生物多様性委員会保全戦略部員	—	田畑

4月17日～ 18日	令和7年度第1回近畿ブロック園館長会議	須磨シーワールド	亀田
4月26日	生物多様性員会および種保存事業進捗報告会議	オンライン	田畑
5月21日～ 23日	令和7年度日本動物園水族館協会通常総会 23日：総会サテライトシンポジウム	豊橋総合動植物公園	亀田、松岡（サテライト集会のみ参加）
5月	日本動物園水族館協会年報（2024年度）への情報提供	—	—
6月26日～ 27日	生物多様性員会三部合同会議	井の頭動物園	田畑
6月26日～ 27日	第91回近畿ブロック水族館飼育係研修会 【当館からの研究発表】 ・近藤玲央・長田智生・大塚泰介「琵琶湖博物館におけるハッタミミズ飼育の到達と課題」	姫路市立水族館	松岡、近藤玲央（水族飼育員）
8月25日	令和7年度第1回希少野生動物の生息域外保全に関する連絡会議	オンライン	田畑
9月	魚類作業部会事前準備	オンライン	田畑
10月10日	タンゴスジシマドジョウに関する環境省・日本動物園水族館協会との会議	オンライン	田畑
10月3日～ 4日	日本動物園水族館協会生物多様性委員会魚類作業部会および日本水族館協会と JAZA の連絡会議	名古屋港水族館・オンライン	田畑、鈴木崇大（水族飼育員）（対面）、金尾、川瀬、今北大介（水族飼育員）（オンライン）
10月22日～ 23日	第2回近畿ブロック園館長会議	ニフレル	亀田、松岡
10月27日	近畿ブロック事務主任者会議	アドベンチャーワールド	山田剛資
10月27日	ハカタスジシマドジョウ保護増殖事業連絡会議	オンライン	田畑
11月12日	近畿ブロック技術者研究会	神戸市立王子動物園	
11月21日～ 22日	第51回海獣技術者研究会 ・宿題調査アンケート「水棲生物における環境エンリッチメントの提供およびその評価の実施の現状」への情報提供 【当館からの研究発表】 ・松岡由子・安川浩史・佐藤華音「カイツブリの人工育雛に見られた成長過程」	のとじま臨海水族園	松岡
11月26日～ 27日	第35回日本動物園水族館設備会議 ・宿題調査アンケート「施設・生体の監視システム	アトア	田畑・菅原・今北大介（水族飼

	(監視カメラ等) の設置と更新について」および追加調査「管理事務所とスタッフや、スタッフ同士の通信・連絡手段について」「獣舎などで実施しているネズミ対策について」への情報提供 【当館からの研究発表】 ・田畑諒一「施設・生体の監視システム（監視カメラ等）の設置と更新について」 ・今北大介・田畑諒一「博物館開館以来初の長時間停電事例報告と対処法の提案」		育員)
12月5日～6日	種保存会議	横浜動物園	田畑
12月9日～10日	タンゴスジシマドジョウの生息域外保全に関する技術指導	城崎マリワールド	田畑、武富鷹矢（水族飼育員）、村田紘夢（水族飼育員）
12月22日～23日	2025年度水族館・教育事業—参加型研修会（ワークショップ）への参加	しまね海洋館アクアス	金尾
1月27日～28日	第70回水族館技術者研究会 ・宿題調査アンケート「飼育展示に関する事故・トラブルおよびその対策状況について」への情報提供 ・座長およびベストプレゼンテーション審査員（田畑） 【当館から宿題調査申し込み】 「タナゴ類および淡水二枚貝の産地・飼育実態調査」	葛西臨海水族園	田畑、田中俊（水族飼育員）
1月	「バイカルアザラシ国内血統登録調査」への情報提供	—	—
1月	「飼育動物数調査（2025年度）」への情報提供	—	—
1月	「魚類種別管理報告」への情報提供（15種）および報告書提出（6種）	—	—
1月19日～20日	ハカタスジシマドジョウ飼育繁殖技術交流会		田畑、武富鷹矢（水族飼育員）
2月3日～5日	第73回動物園技術者研究会 ・宿題調査アンケート「日本の動物園・水族館の飼育員における技術継承に関する調査」への情報提供	アドベンチャーワールド	—
2月9日	タンゴスジシマドジョウの生息域外保全に関する生体の分譲	—	田畑
2月10日	令和7年度第2回希少野生動物の生息域外保全に関する連絡会議	オンライン	田畑
2月10日	ハカタスジシマドジョウ保護増殖事業連絡会議	オンライン	田畑
3月	環境省と日本動物園水族館協会の「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく絶滅危惧種の	—	田畑

	保全に係る取組の実施に関する協力として、年間報告書および次年度計画の提出。		
--	---------------------------------------	--	--

(5) その他

日時	内容等	会場	担当・出席者
(通年)	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 機関会員および近畿部会会員	—	島本
10月8日～ 1月11日	福井県立年縞博物館連携「湖ラボ展」 テーマ：「水月年縞 2025」	滋賀県立琵琶湖博物館	林
11月13日	美の魅力発信5館ネットワーク職員交流会	滋賀県立安土城考古博物館	亀田 大槻 佐藤
12月18日	第31回自然史系博物館館長懇談会	滋賀県立琵琶湖博物館	亀田、松本、芳賀、里口、河崎、山川、上坂

・西日本自然史系博物館ネットワークの事業

琵琶湖博物館は西日本自然史系博物館ネットワーク（事務局：大阪自然史博物館）に参画しており、様々な行事等に協力している。特に、令和5年度（2023年度）からは、文化芸術振興費助成金による INNOVATE MUSEUM 事業を行っており、今年度で3年目となる。

当館における INNOVATE MUSEUM 事業は、資料デジタルイメージング拠点整備の運用と拡充を目指し、植物標本撮影のワークフローの実践を行うために撮影装置を設置し、歴史的・文化的価値をもつ標本群である橋本忠太郎さく葉標本の画像作成を行った。2023年度に撮影装置の設置および実践として、2,000点の画像撮影を行い、2024年度にはさらに効率よく画像撮影ができるシステムを改良しワークフローを構築して、10,233点の画像撮影を行った。2025年度も追加1,954点の画像撮影を行い、これらの画像を Japan Research で公開するための検討を行った。また、今年度からは昆虫標本についても、同様の撮影装置を設置し、2次元の画像を撮影する試みを行った。昆虫標本の入ったケース箱（ドイツ箱）のままで画像撮影を70点（膳所高等学校標本53点、海浜植物と共存する昆虫標本17点）を撮影した。この画像の活用は Web 上での公開のほか、学芸員が標本管理を行う上で、標本の熟覧や借用等の作業において、効率が図れることも考えられる。

今後も歴史的・文化的価値をもつ自然史標本の公開に向けて、植物以外の他の分野にも標本撮影のワークフローの実践を試み、デジタル画像を作成し公開することを進める予定である。

今後も歴史的・文化的価値をもつ自然史標本の公開に向けて、植物以外の他の分野にも標本撮影のワークフローの実践を試み、デジタル画像を作成し公開することを進める予定である。

2. 企業連携

博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、これまで企業連携の強化を図ってきた。2020年度以降、新型コロナウイルスの影響により制約の多い中で非常に限定的な連携となっていたが、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられた以降は、県内でも規制が緩和され昨年度は企業との連携活動が本格的に推進された。

○ 連携事業

2025年度は、次のような連携事業を展開した。

月 日	企業・団体名	連携内容
4月10日	株式会社日立建機ティエラ	・環境学習会（講演：琵琶湖の固有種） ・館内見学
5月25日	日東電工株式会社	・環境学習会（講演：琵琶湖博物館の希少生物の保全活動）・ビーズアート作成 ・館内見学
7月26日	環境創研株式会社	・環境学習会（環境実験：台所の水はどこへ行くの？）
8月2日	株式会社村田製作所	環境学習会（環境実験：目に見えない微生物たちのパワー）
11月15日	株式会社 SCREEN ホールディングス	びわ湖の微生物観察会（琵琶博フェス）
11月15日	日東電工株式会社	環境学習会 樹脂ビーズアート
11月16日	株式会社レゾナック	CO2削減とドライアイスを使った実験（琵琶博フェス）
11月16日	株式会社パンテック	環境学習会 再生プラスチックでの成形
12月14日	ダイハツ工業株式会社	冬休み環境学習会（冬のプランクトン観察会）館内見学
3月26日	ダイハツ工業株式会社	環境学習会（植物化石、の観察と葉・花のラミネート標本の作製）

・平和堂財団助成子ども若者学習支援事業

1) 生き物ふれあい体験・ワークショップ事業

令和8年1月10日（土）から3月20日（金・祝）までの土・日・祝日を中心とした20日間限定で、水族展示室「ふれあい体験室」コーナーにおいてワークショップを公益財団法人平和堂財団の助成を受けて実施した。

「ふれあい体験室」コーナーのプール型水槽で、展示交流員から生き物の観察方法や触れ方のレクチャーを受けながら、フナやドジョウ、ザリガニ、二枚貝などの生き物に接する体験を行います。実際に生き物とふれあい、五感を通じて体験し、学べる機会となる展示交流活動を通して、琵琶湖地域の淡水生物への関心や理解を深めてもらうとともに、希少種の保全やアニマルウェルフェア（動物福祉）の観点を伝え、身近な環境について考えていただく機会を提供した。

2) 幼児向け絵本製作事業

令和7年度新規事業として、幼児向けの絵本製作を実施した。当館の未就学児対象の自然体験「ちこあそ（ちっちゃなこどもの自然あそび）」の活動内容をテーマとしたオリジナル絵本を発行した。中綴じ冊子 300部、上製本 90部を印刷した。

完成した絵本は、県内図書館および児童館、子育て支援センター、しが自然保育認定制度の認定園などに配布した。また、「ちこあそ」の参加者に今後配布予定である。

本事業は、「未就学児の博物館体験を定量的に評価する手法（科研費代表中村久美子）」の研究において、博物館体験を自宅で振り返るためのツールとして開発されたオリジナル絵本に対しご賛同いただいた平和堂財団からの助成で実施したものである。



完成した絵本



ちこあその様子

3. 研修・実習

今年度は下記の研修・視察を対応した。また視察受入の方針として、原則として博物館事業に関すること、ないし県施策に関することを目的とした依頼を承認した。

(1) 海外からの視察・研修

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
1	24	インドネシア共和国環境省	(公財) 国際湖沼環境委員会	5	妹尾
3	10	JICA2025 年度地域理解プログラム	JICA 関西センター	15	スミス

(2) 視察対応（国内） 合計 23 件

月	日	視察者	人数	対応者
5	15	青森県立郷土館	3	妹尾・中村
8	27	島根大学エスチュアリ研究センター	2	大塚
9	13	(公財) おかやま環境ネットワーク	10	山川・中村
5	28	(公財) ふくしま海洋科学館	2	金尾
7	2	(公財) 長岡京市埋蔵文化財センター	16	妹尾
7	4	茨城県県民生活環境部	5	桑原・中村
8	5	総合企画部国際課、京都大学サマープログラム2025	100	亀田・妹尾
7	29	環境省沖縄甘味自然環境事務所	7	田畑
8	27	瑞浪市化石博物館	4	山川・半田
8	8	沖縄県企画部企画調整課	5	中村
9	4	琵琶湖保全再生推進協議会幹事会	50	芳賀・中村

10	7	石川県議会環境農林建設委員会	15	大塚・中村
10	29	防災・環境対策・スポーツ振興特別委員会	15	河崎・中村
10	20	琵琶湖疎水に関する情報交換会	30	河崎・中村
9	27	(公財) 東京動物園協会	7	榊永・中村・ワンワールド
10	10	(財) 自然環境研究センター	3	田畑
7	16	山形県みらい企画創造部・(株) 乃村工藝社	6	中村・妹尾
11	14	国際水田・水環境ネットワーク	66	楊・大塚・スミス
12	5	(独) 水資源機構	2	中村
12	12	名古屋大学博物館・モンゴル国立自然史博物館	2	里口
1	23	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所	12	芳賀・中村
2	19	東北歴史博物館	2	林・中村
2	10	長野県諏訪湖環境研究センター	3	田畑
3	5	川口市立科学館	1	金尾・中村
3	17	神奈川教育委員会	2	林・鈴木

	午前	午後
8/18 (月) 【研究部】 【事業部】	開講式 実習ガイダンス・諸注意、実習生自己紹介 講義「琵琶湖博物館の概要と研究活動」 講義「琵琶湖博物館の事業活動」	施設見学ガイダンス 交流空間・事務室・研究棟、おとなD、ディスカバリールーム 自由見学 A, B, C, 水族展示室、屋外展示、企画展示 セミナー室集合、総括
8/19 (火) 【展示係】	講義「博物館の展示：意義・制作・評価」 講義「ディスカバリールームの役割」 実習「ディスカバリーボックス案製作1」	実習「ディスカバリーボックスの案を作る 2」 制作 実習「ディスカバリーボックスの案を作る 3」 発表 発表を含めた全体の講評、質疑応答など
8/20 (水) 【企画展示】 【企画・広報営業課】	講義・実習「企画展示の作り方」 講義「企画・広報営業課の業務」	移動博物館キットを組み立てよう アトリウムで来館者と交流 移動博物館の活用方法、改善点など意見交換
8/21 (木) 【資料活用係】	講義「博物館資料とその整理について」 講義「IPMについて」 収蔵庫見学	資料整理実習（各資料分野） 考古・歴史・民俗、魚類液浸、図書 振り返り

8/22（金） 【環境学習・交流係】	講義「環境学習・交流事業について」 講義「地域連携、FR、はしかけ、クエリ・質問コーナー」 講義・実習「環境学習関連」	講義・実習「学校連携関連」 課題発表（ディスカバリーボックス） 授与式・閉講式
-----------------------	---	---

（３）博物館実習

・実習日程と内容

期間：2025年8月18日（月）～8月22日（金）までの5日間

大学生が学芸員資格を取得するために実習を開催した。国内12大学14名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針とそれに基づく資料整備、広報、展示などの活動について、講義および実習を行った。

・実習生の大学と人数：12大学14名（五十音順）

所属	人数	所属	人数	所属	人数
大谷大学	1	京都芸術大学	2	人間環境大学	1
京都橘大学	1	京都文教大学	1	立教大学	1
高知大学	1	滋賀県立大学	1	山口大学	1
成安造形大学	2	同志社女子大学	1	龍谷大学	1

・博物館見学実習 合計3件

日時	大学名	人数	担当	内容
6月21日	桃山学院大学	3名	芦谷	常設展示
4月17日、24日	武庫川女子大学	10名	妹尾・佐藤	フィールド・環境施設実習
7月6日	関西大学博物館	47名	妹尾	展示コンセプト、収蔵庫

4. 共催事業 合計4件

日時	タイトル	依頼者	担当	内容
2月14日	花の百名山伊吹山草原の多様性回復をめざしてー研究者、市民、行政との連携ー	関西自然保護機構	大久保	講演会
2月7日、8日	淡水魚類調査ブートキャンプ	日本生物多様性観測ネットワーク	金尾	研修
1月27日～3月1日	トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！～	生物多様性びわ湖ネットワーク	今田	展示
2月22日、23日	第7回動物園水族館大学シンポジウム	京都大学野生動物研究センター	松岡	講演会

5. 地域発見！参加型移動博物館 合計3件

移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

・今年度の出展先 合計7件

開催日	イベント名	会場	運営者
6月7日、8日	びわこのちから展示	平和堂今津店セントラルコート	環境学習センター
7月12日～9月15日	遊んで学べるキッズルーム（琵琶湖博物館コラボルーム）	びわ湖大津プリンスホテル客室内	びわ湖大津プリンスホテル
8月13日～9月2日	「世界湖沼の日」啓発展示	近鉄百貨店草津店アカリスポット	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課
8月29日、30日	大阪・関西万博2025「滋賀県ブース」	大阪・関西万博2025	琵琶湖博物館
9月20日、21日	「おいでーな滋賀体験フェア」(イナズマロックフェス)	烏丸半島芝生広場	琵琶湖博物館
10月11日	こほくキッズミュージアム	滋賀県立文化産業交流会館	琵琶湖博物館
10月19日	科学の祭典	滋賀県立大学	琵琶湖博物館

・新規展示キットの製作

今年度は、新規に「琵琶湖固有種の魚」をテーマとした展示キットを製作した。製作物としては、ビワコオオナマズのプラスティネーションと、ビワマスの実物大・実物重量の布模型で、同じテーマで2種類の展示ができる仕様となっている。



展示キットの展示台



ビワコオオナマズの
プラスティネーション



ビワマス布模型

Ⅱ 利用状況

1. 令和7年度入館者数

(1) 総入館者数

期 間：2025年4月1日～2026年3月31日

合 計：526,171 人

開館日数：310 日

一日平均：1,697 人

月 平均：43,848 人

入館者区分別内訳

区分	個人（人）	団体（人）	合計（人）	構成比（％）
未就学児	82,162	2,392	84,554	16.1
小学生・中学生	66,973	27,231	94,204	17.9
高校生	5,659	2,536	8,195	1.6
大学生	14,852	5,398	20,250	3.8
一般	293,322	25,646	318,968	60.6
合計	462,968	63,203	526,171	100.0

年月	開館日数	有料入館（人）				無料入館（人）				総計（人）	1日当り平均（人）
		一般	大学生	高校生 （企画展） 小中学生	有料計	高校生	小中学生	その他	無料計		
2025.4	27	14,908	922	0	15,830	759	5,734	7,709	17,247	33,077	1,225
5	27	23,523	1,098	0	24,621	640	10,064	10,481	28,260	52,881	1,959
6	25	18,094	1,124	0	19,218	333	5,894	8,307	21,377	40,595	1,624
7	28	24,066	1,372	786	26,224	790	7,770	10,613	25,353	51,577	1,842
8	30	46,417	2,336	1,977	50,730	2,223	16,702	17,854	45,029	95,759	3,192
9	23	21,917	790	431	23,138	343	6,196	9,706	21,544	44,682	1,943
10	27	19,812	767	636	21,215	446	5,776	8,085	21,042	42,257	1,565
11	28	19,216	991	680	20,887	243	8,242	8,318	28,583	49,470	1,767
12	21	8,627	369	0	8,996	316	2,277	4,789	10,448	19,444	926
2026.1	22	10,031	556	0	10,587	162	3,076	6,498	13,135	23,722	1,078
2	25	14,530	725	0	15,255	278	3,496	8,115	15,904	31,159	1,246
3	27	18,873	1,227	0	20,100	845	6,624	10,000	21,448	41,548	1,539
計	310	240,014	12,277	4,510	256,801	7,378	81,851	110,475	269,370	526,171	1,697

(2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2025. 4	全 体	1	98	8	908	3	415	0	0	3	82	15	1,503
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	1	38	1	38
5	全 体	54	3,638	16	2,473	1	174	1	32	0	0	72	6,317
	県 内	37	1,982	1	12	0	0	1	32	0	0	39	2,026
6	全 体	59	3,721	7	852	4	172	3	56	3	70	76	4,871
	県 内	39	2,304	0	0	2	38	1	8	1	36	43	2,386
7	全 体	16	1,107	13	919	6	513	0	0	5	236	40	2,775
	県 内	5	434	3	287	4	111	0	0	0	0	12	832
8	全 体	0	0	2	59	10	911	0	0	7	288	19	1,258
	県 内	0	0	1	37	1	14	0	0	0	0	2	51
9	全 体	36	2,664	3	359	5	122	5	103	3	93	52	3,341
	県 内	12	851	1	16	4	85	3	56	1	11	21	1,019
10	全 体	43	3,073	7	931	1	167	17	393	4	161	72	4,725
	県 内	14	794	2	349	0	0	7	117	0	0	23	1,260
11	全 体	69	5,566	9	830	2	56	6	110	7	449	93	7,011
	県 内	30	2,125	3	75	1	40	5	99	2	273	41	2,612
12	全 体	24	1,564	0	0	4	202	3	53	6	371	37	2,190
	県 内	19	1,216	0	0	1	19	1	9	3	289	24	1,533
2026. 1	全 体	18	1,435	0	0	2	31	2	33	0	0	22	1,499
	県 内	13	944	0	0	1	12	1	8	0	0	15	964
2	全 体	14	1,261	3	124	2	45	0	0	2	101	21	1,531
	県 内	11	954	1	49	1	16	0	0	1	80	14	1,099
3	全 体	0	0	2	31	2	41	1	18	0	0	5	90
	県 内	0	0	0	0	0	0	1	18	0	0	1	18
合計	全 体	334	24,127	70	7,486	42	2,849	38	798	40	1,851	524	37,111
	県 内	180	11,604	12	825	15	335	20	347	9	727	236	13,838

(3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2025. 4	14, 194	6, 436	12, 447	33, 077
5	28, 110	9, 614	15, 157	52, 881
6	16, 831	9, 994	13, 770	40, 595
7	20, 735	10, 097	20, 745	51, 577
8	31, 813	16, 655	47, 291	95, 759
9	22, 266	10, 208	12, 208	44, 682
10	15, 248	9, 555	17, 454	42, 257
11	22, 262	10, 421	16, 787	49, 470
12	6, 775	4, 267	8, 402	19, 444
2026. 1	11, 290	5, 708	6, 724	23, 722
2	15, 370	7, 030	8, 759	31, 159
3	16, 416	8, 605	16, 527	41, 548
計	221, 310	108, 590	196, 271	526, 171
構成割合	42. 06%	20. 64%	37. 30%	100. 00%

2. 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズを的確に把握した博物館活動や運営を基盤とした、利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケート調査を毎年8月および3月に実施している。本年度のアンケート調査の実施状況および結果は、下記のとおりである。

(1) 本年度の実施状況

・日時

年度ごとの比較を可能とするため、例年通り8月末および3月末の金曜日～日曜日の3日間実施した。

第1回 2025年8月21日(金)～23日(日)

第2回 2026年3月27日(金)～29日(日)

2023年の水槽破損事故の影響をうけ、水族展示の一部(工事中のビワコオオナマズ水槽、コアユ水槽付近)が閉鎖されており、動線が通常とは異なった。第1回調査時(8月)は企画展示室で「第33回企画展示 川を描く、川をつくる―古地図で昔の堤をさぐる―」、水族企画展示室で「2025年水族企画展示 淡水魚から見る世界の湖沼」が、第2回調査時(3月)は企画展示室で「琵琶湖博物館30周年記念ギャラリー展示 民俗学者 橋本鉄男がみた近江―滋賀民俗研究のいしずえ―」、アトリウムでトピック展「第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール作品展」が開催中だった。

・方法

2回とも、館内4か所(エントランス、アトリウム、おとなのディスカバリー、C展示室研究スタジアム)にアンケート用紙を置いた記入台を設置し、来館者が自ら回答した。また、アンケート用紙と同じ設問内容のアンケートを「しがネット受付」で作成し、回答フォームへリンクしたQRコードをアンケート用紙や掲示札に印刷し、来館者各自のスマホから回答するよう促した。

(2) 回答数および回答率

	第1回 2025年8月				第2回 2026年3月			
	23日 (金)	24日 (土)	25日 (日)	計	27日(金)	28日(土)	29日(日)	計
総入館者数(人)	2320	2939	4278	9537	1125	1959	2385	5449
回答数(件)	37	58	72	167	13	21	29	63
回答率(%) (回答数/入館者数×100)	1.6	2.0	1.7	1.8	1.2	0.7	0.5	0.2

(3) 結果

・回答者の属性

回答者の年齢層は、2回の調査で共通して10～14歳が最も多かった(第1回:18.0%、第2回:22.2%)(図1)。就学中と答えた回答者の内訳は、「小学生」(第1回:48.1%、第2回:67.9%)、「中学生」(第1回:25.0%、第2回:17.9%)、「大学・大学院・専門学校」(第1回:21.2%、第2回:14.3%)、「高等学校」(第1回:5.8%、第2回:3.6%)の順に多かった。

回答者の居住地は、「滋賀県以外の国内」と回答した割合(第1回:75.4%、第2回:52.4%)が、「滋賀県内」と回答した割合(第1回:21.6%、第2回:36.5%)を上回る例年通りの傾向を示した。「滋賀県以外の国内」と回答したうち、約7割(第1回:67.5%、第2回:66.7%)が近畿圏の都府県(京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、三重県、和歌山県)と回答した。滋賀県内と回答したうち、最も多くの割合を占めた自治体は大津市だった(第1回:29.7%、第2回:25.0%)(図2)。

回答者の来館回数は、「はじめて」の回答が半数近く(第1回:57.5%、第2回:46.0%)を占めた(図3)。また、「4～9回目」「10回以上」と回答したリピーターの割合が、第1回は23.8%、第2回が39.7%だった。例年の傾向では、「はじめて」訪れる来館者が4～5割、4回以上来館するリピーターが2～3割を占める。今回も、おおむねその傾向通りであったが、第2回では4回以上のリピーターの割合がやや高かった。

来館時の同行者については、2回の調査に共通して「家族と」の回答が特に多く、回答者の7割近くを占めた(第1回:74.9%、第2回:74.6%)(図4)。この傾向は、アンケートデータが取得可能な2008年以来、一貫している。「家族と」の内訳では、「配偶者・パートナー」(第1回:40.8%、第2回:34.0%)および「子」(第1回:45.6%、第2回:36.2%)の割合が高く、年齢に関する回答と合わせると、当館は親子連れでの利用が多いと考えられる。

当館への交通手段は、2回の調査に共通して「自家用車」の回答が特に高い割合を占めた(第1回:82.6%、第2回:77.8%)(図5)。この傾向は、アンケートデータが取得可能な2008年以来、一貫している。「公共交通機関」の回答は1割前後(第1回:9.6%、第2回:14.3%)であり、こちらも例年とおおむね同様の結果だった。上述以外の回答として、「観光バス・団体バス」の回答が第1回は3.6%、第2回は3.0%を占めたほか、自由回答として「自転車」の回答があった。

・来館の動機づけ

当館を知ったきっかけについて、2回の調査に共通して「家族・親戚」の回答が最も多かった(図6)。また、「博物館ホームページ」や「インターネットの情報サイト」、「SNS・YouTube」の回答も多く、インターネット上で情報を得た来館者が多いことを示した。さらに、今年は大阪・関西万博が開催され、当館がブース出展を行ったほか、関西パビリオン公式スタンプラリーの設置場所でもあったことから、自由回答として「万博スタンプ」等の回答が数件あり、万博をきっかけに当館を知った来館者がいたことが示された。

当館を来館した目的は、「常設展示を見に」の回答が最も多かった(図7)。「常設展示を見に」と回答した

うち、目当ての展示の自由回答欄では、「水族展示」や「魚」など、水族展示室の観覧を目的とした回答が多くみられた。

・当館での博物館体験

当館での滞在時間は、「1～2 時間」（第 1 回 38.5%、第 2 回 40.1%）と「2～3 時間」（第 1 回 16.6%、第 2 回 22.2%）の回答があわせて 5～6 割を占め、例年と同様の傾向を示した(図 8)。

利用した展示室や施設については、多くの来館者が「A 展示室」、「B 展示室」、「C 展示室」、「水族展示室」と回答した(図 9)。第 2 回調査では、第 1 回調査と異なり、水族展示室を利用した割合が A・B・C 展示室を上回った。企画展示室では、2 回の調査期間中どちらも特別展示を実施しており、第 1 回は 13.8%、第 2 回は 11.1%の回答者が利用した展示室として「企画展示等」を選択していた。

来館時に訪れた、または訪れる予定の近隣施設については、施設名では「道の駅草津グリーンプラザからすま」の回答が最も多かった(図 10)。同施設は当館の近くに位置しているため、来館の前後に利用する人が多いと考えられる。

5 段階の満足度評価では、回答を 5 段階の点数(「非常に満足した」が 5 点、「不満」が 1 点)の合計を当該設問の回答数で割った平均値として集計し、第 1 回は 4.5、第 2 回は 4.4 となった。満足度の具体的な理由を自由回答で尋ねており、展示に関する回答では、水族展示室の生き物や琵琶湖の歴史、昔のくらしの展示が良かったという声が多く、展示が充実しているといった展示室全体へのコメントも多く見られた。また、特に第 1 回調査で、館内の暑さを指摘し空調の改善を求める内容が多かった。さらに、新水槽工事による水族展示室の迂回順路や自動販売機に関する不満の回答もあった。不満・不便に思った点に関する回答について、特に多かった項目は「駐車場」、「交通の便」、「空調」、「休憩場所」だった。具体的には、駐車場から館入口への距離の長さ、レストラン混雑、夏季の館内の暑さに関する内容が多かった。

展示以外の博物館活動の認知度について、「知っている」と回答した割合は、第 1 回が 19.8%、第 2 回が 31.7%だった。展示以外の博物館活動を「知っている」と回答したうち、具体的な活動の回答は「観察会」、「講座・セミナー」、「館内イベント」が特に多く、交流事業への認知度が比較的高いことがうかがえた(図 11)。また、展示観覧以外で当館を「利用したことがある」と回答した割合は、第 1 回が 7.2%、第 2 回が 9.5%だった。参加したことがある活動の回答は、認知度と同様の傾向で交流事業の回答が比較的多かった(図 12)。

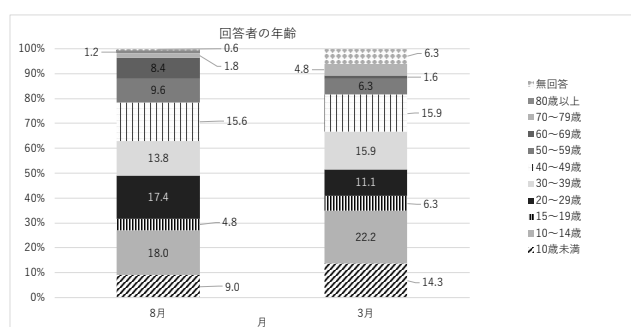


図 1. 年齢層の回答の内訳。

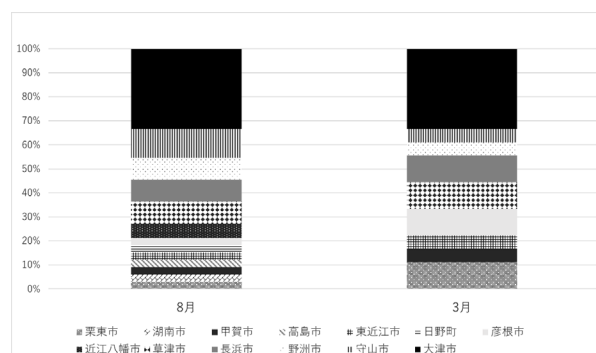


図 2. 居住地を滋賀県内と回答したうちの各市町の内訳。

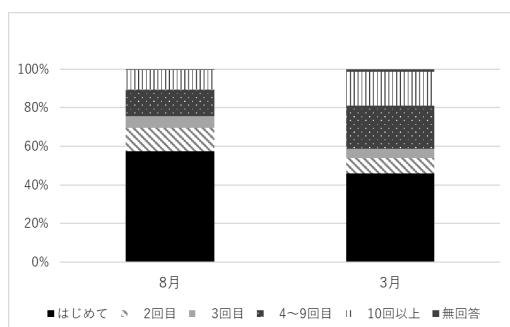


図 3. 来館回数の回答の内訳。

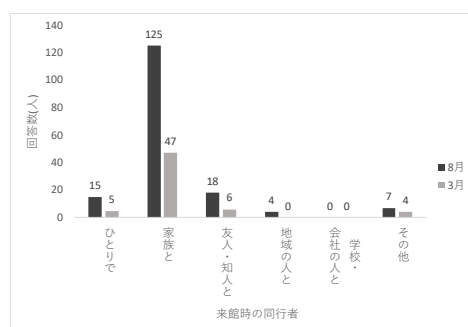


図 4. 来館した際の同行者に関する回答数(人)。回答は、複数選択を可能とした。

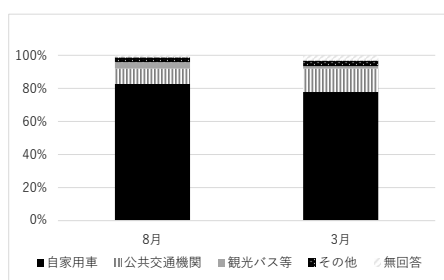


図 5. 来館時の交通手段に関する回答の内訳。

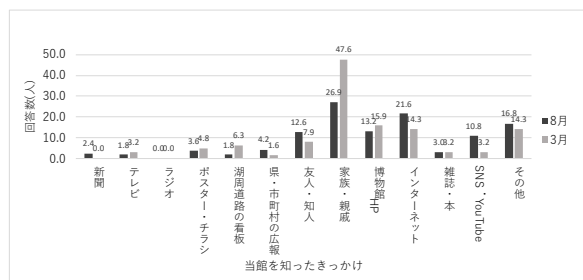


図 6. 来館したきっかけに関する回答数(人)。回答は、複数選択を可能とした。

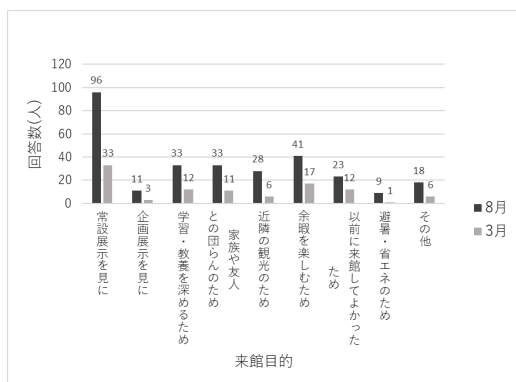


図 7. 来館目的に関する回答数(人)。回答は、複数選択を可能とした。

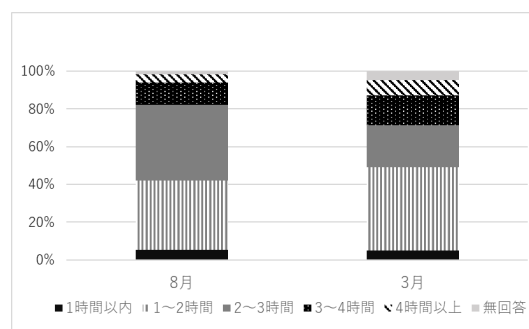


図 8. 滞在時間に関する回答の内訳。

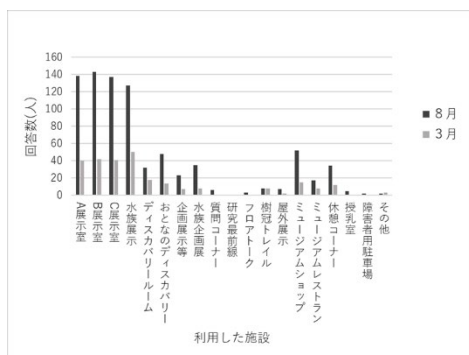


図 9. 利用した展示室や施設に関する回答数(人)。回答は、複数選択を可能とした。

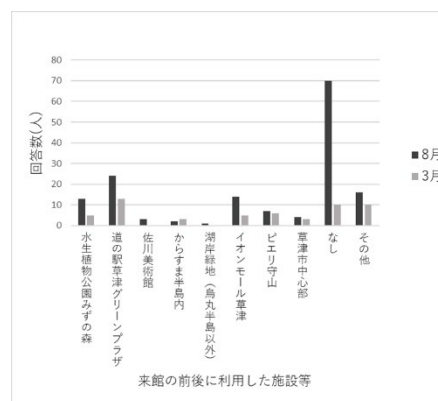


図 10. 来館前後に訪れた近隣施設の回答数(人)。回答は、複数選択を可能とした。

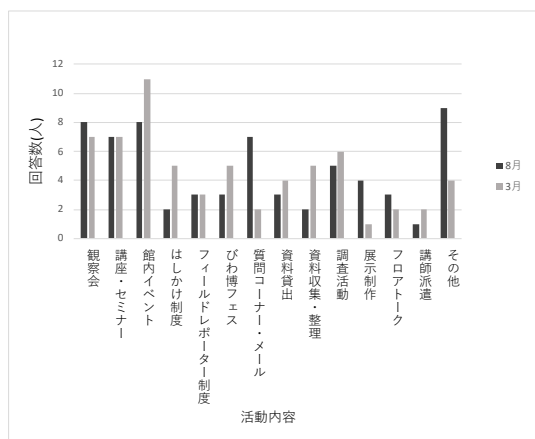


図 11. 展示以外で知っている当館の活動に対する回答。回答は、複数選択を可能とした。

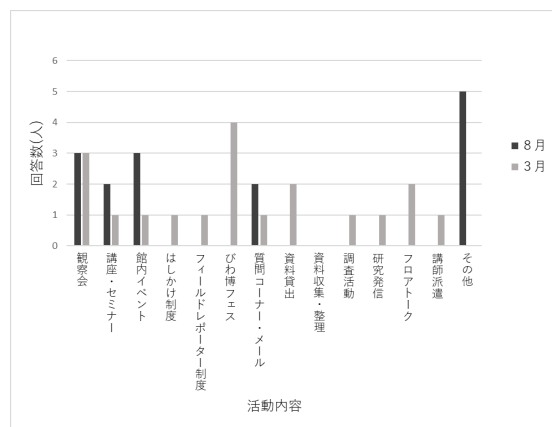


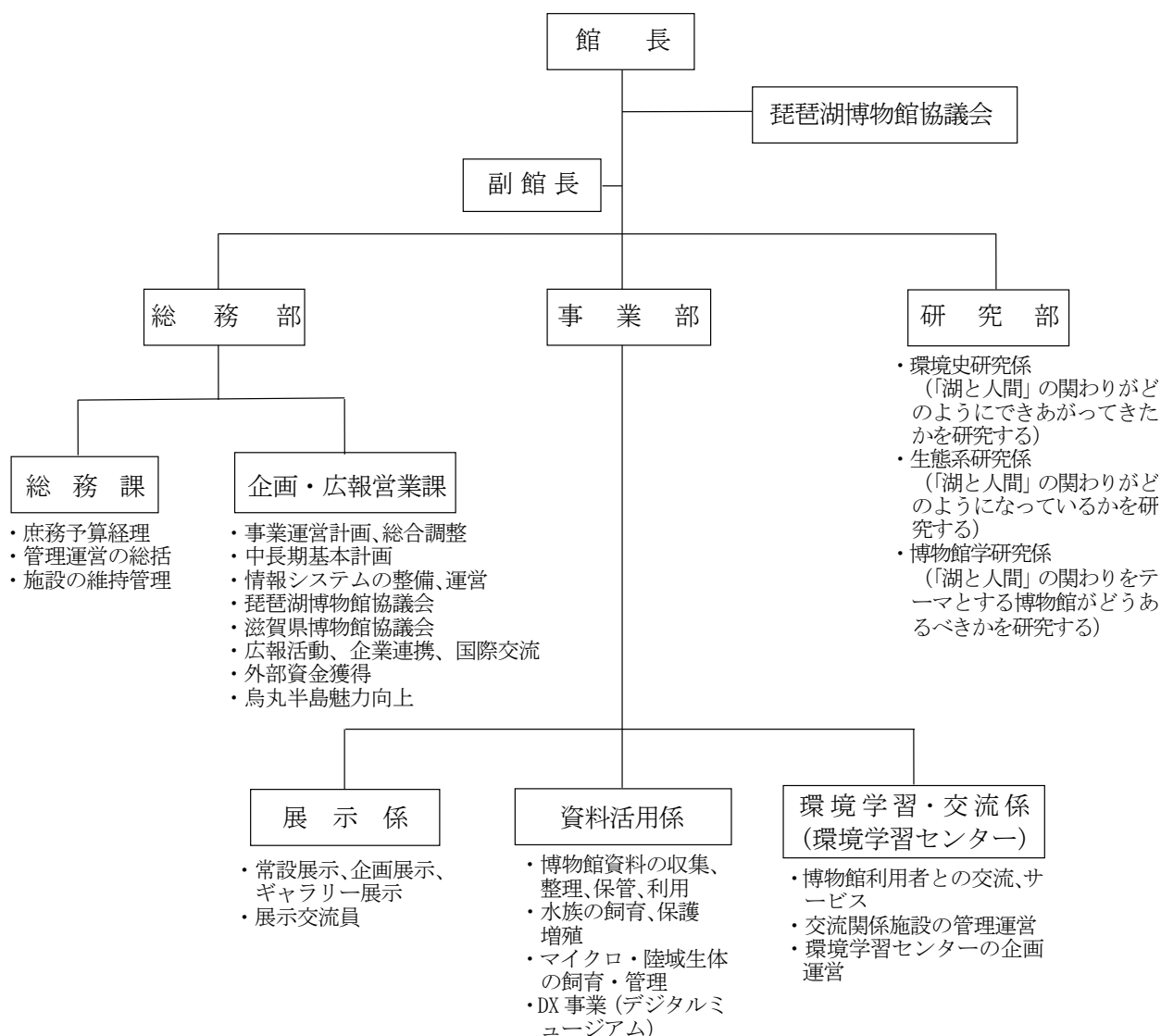
図 12. 展示観覧以外で参加したことがある当館の活動に対する回答。回答は、複数選択を可能とした。

3. 利用者用施設の整備

館内の火災報知器、消防設備および監視カメラの更新により来館者、施設スタッフの安全性の向上を図るとともに、展示室等の空調機、空調自動制御装置およびトイレの改修等を行い、来館者の快適性の向上を図った。また貴重な標本等を適切に保管するための収蔵庫の空調機修繕や生態展示の維持に必要な冷凍餌倉庫の修理等を実施した。

Ⅲ 組織および運営

1. 組織



職員構成 (2025 年 10 月 1 日現在：兼務・併任職員を含む)

区 分	館長	行政職	研究職	教育職	小計	会計年度 任用職員	合計
人数 (名)	1	11	28	2	42	24	66

研究職の内訳

区 分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数 (名)	24	1	1	1	1	28

2. 職員

(2025 年 10 月 1 日現在)

○館 長	亀田 佳代子
○副館長	松本 直樹
○上席総括学芸員	里口 保文
○上席総括学芸員	芳賀 裕樹

総 務 部

○部長(事務取扱) 松本 直樹

◇ 総務課

課 長	山田 剛資
専 門 幹	小椋 努
副 主 幹	安井 亮介
主任主事	岡本 慎也
主任主事	杉山 優紀
主任主事	潤 一輝

◇ 企画・広報営業課

課 長	河崎 直人
(兼)	榊永 一宏
(兼)	山川 千代美
(兼)	林 竜馬
主 査	松岡 宏樹
主 査	上坂 恭平
(兼)	中村 久美子
(兼)	妹尾 裕介
(兼)	吉田 保裕
(兼)	佐藤 華音

事 業 部

○部長(兼) 里口 保文

◇ 展示係

係 長(兼)	芦谷 美奈子
(兼)	ロビン ジェームス スミス
(兼)	寺井 章人
(兼)	濱口 貴仁
(兼)	松岡 由子
(兼)	川瀬 成吾
(兼)	島本 多敬
(兼)	半田 直人

◇ 資料活用係

係 長(兼)	大槻 達郎
(兼)	大塚 泰介
(兼)	田畑 諒一
(兼)	加藤 秀雄
(兼)	菅原 巧太朗

◇ 環境学習・交流係

(環境学習センター)

係 長(兼)	楊 平
(兼)	金尾 滋史
主 査(併任)	桑原 康一
(兼)	鈴木 隆仁
(兼)	大久保 実香
主任主事(併任)	渡邊 俊洋
主任主事	吉田 保裕
(兼)	西川 真里奈
(兼)	奥田 岬
(兼)	今田 舜介

研 究 部

○部長（兼） 芳賀 裕樹

◇ 環境史研究係

係長 専門学芸員 林 竜馬
 専門幹 山川 千代美
 専門学芸員 楊 平
 主任学芸員 妹尾 裕介
 主任学芸員 大久保 実香
 主任学芸員 田畑 諒一
 主任学芸員 加藤 秀雄
 学芸員 島本 多敬
 学芸員 半田 直人

◇ 博物館学研究係

係長 総括学芸員 大塚 泰介
 専門学芸員 芦谷 美奈子
 専門学芸員 金尾 滋史
 （兼） 桑原 康一
 主任学芸員 中村 久美子
 主任学芸員 松岡 由子
 （兼） 渡邊 俊洋
 学芸員 今田 舜介

◇ 生態系研究係

係長 総括学芸員 榎永 一宏
 専門学芸員 ロビン ジェームス スミス
 専門学芸員 大槻 達郎
 主任主査 寺井 章人
 主査（兼） 濱口 貴仁
 主任学芸員 鈴木 隆仁
 主任学芸員 川瀬 成吾
 主任技師（兼） 西川 真里奈
 主任技師（兼） 奥田 岬
 学芸技師 菅原 巧太朗
 学芸員 佐藤 華音

会計年度任用職員

田中 里美	館長秘書
菊地 さとみ	電話受付・総務事務
福井 栄子	電話受付・総務事務
徳重 友章	電話受付・総務事務
社納 典子	データ整理・刊行物
山崎 剛	広報・集客
高嶋 利明	広報・集客
徳本 智美	展示室運営
高部 千裕	展示室運営
高石 清治	展示物維持補修
高木 成美	図書資料整理
赤井 聖子	図書資料整理

黒田 正伸	資料標本整理
中西 貴子	資料標本整理
細川 眞理子	資料標本整理
山岡 眞澄	資料標本整理
中川 優	屋外展示運営
黒川 明	交流事業
樋上 和史	交流事業
太尾田 康生	交流事業
猪狩 道子	環境学習
青木 直明	環境学習
瀬山 泰美	環境学習
平野 文子	研究庶務

名誉館長

川那部 浩哉 篠原 徹 高橋 啓一

名誉学芸員

布谷 知夫 中島 経夫 前畑 政善 用田 政晴 マーク J. グライガー

特別研究員

天野 一葉	井内 美郎	池田 勝	上中 央子	大久保 卓也	柏尾 珠紀
柏谷 健二	桑原 雅之	小林 亮平	小松原 琢	新海 拓郎	鈴木 規慈
辻川 智代	寺本 憲之	戸田 孝	根来 健	藤岡 康弘	増田 敬祐
八尋 克郎	山本 綾美	山本 充孝	米田 一紀	植田 弥生	

3. 決算

2025 年度歳入（環境政策課執行分を含む）（円）

科 目	決 算 額
使 用 料 及 び 手 数 料	247,359,777
財 産 収 入	1,774,595
寄 付 金	9,334,284
諸 収 入	17,038,489
合 計	275,507,145

2025 年度歳出（博物館執行分）（円）

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	魅力創造発信、施設維持、設備修繕、烏丸半島整備、事務費、広報営業、企画調整	481,751,091
調査資料収集事業費	研究、資料整備、水族・陸域飼育管理、デジタルミュージアム推進事業	156,921,135
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、魅力向上事業	92,499,092
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	11,651,255
環境学習推進費	環境学習センター運営	3,349,913
他課事業費	遮熱フィルム整備、照明LED化等	11,955,681
合 計		758,128,167

（参考）2025 年度歳出（他課執行分）（円）

課 名	事 業 内 容	決 算 額
CO2 ネットゼロ推進課	本館・別館の非常灯のLED化	9,345,819
建築課	エレベーター2号機・エスカレーター改修工事	56,628,000
合 計		65,973,819

4. 寄付／びわ博サポーター

CSR や SDGs 等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、これまで博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター」や「メンバーシップ」、「水槽サポーター」「樹冠トレイルサポーター」「キャンパスメンバー」等の各制度を運用してきた。

年間 100 件以上の企業・団体訪問を行った結果、134 件 17,255 千円(3 月末申込ベース)という実績を残すことができた。また、対象者への感謝状の贈呈を行った。

寄付など

134 件 17,255 千円

琵琶湖博物館応援寄付	13 件	8,047 千円
水槽サポーター	50 件	3,645 千円
樹冠トレイルサポーター	4 件	400 千円
メンバーシップ	65 件	4,958 千円
キャンパスメンバーズ	2 件	205 千円

5. 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

第 1 回

開催日時 2025 年 10 月 3 日(金) 14 時～16 時 00 分

場所 琵琶湖博物館 1 階セミナー室

議題 (1) 第三次中長期基本計画令和 6 年度評価について
(2) 第三次中長期基本計画の後半見直しについて

第 2 回

開催日時 2026 年 2 月 10 日(火) 14 時 00 分～16 時 00 分

場所 琵琶湖博物館 1 階セミナー室

議題 (1) 第三次中長期基本計画 令和 6 年度事業評価報告書 外部評価総評について
(2) 第三次中長期基本計画の中間見直しについて

滋賀県立琵琶湖博物館協議会 第 15 期委員名簿

任期：令和 6 年 9 月 1 日～令和 8 年 8 月 31 日 敬称略、五十音順

氏 名	区分	職名
荒井 紀子	環境保全	ホテルの学校代表
上久保 紀恵	その他	公募委員
楠見 丹生子	学校教育	草津市立常盤小学校校長
澤田 一彦	学校教育	大津市立打出中学校校長
中野 栄美子	社会教育	NPO 法人カーボンシンク代表理事
中野 伸一	学識者	京都大学研究連携基盤 研究連携基盤長
中村 耕治	その他	ダイハツ工業(株)コーポレート統括本部環境室長
布谷 知夫	学識者	全日本博物館学会名誉会長・三重県総合博物館特別顧問
野瀬 吉信	学識者	産経新聞大津支局記者

廣瀬 香織	家庭教育	一般社団法人ママパスポート代表
村上 由美子	文化財保護	京都大学総合博物館研究部・資料基礎調査系教授(考古学)
森 幸一	その他	公募委員
渡邊 孝宏	その他	元養護学校教諭

6. 企画・計画等

(1) 琵琶湖博物館第三次中長期基本計画

琵琶湖博物館第三次中長期基本計画 2021 年度から 10 年の期間を対象として、琵琶湖博物館第三次中長期基本計画をもとに、最終目標を、「多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく」ことと設定し、そのために必要な事業目標として、次の 6 つを上げている。

事業目標 1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

事業目標 2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

事業目標 3 みんなで学びあう博物館へ

事業目標 4 もっと使いやすい博物館へ

事業目標 5 より多くの人が利用する博物館へ

事業目標 6 持続可能な博物館づくり

10 年間の計画のうち、その前半となる 5 年間は、各事業目標に 2 つないし 3 つの重点事業を設定し、5 年間の計画を立てて実行している。各年度終了時には、前年度の事業について、内部評価を行ったうえで、琵琶湖博物館協議会委員による外部評価が行われ、内部評価と外部評価および博物館の状況を踏まえて、計画の見直しを行っている。本年度は 2024 年度事業についての評価を実施した。また、2025 年度は計画の 5 年目となるため、中間段階の進捗状況や計画の妥当性について検討を行う中間見直しを実施し、事業目標 6 を「持続可能な博物館づくり」と修正するなど改訂を行うとともに、後半 5 年間の重点事業および 5 年間の計画を策定した。

(2) 水族展示室再生に向けた活動

1) 水槽のリニューアル

令和 5 年（2023 年）2 月 10 日の開館時間前に、水族展示室の「琵琶湖の主（ヌシ）水槽（以下、ビワコオオナマズ水槽と表記する）」の破損が見つかり、第三者委員会による破損原因調査が行われ、同年 9 月に報告書が提出された。破損したビワコオオナマズ水槽および同形状であるため破損の危険性が指摘されたコアユ水槽について、ビワコオオナマズやコアユのそれぞれの魚の生態やその特徴を伝える水槽・展示に更新する活動を行った。

（設計）

新しいビワコオオナマズ水槽およびコアユ水槽の設計は、展示室の建物に設置されている大型の水槽であることから、その経験を有する業者（株式会社 大建設計：大阪府大阪市西区京町堀 1 丁目 13-20）が入札により選定された。昨年度月上旬に設計が完了した。各水槽はそれぞれに展示される生物の生息場所をイメージできる雰囲気とそれらの生体情報を伝える展示となることを意識し、来館者や関係者の意見を取り入れ、第三者委員会が提言した水槽の安全性を重視して設計を行った。

〔ビワコオオナマズ水槽〕メイン水槽と 3 箇所の見上げる水槽からなる。メイン水槽では琵琶湖の岩場（ナマズ岩）にいる琵琶湖のヌシをイメージした水槽で、見上げる水槽ではナマズ類を下から見上げることで腹側を観察できる水槽とした。

「コアユ水槽」展示室の角になる場所を利用して、間口の広い水槽（4m）とし、人との関係が深い魚種であることから、琵琶湖を代表する漁法の一つ鰻（エリ）漁をイメージできる展示として構成した。

（設置工事）

提出された設計をもとに、水槽周辺の展示を含めた設置工事を行った。大型水槽の設置であることから、その規模の工事経験があり、アクリル専門業者との繋がりをもつ業者が入札の結果、選定され（株式会社 奥村組：滋賀県大津市下阪本三丁目 5 番 32 号）、工事を進めた。今年度末の令和 8 年（2026 年）3 月 27 日完成。

2）クラウドファンディング

2024 年度に「新ビワコオオナマズ水槽誕生にご支援を！ | 琵琶湖博物館【第 2 弾】」というタイトルでクラウドファンディングを行い、17,739,702 円の支援を累計 866 人からいただいた。今年度は、昨年度につづき返礼の対応を行った。

返礼の内容：

特別感謝状（お魚ポスター特別版クリアファイル、お魚ポスター特別版、日本のナマズ全 4 種ポスター、ビワコオオナマズ実寸大ポスター、コアユの群れポスター、水鳥とカヤネズミの足跡、日本画家村由子さん作）、特別デスクトップ壁紙、琵琶湖博物館版「御博印」、ビワコオオナマズ水槽のかけら、展示室の大掃除体験（ゾウの展示、鳥類の展示、哺乳類の展示）、琵琶湖博物館オンラインツアー（展示解説編、コレクション編）、学芸員による展示室の DEEP 解説（A 展示室、水族展示室、屋外展示室）、新水槽完成お披露目内覧会、おとな・ナイトミュージアム、ナイトミュージアム、水族飼育員の活動体験、水族バックヤードツアー（保護増殖センター、水族バックヤード一通り、水族バックヤード+魚（チョウザメ）の餌やり+各収蔵庫ツアー、副館長に行く県庁ツアー、学芸員の研究体験（プランクトン）、1 組限定のスペシャルな観察会・講座・体験会・ツアー（琵琶湖のふるさとで化石を探す、学芸員と一緒に作るアロマウォーター、動物の骨格標本作り、博物館獣医師体験、バイカルアザラシ水槽の落水清掃の見学、イチモンジタナゴの保全地を巡るツアー）、あなたの作品を博物館に展示します、渡り廊下のバナー（懸賞幕）

（3）入館者記念式典

・ 2025 年度 来館者数 50 万人達成記念セレモニー

2026 年 3 月 18 日、来館者数が 50 万人に達した。この年間来館者 50 万人は、2024 年度に 24 年ぶりに達成してから、2 年連続で達成できた。その記念として、1 階アトリウムにてセレモニーを開催した。50 万人目は滋賀県栗東市在住で、本日ご家族で来館された田中希乃華（ののか）さんと、記念にくす玉割りを行い、当館館長から 50 万人目来館者認定証と、記念品としてミュージアムショップ「おいでや」の森店長よりビワコオオナマズのぬいぐるみが贈呈された。

（4）わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025 実施本部員としての人員派遣

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025 を滋賀県で開催するにあたって、会場運営等に従事する実施本部員として当館職員を合計 67 人日派遣した。

（5）ナイトミュージアム・プレミアムナイトツアー

今年度は 3 月 8 日にナイトミュージアム、3 月 20 日にプレミアムナイトツアーを実施した。両日ともにクリエイティブカンパニー NAKED, INC. による夜間特別照明や近江の地酒の試飲を展開した。ナイトミュージアムであクラシックミニコンサートも実施し、3,801 名の来館となった。プレミアムナイトツアーでは、びわ湖大津プリンスホテルの宿泊、ナイトクルーズ、特製近江牛弁当をセットに販売し、完売した。

琵琶湖博物館 年報
第 30 号 2025 年度（令和 7 年度）

2026 年 7 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

印刷：株式会社モリワキ印刷

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地

電話 077-568-4811